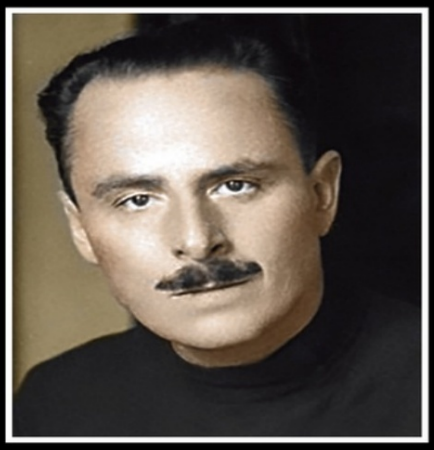
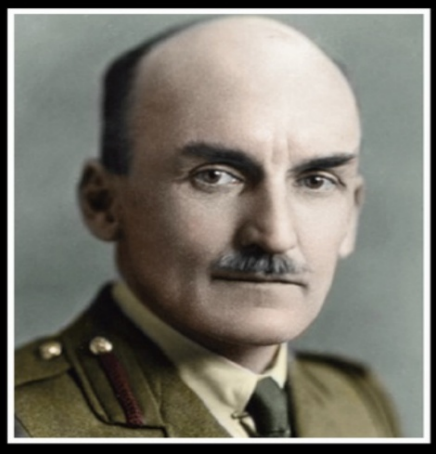
FASCIST VOICES

ESSAYS FROM THE 'FASCIST QUARTERLY' 1936-1940

Volume One

Machine Translated by Google

ファシストの声

『ファシスト季刊誌』1936-1940年号からのエッセイ

第1巻

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ファシストの声

『ファシスト季刊誌』1936-1940年号からのエッセイ

第1巻

Copyright © 2019 Sanctuary Press Ltd All

rights reserved. 本書のいかなる部分も、出版社の書面による許可なく、複写、録音、情報の保存および検索を含む、電子的または機械的手段によるいかなる形態においても複製することはできません。

サンクチュアリプレス株式会社
シェルトン通り71-75番地
コヴェントガーデン
ロンドン WC2H 9JQ

www.sanctuarypress.comメー
ルアドレス: info@sanctuarypress.com

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ファシストの声 - 第1巻

この版には以下のエッセイが収録されています:

ジョン•ベケット

ジェームズ•ドレナン、ノ

ラ•エラム、フランコ

将軍、J. F. C. フラー少将、

ヨーゼフ•ゲッベルス、J.K. ヘイドン、マックス•ハ

ンガー、ジョリアン•ジェン

クス、ウィリアム•ジョ

イス、ロバート•レイ
博士、フランシス•マ

クヴォイ、サー•オズワル

ド•モズレー、エズラ•パウ

ンド、ヴィドクン•クヴィス

リング、アルフレッド•ローゼン
バーグ、アーサー•リ

ード、アン•シーリグ＝トー

マン、クロード•サットン、アレ
クサンダー•レイヴン•

トムソン、A. ユスフ•アリ

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

目次

ファシストの声

サー•オズワルド•モズレー著『ファシズムの哲学』 アンネ•ゼーリグ

＝トーマン著『ドイツとその女性たち』 社会主義とは何か？ヨーゼフ•ゲ

ッベルス著『世界哲学と対外政治』アルフレッド•ロー

ゼンバーグ著『ファシズム、女性、そして民主主義』ノラ•エラム著『貴重なエーカ

ー』ヨリアン•ジェンクス著『ヒトラーのベルヒテスガーデン：新ドイ

ツの牧歌』ジョーン•モーガン著『北欧世界

連邦』ヴィドクン•クヴィスリング著『ファシズムの解釈』クロード•サットン著『スペイン戦

争』J•F•C•フラー少将著『フランコ将軍の経済的正統性に向けた

演説』A•レイヴン•トムソン著『不況の原因』エズラ•パウンド著

『裏切られた革命』フランシス•マクヴォイ著『マルクス主義、衰退の教

義』J•K•ヘイドン著『敵は自由主

義』ウィリアム•ジョイス著『トーマス•カーライル - 国家社会主義者』

アーサー•リード著『ウィリアム•モリス - 国家社会主義者』

「懐疑論者」によるユダヤ神話

A. ユスフ•アリ著『イスラム世界とパレスチナ』、A. レイヴン•トムソ

ン著『ファシズムと弁証法』、フランシス•マクヴォイ著『土地の

被相続人』、A. レイヴン•トムソン著『企業経済学』、ジェームズ

•ドレナン著『ナチ運動の展望』、ジョン•ベケット著『社会民

主主義の衰退』、J.F.C. フラー少将著『ファシズムと戦争』、オズワルド•

モズレー著『ファシズム序論』、ロバート•ライ博士著『喜び

を通して強くなる』、マックス•ハンガー著『ドイツの冬季救援活動』

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

サー•オズワルド•モズレー著『ファシズムの哲学』

1933 年 3 月 22 日水曜日にオズワルド•モズレー卿がイングリッシュ•スピーキング•ユニオンで行った講演です。

おあなた方の反対者たちは、ファシズムには歴史的背景も哲学もないと主張しています。しかし、今日の午後の私の任務は、ファシズムは歴史に深く根ざし、思索的な精神の最も優れた飛翔によって支えられてきたことを示唆することです。

もちろん、日刊紙のコラムにおける私たちの活動に哲学がほとんど伴っていないことは承知しています。私が「ファシズムの哲学」について講演すると聞いた時、おそらく皆さんの多くは「このギャングスターが哲学と何の関係があるのか？」とおっしゃったことでしょう。しかし、皆さんは、こうした大衆の精神を映す鏡が必ずしも正確な反映を示すわけではないことを信じていただけると信じています。皆さんは私たちの進歩における感動的な瞬間だけを取り上げていますが、思考と建設的な構想に深みのある瞬間も確かに存在します。これまでのところ、ファシズムの哲学が具体的かつ明確な形をとっていないというのは、ある程度真実です。しかし、ファシズムの信仰は誕生してまだ10年余りしか経っていないことを忘れてはなりません。それはここ10年の成長に過ぎません。しかしながら、その哲学的背景はすでにある程度の定式化が可能であり、それは歴史上他のいかなる偉大な政治的信仰の同様の発展よりもはるかに短い期間で起こった。いくつかの大国におけるファシスト運動自体が驚異的なスピードで権力へと前進したように、永続的な概念、人生に対する姿勢としてのファシストの信仰と哲学は、古い信仰の哲学よりもはるかに急速に発展した。リベラリズムを例にとってみよう。ヴォルテールやルソーといった人物の著作から、18世紀末から19世紀初頭にかけてイギリスの政治家たちの手によってリベラル信条が最終的に形成されるまでの間には、非常に長い期間が経過した。

実のところ、これらの偉大な政治運動と心理的激変は、行動体系のみならず、明確な思想体系へと結晶化していくのに非常に時間がかかった。ファシズムの場合、10年後にはそれが具体的な結晶形態をとると期待するのはおそらく早計だろう。しかしながら、ファシズム哲学は分かりやすい言葉で表現できると私は信じている。それは現代の思想に全く新しい貢献をしている一方で、その起源と歴史的根拠はいずれも過去の確立された思想に由来していることを示すことができる。

まず第一に、私は、ほとんどの行動哲学は、過去の文化衝突の総合から派生したものであると主張します。文化、思考、抽象的思索の時代には、二つの偉大な文化が鋭く対立していましたが、その後の行動の時代には、通常、その二つの鋭く対立する文化の間に実践的な統合が見られ、それが実践的な行動信条へと繋がります。この考え方は、ある程度、シュペングラー的なアプローチを示唆しているように思われるかもしれません。そして、この偉大なドイツ哲学者が、おそらく他の誰よりもファシズム思想の広範な背景を描き出すことに尽力してきたことは全く事実です。しかし、それは非常に広範な背景です。ファシストの示唆が生まれるのは、世界史という広大な背景なのです。

それ以上は何も。そしておそらく彼は、生来の悲観主義のせいで、この問題に近づくことをためらっているのでしょう。そして、その悲観主義は、現代科学と機械の発展に対する彼の全くの無知から生じているのではないかと、私は謙虚に申し上げたいと思います。

シュペングラーの眼鏡を通して見れば、******ebook converter DEMO Watermarks*******という結論に達するはずです。

Machine Translated by Google

極端な悲観主義は、貧困問題を完全に撲滅する能力を初めて人類の手に委ねる要因を曖昧にしているからです。そして、この計り知れない新たな要因を誤解したドイツ哲学者が、その悲観的な結論に至ったのは、まさにその誤解によるものだと私は考えています。しかしながら、だからといって、彼が世界思想にもたらした多大な貢献が否定されるわけではありません。

一見相反する文化の融合が、その後の行動の時代に、行動として表現される時代の哲学的産物を生み出すという私の提言は、シュペングラー思想に由来するものだと、あなたは正しく推測するでしょう。しかし、このテーゼがファシズムの事例において実際にどのように機能するかをお示しできると思います。前世紀において、二千年にわたるキリスト教文明に対するニーチェ思想の甚大な影響から、主要な知的闘争が生じたと私は考えます。その影響はごくゆっくりと認識され、その真の意味合いは今日になってようやく明らかになりつつあります。しかし、現代思想のどこを探しても、人間の精神と魂を支配するための壮大な闘争の成果がそこにあります。西洋において、何世紀にもわたって人間の思考を広く支配してきた宗教がありました。そして突然、初めて、その宗教と思想は事実上挑戦を受け、少なくともその基盤は一時的には揺るがされました。それは猛烈なエネルギーと並外れた天才性をもって、根本的に非難されたのです。

後ほどおわかりになると思いますが、私はキリスト教に反対する立場をとっているわけではありません。なぜなら、ニーチェの教義とキリスト教の教義がいかに統合可能であるか、私がどのように考えているかを示すからです。しかし、この時点では、この二つの信条の本質的な相違点を検証し、相違点がどこに蓄積され、類似点がどこに現れているかを見極める必要があります。

ご存知の通り、ニーチェはキリスト教思想の根幹そのものに疑問を投げかけました。彼は事実上こう言いました。「これは奴隷と弱者の宗教だ。これは人生から逃避し、現実を直視しようとせず、夢のような来世に救いを求める人々の信仰だ。彼らはこの地上で自ら掴み取るだけの活力も人間性も持ち合わせていない。それは弱さと屈服の精神に由来するものだ。」彼はそれを、私の記憶が正しければ、偉大な言葉で「人類を束縛し、弱体化させてきた宗教」と非難しました。

そして、この信仰に代えて、彼は超人という概念を創造した。超人は困難や危険に直面し、物質的なものや環境の困難を乗り越えて前進し、この地上に自らの世界を築き上げ、達成し、勝利する。それは思考だけでなく、人生の基盤全体への挑戦であり、世界の思想を根底から揺るがした。当時、この論争に真剣に取り組んでいた人々にとって、これらの信条のうち、どちらかが勝利し、どちらかが滅びなければならないと思われたに違いない。相反する教義をいかなる形で組み合わせたり、統合したりすることなど、全く考えられないことだったのだ。

さて、日常生活でよくあることですが、一見全く異なる信条であっても、より深く検討すれば、実際にはある程度の調和、ひいてはある種の統合が可能だと私は信じています。そして、今日のファシズムの教義の中に、両信条の偉大な特徴が完全に融合していることを、私は皆さんに示せると思います。一方では、キリスト教から、キリスト教の理念から直接受け継がれたファシズムの中に、他者の大義、世界の大義、祖国の大義のために、奉仕、自己犠牲、自己犠牲という壮大なビジョンが見られます。それは個人の排除ではなく、むしろ個人を自分自身よりもはるかに偉大な何かに融合させることです。そして、ファシズムの基本的な教義、すなわち奉仕と自己屈服、つまりファシストが最大の大義と考えるものへの献身がそこにあります。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

そして世界で最も偉大な衝動である。一方で、ニーチェ思想からは、男らしさ、人類の進歩を妨げるあらゆる存在への挑戦、屈服の教義の絶対的な放棄、あらゆる障害と格闘し克服する確固たる能力が取り去られている。実際、ファシズムのもう一つの顕著な特徴である、活力と自助の教義が創造されているのだ。

したがって、今日のファシズムの実践的信条には、これら二つの偉大な教義が融合したようなものが見られると言えるでしょう。そして実際、それは私たちの人生観全体に反映されています。私たちはそれを、一般的な存在の細部にまで落とし込むことができます。最も広範かつ抽象的な概念から、日常生活の最も詳細な事柄にまで落とし込むことができるのです。

我々は国民すべてに、公共奉仕という絶対的な概念を要求するが、同時に、その見返りとして、国家は絶対的な自由を認めるべきだとファシスト的な考えのもとで信じている。公的生活においては、人間は国家の良き一員として行動し、あらゆる行動において国家の福祉に従わなければならない。一方で、国家からは個人として生き、発展する完全な自由を与えられる。そして我々の道徳において――そしておそらく、私的な実践が公的な抗議と完全に一致する唯一の公的道徳であると言えるだろう――道徳的問題に対する唯一の基準は、それが国家に奉仕する個人の力を何らかの形で阻害あるいは破壊するかどうかである。個人は次の問いに答えなければならない。「この行動は国家を傷つけるか？他の国民を傷つけるか？私自身が国家に奉仕する能力を傷つけるか？」そして、もしこれらの問いすべてに対する答えが明確であれば、個人は自分の意志で行動する絶対的な自由を持つ。そして、それは国家のもとでのいかなる制度、いかなる宗教的権威も個人に与えたことのない、はるかに大きな国家のもとでの自由を個人に与えている。

その道徳的テストに最も近いアプローチは、おそらくギリシャ文明のアプローチであり、もちろん、組織においては、国家の概念は今日のファシストの概念にそれほど劣っていなかった。

こうした態度、こうした哲学的背景は、ファシストに極めて明確な社会行動規範を課す。それは既存の秩序に対する詳細な挑戦となるが、ここではこうした広範な原則は詳細に還元可能であることを示すにとどめ、その詳細には深く立ち入らない。例えば、飲酒が合法な時間帯を過ぎて飲酒し、自らに危害を加える危険を冒しただけで罰金を科せられる制度がある一方で、大小を問わず公人としての公的な立場では、国家体制全体を脅かすような行動を全く罰せられないような制度は、滑稽だと私たちは考える。自らに少しでも危害を加える危険を冒せば、法の威力のすべてが彼に対して行使される。しかし、公的な立場では、国家の存亡を脅かす可能性があり、国家の支柱そのものを脅かす可能性があるのだ。

ファシストの原則は、私的自由と公共奉仕である。これは、私たちの公的生活、そして他者に対する態度において、ある種の規律と自制を課す。しかし、それは公的生活においてのみである。そして私は、私的自由を得る唯一の方法は、今日の世界に存在する経済的混沌に何らかの秩序をもたらす公的組織を通してのみであり、そのような公的組織は、ファシズムに内在する権威と規律という手段によってのみ確保され得ると、強く主張したい。

しかし、哲学的な側面に戻ると、ファシストはその哲学によって、人生におけるある種の規律、いわば秩序ある運動能力、そしてリーダーシップへの信頼感、権威への信仰を自然に身につけていたことが分かります。これらは他の運動とは異質なものです。そしてここで、私たちは社会主義と自由主義の根本原理と直ちに衝突することになります。

もちろん、社会主義は経済組織の概念において自由主義とは大きく異なります。******ebook converter DEMO Watermarks*******

Machine Translated by Google

しかし哲学においては、ヴォルテールやルソーの人生観、とりわけ後者を十分遡れば、社会主義者やリベラリストの間で共通の起源を持っているということに異論を唱える人はほとんどいないと思います。さて、ここでリベラリズムと社会主義、そしてファシズムとの間に生じる根本的な違いについてご説明しましょう。私たちの見解では、ルソーは大きな間違いを犯したか、あるいは大いに誤解されていたかのどちらかです。ルソーは平等と言いました。私たちはこう答えます。「機会の平等を意味するならそうですが、人間の平等を意味するなら違います。」これは不合理です。私個人としては、正しく解釈すれば、ルソーは機会の平等を意味しており、ルソーの主な攻撃は、彼が生きていた退廃的なシステムに向けられており、それも正しく向けられていたと信じています。彼は事実上こう言った。「フランスのこの怠惰で堕落した貴族階級が（当時は間違いなくそうだったが）国家の生命を窒息させる特権を主張するなど、とんでもないことだ。機会均等は根本的なものだ。統治にふさわしい者が統治すべきだ。祖父が統治にふさわしいと証明したからといって、誰も統治すべきではない。」これは特権に対する反抗であり、才能と能力を備えた者が偉大な国の政務を執るべきだという主張だった。しかし、この教義は後世の弟子たちによって、人間の平等、すなわちすべての人間は平等であるという意味に捉えられた。

この解釈から、私たちが見る限り、この誤謬全体が生まれます。それは明白で明白な不合理です。ある人は、心も体格も、他の人とは大きく異なります。社会主義者がよく言うように、これは道徳的あるいは精神的な平等の問題ではありません。それは全く別の問題です。道徳的にも精神的にも、大企業の床を掃除する人は、その企業の経営者よりもはるかに優れているかもしれません。しかし、問題は、どの人がどの仕事をするのに適任かということです。その人に求められる適切な役割とは何でしょうか？ある人は何かに秀でていて、ある人は別のことに秀でているのです。

確かに、私たちはファシズムから社会階級の概念を完全に排除します。なぜなら、それは遺伝の偶然性に基づいているからです。しかし、ある人々は生まれつき特定のことをするのに適しており、他の人々はそうではない、ということは確かに言えます。そして、そのような考え方を一旦受け入れると、民主主義の概念そのものに疑問を投げかけることになります。

あなたは、世の中のあらゆる問題が、どんなに複雑であっても、どんなに経験不足であっても、誰にでも解決できるという考えに異議を唱えています。実際、その観点から見ると、政府機関の技術者であろうと何であろうと、その分野に年間わずか5分しか関心のない人間が指示を出すというのは、途方もないことです。もし私が工場に行き、技術者が仕事をしているのを見て、それからやり方を教え始めたら、彼はきっと私を――そして当然のことながら――生意気な馬鹿呼ばわりするでしょう。同様に、国の問題について全く研究もしていない人間が、ビールジョッキをカウンターに置き、投票所へ歩いて行き、今後4年間の国政運営について詳細な指示を出すことを期待されるというのは、私たちには途方もないことに思えます。「すべての人間は平等であり、国家の統治のように複雑な問題である限り、すべての人間はいかなる問題についても平等に意見を述べる資格を有する」。これは社会民主主義がルソーの著作に与えた解釈であり、この考え方は明らかに不合理である。しかしながら、これは民主主義制度全体の哲学的基盤である。したがって、私たちは、すべての人間があらゆる問題について平等に裁定を下すというこの基本概念に異議を唱える。私たちは機会の平等を自らのものとして受け入れ、特権的な世襲という考え方に立ち向かう――そして、立ち向かわなければならない。

人は自らの実力を証明すれば、国で最も高い地位に昇り詰めるかもしれない。そして、私たちの教育制度全体も、そのように設計されなければならない。しかし、父や祖父が先にそこにいたからといって、彼がトップに立つことは許されない。だからこそ、私たちは一方では右派の特権に異議を唱え、他方では、すべての人間は生まれながらに平等であるという左派の不条理な教義に異議を唱えるのだ。さて、あなたはこう言うかもしれない。そして、それはおそらくある程度真実である。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

これらの教義は以前にも聞かれたことがあるが、これがボナパルティズムの基礎であり、あるいはさらにその起源まで遡ればカエサル主義の基礎であった。

もちろん、ファシズムとカエサリズムの間には歴史的な関係があるのは事実ですが、現代世界は古代世界の形態や状況とは大きく異なります。現代の組織は、いかに才能に恵まれた個人であっても、単独ではあまりにも巨大で複雑です。現代のカエサリズムは、他のあらゆる近代的なものと同様に、集団的です。個人の意志と才能だけが頼りだったものが、ファシスト運動を構成する数千人の規律ある人々の意志と能力に取って代わられます。黒シャツ隊員一人ひとりは、集団的カエサリズムの個々の細胞です。自発的な規律に従い、国家存亡という熱烈な理想に鼓舞された、献身的な大衆の組織化された意志が、権力への意志と個々の超人の高次の秩序に取って代わります。しかしながら、近代科学の武器を携えたこの集団的カエサリズムは、一方では反動主義、他方では無政府状態に対する古代カエサリズムと同じ歴史的関係にあります。カエサリズムは、一方ではスパルタクス主義、他方では貴族院に対抗していました。この立場は、過去二千年の歴史と同じくらい古いものです。しかし、当時は、今日のような建設的な成果を上げる機会がありませんでした。この教義の過去の証拠から私たちが引き出せる唯一の教訓は、スパルタクスの影響下で世界が完全な崩壊と混沌へと向かうたびに、シュペングラーが「偉大な事実人」と呼んだ人々が、結果として生じた混沌から世界を救い出し、人類に新たな体制と新たな安定のもとで、しばしば何世紀にもわたる平和と秩序をもたらしたということです。そして、現代のファシスト運動は、政治と哲学の特定の根本的事実を認識することによって、まさにそれを成し遂げ、そして成し遂げてきました。ここでも、一見相反する二つの教義が融合していると言えるでしょう。私たちはしばしば、右派から何かを取り入れ、左派から何かを取り入れていると非難されます。確かに、他の信仰から借りること、悪いものは捨て、良いものは残すことは非常に賢明なことです。そして、古い議会主義の精神から離れれば、当然、そのような道の賢明さが分かります。そして、もちろん、ファシズムは右派から何かを取り入れ、左派から何かを取り入れ、それに現代に適合する新たな事実を加えているのです。

ファシズムのこの新たな統合は、私たちの身近な状況にかなり近づいており、権威、秩序、規律によって支えられてきた安定という偉大な原理（これは右派の特質である）を、左派から得た進歩、ダイナミックな変化という原理と結びつけていることに気づく。保守主義（この国で知られている名称で呼ぶならば）は安定を信じ、秩序への信念によってそれを支えている。しかし、保守主義が現代世界で常に失敗してきたのは、安定は進歩を通してのみ達成できるということを認識できなかったこと、つまり変化に対する現状維持の抵抗は、保守主義が最も恐れる革命的状況を促進するということを認識できなかったことである。一方、左派はルソー•コンプレックスのせいで、進歩を達成する唯一の方法は、変化を可能にする唯一の執行手段を採用することであるということを常に理解できなかった。

したがって、我々は次の結論に達した。秩序ある変化を遂行する覚悟があって初めて安定が得られる。なぜなら、安定を維持するためには、新時代の新たな事実に適応しなければならないからだ。一方、左派が望む進歩は、権威、規律、忠誠といった進歩の執行手段を採用することによってのみ得られる。これらは常に右派だけのものだと考えられてきた。この二つの原則を統合することで、我々はファシズムの信仰とファシズムの組織の基礎を築くのである。

あなた方はまたこう言うだろう。「これはまたしてもカエサル主義かボナパルティズムだ。もはや純粋に個人のリーダーシップの問題ではなくなった。我々が扱っている機構は、一人の人間だけでは到底扱えないほど巨大だ。だから集団的なカエサル主義になったのだ。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

組織化され規律された大衆の指導力は、国家と世界の再生という情熱的な理想によって自発的な規律で結束されている。しかし、基本原則は変わらない。したがって、あなた方のファシスト運動は、かつてカエサル主義が果たした目的を果たし、スパルタクスと反動勢力の衝突が引き起こした混沌に秩序をもたらし、数年あるいは数世紀にわたって世界に大いなる平和をもたらすかもしれないが、それでもなお、自らの内に衰退を抱えており、私たちが必要だと信じていることを真に達成するわけではないのだ。」

そのケース、つまり唯一真に妥当なケースに対する答えは、これまで常に近代科学という要素が欠けていたということだと考えています。今、あなたは全く新しい要素を手に入れました。もしあなたが統治システムに新たな効率性を導入することができれば、そして誰もが、そのような動きが権力を握れば少なくとも効率的であると認めるならば、たとえ数年間でも、行政権力と物事を成し遂げる効率性を政府にもたらすことができれば、あなたは現代世界で果たすべき任務を遂行するために、囚われていた科学の天才を解放することができます――そして、解放するでしょう。国家と経済の構造に関する私たちの見解がいかに異なっていようとも、近代科学と産業の生産力によって世界を健全に組織化すれば、貧困問題を完全に解決し、貧困と、世界から最悪の病気や苦しみを完全に根絶することは可能だと、私たちは皆同意するはずです。

したがって、もし効率的な形態の政府を持つことが可能であれば、歴史上初めて、地球の様相を永遠に変えることのできる手段を、そのようなシステムのために利用できるようになる。本質的なことが成し遂げられ、近代科学技術が解放され、その役割を終え、政治•哲学体系が一時的かつ政治的なものから永続的かつ技術的なものへと変われば、今日世界を惑わす政治や論争はもはや必要なくなるだろう。貧困問題は解決され、主要な諸問題は可能な限り排除されるだろう。誰もが知っているように、近代科学を適切に活用すれば、それが可能である。そうすれば、人類は人生において真に重要な事柄のために解放されるだろう。

したがって、歴史の永遠の繰り返しにおけるこれらの現象のいくつかは、以前にも世界で見られ、人類に大きな利益をもたらしてきたことはおそらく事実であるが、偉大な行政運動が、現代科学と発明によって与えられた任務を完遂する機会をこれまで一度も得たことはなかった。

世界的な大危機、そしていずれ必ず深刻化するであろう危機の瞬間に、歴史的背景から必然的に出現する運動が出現する。それは、輝かしい過去から受け継いだ伝統的な特質を帯びつつも、この時代だけが人類に与えてきた手段を武器に、今日の現実に立ち向かう。この新しく素晴らしい手段と出来事の一致によって、この時代の諸問題は克服され、未来は漸進的な安定の中に保証される。おそらくこれは、不滅の、永遠に繰り返されるシーザー運動の最後の大世界的波となるだろう。しかし、科学の助力と現代精神の鼓舞によって、この波は人類を更なる岸へと導くであろう。

そしてついに、永続的な達成を目指して高潔な努力を傾ける人間精神の最も力強い発露である「カエサリズム」は、その世界的使命を果たし、幾多の苦闘における犠牲を償い、歴史的使命を全うするであろう。貧困と多くの恐怖と病の苦しみから解放され、科学によって再生された世界を享受する人類は、依然として、人類の新たな、より高貴な秩序を目的としたファシスト運動を必要とするだろう。しかし、もはや奇妙で不穏な男たちは必要ないだろう。******ebook converter DEMO Watermarks*******

Machine Translated by Google

彼らは、闘争と危険の日々、そして暗闇と労働の夜に、世界をより高いものへと導く鋼鉄の道具を鍛え上げてきた。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

アンネ•ゼーリグ＝トーマン著
『ドイツとその女性たち』

D前回の英国訪問の際、多くの英国人女性から第三帝国における女性の立場について質問を受けました。彼女たちが聞いた話によると、私たちは奴隷同然だと思っていたようです。実際、彼女たちはそれを公然と語り、心の底から私たちを哀れんでいると付け加えました。そこで、私たちドイツ人女性が新帝国についてどう感じているかをお話ししたいと思います。まずは、妻と母親についてお話ししたいと思います。

歴史から誰もが知っているように、あらゆる革命には新たな憲法形態が伴い、こうした新たな形態を生み出した蜂起によって、人々の社会生活にも根本的な変化が見られるのが一般的です。ドイツにおける新たな体制「国家社会主義」は、多くの母親とその子供たちにとって生活の重荷となった戦争の影響でひどく苦しんでいた何百万もの家族にとって、歓迎すべき変化でした。

彼らを助け、「子供を持たない方が良い」という破滅的な考えに終止符を打つのがアドルフ•ヒトラーの任務だった。

総統が新帝国を築く以前の旧体制の根底には、利己主義が存在していたことを忘れてはならない。総統は、家族こそが国家の不可欠な単位であり、その中で母親は健やかな子供を育てることで国家存亡の象徴であると、ドイツ女性たちに改めて信じさせた。母性と女性らしさは、かつての意味と栄光を取り戻したのだ。

母親のためのサービス

1934年、国家社会主義女性同盟は初めて真剣な協力関係を築くために結集し、母親のための帝国奉仕団を設立しました。この奉仕団は同盟の各支部によって運営され、既婚•未婚、老若を問わず、すべての女性を対象とした特別な教育コースで構成されています。1934年以来、60万人以上のドイツ人女性がこれらのコースを受講し、家事、料理、裁縫、そして衛生と看護の基礎に関する指導を受けました。また、私たちドイツ人は植民地を持たない国民であるため、あらゆる種類の原材料に注意を払わなければなりません。これらのコースでは、女性たちは一見役に立たないものを有用な用途に変える方法を学びます。通常、各コースは10夜にわたって行われ、合計24時間の指導が行われます。

このようなコースの費用は、田舎では2〜3マルク、都市部では3〜5マルクと幅があります。経済的に余裕のある人は全額負担することが求められますが、経済的に余裕のない人のために、労働戦線女性部と国家社会主義福祉機構から補助金が支給されます。結婚のため退職間近の女性の場合、雇用主が全額を負担するケースも少なくありません。ドイツにはこのような母親学校が数百校常設されており、保護者、福祉教師、青少年指導者など、何千人ものボランティア活動の場となっています。

このような仕事こそが、すべてのドイツ人女性に国家社会主義国家の生活に積極的に参加する機会を与えるのです。なぜなら、すべての女性は、私たちの国家の将来に対して同じ責任を持つ男性と並んで自分の役割を果たさなければならないことを認識しているからです。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

働く女性

第三帝国における専門職、そして働く女性の立場ほど、他国で議論されてきたものはありません。国家社会主義の反対派は、アドルフ•ヒトラーが政権を握った瞬間から、すべての働く女性は強制的に職から外され、男性がその職に就くと主張してきました。しかし、これは真実とは正反対です。なぜなら、産業界や専門職で働くすべての女性は労働戦線に組織されており、以前は就業していなかったものの、新帝国の建設に貢献したいと願う女性たちは、ショルツ＝クリンク夫人の全国指導の下、女性連盟に自発的に加入したからです。この2つの組織には、主婦、教師、看護師、助産師、芸術家、女性医師、そして大学卒の女性たちが名を連ねています。

国家社会主義の理想は家族を国家の不可欠な単位として維持することであるため、労働戦線が女性の体格に適さない工場労働から女性を排除し、失業中の男性に取って代わらせてきたのは事実である。しかし、これらの女性たちは他の場所でより適した仕事を見つけたのである。

ドイツの女性は今でも衣料品に関わるあらゆる職業に従事しており、さらに何百万人もの女性が教師、看護師、家事使用人として働いています。また、女性医師、建築家、舞台や映画界で働く女性も数多くいます。女優としてだけでなく、著名なレニ•リーフェンシュタールのように優れたプロデューサーとしても活躍する女性もいます。彼女は重要な党大会やオリンピックの撮影を担当しています。さらに何百万人もの女性が一般産業に従事し、前述のように労働戦線の特別な部門を形成しています。ドイツの女性が家庭に押し込められているとは決して言えません。

家事サービス

家事使用人や主婦など、家庭内での活動に限定されている女性たちも、特別な配慮を受けています。アドルフ•ヒトラーが政権を握ると、女性連盟は、家事労働は下層階級の仕事であるという世間一般の偏見を打破するという特別な任務を負いました。今では、富裕層であろうと貧困層であろうと、すべての少女は学校卒業時に家事に関する厳しい試験に合格しなければなりません。さらに、18歳になると、ほとんどの少女が自分の職業に就く前に、女性労働奉仕隊に志願します。この奉仕隊には、働き盛りの母親の負担を軽減するための家事労働が含まれることが多いのです。

新しい社会秩序における女性の役割は、「女性の権利」という古いスローガンに基づいて計画されたのではなく、女性が社会全体、つまり国家にもたらすことのできる貢献という観点から計画されたものです。女性の影響力は、国家の親密な社会生活の形成において常に最も大きかったため、私たちは、どこで貢献するかよりも、どのように貢献するかを重視するのです。

ドイツの少女

ドイツ人少女は、すでに学校に通っている間に、世界最大の同種組織であるBDM（ドイツ少女連盟）に入団します。ヒトラーユーゲント運動に所属するBDMは、国家青年指導者バルドゥール•フォン•シーラッハから、特に健全な人生哲学（世界観）の教えを授かり、きめ細やかな訓練を受けます。

全国に40校の学校が建設され、女子に教育を施すことのみを目的としている。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

これらの原則に基づいて若者のリーダーたちを指導します。

将来の母親、医師、経済学者、教師、弁護士などとして、すべてのドイツの少女は、その才能を国家の最善の目的のために用いる義務を負っています。しかし、まずは確かな社会的基盤を基盤として築かなければなりません。ドイツの少女組織であるBDMの仲間意識以上に、この基盤を得られる場所は他にあるでしょうか？まず第一に身体能力の訓練が不可欠であり、すべての少女は年齢に応じて体系的に身体能力を発達させなければなりません。同時に、応急処置や看護の指導も行われます。少女たちが農作業の手伝いを学ぶBDMキャンプや、小児看護士、栄養士、その他の家事労働の訓練のための家庭学校もあります。

少女たちは学校を卒業すると、1年間「土地年奉仕」に参加し、土地で有用な労働に従事するよう奨励されます。これは若い男性のための「労働奉仕」と並行する組織であり、通常の職業と競合しない有用な労働を行います。実際、病気で働けなくなった女性の代わりに仕事を与え、十分な休養を与えることは、大きな経済的価値を持つことがわかりました。これは特に、過重労働の母親にとって有益でした。母親の家事は「労働奉仕」の少女たちに引き継がれ、子供たちは地元の「幼稚園」で世話をされているのです。

ドイツの女性によるこの巨大な組織の統計データだけでも十分に印象的ですが、真の価値は、そこで築き上げられた道徳基準にあります。BDM（労働教育訓練）と「土地年奉仕」に参加するドイツの女性は、豊かな経験を積むだけでなく、社会的な責任感も育みます。なぜなら、彼女たちは組織の若い男性たちと全く同じ政治経済問題に関する講義や指導を受けるからです。女性労働キャンプを訪れた人は皆、たくましくたくましい体格の少女たち、そして健康と幸福に輝く瞳に感嘆します。イギリス人の友人たちの多くが、こちらで私に尋ねます。「なぜ、あなたの若者たちの雰囲気は、こんなにも清潔で、力強さと生命力に満ちているのですか？」

「どうやってそれを成し遂げたのですか？」答えはただ一つ、「アドルフ•ヒトラーの精神」です！

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

社会主義とは何か？ ヨー

ゼフ•ゲッベルス著

E非常に理にかなった現代の政治観念は、それが認められるかどうかにかかわらず、すべての将来の発展の中心的要因である社会問題を中心に展開します。

社会的な苦悩は単なる食糧問題ではない。もしそれが単なる食糧問題に過ぎないのであれば、マルクス主義者は正しかっただろう。プロレタリアが国際的であるのは、国際的な混血を好むからではなく、かつては自らの存在の問題に対する国家的な解決策がなかったという悲劇的な認識によるものだ。ブルジョワジーの利己主義とユダヤ的競争は、意識的にも無意識的にも共存し、人々から生命の光と息吹そのものを奪うもの、すなわち階級闘争を生み出したのだ。

社会不安は安全への情熱を生む。プロレタリア階級の心の奥底には、祖国、大地、そして祖国への愛が眠っており、それは良い形でも悪い形でも表現され、常に最も高貴な犠牲を払う用意ができている。マルクス主義下においても、プロレタリア階級は祖国を憎むことはなく、ブルジョア階級による祖国の歪曲、すなわち体制を憎むだけである。この体制は、まさにナショナリズムと資本主義が同一視される状況を作り出した。国際主義との闘いは、口先だけでは決して勝利できない。社会不安は、社会行動を通じてのみ解決できる。プロレタリア階級は、国家に属さない限り、国際的な思考を続けるだろう。知らないものを、どうして愛し、尊敬することができるだろうか？

社会問題とは、国際都市プロレタリアートに、土壌との根本的な関係を改めて認識させることである。人間は自らの土壌にのみ根を張ることができる。
彼は自分自身のものとしか関係がないと感じている。ボルシェヴィズムに対する唯一の効果的な闘争は、資本主義を排除することだ。

中流階級が資本主義に自らを同一視したことは、彼らの政治的本能の欠如を物語っている。結局のところ、彼らにはほとんど関係のない資本主義に。資本主義とは資本の不道徳な分配である。経済における資本主義は、政治における民主主義、すなわち国家内部の権力の不道徳な分配と同じである。資本主義と民主主義という二つの要素――両者は父と子の関係――は、国家という新たな社会組織の宿敵である。これまで彼らは社会問題を無視することに満足し、偽善的な博愛主義を唱えることで、可能な限りこの問題を回避してきた。これがリベラリズムの悲劇である――博愛主義とは、ブルジョア的臆病、感傷、サディズム、そして恐怖の集合体である。社会「改善」の全貌は、社会問題への対処能力、ましてやその深淵の理解能力の欠如を示す、リベラルの恐ろしい例として、私たちの目の前で展開されている。社会問題は、感傷や「慈善」とは全く無関係です。これは国家の必要性から生まれた問題です。この問題が世界的な政治的重要性を持つのは、数百万人が飢えているという単なる事実ではなく、国家の崩壊を引き起こす可能性があるからです。それだけで社会観に持続性を与えるのです。感傷や「慈善」は、それ自体では全く頼りになりません。国家の必要性だけが、狂信と激しい信仰の衝動を生み出します。だからこそ、社会問題は将来の政治発展の構造に根ざし、若者に新たな義務と課題を与えるのです。

この認識から、国家という真に社会的な概念が生まれ、それは

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

マルクス主義的プロレタリア主義と自由民主主義的概念の融合。同胞の被抑圧階級が自然権を、多かれ少なかれ自発的な贈与としてではなく、権利として獲得することを望むとき、私は社会的な意味で考えている。ブルジョア的恐怖や感傷からではなく、国民的必然性と社会正義の実現からこれらの権利を要求するとき、私は社会的な意味で考えている。

リベラルな人間はブルジョアとして思考し、マルクス主義者はプロレタリアとして思考する。社会主義者は共通の運命を成就するために設計された国民国家という観点から、国民的に思考する。彼らにとって、国民的思考と社会的思考は同一の意味を持つ。すなわち、国民への愛、国民の未来への信念、そして自由への意志である。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

アルフレッド•ローゼンバーグ著『世界哲学と外交政治』

私 日常生活において、平均的な人間は、政治生活や社会生活が究極的には哲学的な動機によって形作られていることにほとんど気づきません。ブルジョア的道徳観、法の概念、そして日常生活におけるそれらに関連するあらゆるものは、常に人間の内的態度によって何らかの形で規定されます。しかし、国民全体の生活に影響を与えるような大規模な革命的出来事が起こった場合にのみ、人々はこの事実をはっきりと意識するようになります。今日、世界中でまさにこれが起こっていると言えるでしょう。1914年から1918年にかけての紛争が、様々な民族や国家の政治的出来事に直接どのような影響を与えたとしても、表面的な思考にとどまらないすべての人々の心に、ますます強く刻み込まれている事実があります。それは、このような途方もない激動の後、人々はまるで何もなかったかのように、以前の日常生活に簡単に戻ることはできないということです。世界のほぼすべての国が、第二次世界大戦の大きな苦難の影響を受け、あるいは少なくともその影響から何らかの苦しみを味わってきました。何百万もの人々が、突如として彼らを圧倒し、何十年にもわたって問題となってきたものとは全く異なる問題を引き起こした運命に直面しています。

1914年以前、世界は楽観的な雰囲気に包まれていた。各国の責任ある立場にある人々は、政治の地平線に幾度となく暗雲が立ち込めているのを感じていたのは事実だが、政治家の中にさえ、以前の同様の状況と同様に、日々の妥協を繰り返す政治体制が勝利するだろうと信じる者が多くいた。経済学者たちは、大国間のいかなる紛争も経済的にも社会的にも破滅的な結果をもたらし、世界経済構造の崩壊が必然的に起こり、数ヶ月以内に戦争終結をもたらすだろうと、数学的に精密に計算していた。知識人楽観主義者たちは、「世界の常識」が勝利を収めるだろうという信念に希望を託し、主要な経済学者たちが唱えたように、諸国家は世界の狂気を決して容認しないだろうという意見に同意した。

戦争。

しかし、自然そのものと同様に、人々や人種の生活は論理の直線的な道ではなく、興奮した感情と激しい情熱という曲がりくねった迂回路を辿って進んだ。こうした計り知れない要素が、最終的に世界大惨事の鎖を解き放ったのだ。今日、私たちが認識すべき重要な点は、1914年が単に大規模な軍事闘争の始まりであっただけでなく、あの8月の運命の日々に旧世界全体が崩壊し始めたということである。諸国家とその指導者たちが、これほど恐ろしい紛争の発生を阻止できなかったという事実は、当時の社会紛争、世界経済の全体的な傾向、そして諸国家の社会構造が、もはや明確な平和政策を保証するほど強力ではなかったことの決定的な証拠である。それどころか、下層階級の混沌とした大衆運動、政治的情熱、経済的利益にあまりにも多くの注意が向けられたため、政治家の手から舵が滑り落ち、世界は衝突へと傾き、そこから立ち直り始めたのは、英雄的な力が消耗され、莫大な犠牲を払った何年も後のことだった。

こうした共通の精神の回復、過去と現在に対する批判が、軍事的、政治的な敗北によって

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

少なくとも当面は戦争の勝利の果実で暮らしていた国家に比べれば、はるかに明白な諸問題が、ロシア、ハンガリー、ドイツ、トルコで生じた、性質の大きく異なるあらゆる発酵過程は、世界政治を熟知するあらゆる観察者にとって、すでに述べた旧秩序の崩壊と、何らかの方法で新世界を創造しようとする試みの紛れもない兆候として映る。これは、何が適切で何が不適切かを論理的に認識したからというよりは、過去だけでなく現在にも目を向け、「これ以上は続けられない」と宣言するような、内なる性格の変化によるものである。

この内なる決意は何よりも重要であり、いかなる議論によっても排除することはできない。諸国家のこうした新たな精神的態度は、それがどの方向に向かおうとも、状況に応じて建設か破壊かの決定的な原因となる。世界政治における私たちの現在の動きの重心は、こうした様々な精神的エネルギーの並置と力から生じている。

我々国家社会主義者は、明確な精神態度のなかに、いわゆる「世界哲学」（Weltanschauung）を見出している。この言葉は、他言語への正確な翻訳が極めて困難であるが、まず第一に、その言葉が示す通りの意味を持つ。すなわち、世界を見る特定の見方、すなわち、外なる事物に対する魂、精神、そして性格の、明確に理解できる内的態度である。「賛成」か「反対」かを決定する態度であり、それが何百万もの声となれば、生活様式、国家の構造、民族や国民の義務や特権を形作る。したがって、この態度は不可欠かつ根本的で決定的な要素である。この態度が生活のあらゆる領域に浸透していれば、統一され統一された国家と言える。そして、国家、国民、そして「世界哲学」が一つに融合したと言える。もちろん、このようなことは極めて稀な場合にしか起こらない。人種的特徴や政治的出来事の影響下にあるほとんどの国では、生活のさまざまな領域で相反する流れの影響を受けており、それが国内で深刻な紛争を引き起こす原因となっていることが多い。

したがって、「世界哲学」は宗教と同義ではないが、宗教を包含することもある。「世界哲学」は宗教や科学によって特別な性格を帯びることもある。また、国民の芸術的•文化的資質によって形作られることもある。もしある民族の「世界哲学」が真に深く真摯なものであれば、それはあらゆるものを包含し、特徴づけるだろう。しかし同時に、それは極めて多様な精神的•霊的気質を包含できるほどの広大さも備えている。

宗教的、科学的、あるいは文化的な性質を問わず、世界哲学に関わる諸問題に対する様々な国家や著名人の態度は、過去数世紀にわたり、国家の知的活動のみならず政治的活動も決定づける重要な要素となってきた。そして、歴史の偉大な時代において世界哲学が対外政治にどのような影響を与えてきたかという問題は、世界史における最も興味深い問題の一つであると私は考えている。この問題は研究者だけでなく、あらゆる政治家にとって関心を引くものであるにもかかわらず、これまで十分に深い研究の対象となってきたかどうかは疑問である。

政治的な
「世界哲学」は何世紀、何千年にもわたる歴史の発展に影響を与えるのでしょうか？

キリスト教が地中海からヨーロッパ大陸に広まり、ゲルマン民族が次々とキリスト教徒になったとき、彼らのほとんどがローマ•カトリックの教義を受け入れず、アリウス派、すなわちキリスト教の創始者の人格と神としての地位に関する考え方がローマ•カトリック教会のそれとは大きく異なっていたアリウスの信奉者になったことが判明した。ローマ•カトリックになった重要な部族は、その部族の宗教的伝統のせいで、たった一つの部族だけだった。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

指導者の都合で、すなわちフランケン人がフランケン人を征服した。しかし、このフランケン人は軍事的にも最強の部族であり、東ドイツ人のように故郷からそれほど遠く離れてはいなかった。そのため、古代ローマは、これ以降東へと向かう若く強固な意志の力と結び付けられていた。この意志の力は、軍事的にも世界哲学的にも勝利を収めた。アレクサンドリアのアリウス（336年没）は、キリストは神ではなく、神によって創造されたと説いた。彼の教義はニカイア公会議で禁じられ、ヨーロッパは当初考えられていたようにアリウス派ではなく、ローマ•カトリック教会となった。つまり、これは世界史の観点から計り知れない結果を伴いながら、ある思想が他の思想に勝利したことを意味する。もし他のアリウス派の部族がフランケン人を征服していたら、ヨーロッパは全く異なる精神的様相を呈し、後に顕現したプロテスタント運動全体は、少なくとも同じ形では現れなかっただろう。

宗教に基づく「世界哲学」がいかにして国家全体にその意志を押し付けたかを示す二つ目の例は、イスラム教である。この信仰は、信仰心の篤い無数のベドウィン部族を結束させ、彼らは北アフリカ全域を征服し、南ヨーロッパに侵攻した。独立を求めて戦ったヨーロッパ人からは拒絶されたものの、イスラム教はジブラルタルからアフリカ、パレスチナ、そしてインドに至るまで、人が居住する地球上の相当な地域にその足跡を刻み込んだ。今日まで続く政治運動や激しい争いは、ある「世界哲学」が持続的な原動力として作用し、その支配下にあるすべての国家に、自らの「世界哲学」、生活様式、統治概念、文化を広め、擁護するよう強いていることを示している。

普遍教会が数世紀にわたって勝利を収めた後、ヨーロッパ各地で普遍教会に対する激しい反乱が勃発しました。これらの反乱は、共通のイデオロギーに基づく、世界を揺るがす民衆の抗議を引き起こしました。何世紀にもわたり、様々なプロテスタント諸民族による普遍教会とその軍事代表に対する闘争がヨーロッパ中で激しく繰り広げられました。しかし、この闘争の最中に、ヨーロッパの集団意識は、非常に特徴的な形で全く新しい方向へと向かいました。本質的に宗教的または教義的な闘争であったこの論争は、国家的なものへと変化したのです。国家構造の擁護は、たとえその代表者が最高位の者であっても、倫理的価値観を駆逐するでしょう。おそらく、この新たな時代への転換の最も優れた例は、リシュリュー枢機卿の事例でしょう。彼は、ルイ13世の指導的宰相であり、ルイ11世が構想した国家統一計画を実行する後継者であることを自らに見出しました。一方で、彼はローマ教会の司教であり、後に枢機卿でもありました。パリ宮廷ではローマ•カトリックの勢力が優勢であり、その代表は主にスペイン派であった。ローマの政策は疑いなくスペインとハプスブルク家に有利であり、イスパノ＝ハプスブルク家がフランスに勝利すれば、ヨーロッパにおけるカトリックの優位は長きにわたって確立されたであろう。しかしリシュリューは、プロテスタント同盟国とのあらゆる条約においてローマ教会の自由を主張しながらも、支持基盤を反対側に移し、ハプスブルク家に対抗して世界を動員し、スペインの勢力を弱体化させ、同時に教皇の世俗権力を無力化することに尽力した。フランス宮廷における教皇の友人たちに対し、彼はフランスの覇権を強化するためのあらゆる措置を講じた。フランスの独立を確保するために、国内のプロテスタントを殲滅する一方で、グスタフ•アドルフやワイマール公ベルンハルトと同盟を結んだ。彼はフランス軍に教皇軍への発砲を命じました。ローマの枢機卿の命令でローマ軍に向けて発砲されたこれらの砲撃は、ヨーロッパが新たな姿勢へと転換したことを象徴するものであり、それ以来、この姿勢は私たちの大陸の生活の中で決して消えることなく続いています。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

19世紀には、この態度は新たな形態のヨーロッパ•ナショナリズムへと変化しました。世界中で、国民的理念は人生の解放的な思想でした。その証拠は、当時の多くの著作、そしてワシントン、ボリバル、ガリバルディといった人物に見出すことができます。しかし同時に、科学と商業の重要性はますます高まり、ヴァルター•ラーテナウの「運命は経済によって決まる」という言葉は、ほとんどの社会問題を考える際の「ライトモティーフ（主題）」となりました。もう一つの重要な要素は、各国の人口でした。そのため、各国は製品や原材料の供給市場を世界中に求めました。この態度は、主に地球全体に広がる人々によって支持され、広められました。「世界共和国」を目指し、従来の国民経済システムを、できれば中央集権的な統制下にあるいわゆる世界経済システムに置き換えるべきだという主張がなされました。

世紀の変わり目には、確かに軍事的•政治的性格を持つ国民国家がいくつか存在したが、経済的観点から見ると、商工業トラストや国際銀行など、互いに対立する多くの異なる経済グループが入り乱れ、その成否が多くの人々に影響を及ぼすことになったため、国家政策はこうした私的利益を優先させ、大部分を国家的重要性を持つものとして認識せざるを得なかった。

この純粋に経済的なシステムがあらゆる面で社会に及ぼす影響に抗議するため、何百万もの人々が立ち上がり、あらゆる国々を包含する運動、すなわちマルクス主義•共産主義インターナショナルを通して社会的自由を説く教義に耳を傾けた。こうした潮流や傾向は、新たな副次的要因によって絶えず複雑化し、増大し、19世紀末に一つの障害をもたらした。そして、フリードリヒ•ニーチェこそが、全世界を揺るがしたこれらの震動を最も敏感に感知する地震計であったと言っても過言ではないだろう。彼は感傷的な哲学に耽溺するのではなく、何億人もの人々に影響を与えるであろう未来の出来事を予感していたのだ。

社会構造が市民的勢力とマルクス主義的勢力の双方の影響下でニヒリズムへと崩壊するという認識、そして同時に、この破局から強い民族が生まれるという希望が、彼の警句とすべての著作を特徴づけている。同時に、ポール•ド•ラガルドやリヒャルト•ワーグナーといった人物は、世界が終焉を迎え、新たな世界が誕生するのを感じていた。ロシアでは、ドストエフスキーがロシアの終焉を暗い色彩で描いた。極度の不安感が普遍化する一方で、これらの思想は形を持たずに、あらゆる国の首都で受け入れられた。ロシアは陥落し、ドストエフスキーが『カラマーゾフの兄弟』と『悪霊』で予言した潮流が権力を握った。共産主義はロシアにおいてあらゆる社会理論に打ち勝ったが、それは都市におけるプロレタリア大衆組織を通じてではなく、既に挫折していた意志が、強い意志を持つ非ヨーロッパ人の影響下に入ったという事実によってであった。

しばしば致命的な敵対関係にあるように見える様々な世界哲学を概観してみると、それら全てに共通する一つの特徴があることに気づく。それら全ては、宗教的なものであれ、科学的なものであれ、社会倫理的なものであれ、明確に定義された教義から生じている。これらの教義、あるいは信仰告白に基づいて、彼らは一つの計画を作り上げ、その計画を信じるすべての人々を集め、あらゆる政治的•軍事的力を駆使して、その教義的計画の実現に努めるのである。

一般的に、政治的に言えば、この態度は「普遍性」と呼べるものと関係している。この普遍性は、世界運動がその法則を授かる最高指導者として任命された個人であっても、あるいはそれが抽象的な概念に基づいている場合でも、存在する。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

社会や特定の理論に基づいているわけではない。実際、過去15世紀のヨーロッパの歴史は、すべての国家がそのような普遍的に考えられた「世界哲学」の範囲内のどこかで動いており、国家間のすべての大きな闘争が普遍的な性格を持つ教義の範囲内で展開してきたことを示している。この教義は、ローマ•カトリックの「世界哲学」において宗教的な普遍性を特徴としており、プロテスタントの教義にも、異なる形で、個人主義的な結果をもたらしたにもかかわらず、同じ特徴が存在していた。自由主義のシステムには、フランス革命の際に説かれたような社会倫理的な普遍性が見られる。そして、マルクス主義運動から派生した世界共産主義は、もはや民族や国家を認めず、いつでも他のソビエト共和国が加わる可能性のある社会主義ソビエト共和国の連邦のみを認めたが、それはニヒリスティックな普遍性であった。

今日私たちが見る決定的かつ根本的な世界哲学的変化とは、来たるべき闘争がもはや以前と同じ性格を持つものではなく、民族闘争が特定の普遍主義的な「世界哲学」の中で戦われるのではなく、民族主義的な「世界哲学」の中で戦われるという、私たちの確固たる確信にある。言い換えれば、かつて純粋に国家的なものであった諸潮流が、より広範なものとなり、世界哲学的な観点から考察されるようになり、最も広い概念において人生を規制する決定的な要因へと発展する。現代の始まりにおいては、普遍教会の支配が最高の宗教的•政治的要素であった。最初の反乱が起こったとき、二つの宗派が互いに対立した。この闘争の後期において、これらの主要な要因は宗教的領域から国家的•政治的領域へと移行し、それは当初は君主制、最終的には共和主義的理念の形をとった。

19世紀末から20世紀初頭にかけて、何百万もの人々の心の中で、階級観念が最も強く意識されていました。そして、これらの様々な要素が、特にドイツにおいて、様々な政党の根本的な政治原理を形成しました。中世の主要な要素は中央党によって、王朝観念はかつての保守派によって、共和主義観念と融合した経済観念は民主党によって、そして階級観念はマルクス主義派によって代表されました。ドイツに存在したこれらすべてのグループに対抗して、国家社会主義運動は、新しくも古くも存在する主要な要素、すなわち国家の名誉という理想を唱えました。

1933年までの過去14年間の闘争はすべて、この旗印の下で戦われてきた。しかし、もしこの旗印が神秘的な力を持つようになったとすれば、それは自らの名誉を自覚する偉大な国家が崩壊を経験したからにほかならない。そして、残された決断はただ一つ、旧来の政治集団を旧世界の哲学を代表するものとしてさらに容認するか、それとも新たな原則に基づく新たな政治哲学をドイツ国民生活の基盤として創造するか、どちらかだった。国民栄誉という概念が突如として生まれた新しい概念ではないことは言うまでもない。実際、ドイツ民族が存在して以来、その芸術と文学はすべてこの旗印を中心に展開してきた。『ヒルデブラント叙事詩』『ニーベルンゲンの歌』『グドルン•サガ』がそれを証明しており、ドイツ英雄音楽全体もまた同じである。さらに、この考えは、古代ドイツの「ザクセン法典」と「市民法典」（シュタットテレヒト）の根底にあり、多くの民族にとって、最終的に統一をもたらす多くの要素の基盤となりました。ここで私が述べていることは、他の国々への言及や批判を意図したものではないことを強調する必要はないでしょう。

私の唯一の目的は、ドイツで何が起こったのかを説明し、今回の場合は多くの革命の一つではなく、

ドイツの歴史が始まった。突然始まった革命ではなく、その原則が

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ドイツ農民戦争、昔の「自由都市」の法律制定、フリードリヒ大王、1813年のドイツ解放戦争の指導者、そして18世紀から19世紀の転換期の偉大な思想家たちにもその精神を見出すことができます。

そして、ここで断言させていただきたいのは、この熱烈なドイツ•ナショナリズムは、他の民族の正当なナショナリズムにとって脅威となるどころか、むしろこのドイツ•ナショナリズムこそが、他のあらゆる問題に対する精神的な優位性によって、全世界が切望する公正な均衡を保証できる唯一の存在であるということです。今日、国家社会主義運動に基づく権威主義国家は、他民族の間で不当な文化プロパガンダが蔓延するのを防ぎ、また、ドイツ国民を経済紛争から他国との政治的紛争へと導く可能性のある無法な経済拡大を排除できる立場にあります。

人種と土地に基づく「世界哲学」であるドイツ•ナショナリズムは、普遍性に関わる教義ではありません。その前提も結論も、他の、ひいては異なる国民や人種に影響を与えるべきであるという前提を含んでいません。しかし同時に、私たちの哲学は、自然とその法則への畏敬の念への回帰でもあると私たちは考えています。したがって、国家社会主義の「世界哲学」は、私たちにとって、様々な民族や人種の特性を正当に評価しない国民生活様式からの意識的な離脱、すべての国民に平等に適用されると主張する文化科学的教義の放棄を意味します。そして最後に、私たちはそれを、これらの同じ領域における私たち自身の原動力に対する、より高く、同時により深い意識を達成しようとする試みと見なします。私たちの新しい「世界哲学」は、他者を軽蔑するどころか、国民と文化の間に真の相互尊重をもたらすための不可欠な要素です。

例えば、国家社会主義運動は、全く異なる民族と国家体制を最大限の敬意をもって尊重する。これらはそれぞれ独自の特徴を持つ。極東の二大国には、それぞれ独自の基盤の上に築かれた構造が見られる。数千年の歴史を持つ日本は、我々にとって、その宗教的表現、国家権力への従属、そして国益への献身において称賛に値する。中華民族もまた、一つの「世界哲学」、経済、そして社会倫理から発展してきた。これらは今日では崩壊しているように見えるが、いずれ復活する可能性がある。そして我々は、他の諸国のあらゆる崇高な野心と同様に、この再編の試みを関心と敬意をもって見守るであろう。

世界中の多くの国家が事実上制御不能な拡大を遂げた時代が紛争を招き、この経済拡大期の後に縮小期が到来したという事実を認識させたのは、典型的な例である。この縮小期において、あらゆる国家は真の姿を見出す。この闘争が例外なくすべての国家に存在することは、世界中で社会哲学的あるいは世界哲学的な性質を持つ激しい衝突によって実証されている。これらの衝突は、ほぼ普遍的な信仰の欠如を証明し、国家の行動が最終的に明確な理念によって支配されているのではなく、複数の異なるシステムが覇権を争いながらも、永続的な決定に至っていないことを示している。

現代政治の兆候や兆候を正しく解釈するならば、すべての国の精神的闘争は、決着のつかない戦争を繰り広げているすべてのシステムを、特定のシステム、あるいはそれらすべてを凌駕するまったく新しいシステムに置き換えたいという願望に集中しているように思われる。

ドイツは、この世界的闘争における一つの例となるかもしれないが、必ずしも

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

模範的な例である。それは、いわゆる「運命的な」発展が必ずしも共産主義に終わるのではなく、強い性格から生まれた決意が、もはや現代の状況に合わない時代遅れの思考様式を克服できるという可能性を強めるものである。ザール地方における自由かつ秘密裏に行われた住民投票は、あらゆる反対潮流が何ら妨げられることなく影響力を及ぼしたにもかかわらず、新しい人生観がドイツ国民全体にいかに深く浸透したかを全世界に示した。少なくとも我々自身は、いかなる私的な政治的または私的な経済的利益も権力を握ることを阻止するという点で、ドイツ帝国にとってドイツのみならず他国の死活的利益にとって不可欠な制限を規定することができるのは、ドイツ体制のみであると確信している。

これにより、長年の歳月を経て初めて、いかに強いものであろうと私的利益と国家全体の重要な利益を区別することが可能になります。しかし同時に、我々は安定した外交政策の可能性も持ち合わせています。それは、各国の生活に根ざした自然な原動力が、もはや恣意的に互いに対立するのではなく、個々の国の利益と、すべての国の有機的な協力の利益の両方のために、互いに背中合わせに立つような性質のものであると我々は考えています。この大国連合においては、数の上で小国がもはや狭量な利己主義の道具ではなく、大国間の有機的な活動において平等な権利を与えられた単位となることが可能になります。付け加えておきますが、「小国」について語る際、私はその面積と人口についてのみ言及しており、知的•文化的重要性を軽視するつもりはまったくありません。

このように、国家社会主義の「世界哲学」と国民的理想の再生は、国家と国民経済の新しい概念を生み出します。それは、個人に対する新しい、よく規制された国家統制であり、これのみが真の自由を生み出すことができます。これは、統制のない個人による濫用とは明らかに対照的です。個人による濫用は、生活の多くの領域に影響を及ぼし、国民全体の感情と思考を毒し、腐敗させ、腐敗者ではなく国民に不利益をもたらします。

様々な生活様式間の調和の確立、国民活動のあらゆる分野を統制する権威ある国家と他の国家との間の合意、そしてこうして形成された国家群（「コンプレックス」）と政治的、人種的、地理的要因によって決定される他の単位との間の合意――19世紀を特徴づけた無秩序な要素とは対照的――これらすべてが、現代における決定的な変化を構成している。そして、国家社会主義は、すべての国民の利益のために、これらの目的に奉仕する用意がある。このように、新しい「世界哲学」は、政治思想、ひいては経済活動と対外政治活動に決定的な影響を与えているのである。

私たちは、この短い要約で提示された考察は、1世紀前に自由のために戦ったドイツ人の言葉「他国の祖国は尊重せよ、自国の祖国を愛せよ」を念頭に置き、その実際の応用と効果の観点からさらに詳しく研究する価値があると信じています。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ノラ•エラム著『ファシズム、女性、そして民主主義』

「経験が示すように、今日ではあらゆる国において民主主義はその本質を自由に発展させることができ、最も恥ずべき腐敗でさえ、その悪行を隠蔽するために利用されるとは誰も考えない。民主主義は、悪徳な金融家たちが夢見る豊かな国である。」

— ジョルジュ•ソレル、「暴力上の反射」。

1906年から1914年まで女性参政権を求める闘争を生き抜いた真の皮肉屋にとって、ファシスト政権下の英国で参政権を得た女性に危険が及ぶという主張に執着している戦後の熱狂者ほど面白い光景はない。

この思いがけない配慮は、思いもよらぬ場所で最も執拗に擁護する人々を見つける。戦前の闘争に激しく反対していた者たちは、今日、態度を一変させた。私たちの新たな支援者たちは、たとえ実際には女性の生存に不可欠なもののほとんどが奪われるとしても、原則として女性に何の権利も与えないという強い意志において、誰にも劣らない。

あの歴史的な闘いに加わり、投票を単なる象徴と捉え、その助けによって新しくより良い世界が実現可能だと信じていた女性にとって、こうした庇護は一世代前のものと同じくらい不快なものである。彼女は、あの倦怠期の長い年月の間、一度も彼女を助ける手を挙げず、それどころか彼女を「女たらし」や「失望した独身女性」と評することに慣れていた者たちが、勝利の瞬間に反動的で退廃的な体制のために彼女の性別を搾取しようとするのは、偽善的だと考えており、それもある程度の正当性がある。このような厚かましい行為が可能になるのは、それに訴える者たちがあの闘いの意味を完全に誤解し、今もなお誤解し続けているからであり、政治的自由を求めることを個人的な放縦への欲求と解釈しているからに他ならない。

女性の地位だけでなく、女性に対する世間の態度にも秩序ある変化をもたらそうとする、その顕著かつ断固たる表明の根底にある原則を、改めて表明すべき時が来ている。

では、あの激動の時代において、何千人もの女性の心を動かし、彼女たちの思考を導いた情熱的な衝動の根底にあったものは何だったのでしょうか。それは、多くの人が想像したような、卑劣な私利私欲でも、女性自身のためだけの闘争でもありませんでした。それどころか、指導者から最も卑しい一般大衆にいたるまで、男女が共存し、男女双方の運命を左右する政治体制の下で、国民の半数以上が影響力、視点、才能を議会から排除するような国は、最善の政治体制を構築する上で、その程度に不利な立場に立たされるだろうという根本的な信念でした。男性が混沌とした経済状況の犠牲者であったならば、女性もそれとともに苦しみました。男性がほとんど絶望的な生活を送っていた社会状況が耐え難いものであったならば、女性たちも同様に耐え難いものであったのです。

彼らは、国内の大都市を北から南、東から西まで見回し、男女問わず近代文明の恥辱であると認める住宅事情を目の当たりにした。労働市場を見渡し、賃金労働者を悩ませ、旧体制に内在する不安の亡霊を懸念した。政治面では、

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

内政と外交の両面において、英国を深く愛する者、あるいは国家のあらゆる政党に既に浸透し始めている堕落を自覚する者なら誰でも、恐怖に震えるようなやり方で物事が進められていると。彼らは立ち上がり、手遅れになる前に女性も男性と同等の立場で参画し、手を貸すべきだと要求した。

この蜂起は、一言で言えば、古い対立に対する挑戦であり、国家という組織体における協力を求めるものであった。

実践的市民権という概念において、女性闘争はファシズムの新たな哲学と酷似している。実際、ファシズムは、一世代前の闘争的な女性たちが提起した重大な問題を、はるかに壮大ではあるものの、論理的に捉えた概念である。しかし、類似点はそれだけではない。女性運動は、ファシスト運動と同様に、厳格な規律の下で行われ、あらゆる党派の支持を横断し、あらゆる階級と党派から支持者が集まった。女性運動は、女性たちに私利私欲を忘れ、多数の利益のために、ささやかな個人的利益や保護された少数の特権を放棄し、民族の幸福にとってこれほど破滅的なシステムに内在する不正と不正義に共に立ち向かうよう訴えた。ファシスト運動と同様に、女性運動は指導者を選び、一度指導者を選出すると、その指導者に政策と運命を左右する絶対的な権限を与え、この国の歴史において比類のない忠誠心と献身を示した。さらに、ファシスト運動がかつてそうであったように、この運動は街頭の暴力、反対派の嘲笑、善意の人々の誤解、そして政治家たちの憎悪に直面した。現政権からの憎悪、そして最後には牢獄の孤独と強制給餌の恐怖に耐え忍んだ。広場や街角に立つ演説者たちは言論の自由を否定され、文書販売の擁護者たちは唾を吐きかけられ、罵倒され、代表団は乱暴に扱われた。婦人参政権運動家たちは、自らの手で法を執行しようとするあらゆる暴徒たちの遊び相手となった。より正確な例えをすれば、どんなに卑劣で卑劣な中傷であっても、その指導者たちの道徳的人格や、彼らに忠誠を誓う女性たちの目的や目標を攻撃することは不可能ではなかった。

こうして、こうした結束の中で結束した女性たちは、政治や政党のスローガンに幻想を抱かなくなった。「民主主義」や「個人の自由」といった神聖な言葉が批判者たちの口から頻繁に発せられる時、彼女たちは、これらが自由党政権下で、民主主義制度を政治的叡智の頂点に押し上げた政党の擁護者たちによって成し遂げられたことを思い出した。その政権下では、彼女たちは犯罪者、狂人、子供と同じ扱いを受けていたのだ。彼女たちは、もしこれが民主主義であるならば、女性に期待できるものはほとんどないと、ある程度の説得力を持って主張した。

民主主義体制から追放された彼らの経験は、その疑わしい保護のもとで名誉ある国民であると気づいたときに彼らが直面した経験に比べれば、取るに足らないものだった。
確かに、彼らは5年に一度の非常に短い期間、個人の自由の権利を獲得したが、投票用紙に致命的な十字を切って投票所のドアを閉めた瞬間から、彼らは民主主義機構の前で完全に無力であることに気づいた。

これが我々が戦ってきた目的だと教えられるだろうが、少し考えてみれば、それが単なる象徴に過ぎなかったことがわかるだろう。女性は、男性が投票するからといって必ずしも自由であると想像するという致命的な誤りを犯したことはない。女性も投票するからといって自由だと思い込んだり、民主主義が、それが存在することを容認する男女を綿密かつ組織的に搾取すること以外に何を提供できるのかと考えるのは、今日の愚かな女性の特徴である。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

終戦と同時に限定的に投票権が認められた女性にも議会への参政権が与えられ、1918年晩秋の選挙で初めてその機会が与えられた。政党制度はすでに衰退の兆しを見せ始めており、容赦ない報復の法則により、イギリスに民主主義をもたらした党は、恩知らずの子孫の前に完全に退却させられた。しかし、勝利の喜びに燃えた女性たちは、有権者として、あるいは候補者として、当時の既存の政党に目を向けた。

政党政治への不信感から、私は政党政治への転向をためらい、無所属で立候補し、この機会に他の女性候補者と共に、一人を除いて落選する道を選びました。例外はシン•フェイン党のマルキエヴィッチ伯爵夫人でした。彼女は悪名高く、公然と英国の敵であったにもかかわらず、民主主義体制の下では、破壊し、崩壊させ、信用を失墜させると公然と豪語していた英国の議会選挙に当選するのは至って容易なことでした。私の記憶が正しければ、彼女は無投票で当選しました。次の例も、それほど勇気づけられるものではありませんでした。イングランドの選挙区に選出された最初の女性は、アメリカ生まれの市民であり、父親の死をきっかけに参議院に選出された英国民と結婚したという点を除けば、英国女性を英国議会で代表する資格は何一つありませんでした。女性運動を批判する人々は、この結末をほとんど隠し切れない満足感をもって指摘し、この女性を女性の無責任さの嘆かわしい見本として持ち上げようと躍起になった。彼らがそこまで個人攻撃する必要はなかった。彼女は、闘争的な女性たちの長年の努力と闘争の結果として英国下院に選出された他のどの女性よりも優れても劣ってもいなかったからだ。その後、党の女性議員がウェストミンスターに選出されたことは、男性にとっても女性にとっても何ら変化をもたらさなかった。多くの有能な女性が選出された代表者の一員となったにもかかわらず、彼女たちが英国、あるいはその帝国の運命に及ぼした影響は全く無視できるほどだった。これは残念な事実だが、それでも事実である。彼女たちは、男性の同僚たちと同様に、民主主義体制という党の歯車の歯車に過ぎず、党鞭の音とともにロビーへと押し寄せ、官僚機構という巨大な力の前に無力に立っている。その力は、あらゆる自発性と独立性を粉砕し、忠誠を誓うすべての人々を、政策と施策を遂行するための単なる記号へと貶めている。もしこれが議会に当てはまるならば――誰がそれを否定できるだろうか？――女性有権者についてはなおさらだ。彼女もまた、この容赦ないシステムに囚われ、党組織の紛れもない奴隷となっている。

これに異議を唱える人々には、次の疑問を投げかけなければならない。現在の制度下で、女性議員や女性有権者は、これまでに選出された政府の政策を一つでも変える力を持っているのだろうか。現在の制度を最も熱烈に支持する人々は、どの政党に属していようと、女性はこの国の現状に満足していると主張するのだろうか。彼女たちは、雇用者数が信じられないほどの200万から300万人に達した経済状況を、現状維持で満足しているのだろうか。生きている人すべてに絶望を植え付ける荒廃した地域の光景に、彼女たちは満足しているのだろうか。彼女たちは、農業地域の衰退や農業の窮状に無関心であり、すべての政党が一様に嘆く劣悪な住宅事情にも無関心なのだろうか。

帝国と外交の広大な領域に目を向けると、英国女性の大部分が帝国の崩壊、あるいはいわゆる国民政府の現在の外交政策の方向性を望んでいると言えるだろうか。その政策とは、彼女たちの名において秘密裏にこの国の公然たる敵と協定や約束を交わし、同時に、私たち自身の当面の防衛のみならず、それらの約束を履行する必要が生じた場合にも、無防備な状態に置かれている政策である。私たちは、自分たちが何に巻き込まれているのか、本当に分かっているのだろうか。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

果たして、この集団安全保障政策は何を意味するのか、あるいはそれを強制する邪悪な力とは何なのか。ジョルジュ•ソレルは「民主主義とは、悪徳金融家たちが夢見る豊かな国だ」と述べている。参政権を得た女性たちに、その夢を現実のものにするために定められた内政や外交政策を阻止する力などあっただろうか。費用を負担する時が来たら、私たちはこれらの政策の結果の前で無力なまま、屠殺場へと追いやられる羊のように追いやられることを忘れてはならない。これらの重大な問題を変える力を与えてくれないのであれば、いわゆる自由に一体何の価値があるのか。

もし平均的な女性有権者がこれらのことを何も望んでいないのが真実だとしたら、民主主義制度の下で自由であるにもかかわらず、なぜ彼女はこれらのことを容認するのでしょうか？もし彼女がこの自由を持っているのであれば、これらのことを1時間でも長く我慢することは、二重三重の罪ではないでしょうか？これは、彼女が国家の政治において責任ある役割を担うという主張の試金石です。もし彼女が既存の制度の下で必要な権力と自由を獲得しているのであれば、彼女が国家の課題において市民としての役割を果たす能力がなく、実際には責任を果たす資格がないという非難は、完全に証明されることになります。

これらはどれも真実ではない。真実は、現在の時代遅れの制度下では、男性にも女性にも自由がないという事実の中に見出されるだろう。男女双方を束縛しているのは、政党制度の衰退であり、これは抑制されない民主主義の下で成人参政権が付与されて以来、より顕著になっている。世界中で同様の退廃が始まっており、時間と状況の避けられない流れによって、貧困の世界から限りない豊かさの世界への変化は、秩序ある計画性を生存に不可欠なものにしている。こうした変化の中で、旧世界の方法は時代遅れとなり、新しい方法に取って代わられなければならない。女性が国家の評議会における地位にふさわしい者となるためには、周囲に広がりつつある新たな世界の状況に、現実主義者として立ち向かわなければならない。遅かれ早かれ、彼女たちは選択を迫られる。その決断は重大である。なぜなら、この決断に、今後相当な期間、女性の地位が左右されるからである。それゆえ、女性が世界の歴史を天秤にかけることは、決して軽視すべきことではない。

女性には二つの道が開かれている。一つは、腐敗しつつある旧世界の体制と格闘し、所属する様々な政党の職業政治家の侍女として甘んじることである。この点について、女性は長く誠実にその体制を試してきたと言えるだろう。そして、もしその体制の下で社会、政治、経済の自由に向けた実質的な変化を成し遂げられたとすれば、それは残念ながら失敗に終わったと言えるだろう。今こそ、その欠陥が女性自身にあるか、それとも未だにしがみついている体制にあるかを考えなければならない。この点に関して、女性は、個々の政党自体が徐々に消滅しつつあることに気づくだろう。自由党は過去の黄昏の中に消え去り、保守党は急速に崩壊しつつあり、党首の確約によれば、保守党が独立を取り戻す望みはないことが分かっている。社会党も同じ運命を辿るだろう。なぜなら、社会党もまた、他の二党を社会民主主義の泥沼に引きずり込んだ同じ道を辿らなければならないからだ。

したがって、彼女は、現代の状況にもっと合致した、より良いシステムを探さなければなりません。
過去のぐらついた建物に代わるものは何でしょうか?

政治を学ぶ人なら誰でも、問題は今やファシズムと共産主義の間にあると認識しています。
イギリスの女性にとって、共産主義はあまり魅力的ではない。それ以上に言えば、それは破壊の哲学であり、女性としての自然な本能を否定するものである。女性が価値を認め、求めるあらゆる原則や慣習とは正反対のものだ。

ファシズムこそが唯一の解決策であるように思われる。そこには、英国人の気質に特に適したあらゆる原則が備わっている。それはすべての人々に真の自由と解放を与え、

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

この国への善意の女性たち。誤解のないよう、これらの曖昧に使われる言葉を、民主主義者なら誰も異論を唱えない言葉で定義しておきたい。なぜなら、これらの言葉は純粋な民主主義の使徒、ジョン•スチュアート•ミルの言葉であるからだ。

「人類が個人として、あるいは集団として、その構成員の行動の自由を干渉することが正当化される唯一の目的は、自己防衛である」と彼は記した。「文明社会のいかなる構成員に対しても、本人の意志に反して権力を行使することが正当とされる唯一の目的は、他者への危害を防ぐことである。」

これはまさにファシズムにおける個人の自由の概念であり、女性に関しては、女性市民としての将来の地位において正当に要求できるあらゆる機会を女性に与えるという概念であることは明らかである。他のいかなる制度においても、これらの原則は体現されていない。さらに、企業国家機構において、ファシズムは女性に男性と同等の地位を保証する。なぜなら、女性たちが自らの生活環境を指導し、管理できる唯一の手段を、企業国家機構の中に有しているからである。こうして、1906年から1914年にかけて闘争的な女性たちが女性のために始めた事業を、ファシズムだけが完成させるだろう。さらに、ファシズムは党体制に内在する腐敗の腐敗した雰囲気から女性たちを救い出し、初めて、女性たち自身の特別な企業機構を通じて、自分自身と子供たちの生活に深く関わる重要な問題に、ある程度の成功の見込みを持って取り組む機会を与えるだろう。

経済分野では、同一労働同一賃金という永遠の骨による安全が保証されるだろう。
男女間の争いが産業に悲惨な結果をもたらした。

社会的な領域では、あらゆる階級の壁を取り除き、政治的な領域では、正義と
女性闘争の歴史上初めての平等。

そして何よりも重要なのは、ファシズムは、国際主義の中に存在し存在する根本的な原因を除去することによって、戦争の亡霊を永遠に消し去るということである。国際主義は、「悪徳金融家」が夢見る「民主主義」と呼ばれる「豊かな国」を利用することを可能にするために作られた道具である。

これらすべてを実現するために、ファシズムは、秩序ある国家の統合において、男性と同様に女性にも規律ある協力を求めるだろう。そしてファシズムは、国家の全市民に対し、特定の階層や階級の利益のためではなく、国民全体の利益のために、調和して働く責任と義務を当然に課すだろう。ファシズムは、男性と同様に女性にも、あらゆる利己的な個人的特権を従属させ、恵まれない人々がファシズムの保護の下で搾取から守られるよう求めるだろう。

これがファシズムだ。他の全ては幻影だ。英国女性は、国家史上のこの偉大な機会に立ち向かうことができないと言えるだろうか？この機会を拒否するよう女性に命じる者は、女性のみならず、あらゆる進歩と文明の敵である。戦前の大闘争の試練に耐え抜いた女性たちは、少なくとも、過去の支配に再び彼女たちを隷属させ、国の必要な再編において名誉ある役割を果たす機会を一切奪う体制に縛り付けようとする人々に挑戦する権利を獲得した。英国が彼女たちを必要とした時、英国女性は一度も失敗したり、ひるんだりしたことはない。彼女たちもまた、同世代の男性たちと共に、英国ファシズムの旗を高く掲げ、党体制の混乱と卑劣な争いをはるかに凌駕して、国家が再生する日を早めるだろう。その勝利の瞬間に、彼らは再生した大英帝国に敬意を表する誇り高い権利を真に獲得し、その主権者である国民の平和、安全、繁栄の中にようやく安住することになるだろう。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ジョリアン•ジェンクス

著『Precious Acres』

T英国には土地政策がないから土地問題はない、と考えたくなるかもしれないが、こうした不安を抱かせる事実を注意深く検討してみるとよいだろう。

ベルギーとオランダを除けば、英国は世界で最も人口密度の高い国である。そして、これらの島嶼国では低地諸国よりも自然に不毛な土地（山岳地など）の割合がはるかに高いため、人口一人当たりの食糧生産地が他のどの国よりも少ないことは疑いようがないと思われる。

英国は、土地の保全、開拓、改良に関する確固たる政策を持たない、世界で唯一の文明国です。第一次世界大戦終結以来、毎年200万エーカー（総面積の7%に相当）を超える農地の喪失を食い止めるための措置を講じた政府は一つもありません。

英国は、祖国との一切の接触を断たれた国民の割合が高く、国民の食生活において古くなって保存された食品の割合が高いという点で独特である。
科学者たちは、栄養失調、神経障害、社会不安という形でこの人工性の結果を発見し始めています。

外国の観察者が、我々が英国流の倒錯したやり方で、極めて危険な実験の被験者になろうとしていると結論付けたとしても無理はないだろう。つまり、生活必需品を他国の努力と善意に頼り、完全に都市化し、事実上寄生的な社会において国民生活が健全に維持できるかどうかを探ろうとしているのだ、と。さらに、このような不安定な状況は、我が国の気候の厳しさや土地の貧弱さによって強いられたものだと考えるかもしれない。そして、我々に対する彼の態度は、賞賛というよりはむしろ哀れみの態度となるだろう。

では、この憂慮すべき事態が、ただ一つの原因、すなわち第一原理の冷酷かつ執拗な無視から生じていることを認めざるを得ないのは、どれほど辛いことでしょうか。この点について誤解のないようお願いいたします。我が国は過酷な気候ではありません。それどころか、世界で最も穏やかな気候の一つです。我が国は痩せた土壌ではありません。それどころか、平均的には世界で最も生産性の高い土壌の一つです。しかし、私たちの罪の代償として、私たちは次の選挙のことしか考えようとしない政治体制に陥っています。その政治体制には、利害に固執するあらゆる既得権益者たちと、学術的名声を維持しようとするあらゆる誤った経済学者たちが渦巻いています。

世界の他の国々に対して製造業者、運送業者、銀行家となることが我々の天命であり、そのような状況が原材料や食料の絶え間ない貢納を意味すると考えるのは、最も重大な誤りである。確かに、一連の幸運な偶然の重なりによって、世界が当時どんな代償を払っても構わないと考えていたサービスの開発において、我々が他国に大きく先んじることができたという事実によって、この仮説は短期間で色彩を帯びたものとなった。しかし、産業ナショナリズムと金融ナショナリズムの急速かつほぼ普遍的な到来は、我々の一時的な独占を一掃し、この仮説を単に維持不可能なだけでなく、紛れもなく危険なものにしてしまった。この仮説に固執すればするほど、現代社会の現実に直面する能力は低下する。取り返しのつかない「国際貿易の回復」に向けたあらゆる動きは、我々が自らの足で立ち、自らの経済状況を評価しなければならない避けられない清算の日を先送りするだけなのである。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

リソース。

天然資源は生命維持に不可欠な資源であるため、その慎重かつ賢明な開発は国家の繁栄の前提条件です。天然資源は文化的にも物質的にも国家の遺産であるため、その保存は厳粛な国家の責務です。

比較的近代に至るまで、これらの事実は必ずしも正しく解釈されていたわけではないものの、一般的に認識されていたことを忘れてはならない。土地所有は、大きな特権だけでなく、社会的にも金銭的にも大きな責任を伴うと考えられていた。支配階級はほぼすべて地主家族から構成されていた。農業は主要な基幹産業と認識され、その繁栄は国家にとって重要な課題であった。

ナポレオン時代の混乱した財政から生まれた、新興勢力で主に異質な金権政治が、貧困にあえぐ地主貴族に取って代わって初めて、国民の土地に対する態度は深刻に悪化した。また、ヴィクトリア朝時代の輸出資本主義が巨額の輸入収入を獲得し始めて初めて、イギリス農業はイギリスの製造業の発展に追いつかなくなった。しかし、組織化された資本の利潤こそが国家の繁栄の尺度であるという教義が確立されると、非組織化農業はウェストミンスターに援助や指導を求めても無駄だった。

そのため、今日では英国の田舎の研究は、ほとんど絶滅した文明の研究となっている。
一世代も車輪が通っていない深く切り込まれた小道、十年も鉄が使われていない広大な生垣、厚く芝が敷かれた牧草地にまだ残る古い鋤の跡、朽ち果てつつある納屋や小屋、現在の教区の5倍もの規模を持つ会衆のために建てられた教会、静かな水車、崩れかけた大邸宅。これらすべてが、かつてはあらゆる最も男らしい仕事に精力的に従事していた失われた農村の人々を物語っています。

もちろん、より良い土地は今も耕作されており、しかも多くの場合、耕作状態は良好である。しかし、そこに直接関心を持つ人の数は年々減少している。そして、あちこちで、豚や鶏、果物や牛乳にすべてを賭ける勇敢な冒険家を見かける。しかし、田舎の大部分には、自信のなさから生まれたその日暮らしの荒廃が蔓延しており、それは見慣れない牛が十分に飼育されていない、放置された牧草地に表れている。あまりにも無関心な空気のため、投機的な建設業者による無駄で醜悪な侵入でさえ、数世代前であればそのような冒涜が引き起こしたであろう憤りの痕跡をほとんど残さずに受け入れられている。

かけがえのない国家資産にどれほどの損害が及んでいるかを認識することが重要です。理論上、土地は海に流されない限りは破壊されないはずです。ちなみに、我が国の海岸線では、海に流されるという現象がいくつも目撃されています。しかし、食料生産の観点から、土地を事実上無用なものにしてしまうような事態もいくつか起こり得ます。そして、食料生産こそが国家にとって最も重要な視点なのです。

まず第一に、耕作地であれ牧草地であれ、耕作地は急速に荒廃状態に陥り、貯蔵用の牛や羊のためのわずかな収穫しか得られず、ウサギが先にやって来ればそれらさえも不足する。耕作地が着実に縮小している時期に「粗放放牧地」として返還された面積が不吉なほど増加していることは、何が起こっているかを如実に示している。言うまでもなく、粗放放牧地の大部分は山頂や荒野である。しかし、最近増加した土地のすべて、そしてそれ以外にも相当数の土地は、他のヨーロッパ諸国、あるいは我が国の自治領でさえ耕作できるような改良可能な土地で構成されている。しかし、政府の継続的な放置により、我が国では耕作が不可能なのである。

インスキップタイプの政治家は、この放棄された土地が******電子ブックコンバータDEMOウォーターマーク******に持ち込まれることができると私たちに信じさせています

Machine Translated by Google

緊急時の生産。どうやら先の戦争での幻滅的な経験から、土地をトラクター数台と未熟練労働者で刺激するだけでは、突如生産性が急上昇することはないということを彼らは学んでいないようだ。土地の開墾は高度な技術を要する作業であり、成果が出るまでには何年もの忍耐強い労働が必要となる。長期的な農業政策に組み込むことは非常に有益だが、緊急時の食糧生産手段としては実質的に無価値である。

第二に、住宅用であれ工業用であれ、建築事業は毎年膨大な土地を消費し、実際に消費した分だけ土地を不毛化させている。1929年以降、イングランドとウェールズだけでも42万1000エーカーの農地が失われ、そのうち粗放牧地として再び現れたのはわずか15万9000エーカーに過ぎない。残りの26万2000エーカーのほぼ全てが建築業者の餌食となり、その多くは高度に耕作された平坦で肥沃な耕作地となっている。

農地の喪失は、工場、住宅、庭園が実際に占めている面積だけに留まらないことを忘れてはならない。道路や遊園地の整備は不可欠であり、特に新興地域では、広大な空き地が常に存在する。さらに、市街地周辺の農地や、近代的なやり方で孤立した住宅が点在する農地は、深刻な被害を受けている。スズメやネズミが何千羽も現れ、門や柵は破壊され、野良犬が家畜を襲い、些細な被害が甚大に増加している。安価な道路輸送の出現と、それに伴う郊外開発の推進により、農地として返還されたものの、このように影響を受ける面積は数十万エーカーに及ぶに違いない。

世界情勢の進展により、英国が土地を一つ残らず保全することが極めて重要になっているこの時に、英国は国家遺産を浪費しているという結論を避けることは不可能である。この発言を軽視する人もいるかもしれないが、RG•ステイプルドン教授の近著『土地：今と明日』を注意深く読むことをお勧めする。同教授は「我が国の農地面積は急速に減少しており、減少は避けられない。食料生産のためにいかなる犠牲を払ってでも確保すべき最低限の面積について何らかの決定がなされ、適切な措置が講じられない限り、イングランドの農地面積が200年後には半分にまで減少する可能性がある」と述べている。

200年というと長いように聞こえるかもしれないが、私たちの子供たち、ましてや孫たちがアメリカ大陸や南半球の反対側の大陸から無制限の食糧を得られるなどと大胆に主張する者はいるだろうか？私たちは、国有財産を浪費し、子孫に飢餓という根本的な問題を残した世代として歴史に名を残したいのだろうか？ビクトリア朝時代の輸出資本主義は私たちに貧困地域を残した。私たちは新たな荒廃地域を生み出す責任を負うことになるのだろうか？

我々の土地問題の栄養面と経済面をさらに考慮すると、国民生活の不可欠な部分としての農業の多くの機能についての議論が深まるだろう。
したがって、同様に重要な文化的側面について議論するために、ここで一旦中断する必要があります。

確かに、この側面は都市計画運動の下で、すでに断続的かつ一方的に注目を集めている。しかし、この運動の名称自体がその限界を露呈している。農業の重要性を忘れ、輸入食料を自然現象とみなすよう促されてきた地域社会は、田園地帯を単なる町の付属物、一種の誇張された公共公園とみなすようになった。ホーム•カウンティの大部分が特徴のない田園郊外と化したのと同様に、イングランドの田園地帯が個性のない「オープンスペース」と化してしまうという大きな危険性が確かに存在する。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

都市化した人々が、騒々しく汚染された都市の空気から逃れたいという生来の渇望は、同情を誘うに過ぎない。こうした人々が日曜日の半分を、渋滞する幹線道路でガソリンの煙を吸い込みながら、残りの半分を新鮮な空気の中で過ごすという行為は、痛ましいほどに意味深い。しかし、彼らの多くが、自らの事業の成果を損なわずに掴むことができないように見えるのは、実に残念なことだ。

田園は、その独自の特質を保たなければ、文化的機能を果たすことはできない。そして、その特質は、その物質的あるいは農業的機能と切り離せない。町が町を連れ去ったとしても、町は町から逃れることはできない。知識人が議論を携えて田園を散策しても、心に休息を与えることができないのと同じだ。「田舎暮らし」を志した人々によって郊外化された村の光景は、知識人たちが自分たちの活動よりも興味深く重要な無数の活動に囲まれながら、しゃべりまくりながら闊歩している光景と同じくらい痛ましい。ある農家が少し前にこう言った。「奴らが私の畑を横切るのは、それほど気にしない。馬鹿な犬を私のために運動させるのも、それほど気にしない。子供でも開けられるような門をよじ登るのも、気にしない。でも、良い農地を2マイルも歩きながら、何が起こっているのか一度も見ようとしなかったことを考えると、私の礼儀が無駄になったような気がする。」

いわゆる「公共公園」的な態度は、田舎の活動への無関心というよりも、もっと深刻な形で現れています。ウニが飼育員が見ていない隙にアヒルに石を投げても構わないと考えるのと同じように、気づかれる可能性がほとんどない、あるいは全くない軽犯罪を平気で犯す教養の高い大人が何千人もいます。そして、軽犯罪の積み重ねが、都会の現実逃避をする人々が好む地域で不快な状況を生み出しているのです。

ドイツでは果樹は道端の生垣に植えられ、土地は金属の端まで耕作されている。イギリスでは、そのようなことは全く不可能だ。なぜなら、組織的な襲撃隊によって木々は根こそぎにされ、作物は鎖の幅ほど踏みつぶされてしまうからだ。イギリス人がドイツ人より正直でなかったり、破壊的だったりするわけではない。ただ、価値観や道徳的行動規範が街灯の最後の柱で途絶えてしまうほど、イギリス人は田舎暮らしから大きく離れてしまっただけなのだ。店のカウンターから1ペニーの鉛筆を盗むという考えに衝撃を受けるような人でも、キノコを盗むために6本の生垣を突き破ることには何の不道徳も感じないだろう。

田舎には訪れる人々に提供できる真の豊かさがあまりにも多くあります。現在の嘆かわしい傾向を克服する明白な方法は、人々にその豊かさがどこにあるのかを示すことです。今でも、孤独の癒し、平和と安心の精神的な慰め、刻々と変化する野原や森の魅惑的な魅力を理解できる人は多く、実際に理解しています。しかし、そうした人々はあまりにも少ないのです。

自分が強い個人的関心を感じているものを故意に傷つけたり汚したりする人はいないでしょう。田舎の保全に向けた第一歩は、ステイプルドン教授が「田舎心」と呼ぶものの発展に向けた国家的な取り組みです。

ファシスト政権は当然のことながら、土地問題に全面的に取り組まなければならない。なぜなら、土地は彼らの「生きた国家」構想の基盤の一つだからである。実際、彼らが公言している農業開発政策自体が、不動産市場における投機行為を刺激することで喫緊の問題を引き起こすことになるだろう。農業政策が完全に発展するためには、この投機行為に厳しく対処する必要がある。

土地に対するファシストの態度は、数文で説明することができます。

土地はもはや投機的な商品として扱われるべきではない。その価値は公正に評価され、その増加分はすべて、土地の創造に貢献した人々、そして土地所有者を含む人々によって分配されなければならない。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

州。

土地利用は、国家による慎重な長期計画の対象とされるべきである。可能な限り、建築活動は農業価値の低い地域に限定されるべきである。

土地所有権は可能な限り広く分散され、小規模で安全な家族所有地を多数確保することが目標となる。しかし、それには責任も伴い、土地を不当に利用する者は社会の敵とみなされる。

土地への公共アクセスを改善するには、野外小道、キャンプ場、路傍の休憩所の拡張と明確な区分が必要です。同時に、不法侵入に関する法律を改正し、農村コミュニティを妨害や損害からより適切に保護する必要があります。場合によっては、監視員団の設置も必要となるかもしれません。

ウサギ、カラス、ハトなどの害獣に対しては戦争を起こさなければなりません。野外スポーツに対する差別はないものの、そのようなスポーツが農業やレクリエーション活動を妨害することは許されません。

国民は田舎を尊重し、その価値を認め、田舎の活動に賢明な関心を持つように教育されなければならない。

私たちは、土地について感傷的な感情を抱くような人種ではありません。「母国」という言葉は滅多に使いませんが、「祖国」という言葉を使うことは決してありません。自由放任主義的なリベラリズムと金融保守主義が一世紀続いたことで、私たちの土地に対する近視眼的で商業主義的な態度が育まれました。

しかし、私たちの夢の英国、私たちの国民精神を体現する英国は、街路や工場、あるいは公園や公共建築物さえもない英国ではなく、穏やかな谷や起伏のある高地、耕作された畑と居心地の良い農家が並ぶ英国です。都市は世界中で都市であり、世界の都市は年々標準化へと向かっています。しかし、英国の田舎は私たち独自のものであり、私たちの国民性と切り離せないものです。私たちはそれを、ストラトフォード•アポン•エイヴォンの博物館のような雰囲気ではなく、生産力という自然な活力の中で、熱心に守っていかなければなりません。

私たちの多くは、土から数世代以上も離れているわけではない。新聞やラジオで少し再教育を受ければ、少なくとも余暇の時間には、再び田舎者になれるだろう。「農業」と言えば役に立つが退屈な初等科学ばかりの専門の教師による教育ではなく、目を見開き探究心を持って小道や畑の畦道へと私たちを送り出すような教育だ。田舎の歴史や日常生活に触れることで、都会人は農業の問題を理解するだけでなく、田舎への外出に深い興味を持つようになるだろう。知的な田舎心は、都会生活のストレスに対する最高の解毒剤となるだろう。母なる大地は、肉体だけでなく魂にも安らぎを与えてくれるからだ。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ヒトラーのベルヒテスガーデン、新ドイツの牧歌 ジョアン •モーガン著

Eバイエルンをよくご存知の方、そしてバイエルン全土を所有するヴィッテルバッハ家や、ドイツ全土から選りすぐりの土地を持つ総統がベルヒテスガーデンを夏の別荘に選んだことを心に留めておいたとしても、古き良きバイエルンの中心地であると同時に、新生ドイツの魂でもあるこの街に、どれほど心構えができるでしょうか。おとぎ話のようなバイエルンと、真にナチズムの粋を尽くしたこの山に囲まれた市場町には、あなたが夢見ていたすべてが凝縮されています。ロンドンの最新アパートとほぼ同じ人口を誇るこの街には。

バート•ライヘンハルを出発した列車は、山々の奥深くへと走り続け、ドイツがオーストリアに切り込まれたような深い谷を登っていくと、まるで山々に完全に包み込まれるかのような感覚に襲われます。（オーストリアまで3方向から歩いて行くことも可能で、かなりスリリングな体験です。）

第一印象は、まるで動きがあるかのようだった。2歳以上の子供は皆、ある種の期待感でつま先立ちになっている。これが標高のせいなのか、バイエルン人の陽気さのせいなのか、それとも総統がいつ車で通り過ぎるかわからないという事実のせいなのか、私には分からなかった。とにかく、空気が活気に満ち溢れているのは確かだ。

この愛らしいミュージカルコメディの設定では、国家社会主義はとても楽しいようです。
単純で不思議なほど感動的な、時折の会合を除いて、あなたはそのすべての奥深く神秘的な深刻さ、達成された課題と今後の課題の規模の大きさをあまり意識していません。

魅力的な制服、総統との交流、美しい環境での健康的な生活など、SS はとても楽しい職業だと感じます。また、SS は愛国心という共通の基盤の上に、あらゆる年齢や階層の人々に開かれた素晴らしい組織です。

ここでは、ドイツの他のどこよりも、最年長のSS隊員から冬の救援バッジを売る最年少の子供まで、誰もが国に利害関係を持っていることがよく分かります。誰も、必要とされていないという魂を蝕むような苦しみに苦しむことはありません。すべての功績は彼らの功績であり、すべての挫折は彼らのものです。国家社会主義が、希望を取り戻し、国の未来への信頼を新たにすることで、人々に生きる意味を与えてきたことを実感します。

何世紀にもわたるこの地の生活は、これまでと変わらず続いており、それにナチズムが加わると、ベルヒテスガーデンの生活はノンストップのショーとなる。一つの幕が下りると、次の幕が始まる。単調なざわめきが窓の外に聞こえてくる。民族衣装に身を包み、ベルヒテスガーデン人と呼ばれる小さな黒緑赤のニットコートを羽織った百人の農婦たちが、単調な音とともに流れていく。彼女たちには司祭も同行し、彼女たちは目を伏せながら、詠唱しながらゆっくりと歩いていく。その後、短い茶色のコートを着て行進する若いBDM（ヒトラーガールズ）や、旗を掲げた大柄で精悍な少年たち、ヒトラーユーゲントの甲高い声が聞こえてくる。空気中には、常に行進曲が流れている。

他に何もできない時は、消防訓練があります。チュニック、ヘルメット、そして長ズボンを身につけた100人の消防士（つまり住民30人に1人）が、あなたの家の窓の前で勇敢に訓練を行います。しかし、日曜日はまさにその日です。町の頂点であるマルクト広場には農民たちが集まり、噴水の片側では、緑の帽子をかぶった男たちが、巨大なブラシの中で互いに競い合います。******ebook converter DEMO Watermarks*******

Machine Translated by Google

バイエルンライオンの像が飾られた広場、そしてもう一方の広場には、三つ編みの冠に黒い平たい帽子をかぶった女性たちが佇んでいる。10時になると、ビールとスープ入りソーセージを求めて、ノイハウス（ホフブロイハウスの弟分）へと移動。栗の木々に囲まれたビアガーデンで、ヴィッテルスバッハ城の塀に寝具を干す。ビアシュトゥーベは比類なきゲミュートリヒカイト（活気に満ちた雰囲気）を誇り、党首たちがガイドと肩を並べる。活気あふれる街の活気あふれる中心地だ。

グランドホテルは、誰にとっても十分な豪華さを誇ります。優れたオーケストラとミュンヘンからの客演を誇るクアハウス。素朴なウィットと魅力的な音楽が魅力の農民劇場。そして、親密な雰囲気のホフシャッファーは、ロンドンのホテル支配人の夢をはるかに超えるほどの、ポケットハンカチ一杯の床でダンスを披露します。かつてバイエルン家の王室別荘だったこの場所で、SS親衛隊の優雅で巨大な少年たちが踊るクアカフェ。芸術家たちもいます。奇抜なインスピレーションに満ちた木版画で知られるフリッツ•リヒターと、近代アルプス派を代表する風景画家の一人です。

外に出ると、まず総統官邸がある。世界の頂上にあり、ガラスの壁から連なる山々を見渡す。まるで後ろに傾いているかのように険しい場所に建っている。総統が町を支配するように、この官邸は谷を見下ろしている。

アルプスの湖の中でも最も美しいケーニヒ湖は、四方を険しい山々に囲まれ、深い緑に覆われています。また、ヒンター湖から流れ出る小川が緑の岩肌を駆け抜ける、魔法の森、ツァウバーヴァルトもあります。

塩鉱山では（制服の国では）黒いチュニックと白いプラスフォー（聞こえほどシックで似合うものではありませんが）を着て、光のネックレスと卍の先にある地底湖までそりで滑り降ります。戦争記念碑のあるシュロス•プラッツもあります。

アルプスの草原には、ある週はピンク、次の週は青や黄色と、自然の色彩の連続があり、ロンドン、パリ、ニューヨークの花屋を羨ましがらせるほどである。

雪線まで力強くまっすぐに続く、均質な森。山々。ドイツで2番目に高い美しいヴァッツマン、荒涼としたゴル、そして伝説にまつわる険しいウンタースベルク。勇敢な方には、ウンタースベルク内部、標高6000フィートにあるライトアップされた氷穴、そして轟音を立てて流れ落ちる息を呑むほどの渓谷、アルムバッハ•クラムがあります。登った距離よりもはるかに深く落ち込んでいるように感じられ、希望を失った時にようやく終わりを迎えるこの渓谷は、「風景」ではなく「感動体験」というカテゴリーに属します。

ベルヒテスガーデン地方では、「神よ！」と「ヒトラー万歳！」という挨拶が同じように交わされます。これほど美しいものを創造した神に挨拶し、それを命よりも愛する人々のために救ったヒトラー万歳と言うのも無理はありません。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ヴィドクン•クヴィスリング著『北欧世界連邦』

ノルウェーのナショーナル•サムリングのリーダー

古い世界が崩壊し、新しい世界が生まれつつある。昨年、スタヴァンゲルで行われた私たちの第3回年次集会と同時に、1928年の前回の世界大会から7年間の中断期間を経て、モスクワの旧「貴族クラブ」で共産主義インターナショナル第7回世界大会が開会された。

会議は7月25日から8月21日まで続いた。その主な目的は、前回の世界会議で議論されたスターリンの世界ボルシェビキ化計画の実行に関して、ソビエトロシア内外で7年間にユダヤ人の国際マルクス主義陰謀が何を成し遂げたかを再検討することであった。

第二に、共産党は、民族抵抗勢力を壊滅させ、共産主義世界革命の火を灯すという綱領の戦術を確固たるものにした。特に強調されたのは、フランス、スペイン、ベルギー、その他の国々で発展が見られた、いわゆる統一人民戦線の戦術である。ノルウェーにおいても、農民党とのいわゆる「危機協定」や、ブルジョア的•民族的な仮面を被る労働党の新たなカムフラージュ戦術において、この戦術はよく知られている。我が国に直接関係するもう一つの問題、すなわちソ連の国際連盟への参加もまた、国民党の綱領に長らく組み込まれてきた同じ人民戦線戦術の兆候である。

今年、私たちナスジョナル•サムリングが毎年恒例の集会のために集まる中、私たちは異世界会議の召集。

今回、国際連盟の破産した企業の株主は、総会が通常の年次総会を開催する秋に、企業の清算か再建の可能性について議論するために特別総会を開催する。

私が、私たちの最近の2回の全国集会と同時に起こったこれらの出来事について言及するのは、それらの出来事が非常に重要であるからだけではなく、これらの出来事が、今日私たちが直面している外国の政治状況を非常に顕著に示しているからです。

一方には疲れを知らない世界ボルシェビズムがあるが、これは歴史的観点から見れば、単に旧世界の終焉の憂慮すべき兆候であり、邪悪な勢力が自らの破滅の道、すなわちユダヤ独裁政権下の普遍的唯物主義共和国へと向かわせようとする執拗な努力である。

一方で、旧世界は、現代の喫緊の課題、すなわち諸国間の平和と協力の要請を解決しようと、目的もなく試みています。事態全体は個人の利益の衝突によって阻まれており、同時に、現状が要求する国家内部の協力も、階級闘争と利己的な党派対立によって破壊されています。この崩壊の過程は、不安と危機、戦争と内戦を伴っています。

国際主義勢力が介入し、ブルジョア自由主義国家が徐々に消費されていくのと同じように、すべての懸念は徐々にマルクス主義と破壊へと転落していく。

Machine Translated by Google

マルクス主義は、我が国ではっきりと見受けられます。こうした状況の中、常に若々しい人類は新たな芽を出しつつあります。民族復興と統一を目指す運動は、新時代の到来を告げ、新たな国家と新たな世界秩序をもたらしています。この国でも、新たな秩序が進行しつつあります。

制裁とリーグ崩壊

もう一つの重要な事実は、ブルジョア議会資本主義機関である国際連盟の崩壊は、単に連盟自身の不健全性とマルクス主義の地下活動、あるいは連盟の組織における根本的かつ形式的な誤りによるものではないということである。

それは、新時代の組織化された共同体の代表の一つであるファシスト•イタリアによって破壊された。50の制裁国、民主主義とマルクス主義世界全体の反対、そしてファシズムとイタリアに反対する世界世論にもかかわらず、国民の結束こそが最強の力であることが証明された。

イタリア•ファシズムやイタリアの利益とは一切関係なく、国家統一派の指導者たちは当初からエチオピア紛争に対して明確かつ断固とした立場をとってきた。彼らはノルウェーの中立を擁護し、いわゆる制裁へのノルウェーの参加に反対してきた。

この点において、私たちはひたすら国家の利益を考えただけで行動しました。しかしながら、他の多くの地域と同様に、ここの世論はプロパガンダの犠牲になったと私は信じています。プロパガンダは、実際には、自らが植え付けようとした崇高な理想とは全く異なる利益に奉仕していました。

しかし、私たちの運動はどちらの側にも立たなかった。ノルウェーの中立を要求し、制裁ゲーム全体の偽善と無目的さを露呈させた。今日、私たちは状況を正しく判断したと言える。

軍事的観点から言えば、我々は正しかった。一般的な見解に反して、我々は近代軍需品の重要性、エチオピアとイギリスの抵抗力、そして歴史的かつ国家的な基盤の上に結束して組織された国民が築き上げた計り知れない精神的•物質的強さを正しく評価していた。

政治的にも、我々は正しい判断を下しました。制裁政策の無益さと重大な誤算は今や明らかです。近視眼的な連盟政策によって強大なイングランドが被った悲劇的な敗北を見れば明らかです。これは、アメリカを失って以来、大英帝国が被った最大の道徳的かつ実際的な敗北です。

国際連盟の注目に値する新メンバーであるソビエト•ロシアは、制裁政策の中に、まずムッソリーニと、次いでヒトラーと争いを起こす可能性があると考えたが、その計算が外れ始めると、狡猾なボルシェビキのユダヤ人たちは静かに背景に退き、自分たちは無罪放免となり、英国政府に責任を負わせて不名誉を被らせた。

国家主義政策と国際協力

ノルウェーは、第二次世界大戦以来初めて、外交政策において真に厳しい事実に直面しなければならなくなり、従来の地域主義的な政治を続けることが非常に困難になっている。

この点に関して、私はこの国では残念ながら過小評価されている事実を強調したいと思います。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

つまり、国民生活は国内政治ではなく外交政策によって支配されているということだ。
国家自身の「生きる意志」に次いで、その内部条件と構造は、経済と権力という国際的な条件によって支配される。これらの条件は、諸民族と国家の原始的かつ強制的な欲求、すなわち生存と居住空間を求める闘争によって生み出される。しかし、国家の対外政治における影響力は、常にその内部力の発展度合いに比例する。

このように、戦争時の自立の必要性、そしてとりわけ世界経済構造の再構築は、各コミュニティを経済的基盤の上に労働者国家として組織化することを余儀なくさせる。世界情勢の変化は、各国に、自国のあらゆる資源を完全かつ適切に管理し、それらを可能な限り最大限に活用する力を持つ、組織化された経済単位として隣国と関わることを迫る。この点において、現在の危機は、主に世界の生産と貿易における再調整の危機である。

しかしながら、統一され、明確な特徴を持つ経済的国家単位を求める時代の要求と、経済的大義と平和維持の考慮によって抗しがたい力で推進される計画的な国際協力を求める要求との間には、本質的な対立はない。

組織化された国民的人格の形成こそが、誠実な
偏見や抑圧のない、効果的な国際協力。

ヨーロッパと世界における二つの敵対陣営

世界、特にヨーロッパでは、世界大戦前と同じように、二つの敵対陣営が形成されつつあるという状況です。ソ連、フランス、チェコスロバキアは、国際ユダヤ人の支援を受け、ナチスドイツとの戦争に駆り立てられ、既にドイツに対して統一戦線を敷いており、政治的にも軍事的にもドイツ包囲網をさらに強化しようとしています。

このような状況下では、ノルウェーの立場は極めて危険である。ロシア、ドイツ、イギリスの交差点に位置し、国内政策はすでにマルクス主義者の支配下にあるからである。

ロシアは、アジアの利益を重視するヨーロッパの大国から、特に大西洋方面においてヨーロッパの利益を重視するアジアの大国へと変貌を遂げました。しかし、何よりも重要なのは、世界革命の拠点であるということです。

世界ボリシェヴィズムは、ノルウェー、そしてスカンジナビア全体を、ドイツとイギリスに対するヨーロッパ戦線の右翼に仕立て上げようとしている。この計画は、我が国にとって不吉な可能性を孕んでいる。ドイツとソビエト•ロシアの間で紛争が発生した場合、労働党の全体的な方針は、ノルウェーをドイツに対抗するボリシェヴィキ側に立たせることになり、これは我々の中立の誓約に反することになるだろう。

労働党の無責任な独裁者トランマルは、最近、この点について非常に明確な発言をしました。ノルウェーとソビエト•ロシアが現在の国際連盟に加盟し、ドイツが加盟していない限り、我々はこの方面における戦争の深刻な脅威にさらされているようです。なぜなら、独ソ紛争が発生した場合、我々は赤軍と空軍の国内通過を自由に許可する義務があるからです。

現在のヨーロッパの状況では、ドイツとイギリスが戦争に突入する可能性もある。これは、例えばドイツとイギリスの間の紛争に関連して起こる可能性がある。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

フランス、チェコスロバキア、ソビエト•ロシアの三国同盟において、チェコスロバキアはオーストリアよりもさらに敏感な問題であった。フランスがドイツと戦争を始めれば、イギリスは戦争の口実を得ることになるだろう。航空技術の飛躍的な発展により、その可能性は以前よりもさらに高まっている。

イギリスとドイツの間でこのような戦争が起こることはノルウェーにとって壊滅的な可能性である。
世界大戦により、状況は完全に変わりました。

英国の世界政策の手段としての国際連盟を通じて、我々は直ちに戦争に巻き込まれることになるだろう。そして、ロイド卿のような権威者によれば、もし国際連盟が崩壊したとしても、もし世界大戦の時のように我々が我々の商船隊に英国向けの物資を運ぶことを許可すれば、我々は間違いなく懲罰的な砲撃にさらされるだろう。英国は当時と同じように今も間違いなくそれを強く要求するだろう。

ノルウェー労働党（与党）は、ドイツを標的としたこの政策を積極的に支援しています。もしノルウェーがこれに同意すれば、少なくとも99%のノルウェー国民の意に反して、この戦争政策に取り返しのつかないほど引きずり込まれることになります。ノルウェーは、自らの自由と国境が危険にさらされない限り、前進することはできませんし、そうするつもりもありません。

イギリスとドイツとの和平

ドイツとイギリスの間の平和は我が国にとって極めて重要であることを、私は既に強調しました。何よりも避けなければならないのは、ドイツとイギリスが新たな戦争で対立することです。これは我が国にとって致命的であり、まさに破滅を意味します。
したがって、私たちと同様に北欧系であり、北欧的な視点を持つこの二国間の平和と理解を促進するために、全力を尽くすのは私たちの責務です。たとえ私たちがこの点で多くのことを行えず、他国の事柄に干渉しないよう注意しなければならないとしても、通常は虚偽かつ不誠実な根拠に基づいて、私たちの同胞である二国間の不和を煽ろうとする者たちに、あらゆる正当な手段を用いて対抗することは、私たちの当面の責務です。

これらの努力が真に誰の利益のために行われているのか、我々は知っています。一つは世界ボルシェビズムです。ドイツとイギリスの間の平和と和解のために尽力することは、党派の利益を顧みることなく、ノルウェー外交政策の目標とすべきです。ノルウェーの利益がこれを求めていることは極めて明白です。戦争と混乱から逃れる唯一の道は、南と西に位置する偉大な隣国であり、最大の貿易関係も持つこれらの国々との間の平和と理解を維持することにかかっています。

約40年前、そして今、偉大な北欧諸国民の間に永続的な理解を築くための誠実な試みの機会がありました。しかし、その機会は無視され、あるいは拒否され、その結果生じた大惨事は世界全体を巻き込みました。今、同じ破滅的な政策を推進しようとする者は、目を覚まして行動しなければなりません。

しかし、私たちが生きている時代を理解している人は皆、力強く積極的な反撃を起こさなければなりません。

もう一つの決定的な考察は、我が国の外交政策の主要路線と同じ結論に至ります。退廃した自由主義とその子孫であり後継者であるマルクス主義は、その目的を国家共同体、とりわけ北欧諸国に向けさせています。

この政策の目的は、意識的であろうと無意識的であろうと、国民の自然な
国際的な世界共和国を実現するための人民の組織。******電子ブックコンバーターDEMOウォーターマーク******

Machine Translated by Google

その時、諸国家の内なる結束は破壊されるだろう。彼らは、他のすべての民族とは対照的に、全地に散り散りになり、他の民族に寄生する民族の餌食となるだろう。まさにだからこそ、世界を支配するという情熱的な欲望を実現するために、そのような体制が必要なのだ。なぜなら、その支配こそが、ユダヤ民族主義と帝国主義の秘密なのだから。

ユダヤ教と北欧精神の決闘は不可避である。なぜなら、マルクス主義と国際主義は、実際にはユダヤのナショナリズムと帝国主義であり、ユダヤ教によって触発され主導された、北欧的ヨーロッパ文明に対する陰謀だからである。現代の腐敗過程こそが人生の理想に対する最も深刻な脅威であり、現代における最も強力な対立は、ユダヤ教と北欧•ヨーロッパ原理との闘争に集約されていることは明らかである。したがって、現在の退廃とマルクス主義的唯物論の暗黙の活動に対する最も効果的な治療法は、北欧民族と固有の気質という活力ある、あるいは生命力に満ちた基盤の上に築かれた、わが民族の民族復興にあることを、私たちは認識しなければならない。

そして、その一方で、スカンジナビア諸国、オランダ、フランドル、大英帝国、ドイツ、そして北欧人家族が比較的少ないその他の国々など、世界中の北欧および北欧系民族の間では、最も広い意味でより緊密な文化的、経済的、政治的協力がなければなりません。

したがって、「北欧」という言葉の意味はスカンジナビアの人々に限定されるのではなく、すべての偉大な北欧人種に適用され、私たちは現在、不安定な北欧との協力を検討しているわけではありません。

むしろ、それは一方では、国民性と組織を維持することがすべての創造的な民族にとって最も重要な人生課題であるという認識の必然的な帰結である。こうして初めて、ノルウェー文化とその特質が、国家レベルでも世界レベルでも、自由かつ平和的に発展することが可能になる。同時に、それは他の民族の価値と文化的貢献を深く認識するための条件の一つであり、ひいてはすべての国家を崩壊と混乱から守る力となるだろう。

一方で、現代において構築されるべき国際協力は、人種、言語、文化、そして利害において非常に密接に結びついている北欧諸国民を基盤とするのが望ましいという必然的な帰結も存在します。彼らは同じ生活水準と似たような人生観を持ち、地理的にも近い集団を形成しています。

経済的にも、彼らはお互いにとって最良の顧客です。

北欧諸国民の連合

これらの民族のブロック形成、すなわち北欧諸国民の連合は、征服不可能な存在となるだろう。このような連合は、破綻したジュネーブの自由主義•マルクス主義同盟よりもはるかに大きな力で、世界ボルシェビズムに対する防壁となり、世界の平和的発展の保証となるだろう。人類の組織化への道は、共通通貨、域内自由貿易、そして共通関税政策を有するこのようなブロック形成における北欧諸民族の偉大な家族の連合の中に見出されるだろう。そして、他の国々や列強をこの体制に引き込むことが彼らの目標となるだろう。

このような外交政策は、ノルウェーの世界における地位を保証し、ボルシェビズムに対抗する最良の手段となるでしょう。そして、自国と他国のために、海外での活動の場を創出するでしょう。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

わが国自身の資源が不十分であれば、この国でエネルギーの余剰が必ず発生すると予想されるからです。

国民運動に基づく協力

北欧の共通運命を強調する一方で、他者や我々に共通する人間性の重要性や成果を過小評価してはなりません。そして何よりも、通常のヨーロッパ的協力と普遍的な協力の重要性を軽視してはなりません。しかし、この国際的な友愛は、国民国家の体制の上に築かれなければなりません。それは、国際連盟、汎ヨーロッパ、そして世界ソビエト共和国の中心地であるソビエト•ロシアといった自由主義的•マルクス主義的な実験の結果としてではなく、ヨーロッパと世界中の人々の民族的向上によって築かれなければなりません。

生命の歴史は、あらゆる進歩が自由と差別、そして友愛と組織との融合にかかっていることを示している。世界君主制や世界共和国は無政府状態と崩壊に終わる。一国の覇権は、他国にとっても自国にとっても破滅的なものである。

自由主義とマルクス主義が目指す、あらゆる国家と人種をバベルの塔のように融合させることは、それぞれの個性と価値観の破壊を意味する。歴史は真の調和とは分離と発展の産物であることを教えている。

人類の組織形成本能は、国民生活と国家間の協調に向けられている。だからこそ、自由主義とマルクス主義から生まれたあらゆる国際機関は、諸国間の良好な理解を確保し、その進歩を促進するという本来の目的を達成できなかったのだ。

自由主義的な連盟の理念と国際マルクス主義の失敗に鑑み、1934年12月16日と17日にモントルーで開催された新秩序会議で定められた共同体の組織化に関する新しい理念に基づき、ヨーロッパ的かつ世界的な特徴を備えた諸国家の新しい共同体を創設することが緊急に必要です。会議の第一の考慮事項は、精神的および国民的価値の尊重です。

旧来の外交の偽善的で技術的な手法に取って代わり、あらゆる若く健全な民族運動と、それによって再建された国家との間に、自発的で名誉ある協力関係が築かれなければなりません。そうすることで、世界全体の精神的刷新と政治的•経済的復興が達成されるのです。しかし、この普遍的な計画の枠組みの中で、同じ祖先を持ち、同じ文化と文明を共有する諸国家は、それぞれの最も緊密な利益に基づいて結集しなければなりません。

北欧世界運動

ナスヨナル•サムリングの立場を貫く基本原則は、私たちの政治は、現代の変化によって不可欠となった要求に応えるだけでなく、私たちの国々が求め、望むすべてのものと調和していなければならないということです。北欧精神の炎を再び燃え上がらせ、精神的で責任ある人生観を築かない限り、国家の復興を期待することは無意味です。

北欧の血統をそのまま維持しなければ、進歩は期待できない。
我々の独特の特徴を守らなければ、我々はそれを失い、国家の消滅へと向かうことになるだろう。

いわゆる北欧思想、北欧民族は新しい国家を建設することによってのみ回復できるという考え方

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

現代の要求に応え、国民的財産と精神的展望という二重の基盤の上に成り立つこの宗教は、北欧各国において着実に影響力と普及力を増大させており、すでに実際の政治において重要な役割を果たしています。

このように、汎北欧協力の種と土壌は既に存在している。しかし、このアイデアが速やかに普及するためには、明確かつ適切に組織化された表現方法を見つける必要がある。

このような状況において、私は、以下の目的を掲げ、世界中で北欧諸国民と北欧的視点を持つ人々との間の文化的、経済的、政治的協力を推進していくべき時が来ていると考えています。

- 国際的な北欧運動の創設。
- 北欧諸国民連合の形成。

世界の組織化と平和的発展のための活動への積極的な参加、そして現在進行中の革命と新憲法の下での我が国の地位と貢献の確保。この協力は、堅固な経済基盤の上に政治的に達成されるためには、従来通り思想の領域から始めなければならない。

したがって、既存の通貨基盤を北欧諸国民の間で確立された通貨同盟に拡大し、政治的財政協力を通じてこれらの諸国民の間で関税同盟を実現できれば、北欧諸国民の世界的友好関係における偉大な連合という、われわれが公言している目的を政治的に実現するための基礎が完全に築かれることになるだろう。

この理想は、長らく国家統一計画の綱領の一部を成してきた。したがって、汎北欧協力とは、狭義の北欧諸国、すなわちノルウェー、スウェーデン、デンマーク、フィンランド、そして北海のノルウェー諸島の協力をさらに強化することを意味している。デンマークとフィンランドの立場はノルウェーとスウェーデンよりもはるかに脆弱であるため、ノルウェーは少なくとも、イギリスやドイツとの平和で安定した関係から得られるであろう支援なしに、自国の運命をこれらの国々と自発的に結びつけることはできない。しかし、この関係が守られた上で、北欧諸国が北欧世界における自然なグループとしての地位を確立し、イギリス、ドイツ、オランダなどの国々と協力することが望ましい。

この点に関して、たとえこの国の多くの人々が英国とドイツの政策のさまざまな細部に同意しないとしても、状況は変わらないという事実を強調したいと思います。
今日、我々の親族との、また親族間の協力を必要とする状況は、我々を分離させる傾向のある状況よりも重要です。

我々が外交政策を持つこと自体に反対し、自国の課題に精一杯取り組んでいると考える人々もいるかもしれません。私は彼らに、現代社会の特徴は、世界が一つの巨大な経済単位となりつつあり、もはやどの国も単独では機能せず、他国に依存しているという事実にあることを改めて認識していただきたいのです。そして、現在の政治におけるこうした協力が我が国にとって極めて重要であるならば、それは我々の運動にとっても同様に重要です。我が国の破壊を企てる勢力は国際的に組織化されているため、我々は国益を超えた目的を持つ組織で彼らに対抗しなければなりません。このような真に効果的な組織は、我々国民の共通の生命基盤、すなわち北欧原則の上にのみ築き上げられるのです。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

北欧原則

北欧原理は、北欧の伝統、北欧思想、そして建設的な協力に基づいています。これは、憎悪、嫉妬、階級闘争という手段を用いて自らの目的のために破壊的な目的を推進するユダヤ的自由主義やマルクス主義とは対照的です。一方は神に、他方は悪魔に味方するのです。

したがって、北欧原理の精神的な力は、私たちの人種と文明を破滅の危機にさらしているマルクス主義的唯物論的存在観よりも強く、深い。それは実のところ、私たちが固守し、揺るぎない一貫性をもって実現しなければならない、私たちの固有の国家原理なのだ。

歴史的過去と歴史的現在における深遠な真実を認識し、北欧民族が歴史の始まりから今日に至るまで、かつてないほど力強く成し遂げてきた偉業を目の当たりにし、同時に、世界の発展の歴史的過程において神の意志が明らかにされていることを確信するならば、他者の重要性と貢献を過小評価することなく、北欧民族が世界において果たしてきた歴史的かつ神聖な使命が今後も継続していくことを信じることができると、私は確信しています。過去と同様に、時代遅れの世界を打破し、全人類を向上へと導く新しい世界を創造することが、私たちの偉大な民族家族の使命でなければなりません。

ナショナル•サムリングは、ノルウェー人、スウェーデン人、デンマーク人、アイスランド人、イギリス人、ドイツ人、オランダ人、その他北欧の血と精神を持つすべての人々など、あらゆる国の北欧人種と考え方を持つすべての人々が、世界中のすべての北欧民族の間に平和と協力を生み出し、私たちの文明の救済と進歩のための闘争を続けるために、北欧世界運動に団結するよう呼びかけています。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

クロード•サットンによるファシズムの解釈

F本稿で用いる意味での「ASCISM（アシズム）」は、現代においてマルクス主義や自由民主主義と人々の忠誠心を競い合うために出現した世界的運動を描写するには、不自然で不便な用語である。この用語は、イタリアでこの運動がとった特殊な形態を指すにとどめるべきであることは言うまでもない。しかしながら、イタリア•ファシズムにおいて何か新しく、世界的な重要性を持つものが出現したと感じた一般大衆は、この用語をより広い意味で使い続けている。

ファシズムは、共産主義のように、歴史や状況に関わらず、あらゆる国家に押し付けられる教義という意味で国際的なものではありません。むしろ、それは様々な近代の国民運動に見られる、根底にある考え方の類似性であり、現在のヨーロッパ文化が置かれている状況から、ある種の必然性を持って生じたものと言えるでしょう。私たちイギリス人は、ヨーロッパの共通の文化的遺産を共有しています。フランス革命の思想に深く影響を受けたように、ファシズム運動の思想にも深く影響を受け、それぞれの国民性に基づいて反応せざるを得ないのです。

この運動をあらゆるところで生み出している二つの要因は、自由民主主義の衰退とマルクス主義の台頭である。

歴史を少し知るだけで、自由民主主義には必然性も永遠性もないことが分かります。他の政治形態と比較すると、民主主義は一般的でも安定的でもありませんでしたし、貴族制や君主制ほど人類文化に永続的な価値をもたらしたわけでもありません。もちろん、民主主義を、容認できるあらゆる政治形態を包含するような形で定義することは可能であり、そしてしばしば行われています。例えば、エリザベス女王統治下やピット統治下のイングランドを民主主義と呼ぶなどです。しかし、これは言語の重大な誤用であり、知的資産の貶めです。「民主主義」は、ほぼすべての被統治者の同意によって統治するすべての政府を指すべきではありません。また、全国民の福祉を意識的に追求する政府、多様な意見を容認し自由な議論を奨励する政府、確立された既知の法を公平に適用して統治する政府を指すべきではありません。多くの民主主義政府は、これらの点で著しく失敗してきました。多くの非民主的な政府は、これらの美徳を高度に発揮してきた。専制的でない政府を「民主主義」と呼ぶのは不合理である。民主主義は歴史的に見て特定の政治形態の一つであり、国民全体の満足のいく結果をもたらすこともあれば、そうでないこともある。その主な特徴は、すべての重要な問題を全国民あるいは大規模な代表議会による多数決で決定することにあるように思われる。

西欧やアメリカで私たちが知る民主主義――以下「自由民主主義」と呼ぶ――は、フランス革命の産物であり、当時の影響力のある思想家たちの独特な理論に基づいています。その基盤となっている人間性に関する根底哲学は、必ずしも思慮深い人々に受け入れられてきたわけではなく、人々の精神に対するその影響力が永遠に続くと考える理由もありません。むしろ、この「人間と市民の権利」という哲学は、もはや******ebook converter DEMO Watermarks*******を帯びていないことを示す確かな証拠があります。

Machine Translated by Google

信念であり、それに基づく政治体制は消滅する運命にある。

他の政治哲学と同様に、この哲学も苦闘なくして広く受け入れられたわけではない。しかし今日、保守党、自由党、そして右派（非マルクス主義）労働党の間に、それぞれの理想、あるいはそれを実現するための手段の一般的な性質において、違いを見出せる者はいるだろうか？

この自由民主主義システムの哲学的仮定、あるいは公理とは何でしょうか?
第一に、すべての人間は平等であり、少なくとも政治において平等な役割を担うべきである。第二に、政府は他者の平等な自由を誰かが侵害することを防ぐためにのみ存在する（J.S.ミル）。あるいは、ある学生が私にもっと力強く表現してくれたように、「政府は各人がそれぞれの方法で地獄に落ちることができるようにするためにのみ存在する」。第三に、そのような個人の自由は、すべての人にとって最大の満足をもたらす。
[1]

ファシズムはこれらの原則すべてを否定する。第一の原則に対しては、すべての人間は協同事業を行う能力において平等ではない、そして政府とは協同事業なのだ、と反論する。
勇気、公平さ、忠誠心、誠実さ、そしてあらゆる共同事業に求められるその他の人格的資質は、人によって大きく異なります。こうした資質は特定の階級にのみ備わっているものでもなく、また、通常の意味での教育に依存するものでもありません。中には、これらの資質が著しく欠如している人もいます。例えば、かつてのボルシェビキ指導者全員（彼らの自白を信じるならば）は、そのような人物です。私たちの誰もが、自分が責任を負っている組織において、彼らを権力から排除しようとするでしょう。

政治的代表制は、メンバー同士が個人的に知り合いである現実の集団による選抜制に基づくべきである。優れた政治制度は、すべての意見に同等の重みを持たせようとさえすべきではない。

2 番目の原則については、すべての人が同じことをしたいわけではないので平等な自由は不可能であり、すべての法制度はすべての人にとって客観的に何が良いか悪いかという何らかの肯定的な考えを前提としており、その原則は無意味であるか、または破滅的であるかのいずれかであると指摘しています。

第三に、人間と社会の性質上、最大限の個人の自由というシステムでは、最大限の満足は達成できない。また、これは「最大多数の最大幸福」でもなく、誰もが一人として扱われ、誰も人生の目的以上は考慮されない。人間は自らの家族、自らの職業、自らの近隣、自らの国家の幸福にもっと関心を持ち、またそうあるべきである。そして、良き政府はこの事実を考慮すべきである。これらの点 [2] 1” – については後ほど改めて論じる。

自由民主主義は怠惰な哲学だ。何をなすべきかを自ら決断し、それを実現するために粘り強く闘うのではなく、良き民主主義者は大衆の声こそが神の声であるという確信に固執し、多数派がどちらに転ぶかを見守るだけだ。自由民主主義の推進力はあらゆるところで衰えており、現代の人々を説得しようとさえすべきではない。そのスローガンを心から信じている人はほとんどいない。現在の支持者の半分は、実際には臆病なマルクス主義者だ。彼らが公言する目的は万人に平等な富を与えることであり、民主主義はそのための手段に過ぎない。彼らは、少なくとも遠い将来においては、この目的は武力を使わず、単なる投票によって達成できると甘やかして夢想している。彼らは個人の自由そのものに対する軽蔑をしばしば露呈する。彼らは嫉妬深いが、自分の身を案じている。それがリベラル•ラブの社会民主主義者たちなのだ。

共産主義者と民主党の不道徳な同盟の哲学的根拠は何ですか？
ファシズムがどこに現れるのか？私たちは今、この問題に目を向けなければなりません。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

共産主義 — あるいは、共産党以外にも多くのマルクス主義者が存在するため、より正確にはマルクス主義 — は、自由民主主義の個人主義的•平等主義的哲学の産物に他ならない。歴史上、恵まれない階級による革命運動はしばしば見られたが、今回の運動は、それが誕生したヴィクトリア朝初期特有のイデオロギーを引き継いだ。共産主義もまた、共同体を集合体、社会的な幸福を総和として捉える。自由民主主義の最初の二つの原則、すなわち、神は存在しないにもかかわらず、すべての人間は平等であり、したがって、単に政治的権利だけでなく、平等な富も持つべきであるという原則を受け入れる。さらに、幸福はすべての人に平等な富を与え、それを好きなように使うことを許すことによって達成される。経済的平等が達成されれば、国家は「消滅」する。しかし、この幸福な状態は人々を放っておくことによってもたらされるという、自由民主主義の第三の原則は、強く拒絶する。自由放任主義は、経済的平等が達成された後の究極の目標であるが、これはプロレタリア、すなわち非熟練工場労働者の強制的な独裁によって達成されなければならない。

その中心となる教義は、プロレタリアと資本家の間の階級闘争である。経済学者はもはや、この区別の根拠となった「剰余価値」理論を真剣に受け止めていないにもかかわらず、全人類をこの二つの檻の中に押し込め続けている。この二つの檻はなんと非現実的なものだろう !確かに集団間の対立は存在し、そのような対立は生きた共同体の本質を成す。しかし、近代国家の住民の大部分は、自らの労働とその労働を実りあるものにするために必要な財産の共同収入で生活しており、どちらかの檻の中に押し込めるには、よほどの力業を積まなければ不可能である。そして、町民と田舎者、製造業者と金融業者、職人と単純労働者、人種集団と宗教集団の間の利害対立は、この資本家とプロレタリア階級の間のいわゆる対立と同じくらい現実的で、かつ重大なものではないか？

マルクス主義の基調は階級闘争であり、あらゆる手段が許容される。だからこそ、それがどこで頭をもたげても、政治はひどく腐敗し、ひどく汚くなり、かつて集団間の対立を緩和してきた国民の道徳的一体感をことごとく破壊してしまうのだ。だからこそ、マルクス主義は死ぬまで戦わなければならないのだ。

しかし、ロシアにおける共産主義の実験を通して、何の価値ある成果も得られなかったのではないか、という意見もあるだろう。そして、共産主義とファシズムの「独裁」には類似点がないのだろうか？

ロシアにおける共産主義の発展を理解するには、いわゆる「ボルシェヴィズムの退却」の段階と、教条主義的な共産主義が完全に支配していた以前の段階を区別する必要がある。この以前の段階は、階級闘争理論のために、農民、技術者、教師、家畜、機械、建物、美術品といった国民の人的•物的資源が、前例のないほど破壊されたことを特徴としている。同じ現象は、スペインをはじめ、ボルシェヴィズムが権力を握ったあらゆる場所で見られた。約10年後、生産が人間の耐久限界に達したと思われたほどに低水準に落ち込んだとき、教義はほぼ放棄された。そして、資本主義の信用、外国の技術者や機械、そしてスタハノフ主義的な労働者への駆り立てによって、再建への道が開かれた。確かに、心変わりはまだ完全には程遠い。その兆候の一つは、コーカサス出身の屈強で非教条的な盗賊スターリンと、これまでロシアを支配し、今やほぼ排除されたユダヤ人集団との間の現在の対立にあるように思われる。ロシアはコミンテルンとマルクスの世界革命の理想を放棄したわけではない。しかし、自らは富の平等化とプロレタリア独裁を暗黙のうちに放棄し、強力な体制を築きつつあるようだ。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

国家主義国家。スターリンの下では、良心の呵責を伴った、一種の恥じらいのファシズムの兆候が見られる。もしこれが終焉だとしたら、どれほどの代償を払って達成されたことか！ [4]

「ファシズム」は、自由民主主義の衰退とボルシェヴィズムの脅威への反応として出現した。ボルシェヴィズムとは異なり、それは学問的な理論の実践ではなく、現実の状況への反応として出現したものであり、したがって、それが取って代わる運命にある二つの世界的運動の光の中でのみ理解され得る。もともとそれは、無秩序、唯物主義、金権政治、そしてコスモポリタニズムの勢力に対するヨーロッパ人の一種の本能的な反応であった。ファシズムは、すべての人の最大の幸福が各人の最大の自由から生じるという予定調和の存在を完全に否定する点で共産主義と一致する。しかし、ファシズムと共産主義の共通点はそれだけである。国家が確保すべき「幸福」に関して、ファシズムは共産主義と自由民主主義のどちらとも根本的に異なる見解を持っている。なぜなら、ファシズムは国民を多くの異なる機能集団の有機的な統一体と捉えているからである。これらはそれぞれが国家に独自の貢献をしており、それぞれ独自の生活様式を育む必要がある。これらのグループ間の適切な関係が損なわれれば、国家に永続的な幸福や健全さは生まれない。プラトンはこう言った。「陶工たちに火の前の長椅子に寝転がり、飲食し、気が向いた時に轆轤を回させれば、彼らをもっと幸せにすることができるだろう。しかし、そうするように勧めてはいけない。陶工たちはもはや陶工ではなくなり、農民たちはもはや農民ではなくなるからだ。」 [5]

. . .

さらに、バークの言葉を借りれば、国家とは「生きている者だけでなく、生きている者と死者、そしてまだ生まれていない者たちとのパートナーシップ」であると捉えられている。もし国家が、人的資源と自然資源を伴い、浪費されることもあれば、より豊かになることもある、永続するものであるならば。

昔の貴族の地主が自分の家族と土地を最大限に活用したように、国有財産を最大限に活用しようとする意志を持った運動が、それぞれの「ファシスト」国家で権力を握りました。
これは血と土の宗教と呼ばれているものです。

これらの運動は、多数派の無制限の権利を認めることはできないことは明らかである。例えば、現在の町民の多数派が田舎者を根絶やしにしたり、将来の権力を犠牲にして現在の富を最大限に享受したりすることを許すことはできない。近視眼的な多数派支配がもたらす弊害――公的な誠実さと自助精神の衰退、家族の衰退、精神的•肉体的健康の衰退、土地、森林、船舶の衰退――は、指導者に大きな裁量権と独立性を与えることによってのみ、治癒できるのである。

ファシズムは明らかに、国家の鎖の中で最も弱い部分を強化すること、すなわち最も苦境に立たされている集団の生活状況を改善することに、その主な努力を傾注しなければならないし、実際にそうしている。しかしながら、怠惰な者と活動的な者、想像力豊かな者と定型的な労働の平等は、たとえ遠い理想であっても、ファシズムは認めない。「ファシズムは、人々の不変で、有益で、実りある不平等を肯定する。」（ムッソリーニ）

自由民主主義は、機能集団間の対立によって麻痺状態に陥っており、その存在を無視するふりをしている。ファシズムはこれを認識し、国民の一体感の強化と「指導原理」、すなわち個人責任の原則によって、潜在的な対立を制御できると信じ、自らの代表制をそれらに基づいて構築している。「民主主義」――匿名の多数派による統制の原則――は、政治分野だけでなく、産業分野においても試練にさらされている。[6]

経済分野におけるファシズムの目的は、その一般的な見解に一致して、すべての生産者にとって最大限の安全と安定を達成することであり、選択の最大限の自由を達成することではない。
******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

消費者にとって。この目的のために、国際貿易は国家計画の観点から従属的かつ補助的な地位にまで引き下げられなければならない。そして、倫理的考慮、つまりどのような生活を奨励し、あるいは抑制すべきかという考慮は、しばしば経済的考慮よりも優先されなければならない。

ファシスト国家主義には、他国の周知の利益と相容れないものは何もない。その外交政策は、自国の利益にのみ専念し、特定の周知の重要な利益のためだけに戦う用意があるという原則に基づいている。当然のことながら、国際連盟の民主主義、平等主義、普遍主義の原則には反対である。ファシストは、摩擦の要因となり得るものを計画的に排除した上で、実際に共通の利益を有する協調国家との友好的な協力を望んでいる。国内と同様に、国際問題においても指導力を発揮したいと考えている。ヨーロッパにおいては、国際連盟の創設者たちが破壊したヨーロッパ協調体制を再建することがその課題である。

最後に、ファシズムは個人を国家に、生ける存在を非現実的な抽象概念に完全に従属させているという、しばしば聞かれる反論に答えてみよう。この答えは前述の中に暗示されている。ファシストは、政府は個々の市民の幸福を増大させるためだけに存在するのではないと考える。政府は、永続的な国民文化とその不可欠な基盤を形成する物質的資源の受託者である。これなしには個人は何者でもない。たとえ国家の領域を離れたとしても、個人はそれを手放すことはできない。それは、祖先の伝統の総体であり、それによって個人は石器時代の人間と区別される。異なる文化を持つ集団の調和のとれた発展を保障し、互いの絶滅を防ぐ政府は、我々の忠誠を要求する。しかし、国家は単なる機械であり、ヒトラーが言ったように、永続的な生物学的•文化的実体として捉えられた人民のための単なる「容器」に過ぎない。ファシズムは国家主義者ではない。ヘーゲル主義者とは異なり、国家そのものを崇拝するわけではない。

歴史的に見ると、これは「オロンテス川がテヴェレ川に流れ込む以前」、つまり抽象的な個人主義が台頭し、来世への救済を求めるようになる以前の古代ヨーロッパの国家形態との類似性を示している。また、政治は人間同士の個人的な忠誠心に基づくべきという封建制、すなわち原始的なゲルマン民族のコミタトゥス思想との類似性も示している。さらに、あらゆる生産者の利益のために生産を規制しようとした中世ギルドの目的を想起させる。あらゆる大きな運動と同様に、この運動も過去にその起源を持つ。しかし、単に時代遅れのシステムへの回帰ではない。国民、人種、自発的な同業者組合、所有権と経営の分離、無過失責任の理念、「単線型」文明ではなく文化の相互作用といった、本質的に現代的な概念を離れては理解できない。

[7] それは徹底的に現代的であり、私たちの時代が生み出したものです。5年前、私たちの多くにとって、個人主義的自由民主主義とマルクス主義的社会主義という、あまり受け入れがたい二者択一しか選択肢がないと思われていました。しかし今、第三の選択肢が存在します。

---

[1] この第三の公理は、M•ハルドフが指摘したように、二つの形態をとる。一つのバージョンでは、社会の法や制度に関わらず、最大限の社会的満足は最大限の個人の自由から自動的に生じる。もう一つのバージョンでは、この最大限の満足を達成するには、一定の法的制限が必要である。ほとんどの著述家は、どちらかのバージョンに一貫して固執しているわけではないが、彼らは目的についても、個人の自由を可能な限り制限しないことという手段についても、疑いの余地はない。
(E. ハレヴィ :哲学的急進主義の成長)

[2] J.ベンサム『道徳と立法の原理』フォレット『新国家』27ページ。

[3] アリストテレス『政治学』第3巻9節と12節と比較してみましょう。「正義とは、同等の者には同等の扱いをし、同等でない者には不平等な扱いをすることである。人は都合の良いようにどちらかの要素を省く。なぜなら、彼らは自分自身の問題について良き判断を下すことができないからだ。」しかし、だからといって、私たちができる限りの判断を下す義務から解放されるわけではない。

[4] スターリン自身は、ロシアの「オールド•ボルシェビキ」のユダヤ人ボスとは全く異なるタイプの人物のように見える。二人が本当に

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ロシア革命が生んだ偉人たちは「ユダヤ人ではない」。しかし、スターリンの影響力がどれほどのものだったかは分からない。
義父のラザルス•モイセイヴィッチ•カガノヴィッチは、州内で2番目の男であるようだ。

[5] プラトン :9月420e。バーク :フランス革命の省察。

[6] ミラーとキャンベル :金融民主主義、リバプール大学の二人の経済学者による金融政策の運営に関する最近の研究
英国の工業企業。

[7] A. トインビー『歴史研究』第1巻、149ページ以降。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

JFCフラー少将著
『スペイン戦争』

H私は兵士として、あるいはジャーナリストとして、南アフリカ戦争、世界大戦、イタリア•アビシニア戦争、そして最後に今回のスペイン戦争という 4 つの戦争に参加しましたが、それぞれの戦争が極めて異なっていることに気づきました。

その理由は明白で、原因が異なるからだ。しかし、一般の人々の考えではそうではない。
これらの原因が戦争の形態に大きく影響することは明らかです。

例えば、これらの戦争の最後の例については、その原因は政治的なものだと一般的に考えられています。つまり、明確に定義されながらも相容れない見解を持つ二つの統治体制の衝突であるということです。これは本当でしょうか ?私はそうは思いません。なぜなら、政治が果たす役割は決して小さくないとはいえ、主役は間違いなく文化だからです。もし私の考えが正しければ、この戦争の原因は、表面を覆う政治的な泡沫よりもはるかに深いところにあると言えるでしょう。

したがって、これを政治理論と武力の衝突であると同時に文化の衝突として見なければ、何が起きているのか理解することはできないと私は考えています。
これらの文化には次の 3 つがあります。

第一に、歴史上の反動的なスペイン――停滞した教会、衰退した貴族階級、そして瀕死のブルジョアジー。第二に、革命的なスペイン――この停滞に対する反動として、社会主義者、無政府主義者、共産主義者が代表する。彼らは主にマルクス、バクーニン、トロツキーといった外国の思想を借用している。第三に、仮想の未来スペイン――軍事独裁に過ぎなかったプリモ•デ•リベラが夢見たものではなく、少し前に赤軍政府によって暗殺された彼の息子、ホセ•アントニオが夢見たもの。

1933年、この若者はスペイン•ファシスト運動を実際に創設したわけではないものの、ファランヘ•エスパニョーラ•デ•ラス•ホンス（活動的な全国サンディカリスト委員会）を統合し、その生命と形を与えた。彼は27項目からなる憲章を策定し、それは以下の4つの主要な項目に要約できる。

国家の基盤。スペインはすべてのスペイン人にとって至高の現実である。あらゆる分離主義は犯罪である。
したがって、スペインの統一が目標であり、この統一は国際的な孤立や外国の仲介を許さないだけでなく、軍事的美徳の浸透と強力な軍隊と艦隊の創設を必要とする。

政治的基盤。国家は全体主義的性格を有し、全ての政党は廃止される。議会制に代わるコーポレーション制が導入される。政治的規律は求められるが、国民サンディカリスト国家の集団的利益と両立する限りにおいて、民間主導のイニシアティブも不可欠である。

経済基盤。 「人々の必需品を無視し、私有財産を非人間化し、労働者を形のない大衆へと貶め、悲惨と絶望に晒す」資本主義体制は否定される。マルクス主義も同様である。もはや強者が弱者を支配するべきではない。

私有財産と労働権が認められる。家族経営の確立によって農民の生活水準が向上し、農業と牧畜が合理化される。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

道徳的基盤。国家の基盤は、団結、規律、そして軍事訓練である。
教育は「経済的手段の不足によって才能が失われることがないように」組織化されなければならない。政治から解放されたカトリック精神が組み込まれ、人生は「崇高な奉仕と犠牲の精神をもって生きる」義務とみなされなければならない。

スペイン戦争

英国の新聞で報じられた多くの報道とは裏腹に、この運動は昨年7月の反乱勃発とはほとんど関係がありませんでした。当時はまだ発足当初でしたが、この8ヶ月間で驚異的な成長を遂げました。現在、その構成員と支持者は数百万人に達し、そのうち18万人が民兵として組織されています。この成長の規模は、運動が現在19の日刊紙と30の週刊紙を発行しているという事実からも明らかです。

反乱が勃発したとき、フランコ将軍の目的はいくぶん曖昧だったようだ。
それは耐え難い状況に対する反乱であり、事実上、無秩序に対する秩序の反乱であった。生命と財産はもはや尊重されず、教会は日々略奪され、焼き払われていた。彼の目的は、ほぼ完全に軍事的なもの、すなわち秩序の回復であったように思われるが、どのような形態の統治を目指していたかは定かではない。もし彼の勝利が急速に進んでいたならば、プリモ•デ•リベラのような軍事独裁政権の樹立に繋がっていた可能性が高い。

スペインに上陸した彼は、完全な混乱だけでなく、彼の支持を求める派閥間の統一性と目的意識の完全な欠如にも直面した。例えば、アシオン•ポピュラール（ジル•ロブレス党）は熱烈なカトリック教徒で、キリスト教社会主義に染まっていた。明確な政策を持たず、政治的に漠然としており、教会の道具に過ぎなかった。さらに、「神、祖国、そして国王」をモットーとするレケテス（カルリスタ党）もいた。彼らは絶対的な主権と企業国家を信じ、激しく反議会主義を唱えていた。これらに加えて、君主主義者やその他の派閥もあったが、中でも最も重要なのはファランヘ党だった。彼はこれらすべての政党や運動を吸収しなければならなかった。

当面はこれは困難ではなかった。赤軍が統合を余儀なくしたからだ。民主主義者、共和主義者、共産主義者、無政府主義者などが混在する彼らの唯一の敵であるスペインは、ドイツとその同盟国イタリアに引き寄せられた。フランスがロシアとその準同盟国イギリスに引き寄せられたのと同様だ。実際、1年前のイタリア•アビシニア紛争の時のように、フランスを守るためにドイツとの秘密戦争が再び勃発しつつある。

この内紛については、報道ではほとんど触れられていない。しかし、その名称は「不干渉」である。これは実際には、ブルゴスへの不協力と、ドイツ攻撃のためのバレンシアへのフランスの協力を意味する。もしスペインに対する国際的な「封鎖」が公平なものであれば、ナショナリストの大義に有利になることはほぼ間違いない。しかし、現代フランスには誠実さといった特質がないため、現実はそうではない。

真実を突き止めるのは、特に戦時中は常に極めて困難だが、フランスによる赤軍への支援が過剰かつ利益を生んでいたことはほぼ疑いようがない。なぜなら、あらゆる支援は金で支払われていたからだ。白のスペインではどこへ行っても、同じ話が聞ける。つまり、赤軍へのフランスの支援はロシアよりもはるかに重要だったということだ。昨年7月以来、フランスは3万人から4万人の赤軍国際戦闘員をピレネー山脈を越えて送り出しており、この輸送は今も続いている。フランスはボルドーだけでスペインのパスポートを印刷し、「専門」労働者が赤のスペインに入国できるよう、日付入りの契約書を発行している。さらに、多数の国際人が******ebook converter DEMO Watermarks*******を越えて渡されている。

Machine Translated by Google

帰還難民として国境を越えたり、貨物船に乗ってカタルーニャの港に送られたりする。軍需品はアンドラを経由して送られ、ガソリンを積んだトラックが毎日国境を越える。フランスには赤軍の航空学校があり、武器はビルバオに密輸される。

これらすべてにもかかわらず、スペイン代表が勝利する可能性は間違いなくある。なぜなら、フランコの政策は創造的であるが、赤の政策はそうではないからだ。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

フランコ将軍の演説

1936年10月1日放送、国家元首就任について

G自宅で戦争のニュースを聞いている皆さん、前線で故郷に思いを馳せている皆さん、赤軍の地域で我が軍の到着を待ちわびている皆さん、国境の向こうで我が軍の行く末を心配しながら見守っている皆さん、ラジオ•カスティーリャのマイクからご挨拶申し上げます。

私は戦争について話すつもりはありません。なぜなら、私が想定している国家の義務により、私たちの前にある仕事について少しお話しする必要があるからです。

ユートピアについて議論する必要も、希望の実現を厳格な段階に分ける必要もありません。しかし、私たちの意図について語るには、まず過去を簡単に振り返る必要があります。それは、経験から学び、私たちの決断を有益に実行するためです。

全身全霊を込めてその名を呼ぶスペインは、長年にわたり多くの災厄に苦しんできました。中でも最も深刻なのは、偏狭な知識人の影響です。彼らはわが民族の思想家の威信を貶めようとし、他国で根付いていたあらゆる種類の異国風で破壊的な思想をスペインに持ち込もうと、国境を越えて活動してきました。士気をくじくような文学、扇動的な教義、激しい人種主義、敗北主義的思想の浸透、歴史の歪曲――これらすべて、そしてその他多くのものが、私たちの愛国心の基盤を揺るがし、私たちは国民の本質を失い、現在を恥じ、過去を忘れ、未来を恐れるようになりました。

民族の道徳的堕落を成し遂げた彼らにとって、国を競売にかけ、最高額の外国の入札者に売却することは容易だった。我々の貿易は貸方ではなく借方を示し始め、我々の土地の産物はまるで征服された植民地の産物であるかのように扱われ、救済者の可能性を否定するために、偽りの平和主義が奨励された。偽預言者が現れ、憎悪と階級闘争を煽りながら、農民には土地を、労働者には独裁を、そして各州には自治権を約束した。

まったく冷笑的なこれらの人々は、権力を握っていたら、農民から土地を、労働者から自由を、そして各州から自治の柔軟性の望みをすべて奪ったであろう。

そして今、私たちのニュー•エスパーニャは、自らの課題の大きさを自覚し、社会協力の精神で、法と秩序の再建こそが自由への確実な道であり、その恩恵が母国の内外を問わずすべての国民に行き渡ることを示す決意をもって、解放へと進んでいます。

スペインは、主に全体主義的な概念に基づいて組織化を進めており、その中では、国内の制度が国民性、統一性、そして継続性を確保することになる。こうした新たな統治手段の適用は、我々の体制が専ら軍事的な性格を持つことを意味するものではない。むしろ、我々の体制は、国のあらゆる能力と活力を最大限に発揮できる階層的な体制を確立することになる。

スペイン各州の個性は、我が国が最も栄華を誇った時代の古い国家の伝統に従って尊重されなければならない。ただし、それが常に国家の統一に貢献することを条件とする。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

スペインの自治体は、その歴史的重要性を再び取り戻し、
それは私たちの公共生活における単位として古くから機能しています。

地方および全国に破滅的な影響を及ぼし、労働組合や政治的利害関係者による抑圧をもたらす普通選挙を廃止した上で、我々は、国のニーズと理想が最もよく実現される技術的かつ組織的な機関を通じて国民の意志が表明されるようにする。

新しいスペイン国家の力が強まるにつれ、地方分権化も達成され、地区、自治体、団体、個人は国家の至高の利益の範囲内で可能な限りの自由を享受できるようになります。

社会的側面においては、労働者は資本主義の奴隷とならないという絶対的な保証を得る。ただし、相互協力を不可能にする、辛辣で闘争的な手段を取らない限りである。労働者は報酬を受けるに値する。賃金の保障が確立されるだけでなく、これまで確保されてきた賃金の前払いもすべて維持される。労働者の権利がここに認められることにより、国民の富を創造する諸要素への忠実な協力という責任が果たされる。

すべてのスペイン人は能力に応じて働く義務がある。新国家は
寄生虫を認めます。

国家はカトリック教会に正当な権利と特権を与え、我々の伝統とスペイン国民の大多数の信仰を尊重するが、政府の特定の機能へのいかなる外部勢力の介入も国家は認めない。

歳入に関しては、国家は税の公正な分配を組織し、
彼らの重荷は、それを最もよく耐えられる肩にのしかかるのです。

農業に関しては、家族経営は、土地所有者を土地に定着させることによって実現されます。これは、仮想的な所有権制度ではなく、農民の自立を目的とする直接的かつ継続的な援助によって行われます。私たちの活動の恒久的な特徴は、この目的に向けられます。農業労働者は、都市が今日商業および事務サービスに対して支払っている報酬の一部を受け取ることになります。

国際情勢に関しては、我々はすべての人々と平和に共存し、全世界との友好の広い地平を開くことを希望する。ただし、これには一つの明確な例外がある。それは、人類と文明に甚大な被害をもたらした政策を持つ社会主義ソビエト共和国連邦とは、一切接触を持たないということである。

私は、英雄と殉教者の国であるこの国が、困難に立ち向かいながら、歴史に新たな栄光の1ページを書き加え、東からも西からも得られない、真にスペインらしい解決策を見つけるだろうと確信しています。

スペインのみなさん、スペイン万歳！

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

エズラ•パウンド著『経済的正統論に向けて』

Dいわゆる正統派経済学の本質、すなわちそれが真摯な探究と見なすべきか、それとも犯罪的で誤解を招く偽物と見なすべきかという議論は、今日では少なくとも50年前から時代遅れと言えるでしょう。今日、正統派経済学の信奉者と呼べるのは、単純で盲目な人々、そして悪意を持って行動する出世主義者だけです。

ある主題を真剣に研究する人であれば、目に見えるありふれた現象に気づくのに 15 年もかかるはずがありません。

経済学は科学ではないと言うのは単なる敗北主義であり、混乱を招くだけです。前世紀半ばには、航空学や無線学はまだ科学とは言えませんでした（ただし、1864年末にルーミスという人物が電線を使わずに船から船へ電気信号を送信することに成功しました）。

今日、まじめな人間ができることは、経済学のうち科学（知識の分野、エピステーメー）である部分と、テクネーまたは技能（あまりにも多くの場合、悪知恵の分野）である部分を区別することです。

船を操縦する技術は真の科学ではないと言えるかもしれない。しかし、
単純な船舶のコンパスからジャイロスコープに至るまで、ナビゲーションは存在し、改良され続けています。

経済学の研究が実際には経験主義者、つまり専門用語の十分な知識を欠いた人々によって行われてきたことを考えると、経済論文に混乱が蔓延するのは当然のことと言えるでしょう。例えば、生きた経済学を築き上げた、アングロサクソン世界の真面目で誠実な著述家たちのことを考えてみてください。ノーベル物理学賞を受賞したソディ、インドでウェスティングハウス社の社長を務めたエンジニアのダグラス、道路技師のララナーガ、ダグラスに転向したジャーナリストのオラージ、キットソンランプの発明者キットソン、実業家のゲゼルなど、実務家ばかりです。

月を発見したと言っても意味はないが、彼らは本当の月を再発見したのであり、一方教授たちは舞台の小道具の月を使って子供じみた遊びを続けている。彼らはブースの中だけで観客を騙すことができる奇術師なのだ。

いわゆる正統派経済学の創始者たちの精神性を理解するために、例えばリカードの言葉を取り上げてみよう（もちろん、彼が紙幣の価値を認識していたという事実は無視して）。「生産に多少の労働を必要としない商品は存在しない」。デイヴィッド•リカードは鶏小屋に入ったことがなく、彼の経済体系から卵は除外されていたようだ。単に栄養価（生命価値）の尺度として、卵は物価指数に先行していた。平均的な人間は、対数や銀行の神話で頭をいっぱいにするよりも、自然現象を直接観察する方が誤りを犯す可能性が低い。冗談ではない！卵の価値は、空腹と満腹に応じて増減するのだ。

アリストテレスは、難解で複雑な意味を持つ言葉を遺しました。Xpeia （効用、望ましさ）です。ケンブリッジ出身のラックハムは、当然ながらこれを需要と訳しています。この学者は私たちに啓蒙を与えてくれません。アリストテレスは正しかったのですが、貨幣単位の価値は「それと引き換えに得られるものの価値」である、と言いたかったのです。確かにその通りですが、科学用語と呼ぶことはできません。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

学生が図書館に行って、経済学に関する 500 冊の論文を調べても、経済問題を議論するための最も一般的で、基本的で、必要な用語の定義のユークリッド表で始まる論文は 1 つも見つからないでしょう。

例えば、「貨幣」という言葉から始めましょう。アリストテレスは貨幣を不適切に定義しています。というか、全く定義しておらず、真の定義を伴わずに語っているだけです。そして人類は20世紀もの間、この半ば曖昧な状態のままです。

私は、いくつかの定義を挙げてみたいと思いますが、何らかの学会や会議、あるいはもっと良いことには、真剣で権威のある専門家のグループがこの辞書編集作業の妥当性を認めるまでは、それらの定義はあまり役に立たないかもしれないことは承知しています。

鋳造されていない金はお金ではありません。貨幣としての金を他の商品と交換することは、本質的には一種の物々交換です。つまり、事前に重量と大きさを測った金属と、一定量の商品または一定重量の商品を交換することです。

貨幣の本質は、計量され、尺度として機能することです。貴金属の円盤と物品の物々交換においてさえ、それが貨幣であるか否かを決定づけるのは国家の刻印です。「お金がないから道路を建設できない」と言う政府は、「キロメートルがないから道路を建設できない」と言う政府と同じくらい馬鹿げています。

お金とは何かを定義してみましょう。「お金とは、一定の権利である」。お金とは、権利書、あるいは一定の権利書です。「お金とは、一般的な権利書である」。お金とは、特定の権利書ではない権利書です（鉄道の切符、宿の小切手、船の切符のように、交通、食事、客室などの権利が付与されるものなど）。お金は一般的なものです。さらに、お金は交換可能であり、つまり、手続きなしに人から人へと譲渡することができます。国債、鉄道債券、あるいは「無名社会」の債券のように、利息は付きません。

「信用」という言葉について考えてみましょう。現金で支払うことができ、かつ支払いを逃れたり延ばしたりしようとしないと想定されるとき、その人は信用があると言われています。「負債」は「信用」の正確な反対語ではありません。実際、「信用」はしばしば負債を負う可能性を意味し、必ずしも既に負っている負債の反対を意味するわけではありません。したがって、私たちはこの曖昧な言葉に直面しているのです。

最後に、「インフレーション」について考えてみましょう。正統派の主張の半分真実であるものの中には、自然現象や繰り返される現象に基づくものもあります。いわゆるインフレーションは、まず真のインフレーションと区別する必要があります。真のインフレーションとは、誰も欲しがらない商品やサービス、あるいは望まれる量を超えて「対応する」通貨が発行されるときに発生します。提供も調達もできない商品やサービスに「対応する」（つまり、疑似対応）通貨が発行される場合、通貨には価値がありません。例えば、1917年に爆発した砲弾に「対応する」通貨を発行することはインフレであり、誰も砲弾を欲しがらず、誰もそれを提供できないため、通貨自体には価値がありません。

有効な定義の簡潔なリストがあれば、一般の人は、大高利貸しや独占者の欺瞞や、絶対に許されない悪質な不誠実行為から逃れることができるだろう。

実際、ソディは、貨幣の定義、というよりはむしろ真剣で公正な概念について、多くの難解な本（読者にとっては難解だが、ソディ教授にとっては非常に深遠で貴重な本）を出版した後、『明日の貨幣』の中でこう書いている。「私人が課税権を持つことが考えられないのと同様に、憲法上のあらゆる保障を無視して、銀行が単なる策略でその機能を奪うというのはとんでもないことだ。」

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

議会の権限を一切持たずに、コミュニティの富に対して強制的に課税するのだ。」

今日のイタリアの状況とアングロサクソン諸国の状況を区別してみましょう。富の過剰が危機を生み出す国と、特定の物資が深刻に不足している国を区別してみましょう。少し過去を振り返り、「新しい経済学」の歴史を概観してみましょう。そこには、古い知識や意識が数多く含まれています。

今日の経済思想には4つの潮流がある。(1) ダグラス主義、(2) ゲセリズム、(3) 聖アンブロシウスに起源を持ち聖アントニノとともに発展した正統経済学、(4)
改善政策（沼地の排水など）を伴う企業経済、穀物戦争、貯蓄、家族小切手、食糧小切手、労働小切手、国家管理、蓄積など。

私たちが提唱すべき正統経済学は、いわゆる正統主義によって覆い隠されているいくつかの事実を考慮しなければならない。商品の耐久性は椅子やチーズなど一様ではない。フェイディアス、プラクシテレス、ボッティチェリの作品にもそれぞれ異なる耐久性がある。文明人が12個の道具を使うのに対し、原始人は1個の道具しか使っていない。

私には、今日経済学の分野で協力している真摯な人々のリストを作成する必要があるように思われる。たとえ彼らが経験主義者であったとしても、また、その活動の中でたった一つの発見をしたとしても、そしてそれを歴史や他の学派、他の時代、他の経済学派の正当かつ有効な考えと調和させようとしていないとしてもである。

誰それ、誰かが蒸気がティーポットの蓋を持ち上げる力に気づいたと、すぐに認識しましょう。たとえ発明者が百科事典や物理学に関する大著を出版しなかったとしても、これは価値のあることです。

CHダグラスは、産業システムによって（そして産業システム内部で）分配される購買力の不十分さを自ら発見したことを認識すべきである。彼の工場は、市場に投入される商品の「価格」、つまり「価格」を生み出すよりも、購買力を分配する速度が遅かった。そのため、分配された購買力よりも大きな価格が、一ヶ月で創出されたのである。

他人の飢えに生きる非行者、愚か者、独占主義者は、人の利益をその着衣に応じて切り捨てようとする。ダグラスはそうではなく、人々が供給し、望む商品の量に応じて購買力を発行する可能性を見出した。そこには目新しいことはほとんどなく、誠実なことが多かった。デイヴィッド•ヒュームは既に、繁栄は特定の国家が保有する貨幣の量ではなく、その量の増加によって決まることを理解していた。ここで、増加は緩やかかつ持続的でなければならないと明確に述べておく。

有益な著述家として、マクネア•ウィルソンの名を挙げておきたい。彼は、銀行は金を貸すのではなく、支払いを約束するだけだということを大衆に認識させた（『支払いの約束』）。ゲゼルは、自由交換の観点から出発し、中世の司教たちの跋扈を再び想起させた。
彼は滞貨料（紙幣の申告価値を維持するために毎月貼付しなければならない切手）を導入することで流通速度を刺激しようと考え、ヴェルグルのウンターグッゲンベルガー市長がこの制度の有効性を実証した。

ゲゼルは、次のような簡潔な言葉でマルクスの死んだ部分を破壊した。「マルクスは決して
つまり、マルクスは貨幣の本質を疑問視したり、分析したりしなかったのだ。

ゲゼル制度の利点は、少なくとも次のとおりです。(1) 疑似民主主義国家では、国家、つまり政府と国民（雇用者か被雇用者かを問わずすべての生産者を含む）を銀行と高利貸しの権力から解放することができます。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

しかし、純粋なゲゼル派の信者は誰も、滞船金について国家や企業の観点から考えたことはありません。

紙幣価値の 1 パーセントに比例する印紙税を毎月追加すると、8 1/3 億枚の紙幣が流通し、国家は年間 1 億枚の収入を得ることができる。徴収に実質的に費用はかからず、徴収は自動的に行われ、官僚的な操作や干渉はほとんどない。

ルーズベルトのように国債で（天文学的な）負債を積み上げる代わりに、あらゆる州の負債、あらゆる州の富の権利は、100ヶ月で倍増するのではなく、帳消しになるだろう。（イギリス人はワーテルローの戦いの税金を今も支払っている。）

国債は、老後や家族に備えたい人々の貯蓄手段として、民間の手に残り続けることもできるが、国債は信用力を利用したい政府にとって避けられない必需品ではなく、価値ある国民層への国家配当とみなされるだろう。

私は主張します。国家は信用に対して「賃料」を支払う必要はありません。つまり、ほとんどすべての国で行われているように、無知と先入観によって、大口の職業的高利貸しから借金する必要がないということです。たとえば、私の不幸な国、現在深刻な道徳的危機に陥っているフランス、世界の新しい出来事を認識せずに受け入れられた伝統の力によるイギリスではそうです。

経験主義者と発明家に続く第二世代の社会債権者はブッチャートを生み出し、彼はARオラージに刺激を受けて、最初の経済学的正統論の書『貨幣』を出版した。第二巻『明日の貨幣』では、ブッチャートはそれほど成功しなかった。実際、彼は7人の異なる意見を持つ著者を集めており、彼らは皆称賛に値するのだが、個々の著者に互いの論文を読み合わせ、相互に関連付けさせるという点では失敗している。この本の価値は、主にダグラスの著作の一部を再録したことと、本稿で既に引用したソディの論文1ページを掲載したことにある。

人気作家といえば、アーヴィング•フィッシャーとクリストファー•ホリスの名前が挙がるでしょう。しかし、フィッシャーはジャーナリスト（表向きは教授ですが、根はジャーナリスト）であり、文章も上手です。
彼の 40 ページに及ぶ切手証書は、教授のみならず、あらゆる真剣な人の注目に値する。
フィッシャーはこの争いにあまり深く関与していない。もしかしたら彼は楽観的で、アメリカの大高利貸したちに、最後の一グラムをシャイロックで盗むのではなく、半ポンドの肉で満足するよう説得しようとしているのかもしれない。

クリストファー•ホリスは、非常に価値のある著書『二つの国家』を執筆し、その後も様々な著書で大衆のために闘い続けてきました。その著書には、彼が喜びのタッチを持っていると言えるでしょう。実際、彼は、貨幣科学と高利貸しのさまざまな問題を、著書が売れて第3版まで出るほどうまく扱うことに成功した数少ない経済学者の一人です。こうした段階は、いわゆる「多数派」政府が存続する国々では十分に必要な、大衆教育に属するものです。

ウィンダム•ルイスは、イギリス政府を偽物の骨董品と呼んでいる。本来は文筆家であり風刺作家である彼は、最近、社会学的に非常に価値のある、限られた読者に向けた著書『死者を数えよ、彼らは生きている』（空虚をめぐる新たな大戦争への備え）を出版した。私がこれを経済学として引用したのではなく、これらの問題が一流の現存する作家たちの作品にどれほどの勢いで浸透しているかを示したいのだ。今日のアメリカの四大詩人は（もはや「ピンク」のウェッブ派、ファビアン派、マンチェスター派、ヴィラール派といった時代ではなく）、ダンテ、シェイクスピア、アリストテレス、ヒューム、バークリー、モンテスキューといった偉大な作家たちと同じように、金銭問題を懸念している。******電子書籍コンバーター デモ版 ウォーターマーク******

Machine Translated by Google

これらの考えを指向するもう一つの思想潮流は、北アメリカ共和国の基盤を活性化させた人々の著作、すなわちジェファーソン、ジャクソン、ヴァン•ビューレンの著作に見られる。『我がジェファーソンと／あるいはムッソリーニ』、 W•L•ウッドワードの著書『新アメリカ史』、コフリン神父とバックの論文、あるいはより具体的にはコフリンの著書『貨幣論』 （211-213ページ）の最も優れた部分である。

外国人が英米のどの評論誌を読むべきかを言うのは難しい。なぜなら、これらの国の知的活動は、わずか2、3年（あるいはそれ以下）で消え去る短命な出版物に表れ、その後突如として消滅するか、文学的あるいはイデオロギー的な官僚主義へと堕落し、保護色を帯び、作り物の思想に安住するようになるからだ。しかし、英国のファシストたちが1年前、活力に満ちた社会経済誌『ザ•ファシスト•クォータリー』の刊行を開始したことは特筆に値する。これは、私が他の寄稿者たちの著作を読むことができた唯一の英文学評論であり、その中にはジェネラル•フラー、ジョイス、ウィンダム•ルイス、AKチェスタートン、J•ジェンクスなどが含まれている。

ヒューゴ•ファックは、大手出版社がそのような出版は商売にならないと考えていた時代に、テキサスでゲゼリの『自然経済秩序』を自費出版したという大きな功績があるが、ローブの『豊穣の図表』の出版にもかかわらず、彼の小論文『脱出方法』に『希少性の経済学』から残った考えを色づけている（1936年3月の『労働新聞』に掲載されたオドン•ポルの再編集を参照）。

これらの自由主義的な宗派には言論の自由は存在しない。ゲゼル派の出版物もダグラス主義の公式出版物も、経済思想に関する自由な議論を許していない。彼らは退廃的なムスリムのように催眠術にかけられ、硬直化しているように見える。彼らは互いに口論している。ダグラスは、滞船料に貼られる印紙は抑圧的な税金だと考えている。それは無益で永続的なものだ。しかし、ダグラス信用の「取消」や、彼が発行した信用の割引やその他の取消手段よりも理解しやすい。

ゲゼル派は、既に死んでいる人々の仕事や科学的発見から全人類が利益を得ることができるという考えに、ほとんどサディスティックなまでに激怒している。（価値は仕事から生まれるが、その成果を消費するためにこの世に生を受けたわけではない先人たちによって、膨大な量の仕事が成し遂げられてきたのだ。）

「イチジクの木」 （ダグラサイト）は、非ダグラサイトがゲゼル派やコーポラティブシステムへと進歩していることを指摘していない。 「ニュー•イングリッシュ•ウィークリー」はイギリス郊外の気質に埋もれており、特定の明確なイデオロギーよりも、その青白い生活によって色あせている。 「ニュー•デモクラシー」 （ニューヨーク）は有用だったが、今はもう存在しない。コグリンは週刊誌を通じて一般大衆向けの啓蒙活動を行っているが、入信者向けではない（「ソーシャル•ジャスティス」）。しかし、15年6月の彼の新聞には、他では掲載されていないか、スキャンダルやカモフラージュの欄に隠れて数行しか掲載されていないニュースが掲載されている。一般的な性格の定期刊行物の編集者から、経済以外のことについては何も書けないか、という依頼を頻繁に受ける。

真剣な読者の皆さんにはご容赦いただきたい。私はあまりにもさまざまなことを話してしまった。

この記事は 2 つの部分から構成されています。最初の部分では、正確な用語の緊急の必要性について経済学者に検討するよう懇願するほどでした。2 番目の部分では、散在する多数の著者から選ばれた、断片的だが誠実な特定の作品を簡単に示しました。これらの作品は、辞書編集の責任を引き受ける技術者で構成される中核が見つかれば、調整は可能ですが、調整されていません。

私は、健全な倫理観がなければ、健全な、科学的な******ebook converter DEMO Watermarks*******はあり得ない、と強く主張します。

Machine Translated by Google

経済学において、金融政策の目的と目標を考慮せずに単なるダイナミズムだけを考察することは、混乱を招くでしょう。意志の方向は、経済学の研究要素の一つです。「我々の金は我々の兵士の意志であり武器である」というバドリオの言葉は、ロンドンのどの教授よりも経済学者らしいものです。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

A. レイヴン•トムソン 著『不況の原因』

私 ファシスト•クォータリー誌とブリティッシュ•ユニオン•クォータリー誌に、旧来の経済学者たちが後押しした短命な景気回復の後に必ずや訪れるであろう、来たるべき不況について、私は幾度となく記事を書いた。資本主義が始まって以来、過去100年間、好況と不況の景気循環がどのように作用してきたかを示し、平均9年という周期で推移し、時折7年まで低下したり11年まで上昇したりすることもあった。平均すると、次の危機の年は1938年になるはずだったが、不況の異常な深刻さから、1939年に延期される可能性もあった。実際には、危機は通常より1年早く発生し、次の不況は1937年に既に始まっている。

これは、「繁栄」は長続きしないと確信していた我々にとってさえ、驚きであった。本誌の最終号で、私は再軍備と低金利が来たるべき危機に及ぼす影響について論じたばかりだった。過剰な投機が時期尚早の好景気を生み出したことは認識していたものの、再軍備の推進力は少なくとも1938年秋までは持ちこたえるだろうと考え、その秋には、蓄積された軍備を消耗させるための戦争だけが不況を防げると主張した。実際、私は金融家が不況の代替手段として意図的に戦争を求める危険性について警告した。

実のところ、私は金融民主主義の縮小する世界においてアメリカ経済が担う重みと、アメリカにおける大規模な再軍備計画の欠如を過小評価していた。
前回の不況の時と同様、新たな不況はアメリカから広がりつつあり、再軍備による利益の奨励も、スログモートン•ストリートがウォール街の株価の劇的な暴落に反応するのを防ぐには不十分である。

1907年の不況と同様に、今回の時期尚早の不況は、その後のより深刻な不況よりも規模が小さく、したがって資本主義の安定への打撃も小さいかもしれない。しかし、好戦主義者たちがあらゆる努力を払って我々を戦争に引きずり込む前に到来したという利点がある。不況が深刻化するにつれ、国民の関心は外交問題から差し迫った国内問題へと戻り、国際紛争の危険性は減少するだろう。不況の予防策としての戦争の危険性は既に過ぎ去りつつある。

ウォール街のパニック

報道機関が隠蔽しようと努力したにもかかわらず、ウォール街のパニックは今秋も1929年の秋と同程度に深刻だ。設備投資のための鉄鋼需要の減少が決定的な要因となり、USスチールをはじめとする鉄鋼株が株価下落を牽引した。今年初め、USスチールの株価は100ドルあたり129.75ドルで取引された。4月の金危機後も、株価は100ドルを大きく上回っていた。9月の着実な下落により、USスチールは

鉄鋼は80まで下落した。その後10月の暴落が訪れ、価格は連日暴落した。米国は
鉄鋼価格は70ドル台から68ドルまで下落。短期的な上昇の後、「ブラックチューズデー」にパニック売りが起こり、価格は54ドルまで下落した。その後、さらなる回復が見られ、US Steelは65ドル前後まで戻したが、11月には鉄鋼生産量の減少に関する新たな報告を受け、価格は再び50ドル台まで下落し、現在は生産能力の50％未満となっている。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

これらすべてを、単なる株式市場の「動揺」として片付けることはできない。ウォール街の低迷には根本的な原因がある。消費財への需要は今のところ十分に維持されているかもしれないが、資本財への需要は急速に減少している。過剰生産は、まだ現実のものではないとしても、少なくとも潜在的であり、産業界は設備拡張を中止している。その結果、現在鉄鋼がますますその割合を占める資本財生産者はすでに大きな打撃を受けており、市場を混乱させている鉄鋼株の下落は、単なる市場操作ではなく、生産量の減少に伴う利益の減少に対する合理的な予測である。

ルーズベルトは助けてくれるでしょうか?

ピッツバーグのような鉄鋼都市では失業率がすでに上昇しており、当然のことながら消費財の需要に影響を及ぼし、投資にさらに大きな影響を及ぼすことになるだろう。
アメリカは、前回の不況から完全に回復する前に、再び典型的な不況へと突き進んでいる。ルーズベルト大統領が介入するならば（今のところ躊躇しているようだが）、1929年から1932年にかけてフーバー大統領が試みたように、逆風に逆らうことになるだろう。1933年と同様に、今回はアメリカを世界経済全体の回復の波に乗せるのは容易ではないだろう。今回は、この偉大な大統領が全力を尽くさなければならないだろう。

金融操作や公共事業などでは、この危機に対処するには不十分だろう。実際、ルーズベルト大統領の権限内では、アメリカの産業の大半を政府の所有とするような大規模な政府調達によってのみ、この危機を解決できるだろう。

ルーズベルトには、産業の国家統制というファシスト的な代替案を実行する権限がなく、ニューディール政策は最高裁判所の判決によって信用を失い、大部分が崩壊したため、共産主義的な手法で国家資本主義を導入せざるを得なくなる可能性は十分に考えられる。彼のユダヤ人顧問たちがこの方向にどれほど尽力しているかは、まだ分からない。アメリカ合衆国とソ連は、ユダヤ人の支配が至上命題となる二つの偉大な唯物主義共和国として、さらに緊密に結びつくかもしれない。

イギリスの反応

株式市場の暴落を示す証拠が山積しているにもかかわらず、保守党の政治家たちは「景気後退」（国民を安心させるために作られた特別な言葉）の兆候はないと断言し、英国はアメリカのような経済難に見舞われておらず、再軍備によって乗り越えられると主張している。しかし、これらはすべてナンセンスだ。金融民主主義国はすべて国際金融によって密接に結びついており、ウォール街は今も、そしてこれからも世界の金融の中心地であり続けるからだ。

そこで何が起きようとも、それは他の地域にも波及するに違いない。1937年も1929年と同様に。結局のところ、我々は三者協定による「偉大な民主主義国の連合」を強調したではないか。我が国の政府は、「旧勢力」政党の喝采の中、アメリカとの緊密な貿易関係を交渉しているではないか。この最後の策略は、溺れる人をわざと抱きしめる水泳選手と同程度にしか役に立たない。ユダヤ系アメリカ金融の救済が目的ならば有益だが、新たな不況の波に沈む英国を救いたいのであれば、それは無益な行為に思える。

再軍備に関しては、不況から救うどころか、ここだけでなくアメリカ全土において、紛れもなく混乱を招いた。もちろん民主主義の完全な自由を享受している投機家たちは、再軍備と戦争の可能性に計り知れない利益の機会を見出し、極めて安価な資金を利用して、再軍備を進める国々が必要とするであろう、あるいは戦時中に不足する可能性があると彼らが考えるあらゆる種類の物資を買い漁った。

その結果、すべての商品、特に金属の価格が18ヶ月以内に上昇し、場合によっては100%に達した。これは、******ebook converter DEMO Watermarks*******の歴史上前例のない投機ブームであった。

Machine Translated by Google

実際、この平和な時代を凌駕したのは、先の戦争の最悪の時代だけである。

幸いなことに、投機家たちは手を広げすぎてしまった。左翼の好戦主義者たちの努力にもかかわらず、彼らが予想していた戦争はスペインと中国に限定され、製品の独占を試みる者皆がそうであるように、彼らはすぐに生産再開に窮地に陥り、より利益率の高い価格水準に惹かれた。実際、彼らは近代産業の巨大な生産力を完全に過小評価し、高価格によって生み出された商品の洪水に飲み込まれてしまった。現在、現在の消費量に比べて過剰生産を生み出すのに、ほとんど刺激策は必要ない。前例のない価格上昇による莫大な刺激は、投機家自身だけでなく、合法的な貿易をも完全に圧倒した。貿易は再軍備にもかかわらず、供給過剰に対処できない。実際、不況が本格化する前から、生産割当量の削減を求める声が既に上がっている。こうした削減が失業、ひいては購買力の低下にどのような影響を与えるかは、読者の想像にお任せする。

すでに失業者は8月より8万人増えている。

根本的な原因

再軍備と戦争の恐怖への反応として現れるこうした外的な兆候の背後には、一つの根本的な原因が潜んでいます。それは、近代工業生産と一般大衆消費の間の慢性的な不均衡です。この不条理な乖離が存在する限り、私たちの経済システムは明らかに内在する不安定性に晒され、金融資本主義の好況と不況の繰り返しに巻き込まれます。実際、科学が生産力を増大させ続ける一方で、金融連合の抵抗が強まる中で労働組合主義は労働者の賃金を引き上げることができず、この乖離はますます大きくなります。そしてモズレーが指摘したように、資本主義が衰退するにつれて、好況はますます短くなり、不況はますます長くなっていくのです。

あらゆる不況と同様に、この危機の根本的な原因は、国民大衆の購買力の欠如にある。そして今回は、前例のない物価高騰によって異例の早さで危機が引き起こされた。この高騰は生産過剰を招いただけでなく、高騰する生活費に賃金が追いつかなくなった国民の購買力をさらに削いだ。この不況を恒久的に是正するには、「旧勢力」が信じるような経済と賃金削減ではなく、公共事業と建設的な賃金上昇によってのみ可能であり、国家と国民が近代産業の生産物を相互に消費するようになる必要がある。確かに、国家は現在、再軍備を通じて異常な速度で生産物を消費しているが、それでも、近年の物価高騰によって貧困に陥った大多数の人々の購買力の欠如を補うには到底及ばない。

救済策

一般的に議論されている解決策は、金融改革と経済計画である。前者は、1937年の貨幣価格が1929年の高値と同じくらい安いにもかかわらず、不況は以前と同じくらい深刻であるため、その強力な論拠は失われている。貨幣問題は、消費と生産の経済的不均衡という根本的な問題に比べれば明らかに二次的なものであり、貨幣がどのように消費者に届くかを説明しない貨幣理論は役に立たない。社会信用主義はこの方向に関心を持ち、検討に値するが、社会信用主義の支持者は、現在の金融独裁政権を打倒するには極度の権力が必要であることを認識しなければならない。この点において、アルバータ州の社会信用主義政権が銀行、さらには報道機関を統制するために講じた措置は、極めて重要である。******ebook converter DEMO Watermarks*******

Machine Translated by Google

経済計画は当然必要だが、ここでも権限が必要であり、この権限がどのようにしてその地位を得るのかという疑問が生じる。PEPのイスラエル•モーゼス•シーフのように産業と流通の統合を支持する金融家によれば、計画権限は資本主義による買収と合併によって得られる。実際、買収による計画である。一方、生産手段、流通手段、交換手段の国有化を支持する社会主義者によれば、計画権限は公務員制度の下での国家による没収によって得られる。この場合、没収による計画である。

英国連合は、計画権限を得るための、より物質主義的でない手段を支持している。それは、資本主義による買収や国家資本主義による私有財産の没収といった、非常に類似した方法ではなく、民間企業と公共企業の両方に経済計画を課す権限を国民から付与することである。合意に基づく計画。国家権力と私有財産が、ほぼ自治的な経済システムに統合される手段は、既に出版されている企業国家に関する多くの書籍で研究することができる。しかし、理解しなければならないのは、企業国家は産業の生産物を国民に分配するために存在し、金融はこの主目的に完全に従属しているということである。特に、不安定さを防ぎ、生産物の公正な分配が生産者に渡るように、あらゆる投機と資本の過剰な収益は禁止されている。

さらなる不況からの保護

企業国家は、資本財と消費財の生産を均衡させ、投機的投資の不安定性を終わらせ、国民が近代科学の成果を消費できるようにするだけでなく、現在日本から来ているような安価な外国人労働力による外部競争から国家を守らなければならない。この目的のために、「隔離された帝国」政策を導入し、帝国市場を国内および帝国産業のために確保し、自治領および植民地に原材料の国内市場需要の完全に保護されたシェアを提供する必要がある。

これらの手段によってのみ、我が国の経済計画を完遂することができ、そしてそれによってのみ、国民が今まさに直面している恐ろしい不況の再発から国民を守ることができるのです。ウォール街のパニックによって英国産業が再び不況に陥ることは、二度とあってはならないことです。ドイツがそうしたように、資本主義世界の狂気じみた変動から自らを守り、制御不能な未知の要因が、我々のこれまでの成果を突然破壊することはないという確信を持って、計画を練りましょう。英国連合の「隔離された帝国」における企業国家政策こそが、好況と不況からの安全保障を提供し、近代科学の発明の成果を英国国民に分配する唯一の手段なのです。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

エズラ•パウンドに裏切られた革命

T裏切られた革命とは、基本的には1776年の「私たちの」アメリカ独立戦争であり、地域的、特定の局面ではなく、ましてやイギリス民族の全く不必要な分裂としてではない。

その分裂がどんな利益をもたらしたか、あるいはもたらさなかったかはさておき、その分裂は全く不必要であり、大部分は不本意なものでした。英国にとって何の利益ももたらさなかったことは確かです。おそらく、クロムウェルが受け入れた質屋たちが貴国に与えた最初の大きな傷だったでしょう。

19世紀とは、ラ•トゥール•デュ•パンが呼んだ通りの世紀であり、モーラスやフランス王党派の道化師たちが忘れようとした通りの世紀だった。それは高利貸しの世紀であり、腐敗の世紀だった。言葉の裏切り、言葉の意味の混乱と汚濁の時代として、私が思い浮かべる他のどの世紀よりも卑劣な世紀だった。

裏切られた革命は、ジョー•スターリンまたはいずれかの政府の一度か二度の誤った行動によって 1 年か 2 年で裏切られる革命ではありません。

裏切られた革命とは、トスカーナのレオポルディーネ改革から生まれた革命であり、アンディ•ジャクソンとマーティン•ヴァン•ビューレンのあまりにも短命な勝利で頂点に達したジェファーソンのプロセスに非常に顕著に表れていた革命であった。

レオポルディーヌの改革は、それ以前には自給自足の概念に発展し、国家の穀物は主に国家（国民一人ひとり）が食料を得るために存在するという信念に発展した。

その革命は、ダン•ウェブスター、ビドル、モーガン、バルーク、あらゆる色合いの偽装者たち、トロツキー、ウォレス、パーキンス、ルーズベルトの顧問団の二大勢力、幼少のころから高利貸しの先入観に浸っていたモーゲンソーのような存在、けちけちなアリオキケたちによって、明らかに裏切られてきた。

私はこの用語にこだわる。セム人の毒はセム人の不安定さによって和らげられ、
セム人は過剰から過剰へと揺れ動いている。

この不安定さは、停滞し麻痺した思考を持つ人種にとって彼を危険な存在にしている。しかし、ルーズベルトの醜悪で危険で破壊的な側近たちの中で、年収2500ドルで最初に豊かさの経済へと歩みを進めたのは、ユダヤ人のM•エゼキエルだった。

この本は不快な内容だ。セム語系の著作にありがちな、極めて曖昧な表現で、金銭問題そのものを回避している。ユダヤ人の妥協であり、J•シモン的な円滑な取引と静穏への希求が随所に見られるが、ウォレスとパーキンスの作品よりはましだ。そして、理性的で客観的な反ユダヤ主義者なら誰でも、モルデカイ•エゼキエルが妥協しようとしている事実は、遊び好きのユダヤ人ローブ（ヘミングウェイ氏の卑屈な人物）が率いる委員会の報告書から導き出されたものであることを認めるだろう。

もしあなたが、人種の一部の罪により人種全体が罰せられるべきだと信じるならば、ニューヨークの二百万のユダヤ人を追放することは、アメリカにおけるユダヤ人の金融によってもたらされた損害に対する過剰な罰ではないと私は認めます。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

同志ウィンダム•ルイスがユダヤ人がイギリスをうまく統治していると何を言っていたとしても、ユダヤ人はアメリカを満足のいくやり方で統治していないが、ユダヤ人金融家は我々にとって最悪の悪ではない。

我々の最悪の悪は、汚い方針を採用し、それを逸脱したり変更したりする影もなく、ユダヤ人の同情や興奮、または豪華さを見せびらかす必要性の瞬間をまったく持たずに固執することができるアリーヨ•キケです。

ある民族は、その最悪の個人に対して責任を問われる可能性がある。ユダヤ民族は長年、自らの法の執行に責任を負ってこなかった。福音書の物語において、それを事実と取るか、あるいはフィクションとして解釈するかに関わらず、イエスの処刑は責任転嫁によって成し遂げられた。法の執行はローマ人に委ねられていた。もし反ユダヤ主義者になるのであれば、客観的に見て反ユダヤ主義者であるべきだ。できる限り多くの事実を集め、それらに目をつぶってはならない。

ユダヤ人は組織の欠如、
責任を負う。

ユダヤ人が啓蒙された諸民族の中で隣人愛に満ちた世界で生きたいと願うなら、ユダヤの律法を破るあまり好ましくない者たちの戒律を受け入れなければならない。私の知る限り、ユダヤ人は2000年もの間、これを全く望んでいなかった。他の民族は、少なくとも西洋においては、国を支配されたり征服されたりすることなど望まない。もしバラモンがそうするなら、「汚らしいニガー」というレッテルを貼られるに値する。おそらく、儒教以外の中国のエピゴンたちもそうだろう。

ルーズベルト内閣には二つの病がある。ニューヨークの高利貸しはロンドンのあらゆる高利貸しと結びつき、そこからバーゼルやパリの下水道へと繋がっている。

しかし、パーキンス家の卑劣なケチさも持ち合わせている。これは「丸頭」の卑しさであり、丸頭特有の執拗さ、そしてケチという偽りの道徳観念を併せ持っている。おそらく嫉妬から生まれたものであろうが、いずれにせよ、それは許しがたい。

1937 年 11 月にニューヨーク•トリビューン紙が、ルーズベルト大統領に不況を終わらせるよう助言した「12 人の経済学者」として挙げた人たちは、その助言が単なる無知から出たものであろうと、まったくの悪意から出たものであろうと、人間的な同情を受けるに値しない。

「国民の信頼を高める」など。これらの人物には、国民の購買力を入手可能な必要品物と一致させる問題に取り組む機会があったが、それを逃した。彼らは、ニーマイヤー、バルーク、または法人高利貸しの義理の息子と同じくらい同情に値しない。

これとあれを見てください!

組織化された国家に目を向けると、法人化された資本に対して課税が行われます。

この途方もない動きは、擬似民主主義国家の保守的な報道機関にはほとんど波紋を呼ばなかった。泣き言を言う赤党はこれを思想の勝利とは歓迎しなかった。借金資本を扱う新聞は、まるで私有財産への課税であるかのように報じた。

大手日刊紙は、財産（土地、家屋、家具）と「利息＋財産」の請求権、あるいは「利息＋利息が速やかに支払われない場合は全額の占有」の請求権を区別していませんでした。当然のことながら、彼らは区別していませんでした。それは19世紀の共通の溝から、墓場から持ち出された、腐りきった死人の手のような遺産なのです。

その世紀は言葉を裏切る者だった。それは、それ以前の世紀のあらゆる輝かしい思想を汚した。理神論者のヴォルテールは、無神論者とみなされた。

他人を傷つけないことをする権利を意味する「自由」は、
他人から血を流す権利。
******ebook converter DEMO ウォーターマーク******

Machine Translated by Google

ジェファーソンの口から出た「平等」とは、人々が法的に同じ権利を持つこと、そして誰も克服できない障害を持って生まれることはないということを意味した。バーンズの「人は人である」という言葉を彷彿とさせるが、ジェファーソンの時代には、普通選挙権さえも意味していなかった。選挙権は功績に対する報酬となる場合もあったのだ。
それは党員資格ほど厳密に定義されていませんでしたが、不意に豚に課せられたものではありませんでした。
こうした正気を汚し、汚す前に、高利貸しの群れはコミュニケーション手段そのものを裏切る必要があった。言語は魚雷で破壊されなければならなかった。高貴な言葉の一つ一つは、銀行発行の「ライカピタル」という隠れ蓑のようなギャングたちを覆い隠すために、空っぽにされなければならなかった。

秩序がなければ自由はあり得ず、秩序は組織から生まれます。

ジェファーソンの時代のような農業国家は、中世の都市がギルド組織を必要とし、発展させたように、すぐには必要としなかった。どんなシステムも、絶対確実で時代を超越したものなど存在しない。完璧な社会機構を発展させ、それを実行に移せば、地獄の子らは彫刻を始め、ヒルは血を吸い始め、害虫は放置された隅々に蔓延するだろう。

英国と米国のアングロサクソン系読者を、秘密の報道がどれほど混乱させてきたかは、昨日届き、今私の机にある手紙を見れば明らかだ。その手紙は、決して愚か者ではない人物からのものだった。その手紙を引用し、その実態を示そう。

クリストファー•ホリスは最新著書の中で、ムッソリーニが民間銀行家から万年筆で恣意的に通貨や信用を発行する権限を奪うことで、イタリアに健全な通貨制度をもたらしたと述べている。彼は、政府がイタリアの通貨発行を統制し、その発行を引き起こしていると示唆している。
国家経済におけるこのような革命的な改革は、銀行家たちが全力で抵抗しなければならないにもかかわらず、彼の言葉だけを信じることには抵抗があるので、本当にそうなのかと尋ねたい。もしそうなら、イタリアは行くべき場所である。

これは1937年11月の日付、つまりイタリアの銀行改革から2年後のものだ。事実はそこに書かれているが、この若者はライカピタル紙の報道にすっかり馴染んでしまったため、友人からの直接の証言がなければ信じることができない。

下のカフェで見かけたばかりのジェントは、イングランドから出てきたばかりだった。彼は、課税が民間資本ではなく法人資本に課せられることを知らなかった。何が起こったのかは分かっていたつもりだった。ロンドンの新聞で、アクセントのない短い告知を読んだだけだった。

ロシア革命は、一つのサイクルの終焉だった。19世紀的な言葉の裏切りを継続し、「プロレタリア独裁」といった偽りの言葉を、少数の人々の独裁を意味するかのように用いた。ボルシェビキは今や言葉の定義さえも行おうとしない。彼らは革命を望んでいない。少なくとも、私が印刷物で出会った人々、あるいは彼らが回答を求めていた時代に出会った人々は皆、そう望んでいない。彼らは明確な用語、明確な意味の定義を求めて闘おうとしない。だから、彼らが破壊しようとしていたものがどれほど気に入らなかったとしても、それらに固執したまま立ち止まり続けることはできないのだ。

現時点では、少なくとも私には、スターリンが金銭面で何を意味しているのかについて、ロシアから明確な情報を得ることができない。スターリン自身さえ知っていると主張する者はいない。少なくとも私はそのような主張を目にしたことがないし、彼の対立候補であるブロンスタイン氏も同様に明確ではない。だからこそ、ピンク色の知識人が存在するのだ。

彼らは言葉の定義に取り組んでいません。情報収集にも取り組んでいません。ロッソーニの行為や明らかな行動など、この半島で実際に起こった出来事を報道しようともしていません。
声明。

「穀物のアマッソには、さらに政治的な理由がある。パンはすべてのイタリア人に保証されるべきであり、不合理な価格高騰や不道徳な投機はあってはならないのだ。」ロッソーニは認めている。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

これは新しい経済ではない、というよりむしろ彼の言葉通り、「私たちは新しい経済を達成していない」。しかしながら、私たちは間違いなく、鼻先にニンジンを与える主義（「幸福の追求」）から脱却したのだ。

ある意味で、これは孟子が称賛した九田論への回帰と言えるでしょう。マイナス面としては、貨幣を消費財の塊と直接的に同一視するわけではないという点が挙げられます。しかし一方で、これは効果的でもあります。なぜなら、公共の利益、そして公共財のために価格を誠実にコントロールすることは、存在する貨幣の購買力に影響を与えるからです。2年前、ロッソーニと同じくらい、あるいはもっと有名な、閣僚ではないイタリア人から、次のような手紙が届きました。

「現代社会の二つの病は、銀行を通じた高利貸しの合法化と、
有限責任会社法における窃盗の合法化」

それは私的な手紙であり、引用してよいのかどうか、これまでずっと確信が持てませんでした。しかし、もはや軽率な行為ではなくなったため、今では全く自由に引用できると感じています。この手紙が元々は個人的な意見であったのか、それとも適切な時期に公表されるであろう内容を示唆するものであったのかは分かりませんが、その根底にある考えはイタリアで実行に移されました。

ファシストの進路は段階的に測定できる。

1. 12年議会において「経済力を規律し、それを
   国家のニーズに応える。」
2. 翌年の秋のミラノ演説：「生産は解決したが、経済学者は
   国家が分配の問題を解決すべきだ」
3. 自給自足。C.H.ダグラスの教義。ジェファーソンの政策との類似性。健全な経済学の基盤は数千年にわたって変わっていない。「国家は、分配すべきものを得るまでは、適切かつ誠実に配当を支払うことはできないのは確かである。」

購買力を分配する様々な方法は、

それらについて説明するためにこのジャーナルを作成しました。

真の賛美を保つためには、反民主主義者はアメリカ合衆国憲法が米国政府に自国通貨を中央集権化する完全な権利を与えていることを認めなければならない。合憲性について空論を吹聴するのは、ルーズベルト風の涎とバルチアン風の戯言に過ぎない。もしアメリカ議会が誠実で、数百匹の猿の中に数十人の人間しかいないと仮定すれば、明日にはドルの購買力を小麦1ブッシェルか何か、最高級の牛肉ステーキ6ポンドか、サージ2ヤードか、特定の等級の羊毛4ポンドか、あるいは国有資源を適正に調査した上で判明した限りの金額に決めることができるだろう。

これを隠そうとするのは、嘘つきか、個人的な政治的利益を狙う者だけだ。
米国では、政府の言葉の手段の欠陥ではなく、意志の根深い腐敗、あるいは全くの残忍な無知がこれらの改革を妨げている。

もしそのような改革がファシズムであるならば、それはジャクソン流ファシズムでなければならない。どんな国にも何らかの秩序が必要だ。私たち子供（私の時代の子供）が教育を受けていた頃、米西戦争は「開かれた秩序」という専門用語を生み出した。究極の島々やアメリカ大陸は、大陸としてのヨーロッパには適応しない「開かれた秩序」を求めているのかもしれない。しかしいずれにせよ、何が起こっているのか、そして何が起こっていたのかを見極め、これらの現実を、ミロード•バンカムやワンカムが私たちに語り、彼らの新聞で語らせようとしていることとは切り離して考えよう。

オープンフォーメーションの軍隊の規律は、1776年以前にインディアンと戦おうとしたブラドックの軍隊の規律とは異なります。もしそれが礼儀作法であれば、軍隊の比較をお詫び申し上げます。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

私にはそうする権利はありません。しかし、私は何らかの形で自分の主張を伝えたいと思っています。「自由」「秩序」「責任」「ずる賢さ」という言葉に、真の境界線を設けたいのです。

ムッソリーニの最近の発言「資本は国家に奉仕するものである」は、アダム•スミスの「同業者が一般大衆に対する陰謀を企てることなく会合することは決してない」に対する答えである。

買収された新聞社と、雇われた似非経済学者たちの忌まわしい点は、彼らが称賛すると公言し、有害な理論の根拠としている著述家の真の偉大さを決して明らかにしないことだ。スミスのあの一文は真実だった。

19世紀はこの問題に直面することはありませんでした。解決策とバランスを見つけるには、100年の歳月とロマーニャの鍛冶屋の息子が必要でした。そのため、「先見と信用」のコーポラツィオーネを含む、様々なコーポラツィオーネ、つまり中央の高位ギルド組織が生まれました。信用は生命線であると宣言されました。

この記事の残りの部分は、正直な筆者のさまざまな発言に答えることに当てはめられます。
誰かが現在の考えを関連付け、たとえすべてが主題の同じ部分に属していなくても、特定の誤解を解消するよう努めなければなりません。

イタリアが独自の通貨を発行することについてお尋ねの手紙への回答の脚注です。イタリアは独自の通貨を発行しますが、信用は人間の自然な産物です。誰かが誰かを信頼している限り、草のように小さな個人信用が芽生えることを、いかなる国家も完全に阻止することはできません。草は本来、慈悲深く、友愛的な存在なのです。

イタリアには国家崇拝は存在しません。 「国家崇拝」という言葉は、無知から生まれた、プロパガンダのための造語です。

源泉から直接得られる情報です。イタリアの国家は個人の創意工夫を抑圧するためではなく、濫用を防ぎ、対立する利害関係者が自ら解決策を見出すだけの十分な判断力を持たない場合に、正当な措置を講じるために存在します。

12人の読者からの回答と24回に及ぶ会話の末尾に、イタリアの企業国家には確かに欠陥があり、それはかつての独占者たちの迷信、名残、そして汚れた習慣によるものだと答えます。イタリアにも、他のどの国にも見られるように、豚のような人間、そして無気力で怠惰な精神を持つ人々が、いまだに古い泥沼に閉じこもり、破壊工作を企み、隣人を騙そうとし、単純で世間知らずな人々が、自らの活動が及ぼし得る最大限の成果、そして大衆への影響力を得られるよう妨害しているのです。

しかし、これらの欠陥はいずれ解決されるだろうと私は固く信じています。こうした縮小しつつある障害、あるいは「風車」に自ら立ち向かおうとする人を、私はこれまで一度も落胆させたことはありません。

「ローマの寄付は基準である」というのは、2000年と
何年もの間、測定の天才でした。

国家の力には限界があり（どのような理論に基づいて運営されているにせよ）、国家ができないこともある。ロシアの度を越した実験は、国家が限界を超えて財源を投入した場合に何が起こるかを今まさに示している。

19世紀の国家は重荷なしでやり遂げようとした。ムッソリーニのイタリアは、破滅の種とならずにどれだけの自由を民間の手に残せるか真剣に自問した最初の国家と言えるだろう。
つまり、他のどの州もこの問題を真剣に検討したことがないということです。

ジェファーソンの仲間たちは特権の弊害と中央集権化された金融の腐敗を攻撃していた。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

専制政治。彼らは、自分たちの時代には、その反対方向に大きく進むことはできないだろうと分かっていた。

もしイタリアにおけるファシズムが、健全な社会秩序と両立する最大限の発展と個人の自由の領域を意味すると信じていなかったら、私はイタリアで何かが始まっていることをまだ知らないピンクティーボーイズやフランスの似非文人と同じくらい反ファシストだったはずだ。秩序を通して自由を信じることは許されている。ラクダの突撃中に自分のラクダを撃ち殺した英雄のように、臆病さや反体制的な態度で自由を得るよりも、適切な交通規制によって自由を得る可能性の方がはるかに高い。

25年前、書籍に関する真のニュースの不足を憂慮していたのと同じくらい、私は今、経済•政治ニュース、あるいは経済思想の現状に関するニュースの伝達不足を憂慮しています。当時は、海外で何が書かれているのかを手軽に知ることができる場所などありませんでした。真摯な反ファシストなら、今日、自分が何と戦っているのか、そして自分の憎悪が現実の客観的事実と一致しているのかどうかを知りたいと思うでしょう。

「民主主義世界における反ファシズムは、立場と悪意だけによるものである。また、無知でありながら善意に基づく反ファシズムも存在する」とカール•ウィンターは『チヴィルタ•ファシスタ』10月号で述べている。

ウィンターズ氏の記事、そして全体主義国家における建設的な要素としての左派について彼が述べていることをぜひ読んでみてください。ベニアミノ•デ•リティス氏も「CF」誌の同号に寄稿しており、アメリカ合衆国における南北間の敵意の消滅について論じています。この記事は、新たな、そして癒されたヨーロッパの可能性について考えるきっかけとなるかもしれません。

新しいイタリアを理知的に愛したり嫌ったりしたい人は、スピネディ教授、ベヴィオーネ上院議員、フーリオ•レンツィが編集したロッソーニの『La Stirpe』、『La Revista del Lavoro』、『Critica Fascista』、あるいは『Rassegna Monet aria』など、イタリアの月刊誌を少なくともいくつか読む必要があると私は何度も言ってきた。

最後に、モンタギュー•フォーダム氏が12月のBUQ誌に掲載した素晴らしい論文の中で、より明確に定義してもらいたい表現が一つあります。彼が「消費者にとっての特別紙幣発行の価値そのものに疑問を抱いている」と述べている点が、私にはよく分かりません。読者の中には、こうした問題がダグラス氏の主張の核心部分の一部だと考えている人もいるのではないでしょうか。しかし、そうではありません。

総購買力を入手可能な欲しい商品と単純に等しくするという問題として、差異がある場合、理論的には、新たなお金（またはクレジット）を創造して使うことができる人なら誰でも、当面の市場でその差異を埋めることができる。

ダグラス反対派の多くは、最も困窮している人々に分配することが、最も早く支出につながることを理解している。英国の（忌々しい）失業手当は、生産活動に従事していない人々、つまり臨時の非生産者に支給されているのは間違いない。8年間も仕事がない男性の場合、「臨時」という言葉はあまりにも根拠が薄弱だ。

しかし、ダグラス配当は、メージャーが私たちに話してくれたように、国の株主そのものに支払われるのです。それは、私たちの先祖、つまり、もはや食料を摂取したり家を使用したりするためにこの世にいない労働者たちが成し遂げた仕事（主に発明の仕事ですが、工場建設の仕事も含みます）に対する敬意として支払われるのです。

フォーダム氏がイタリアの児童手当を将来の生産者向けとみなしているのか、それとも一時的な非生産者向けとみなしているのかは分かりませんが、それは間違いなく当面の消費者と一時的な非生産者向けです。

少なくとも以下の代替案があり、それぞれ以下の条件が適用されます。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

信用発行は、利息の付かない「定められた請求権」、つまり国債（少なくとも1816年のジェファーソンとそれ以降のすべての知識のある経済学者が理解していたように）の直接発行として行われない場合は、借り入れと利息の支払いによって発行されます。F氏は、たとえルーズベルト氏が古い考えの支持者に支払うことになっている利息と同じくらい低いものであっても、誰がそのような利息を受け取るべきだと考えているのかを知りたいと思います。

借入金の発行は負債として記録されます。

未借入金の問題は金銭の問題です。

フォーダム氏は「特別な資金問題」と言っているが、私はこれを不当に解釈したくない。
「特別な種類の」お金の発行を意味します。

しかし、デマレージ料金付きのアヴィリアーノ貨幣またはジェセリテ証券の発行は、100 か月で消滅し、負債を残さない、計画された請求の発行であることを明確にしておきたいと思います。

ダグラスは月々の切手を税金と呼んでいますが、私は改めて指摘します。国家は交換可能債権でもある交換手段を提供することで、確かにサービスを提供しており、月々の切手はそうしたサービスに対する報酬とみなすことができます。いずれにせよ、この切手によって、流通紙幣の年間12%に相当する額までの他の課税が不要になります。

これはダグラスのどのキャンセル•スキームよりも理解しやすい。教育的価値は計り知れない。つまり、このようなお金を使ったことがあるごく単純な人でさえ、ケンブリッジ大学の「経済学」を学ぶ一般の学生よりもはるかに明確な「お金とは何か」という理解を持っているということだ。

未使用の購買力に対する滞船料徴収の代替案は数多く存在するが、どれも一般の人々に教育的効果をもたらすものではない。例えば、ミヨー案は、少数の輸出入業者とその事務員にしか教育効果を及ぼさないだろう。

当然、信用やお金、あるいは特別な種類のお金が、入手可能な「欲しい」商品を超えて発行されると、ダグラスやイタリアのオペレーティブが要求しているように、政府による価格固定が行われない限り、インフレ、つまり病気が発生し、発行の目的が達成されません。

通貨切り下げは不正行為であり、さらには購買力全体の大幅な減少につながる。切り下げのタイミングを狙う者は、常に他者を欺くことができる。
たとえ彼の意図が善良なものであったとしても、彼は詐欺師や、重商主義の泥沼と重商主義的高利貸しの地獄の環境で生きようと奮闘している苦境に立たされた人々による投機を誘惑し、ほとんど強制することになる。

金の所有者は、一般大衆よりもはるかに賢く、狡猾で、血を吸うので、当然のことながら、そして（私たちがそんなに馬鹿でなければ）教訓的に、彼らの利益を守るために安定化基金を設立しました。

奴隷とは、誰かが自分を解放してくれるのを待っている人のことです。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

フランシス•マクヴォイ著『マルクス主義、崩壊の理論』

MARXISM は、ドイツ系ユダヤ人カール•マルクスが提唱した普遍的破壊の教義であり、ロシアでは「共産主義」という名称で政治的に表現されています。

この後者の偽りの姿は、弁証法的唯物論という疑似科学的な専門用語や、騙されやすい人々のための難解な言葉――プロレタリア独裁、人類の兄弟愛など――を取り除けば、暗殺とテロによって維持される専制的な国家資本主義体制に他ならないことが明らかになる。その集団化システムにおいては、集団的吸血鬼性が支配的な要因となっている。

言うまでもなく、脱国家化知識人のユートピア的平等主義は、かつてどこにも存在したことがありません。しかし、この国に差し迫った危険を及ぼしているのは、いわゆる政治的な共産主義ではありません。それが最終的な成就となるでしょう。しかし、東洋のコミッサールが本領を発揮する前に、将来の犠牲者たちの精神をその出来事に備えさせなければなりません。つまり、必要な受容度まで堕落させ、毒づけなければならないのです。ここに文化マルクス主義の課題があります。精神の予備的なボルシェビキ化であり、社会民主主義に内在する自由主義の無差別な寛容精神病によって促進され、最終的にその不可避的な崩壊へと導くのです。

このように、ロシアでは今のところマルクス主義が政治的に優勢を占め、あらゆる活動領域を支配している。一方、ロシアや他の民主主義国では、その腐敗的な影響は、今のところ、主に社会生活と文化生活において顕著に現れている。これは、単なる教条主義的な政治活動よりもはるかに陰険で、根本的に破壊的である。なぜなら、人々の生活に巧妙に持ち込まれた破壊的唯物論の信条は、あらゆる精神性、道徳的価値観、そして国民文化を破壊してしまうからである。モムゼンの言葉を借りれば、それは「コスモポリタニズムと国民的腐敗の活発な発酵」である。政治的共産主義の反対者も被支配者も含め、多くの人々、そして表面的な大衆の大部分は、現代社会を蝕む多くの不健全な潮流に乗って、知らず知らずのうちに文化的ボルシェビズムのサラゴサ海へと漂流している。

感覚を求める人々や快楽主義者を誘惑する悪の花は数多くある。
腐敗の虹色に輝く現代都市！

今日芸術と称されるものを、エリザベス朝、あるいはそれより規模の小さい時代、さらには今世紀初頭までの、魅惑的な成果と比較してみてください。民衆の精神の愚鈍化は、産業革命の到来とそれに伴う農民階級の崩壊とともに深刻に始まりました。今や形のないものになってしまった民衆は、精神的な感染に抵抗する能力を失っています。しかしながら、あらゆる困難にもかかわらず、19世紀は衰退期において、偉大な作家や詩人、優れた画家、そして有能な作曲家たちを依然として生み出すことができました。

今日の人々の知的糧、私たちの祝福された民主主義の神酒とは何でしょうか?
シュールレアリスム的な絵画と彫刻、病的で歪んだ想像力の乱痴気騒ぎ。その不協和音は、ささやくような歌声と激しいリズム、ナイトクラブの神経症に染まったジャングル音楽の中に見出される。映画は刺激とコスモポリタニズムとプロパガンダに満ちている。書籍や雑誌はセンセーショナルか性的か、あるいはその両方。新聞は虚偽、些細なこと、そして女性の顔よりも身体に注目を集めることを目的として作られた写真で満ちている。これほど多くの「美しく魅力的な••嬢」がスカートをまくり上げるのは奇妙だ。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

写真を撮られる。

経済分野において、あらゆる民主主義政党の哲学的根幹を成す自由主義は、略奪的本能、そして弱者や狡猾さに欠ける者を強者が支配あるいは絶滅させることを、野放しにしている。あらゆる暴力への訴えを憤慨して非難する、偽善的な人道主義者たちは、大衆の金力行使や、悪徳な「ビジネス能力」による経済的暴政を一切抑制すべきではないと訴える。しかし、粗野な身体的暴力よりも、もっと卑劣ないじめの形態が存在するのである。

奴隷制と服従は必ずしも肉体的な問題だけではない。救いようもなく、単なる商才以外の才能もない個人は、はるかに価値があり才能に恵まれた人々を、卑劣な経済的依存状態に追い込むことができるし、実際にそうしている。彼らは、自分たちが確実に勝てると確信している領域、つまりマモンの掟が蔓延する領域に戦いを持ち込んでいる。貨幣独裁政権下では、利益が必然的に第一にして最終的な目的となり、生活のあらゆる段階における大量標準化は、公共の乳牛を搾取するための最も合理化され、したがって最も利益の高い手段となる。国民は、ゆりかごから墓場まで、金融と商業の連鎖システムにますます支配されつつある。道徳的、精神的、そして文化的理想は「利益を生む提案」ではない。証券取引所で「脅迫」したり「屈服」させたりすることもできない。また、それらを所有する人々は、標準化された搾取と欺瞞の従者となるために必要な従順さと無関心を欠いている。

こうしてマルクス主義の精神的転覆は商業的唯物主義と手を取り合い、愚行と退廃で「儲け」をあげていく。一つの前例がまた別の前例へと拡大していく（この言葉は現代民主主義の精神の崩壊を如実に表している）。放縦がさらなる放縦を生み、ついには制御不能な濫用へと至る。古典的な楔の細い端があちこちに突き刺さり、亀裂は広がり、「真の」国家は崩壊へとよろめき進む。

腐敗の使徒たちはこれを「進歩」と呼ぶ。確かに進歩ではあるが、彼ら自身が定めたゲヘナへの道を進む進歩に過ぎない。道化師による精神的ボルシェビズムの進歩、国民の生命器官を蝕むマルクス主義の腐敗した腸管――退廃の呪術師たちが民主的自由、自己表現、先進的思想といった様々なレッテルを貼って投与する、邪悪な媚薬だ。「時代と共に進まなければならない」という無駄なスローガンは、あたかも現在の社会の無秩序が「不可抗力」の結果であり、コスモポリタン的な退廃の渦に屈することが英国民の救いようのない運命であるかのように聞こえる。

道徳と文化の腐敗に伴い、人種の退化と混血化という教義が現代社会に浸透し、同じ毒を蒸留する者たちが人種制限と人種差別撤廃の運動の先頭に立っている。国民の健康と文化の源泉である田舎の人々は経済的に締め上げられ、本能的な抵抗の障壁は取り除かれている。最後の残党は、人工的で不自然な環境を求めて都市に集められ、根こそぎにされた巨大都市の大衆の一部とされ、自然から切り離され、国際的なチェーン店や映画館の利益増大のために金融民主主義の受動的で盲目的な犠牲者の数を増やしている。

田舎や海辺への週末旅行も、郊外の田園地帯に半戸建て住宅で暮らすことも、国民の根こそぎの荒廃、イギリス農民のほぼ完全な破滅を補うことはできない。経済的な危機に加え、精神的、肉体的、そして文化的な影響は計り知れないからだ。国家経済の抜本的な方向転換と再計画が切実に求められているにもかかわらず、社会民主主義は「グリーンベルト」や「国民健康」キャンペーンを掲げる。幼稚な姑息な策、砂の城、そして空想。週末の逃亡者たち

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

機械化された文明から逃れてきた人々は、都市を心の中に持ち帰り、潜在意識の行動に反映させている。都市は彼らの言葉や文学、携帯蓄音機で聴くジャズレコード、ラジオ、そして都会の粋さや気取った振る舞いの中にも、彼らと共にある。

賢いアリックは忘れ去られたアミンタスに取って代わり、ショートパンツをはいた脂肪まみれのユダヤ人女性が彼のアマリリスです。
（「ああ、ペルセポネの歌い手よ」）アルカディアを求めて、彼らはロードハウスを見つける。木々の茂った空き地でパンの笛が聞こえるのではなく、妖精たちが逃げ出した「開発」を待つ荒れ果てた野原で、黒人ジャズの歌やインターナショナルが悲鳴のように響き渡る。

このような腐敗した雰囲気の中で、マルクス主義は死海の果実のように栄え、人間の弱さ、貪欲、虚栄心、そして悪徳は迎合され、搾取される。不健全な嗜好や性癖は、暗示や「先導する」プロパガンダによって煽られ、皮肉にも「大衆の要求」と称される。私たちの最も美しい少女たちは、映画や国際的なダンスグループで魅惑的な魅力を披露し、あるいは外国のキャバレーで「ストリップティーズ」を披露して、色とりどりの人類の屑どもを前にしている。

国家の退廃の極致は、もし抑制されなければ、政治的ボルシェビズムによる支配となる。マルクス主義の計画は、集団精神が集団的腐敗というウイルスに十分に毒された後に、擬似理想主義的な社会主義の仮面をかぶって、それを密かに押し付けることである。マルクス主義の手先たちは、麝香ネズミの疫病のような激しさで人々を蝕み、無責任な快楽主義者、無関心なエゴイスト、そして伝統的で愛国的で健全なものすべてを非難することが流行りの、あるいは賢いことだと考える愚かな愚か者、これらはすべて、我が国の衰退の勢いを加速させている。

事態は既に暗転している。人々は株式市場レポート、スポーツの結果、つまらない娯楽番組、残虐行為と迫害煽動、そして反ファシズムの憎悪の連呼にしか目を向けていないのだろうか？まさにその暗転の兆候を察知し、理解した者たちこそが、このハイエナのような唸り声のすべてに向けられているという事実は、重要な意味を持つ。

マルクス主義はあらゆる愚行と弱点から利益を得、あらゆる鎧の関節を探し、自らの計り知れないほどの不寛容を課す時が来るまで、寛容に、そしてさらなる寛容を要求する。

たとえその悪行がまだ半ば達成されたにすぎないとしても、英国の魂の破壊は、反キリストの祭壇におけるあまりにも大きな犠牲であったことは確かである。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

J•K•ヘイドン著『敵はリベラリズム』

パート1

国家は自然な統一体であり、それを構成する個人を結びつける共通の愛によって、一つの生命体として機能します。国家は本来的に存在します。なぜなら、人間は本来、個人的であると同時に社会的でもあるからです。国家は共通の善のために存在します。アリストテレスが認めたように、それは個人の善よりも崇高なものです。それゆえ、国家は、ある意味では、特定の瞬間にそれを構成する個人の生活を超越する生活を構成します。

「ある点において」と言うのは、真実は常に、ある側面を誇張し、別の側面を無視する誤りの間で均衡しているからです。ヘーゲルのように、国家はあらゆる点で個人を超越すると言うのは誤りであり、同様に、リベラリストのように、国家は個々の人々の算術的な総和に過ぎないと言うのも誤りです。真実はこれらの誤りの中間にあります。国家は部分から構成される統一体であり、それゆえ、その部分よりも大きな存在を持っています。なぜなら、構成されるものは、それが構成されるものよりも大きな存在を持っているからです。国家には、この場合は愛という構成原理があり、それが構成要素の潜在能力を現実化し、それによってより大きな存在を構成します。さらに、国家のより大きな存在は、多くの点で明らかです。

国家は、個人にはないある種の自然的不滅性を有している。また、その基礎単位である家族に与えられた、ある程度の創造力も有している。さらに、いかなる個人にも与えられていない、十分な理由があれば個人の生命を奪う権利も有している。したがって、完全な共同体である国家は、それを構成する個人を超越していることは明白である。

しかし、これらすべては、国家が存在する秩序である自然の秩序においてのみ当てはまります。
人間、すなわち個人は、国家とは異なり、超自然的な存在である。厳密に言えば、人間には自然的な目的はなく、超自然的な目的のみがあり、個人的であろうと社会的なものであろうと、その自然的生活のすべてがそれに従属する。したがって、自然秩序のみの中に存在する国家は、目的において個人に従属する。国家は、まさにその個人が存在するために、そしてそれによって彼らが存在した超自然的な目的を達成できるようにするために、自然によって存在するのである。

この問題は極めて重要であり、ファシストはこれをしっかりと念頭に置いておくべきである。さもなければ、彼らの主張の核心となる力そのものを危うくすることになるだろう。「全体主義」という言葉の使用は、特に私が今述べた区別を明確に念頭に置いていない場合には、非常に曖昧であるため、避けるべきである。共産主義は厳密に全体主義であり、個人が超自然的な目的を持つことや国家権力に対するいかなる権利も否定するのに対し、ファシストは時として宗教に対して見下した態度をとる。まるで絶対的な全体主義を正当に主張しつつも、宗教的実践に関しては寛大にもそれを放棄できるかのように。もしこれが彼らの真の態度であるならば、彼らの主張の力は完全に打ち砕かれ、ファシズムと共産主義は本質的には変わらないという非難が正当化されるだろう。国家組織は個人よりも偉大であり、自然の秩序と共通善の目的においてのみ偉大であると考えることを、私たちは常に明確にしておこう。共通善は、個人の超自然的な運命に照らして理解されるべきである。

これを明確にしたとしても、「全体主義」という言葉の使用は、******ebook converter DEMO Watermarks*******につながるため、依然として推奨されません。

Machine Translated by Google

誤解を招く恐れがある。それは、統治者の公権力という意味での国家が、たとえ親が子供を育てるという自然権を喪失するようなことを何もしていなくても、適切と判断すれば子供を親の管理から引き離すなどの行為を行う権利を主張できるということを示唆している。もちろん、国家がそのような権利を主張することはできない。家族を破壊することは自然に反するし、したがってそれが公共の利益のためになることなどあり得ないからだ。ファシストはこのような不自然な主張をする意図はないが、公共の利益のために統治する全権を主張するという意味を強調するために、自らを全体主義者と呼ぶことがある。この用法は正当化できるが、誤解を招きやすく、さらには無意識の誤解を招く可能性も高い。

さらに、ここで強調したかった点は全く不必要である。健全な公権力の教義は強調する必要がない。なぜなら、統治者は自然法によって公益のための完全な権限を有するからである。いかなる権力も完全である以上に完全なものは存在せず、問題は公益とは何かを考えるまで保留するのが最善である。

この点において、国家という有機体は内部構造を持たないわけではないことに留意すべきである。むしろ、その全体は有機的である。愛は、家族における夫婦愛や親愛から、国民全体に個性を与える愛国心に至るまで、国家の生命原理である。そして、これらの限定的な顕現の間に、国家の必要、あるいは様々な社会的、しかし国家レベルではない立場にある個人の必要に応じて、政治的、文化的、経済的といったあらゆる形態の中間的な集中を形成する。ある人は、夫であり、国家および地方政治における有権者であり、医師であり、複数の企業の株主であり、ゴルファーであり、自然主義者であり、芸術愛好家であり、その他多くの者である。そして、国家的に重要なものもあればそうでないものもあるそれぞれの立場において、彼は共通の愛の絆によって他の個人と結ばれているのである。

国家内の有機的な集積の中には、人間の主要臓器に例えられるほど極めて重要なものもあれば、装飾的な側面を持つものもあります。例えば、君主は明らかに国家の長であり、農業と工業は国の手であり、運輸は国の血脈です。広報は国民の耳であり、軍隊は保護的な皮膚であり、警察はおそらく貪食細胞といった具合です。一方、王立アカデミーは美しいえくぼであり、魅力的で健康と幸福のために役立っていますが、それほど緊急性はありません。

国家という有機体の生命がこのようなものであるならば、各個人にとっての自由とは、その一般的性質と個別的性質に鑑みて、その個人に固有の生活のあらゆる側面――それが個人的なものであれ社会的なものであれ、重要なものであれ重要でないものであれ――の間で調和のとれた均衡を達成する機会を持つことにあると言える。さらに、この関係において「機会」とは肯定的な意味で理解されるべきである。なぜなら、愛は社会生活の原理だからである。

機会は、実際には不可能かもしれない調整を行うための単なる自由放任主義ではありませんが、コミュニティは、人が自分の生活のあらゆる側面の調和を実現できるように、あらゆる便宜と奨励を提供しなければなりません。そうすれば、その人の愛情の欠如以外は何もそれを妨げることはできません。

機会とは、単に積極的な妨害がないという意味で言えば、自由と言えるかもしれないが、それは自由とは程遠い。例えば、倫理は様々な基準を提供し、それによって、ある状況における労働者の正当な賃金がいくらなのかを、少なくとも概算で推定することができる。
この賃金は、いかなる状況下においても、本人とその家族を質素な暮らしで支えられる賃金よりも低くてはならない。そして、本人の労働によって生み出された富が、その富の生産に携わったすべての人間に最低限の報酬を支払うのに十分以上であるならば、この賃金はそれ以上となる。しかし、リベラル理論は倫理上の正当な賃金を無視し、労働を労働市場で可能な限り安く購入されるべき商品とみなす。つまり、自然賃金は労働の需要と供給の自由な相互作用から生じると考えるのである。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

そして、これは今日のイギリス自由主義組織全体に体現されている賃金理論である。たとえ絶対的な自由放任主義が社会立法によって相当に制約されてきたとしても。このような状況下では、労働者が市場賃金を拒否し、正当な賃金を要求する自由があり、雇用主が正当な賃金を支払い、市場賃金を無視する自由があると言うことは、全くのナンセンスではないかもしれない。経済学者は賃金契約を自由契約と呼ぶが、これは「私が月に登る自由がある」と言うことに意味があるのと同じように、意味を持つかもしれない。労働者は不当な賃金を受け入れるか、失業者になるかの自由がある。我々の自由な国では、失業することは罰せられるべき犯罪ではない。同様に、雇用主も不当な賃金を支払うか、競争相手の自由競争に屈して雇用主としての社会的機能を果たさなくなるかの自由がある。しかし、労働者も雇用主も、正義を要求したり、正義を与えたりしながら、社会的機能を長く果たし続けることはできない。したがって、どちらも自由を享受していないのである。

自由は、社会的な機能の遂行において正義が実現されることを最低限必要とする。なぜなら、正義は愛に先立つからである。もし愛が社会有機体の生命原理であるのに、それが単なる社会正義において発揮されないならば、明らかに社会有機体は病に侵され、自由は損なわれている。自由とは社会の健全性であり、個人が人生のあらゆる側面において調和をもたらすためのあらゆる便宜と励ましを享受できる社会環境である。

これこそが真の自由の理論であり、アングロサクソン文明が死の苦しみの中、勇敢にも、そして哀れにもなお繁栄しようと試みている誤った自由主義理論と比較してみよう。自由主義理論は、その最良の部分において、自由を自由放任主義と同一視しない。この同一視は、もともとそれほど明白に誤りではなかった理論から自然に発展したものである。自由主義理論は、その最良の部分において、自由を個人の行動の自由と、市民が秩序維持のために自らの間で締結したとみなされる社会契約から生じる義務との間の均衡とみなす。その契約条件は世論を参照して決定される。なぜなら、民衆の声は神の声だからである。

作用していると認められる力は、個人の利己心のみである。すなわち、個人の自由が考慮される場合には通常の利己心であり、個人の自由の必要不可欠な制約が考慮される場合には、啓蒙された利己心である。愛は全く考慮されない。なぜなら、秩序のために必要となるかもしれない個人の自由の犠牲はすべて、啓蒙された利己心によって十分に説明されると考えられるからである。

さて、この理論は、もし人間が完全であれば、非常にうまく機能するかもしれません。その定式化は人為的で、単純に誤りでしょうが、真の理論と同じ結果をもたらさない理由は見当たりません。なぜなら、自己利益は、その完成形において、愛と同じ目的、すなわち最高善の選択を目的とするからです。

しかし、私たちは完璧ではありません。本質的には善であり、真理を愛していますが、完璧ではありません。私たちは愛の対極にある、いわゆる利己主義と呼ばれる種類の利己主義へと歪められています。この歪みは、私たちを本来の善良さと美しさから異質なものにするのに十分ではありませんが、それは明白で否定できない汚点です。キリスト教の堕落の教義を信奉する者も、人間を猿から超人へと進化させたと考える者も、誰もその存在を否定することはできません。

そうであれば、人類が自己利益の評価において完全な啓蒙から逸脱するのと同じくらい、しかしそれ以上ではない程度に、リベラル理論は完全な機能から逸脱するだろうと予想できるだろう。そして、不完全な世界において、これ以上の仮説を期待したり希望したりできるだろうかと疑問に思うかもしれない。愛を社会の生命原理として語るのは非常に美しい。しかし、愛の理論の作用は、啓蒙された自己利益理論と同様に、私たちの利己主義的傾向に左右されるのだから、ある理論を別の理論に置き換えることで何が得られるというのだろうか。

このような推論は一見もっともらしいかもしれないが、それは誤りである。なぜなら、愛の理論は正しいが、******ebook converter DEMO Watermarks*******

Machine Translated by Google

啓蒙された利己主義理論について言えば、愛が助けとなるため、誤った理論が単なる誤った理論よりもうまく機能するという事実から、私が何の利益を得るというのでしょうか。また、真の理論は、愛が利己主義に汚染されているため、本来の機能を発揮しないであろうことも認めます。しかし、それでもなお、リベラル理論は誤った理論であり、人間社会における誤った理論は、私たちが不完全である以上、長期的には破滅へと導くに違いないというのは真実です。抽象的な原理からすれば、そうでなければなりません。

しかし、抽象的な推論に頼る必要はありません。リベラル理論は、破滅の過程が実際にどのように作用しているかを観察できるほど長く私たちと共にありました。最初に定式化されたとき、その運用の不完全さは、人類の不完全さほど大きくなかったかもしれません。実際、それは全く目立った作用を持っていませんでした。理論が経済理論、そしてそれに基づく政治行動に表現されるようになって初めて、その運用はリベラルな社会組織へと成長し、今や私たちはその支配下でほとんど無力になっています。

純粋に理論的な自由主義仮説を経済、そしてそれに基づく政治に表現することは、推論の問題であり、その推論こそが退廃のプロセスの始まりであった。心が誤った理論を無視する自由を持つ限り、人類の卑劣さよりも卑劣な結果はあり得ない。しかし、誤った理論に基づく推論は、際限なく卑劣さへと突き進む可能性がある。おそらく当初は、個人の行動の自由と秩序のための犠牲との間の想定されたバランスは、個人の自由の側にわずかに歪んでいただけだった。しかし、人々がその誤ったバランスに慣れ、この問題について推論し始めると、彼らの利己的な性質は、バランスを個人の自由を少し有利にする言い訳を容易に見つけるようになった。そしてこの過程は、最高の経済的•政治的知恵として厳粛に宣言された、露骨な自由放任主義に至るまで続いた。

その時までに、少なくとも個人としては、我々は誤った理論の奴隷となっていた。いくら心優しい人間でも無駄だった。無制限の競争が当たり前の世の中であり、国の法律と社会全体によって守られていた。心優しい人間はため息をつきながら、ビジネスはビジネス、経済の法則はジャングルの法則——食うか食われるか——と自分に言い聞かせることしかできなかった。

しかし、人間の本性は善良で美しく、自由放任主義の結果はあからさまに衝撃的なものでした。個人にはそれを変える術はありませんでしたが、社会全体が弱肉強食を抑制することができました。こうして人々は政治活動へと目を向けるようになりました。それまでは、産業に介入するな、社会立法による介入をますます強めるよう求めていたのです。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

トーマス•カーライル - ウィリアム•ジョイス著『国家社会主義者』

トーマス•カーライルは、彼以前のイギリス思想家の中でも第一に挙げられる存在であり、その著作の中でファシズム哲学の主要な傾向のいくつかを示しており、シェイクスピアとゴールドスミスもその一人である。しかし、カーライルの膨大な著作全体を通して、国家社会主義的精神の産物としか見なせるものは何もない。彼自身、国家社会主義という名称が存在するずっと前からその精神を抱いていた。彼の言葉は常に愛国者の言葉である。彼の情熱的な祖国愛は、彼の時代には愛国心の試練に遭うことはなかったかもしれない。なぜなら、彼が愛したのは抽象的な概念ではなく、国民そのものだったからだ。そして、まさにここに、古き愛国心と新しき愛国心の根本的な違いがある。古き愛国心は思想や外見的な特徴に関心を寄せる。新しき愛国心は国民の現実そのものに関心を寄せ、愛国心である。なぜなら、それは「社会主義」という言葉に付随し得る唯一の名誉ある意味での社会主義だからである。

この短い記事の目的は、カーライルについて書くことでも、彼を批判することでもなく、どんな偉大な作家にもつきまとう、既に重苦しい一般論の山にさらに加担することでもありません。ましてや、不注意な人が「カーライルの政治」と呼ぶものを議論するつもりもありません。時間をたっぷりと持てる方は、この偉大な作家がホイッグ党員だったのかトーリー党員だったのかを示すための研究に着手してください。彼がホイッグ党員かトーリー党員だったのかを示すのは困難でしょう。しかし、困難さを別にすれば、これらの古風な用語は今日のイギリス政治に存在するものを全く示唆していないため、無意味でしょう。したがって、私たちの主張を証明しようとする代わりに、トーマス•カーライルについて改めて紹介することにします。

愚かにも彼と長い別れを告げてしまった人々よ、彼自身の言葉に耳を傾けてもらいたい。彼の言葉は、国家社会主義者にとって、ファシズム理論へのインスピレーションと確証を与えるものとなるだろう。ファシスト国家社会主義の支持者なら誰でも、彼の運動に対して絶えず浴びせられる非難、すなわち自由を破壊しようとしているという非難を認識している。おそらく、国家社会主義の信条に対してこれほど頻繁に浴びせられる非難は他にないだろう。

『Past and Present』のページをざっとめくってみると、次のようなことが書かれています。

> 「自由？ 人間にとって真の自由とは、正しい道を見つけ出す、あるいは見つけ出させられること、そしてその道を歩むことにあるとあなたは言うでしょう。自分が実際にできる仕事を学び、あるいは教えられ、そして許可、説得、あるいは強制によって、それを実行すること。それこそが真の幸福であり、名誉であり、『自由』であり、最大の幸福です。もし自由がそうでないなら、私は自由などどうでもいいのです。」

規律がなければ自由は不可能であるという、これほど明確な発言はおそらくかつてなかったでしょう。

同様に、行動する権利への明確な要求がここに見られます。オズワルド•モズレー卿は次のように述べています。「自由の始まりは経済的混乱の終焉です。しかし、行動する力なしに、経済的混乱をどうやって克服できるでしょうか？憲法上の自由は維持されなければなりませんが、その自由は、国民が議会と政府を選出し、それによって望む指導形態を選択する力として表現されます。それを超えることはできません。」あるいは、憲法制定会議の公式宣言を引用すると、

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ブリティッシュ•ユニオン：「ファシズムとは国家の指導体制である。それは、人民の意志に反する政治を意味する古い意味での独裁ではない。それは現代的な意味での独裁であり、国家の存続のために解決しなければならない問題を克服するために、人民によって武装された完全な行動力を持つ政府を意味する。」

カーライルのリーダーシップと権威に関する教義は、旧来の政党が階級に対して採用した態度のいずれにも当てはまらない。彼にとって同様に忌み嫌われるのは、スノッブ主義と階級闘争である。長文の引用は、それが特別な価値を持つものでない限り、ほとんど正当化されないが、ここでは、我が国の言語で書かれた最も偉大な一節の一つであるため、敢えて長文を引用する。

> 私が尊敬するのは二人の男であり、三人目はない。まず第一に、土でできた道具を用いて苦労して大地を征服し、大地を人のものにする、骨身を惜しまずに働く職人。私にとって尊いのは、その硬い手だ。曲がっていて粗野だが、それでもそこには、この惑星の王笏のように、揺るぎない王者の徳が宿っている。また、あらゆる天候で日焼けし、汚れ、粗野な知性を備えた、険しい顔もまた尊い。なぜなら、それは人間らしく生きる男の顔だからだ。
>
> ああ、だが、お前の無礼さゆえに、そして我々がお前を愛するだけでなく憐れまねばならないゆえに、なおさら尊敬に値するのだ！酷い仕打ちを受けた兄弟よ！お前の背中は我々のために曲がり、まっすぐな手足と指は我々のために歪んでいた。お前は我々の徴兵兵であり、運命はお前に降りかかり、我々の戦いはかくも損なわれた。お前の中にも神が創造した姿があったが、それは展開されることはなかった。労働の厚い粘着物と汚点で覆われ、お前の肉体は魂と同様、自由を知ることはなかったのだ。それでも、働き続けよ、働き続けよ。お前は義務を負っているのだ、誰がそれを離れようとも。お前は日々の糧という、全く不可欠なもののために働いているのだ。
>
> もう一人の人を私は尊敬し、さらに高く評価します。それは、日々の糧ではなく、命の糧である、精神的に不可欠なもののために労苦する人です。彼もまた、義務を果たそうとしているのではないでしょうか。内なる調和を目指し、行動であれ言葉であれ、外向的なあらゆる努力を通して、それが高尚であれ卑劣であれ、それを明らかにしているのではないでしょうか。最も高尚なのは、彼の外向的な努力と内向的な努力が一体となった時です。彼を芸術家と呼ぶことができる時です。地上の職人としてだけでなく、天が作った道具を用いて私たちのために天を征服する、霊感に満ちた思想家です。貧しく謙虚な者が私たちの食物を得るために労苦するならば、その見返りとして、彼に光、導き、自由、不死を与えるために、高く栄光に満ちた者が労苦するべきではないでしょうか。私はこの二人を、それぞれの程度において尊敬します。それ以外のものはすべて、風の思うがままに吹く籾殻と塵に過ぎません。

労働の尊厳は、この一節ほど忠実に表現された例はない。この一節だけでも、カーライルが偉大な国家社会主義思想家であることを物語っている。数え切れないほどの社会主義の著述家がこの主題について多くの著作を残してきたが、このテーマをこのように扱った者は一人もいない。良く言っても労働は苦難として、悪く言えば呪いとして描かれる。彼らの一般的な態度は、労働とは人間に押し付けられた便宜的かつ避けられない不正義であり、人間は自らの不名誉を贖うために、自らの労働に最高の対価を要求するしかない、というものだ。しかし、どれほど高い対価を得ようとも、社会主義哲学においては、彼は単なる「賃金奴隷」に過ぎない。だからこそ、カーライルが英雄的行為と功績の動機について何を語っているのかを読むのは興味深い。彼はこう書いている。「人間が英雄的行動に駆り立てられるのは、安楽さや快楽への期待、報い、つまりこの世やあの世の砂糖菓子のようなものによるものだと言うのは、人間に対する中傷である。最も卑しい人間の中にも、もっと高貴な何かがある。銃殺刑に服

> すために雇われた、哀れな悪態をつく兵士は、訓練規則や1日1シリングの賃金とは別の兵士としての名誉を得る。アダムの最も貧しい息子が漠然と切望しているのは、甘いものを味わうことではなく、高貴で真実な行いをし、神に造られた人間として神の天の下で自らの正当性を証明することなのだ。」

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

彼にその方法を教えれば、どんなに退屈な日々の苦労人も英雄へと燃え上がる。安楽に誘惑されるなどと言う者は、大いに間違っている。困難、自己犠牲、殉教、死こそが、人の心に作用する誘惑である。彼の内なる温和な生命に火をつけよ。そうすれば、あらゆる低俗な考えを燃やし尽くす炎が手に入るのだ。

こうした感情は、金融民主主義やその崇拝者からその起源を奪うことは決してできない。カーライルはここで、単なる労働の動機ではなく、英雄的行為の動機について論じている点に注意すべきである。彼は労働価値説として知られるマルクスの古き良き教義の根幹を揺るがし、それを根絶している。彼はマルクスが決して理解できなかったであろうことを、最も明確に理解している。すなわち、創造的な知性と英雄的行為は、通常の労働過程とは全く相容れないということ、そして、人間の最も高貴で、したがって最も重要な業績は、決して単なる機械的な努力の範疇に収まり得ないということである。

カーライルは人間を単に理性のない、あるいは非合理的な生き物として描いているだけだ、と反論する人もいるかもしれない。もしそうだとすれば、カーライルは正しい。

一部の社会では、英雄主義は極めて卑しいものへと堕落している。今日の金融民主主義国家では、英雄主義は国民性に独立を求める誇りを植え付けるため、ユダヤ人金融家によってさえ軽視され、憎まれている。しかし、英雄的な動機が例外ではなく規則となり得ることは、ドイツとイタリアで実証されている。ファシスト体制の目的は国民の生活を著しく改善することであるにもかかわらず、大多数の人々は物質的な利益のためではなく、彼らが神聖視する原則のために、すべてを犠牲にする覚悟ができているのだ。

著者は、労働と帝国の真の関係を、非常に印象的な一節で示しています。トーマス•カーライルが単なる社会主義者だったと主張されるとき、私たちは国際社会主義が長年帝国主義に対して行ってきたプロパガンダを思い起こさざるを得ません。そして、『服飾の理論』の中で最も印象的な一節を引用します。

「確かに、ゴールド•ホフラス君」と教授は別の場所で叫ぶ。「実に混みすぎている。」その間、この取るに足らない水陸両用の地球のどれだけの部分を、汝らは耕し、掘り返し、もはや成長しなくなったというのか？ アメリカのパンパやサバンナ、古代カルタゴ周辺、アフリカ奥地、アルタイ山脈の両斜面、アジア中央台地、スペイン、ギリシャ、トルコ、グリム•タタール、キルデアのカラに、どれほどの人口が密集しているというのか？ 私の理解では、もし一人の人間に土地を貸していただければ、一年で自分と九人を養うことができるという。ああ、今なお熱く、拡大を続けるヨーロッパのヘンギストやアラリックたちはどこにいるのか？ 住処が狭くなりすぎた時、彼らは募兵し、火柱のように、不屈の勇敢なる余剰の民衆を導くだろう。今は戦斧や戦車ではなく、蒸気機関と鋤の刃を装備しているのだ。彼らはどこにいるのか？ — 獲物を守っているのか？

ここでカーライルがほとんどあらゆる場面で繰り返し述べている貴族制に対する態度の一例を指摘するのは興味深い。彼はあまりにも深い思索家で、限りなく正直であったため、貴族制は不要だと偽ることはできなかった。彼の著作全体を通して、人々が指導者階級の指導の下以外で共同体として行動することは考えられない、ということが繰り返し明らかにされている。しかし、彼がこの指導者階級に何を期待しているかもまた非常に明白であり、それは当時の人々が受けていたもの、そして現代の人々がごく短期間ではあるが、依然として受けなければならないものとは、極めて対照的である。彼は真の大英帝国を築きたいと考えており、その願望は彼自身の言葉に明確に記されている。

「イングランドよ、間もなく、この我々の島にはイングランド人のほんの一部しか住まなくなるだろう。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

> アメリカ、ニューホランド、東西は正反対の半球に至るまで、地球の広大な地域を覆うサクソン王国が誕生するだろう。さて、これらすべてを事実上一つの国家としてまとめ上げ、争いを繰り広げることなく、平和と兄弟のような交流の中で共存させることができるものは何だろうか？これは当然のことながら、最大の現実的課題であり、あらゆる主権国家や政府が成し遂げようとしている課題である。
>
> これを達成するものは何だろうか？議会の立法、行政上の首相では不可能だ。アメリカは、議会が引き離すことができた限り、私たちから切り離されている。これは空想的とは言えない。そこには多くの現実があるからだ。ここに、私は言おう。いかなる時も偶然も、議会も、あるいは議会連合も、彼を退位させることのできないイングランド王がいる。この王、シェイクスピアは、私たちすべてに冠を戴いた主権を輝かせ、最も高貴で、最も優しく、それでいて最も強い結束の象徴として、不滅の輝きを放っているのではないだろうか？

もちろん、ここでの結論は、シェイクスピアをファシスト皇帝にしたいということではなく、地球上のどこにいようとも、最も強い絆は、国民の精神文化の中にこそ力を持つべきであるということです。そして、結局のところ、この命題は、人々の行動と運命は彼らが抱く哲学によって決定される、ということに他なりません。最も高貴な哲学を深く理解することは、高貴な行いをすることです。黒人文化とセム文化の混血によって堕落することは、白人が破滅することです。

カーライルは、条約も会議も、彼が切望する世界統一を実現することはできないことを知っていた。その実現は、精神的な統一によってのみ可能となる。我々は別の機会に「集団精神のないところに、集団安全保障はあり得ない」と書いた。しかし、この精神的な力の源泉、この文化と哲学は、金融民主主義に存在するような階級的慣習に基づかない真の貴族制からしか生まれない。一方、カーライルは土地の所有権と国家文化に影響を与える力との関連性を正しく強調した。 『過去と現在』には、「土地は貴族制の正しい基盤である。土地を所有する者は、誰よりも強く、その土地に住む人々の統治者、副王である。ヘンリー•プランタジネットやサムソン修道院長の時代と同様に、今も昔も、そしてこれからもそうあり続けるだろう。土地は私たちすべての母であり、私たちを養い、守り、喜びを与え、愛情深く豊かにしてくれる。その祝福された母なる胸に抱かれて初めて目覚めた時から眠りにつくまで、その祝福された母なる腕で、どれほど多くの方法で私たちすべてを包み込んでくれることか。」とよく言われている。

しかし、カーライルは産業革命の影響を完全に予見していたわけではなかった。すべてが破滅し、農民、農夫、地主がユダヤ人の高利貸しの鎖に縛られ、惨めな無力状態に陥る日を、彼はほとんど想像できなかったのだ。

彼は、このような哀れな境遇にある地主が慈悲深い貴族の役を演じられるとは考えもしなかっただろう。なぜなら、彼にとって貴族とは権力であり、権力とは責任と奉仕を意味していたからだ。「義務を果たさない上流階級は、断崖に植えられた木のようだ。その根こそぎに、全地が崩れ落ちている。殉教者でない人間は、自然界には存在しない。もしこれが高貴だとしたら、高貴とは一体何を意味するのか？ 他人のために勇敢に苦しむこと、怠惰に他人を苦しませることに、高貴さなど存在しないのだ。」と彼は書いている。

カーライルの著作には、彼の時代の状況を扱う文章が何時間もかけて読めるが、それは現代の状況にも同様に当てはまるだろう。次のような文章を読むと、過去100年間で議会に何か変化があったのだろうかと思わずにはいられない。

「議会は、どんな努力を払ってでも、何もしないというルーチンワークの深い轍から抜け出し、あらゆる方面に対し、自由放任主義よりも啓発的な発言をすることを学ばなければならない。もし議会がそれを学べないなら、議会は一体どうなるというのか？ イングランドの何百万もの労働者は、彼らの******ebook converter DEMO Watermarks*******に問いかけている。

Machine Translated by Google

何よりもまず、英国議会よ、汝は我々を統治できるのか？できないのか？議会はその特権ゆえに強力である。しかし、必然と自然の法則はそれよりも強い。もし議会がこのことをできないなら、議会は何か他のことをするだろう。そして、それは奇妙で、あまり幸福とは言えない方法で、議会の統治を促進するだろう。おそらく議会にとってあまり有利にはならないだろう！いずれにせよ、このことは実行されなければならないのだ。

アドルフ•ヒトラーはこう言った。「Etwas muss geschehen（物事は起こらなければならない）」。あるいはオズワルド•モズレーはこう指摘した。「国家の二大組織政党の両体制の結果は、結局は同じだ。反動と変化への抵抗と混同された安定、そして妨害的な議論と委員会の無責任と混同された進歩は、結局は同じように混乱に陥る。どちらも物事が為されることを妨げる道具であり、近代の第一の要件は物事が為されることである。」『グレーター•ブリテン』からのこの一節は、カーライルが信念を超えて表現方法にまで踏み込んだことに賛同していることを示す。

著者の卑劣な行為に対する憎悪を示すために、ランダムに一節を選んでもよい。
マンチェスター学派の唯物論：

「この複雑な時代において」と彼は書いている。「現金による支払いが人間と人間を繋ぐ唯一の手段となっている今、労働階級は、混乱しつつも極めて力強い口調で、非労働階級に対し、自分たちは支配される、チャーティズム、暴行、リックバーン、そしてそれらよりもさらに邪悪な行為による罰を受ける、と宣言している。現金による支払いが唯一の手段となっているにもかかわらず、現金では買えないものは山ほどあるのだ！現金は偉大な奇跡だが、天国でも地上でも、すべての力を持っているわけではないのだ。」

カーライルの著作、そして彼について書かれたものすべてを考慮すると、これほど短い論文で彼の著作を網羅的に分析しようとするのは、徒労であり僭越と言えるでしょう。彼の著作からいくつかの箇所を選び出し、それを単なる政治的信条の表明として扱うのは、軽率ですらあります。だからこそ、私たちはより直接的な方法、すなわち、彼の膨大な著作の中から、単なる政治理論という枠にとらわれず、精神と理性において、いかなるファシストも誇りに思うべき国家社会主義思想の表現である箇所を無作為に選び出すという方法を採用したのです。

もしも偏りによって選択が損なわれていると指摘されるならば、唯一の答えは、責任ある人物がカーライルの矛盾を非難したことがないということだ。あるページで見つけた哲学は、また別のページにも見つかり、そして本書の最後まで同じことが繰り返される。当初の主張が読者の納得いくまで証明されたと仮定するよりも、むしろトーマス•カーライルのさらなる研究を通して読者自身で証明を求める方がはるかに望ましい。カーライルの冷徹さと思想の純粋さは、鉄の時代の鋼鉄の信条を信奉する者たちにとって模範となるだろう。モズレーの言葉を借りれば、「幻想の冗長さを切り裂き、新たな現実に到達する」のである。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ウィリアム•モリス - アーサー•リード著『国家社会主義者』

Tイギリス社会主義者のウィリアム•モリスに対する態度は、長らく彼の崇拝者たちに驚きと失望をもたらしてきた。19世紀を代表する偉大な人物の一人であるモリスは、絶頂期にそれまでの多くの関心を放棄し、社会主義運動に身を投じた。彼と同等の資質を持つイギリス人は、かつてその陣営に加わったことはなかった。

しかし、ある意味で彼は運動の中で常によそ者であり続け、社会主義者の仲間からもそう思われている。彼らは時折、彼の偉大さをなかなか認めることができず、彼の活動と功績を口先だけで称賛することはあっても、彼に心を許すことはなく、彼を自分たちの仲間として、そして感銘深い指導者として認めることもなかった。その地位は、ドイツ系ユダヤ人のカール•マルクスに与えられているのだ。

この事実は、モリスが社会主義者たちの間に存在したことがいかに困惑を招いたかを如実に物語る。確かに彼は、みじめな貧困とそれに伴う諸悪の根絶を希求し、社会主義が何らかの形でその出口を提供すると信じていた点において、彼らと共通していた。しかし、彼の人生観や社会主義に対するビジョンは、「同志たち」のそれとは多くの重要な点で異なっており、彼らに好意的な社会は彼自身にとって牢獄となることを骨身に感じていた。彼は忠実にマルクスと闘い、良心的に彼を吸収しようと努めた。『資本論』に熱狂する瞬間さえあった。しかし、長い目で見れば、彼の表面的な自己よりも強い何かが、反抗した。彼は革命を望んでいた――確かに。しかし、このマルクス主義社会は、彼のビジョンに合致する生き方ではなかった。それは彼にとってあまりにも機械的で、あまりにも抽象的で、あまりにも都会的だった。あまりに国際的すぎるし、あまりに非英国的だ。

マルクスとモリスの人生観の間には、確かに大きな隔たりがあった。マルクスは国際的なユダヤ人であり、モリスは南部イングランド出身であった。マルクスは書斎の人間であり、モリスは屋外と工房の人間であった。マルクスは都会に親しみ、モリスは常に「蒸気の噴出とピストンのストローク」から解放された田舎と「小さく、白く、清潔な」ロンドンを夢見ていた。マルクスは機械愛好家であり、モリスはイギリスの美しさを支えてきた個々の職人技を復活させたいと願っていた。マルクスは機械化された社会組織のビジョンを持つ唯物論者であり、モリスは詩人であり、それゆえに少々アナーキストでもあった。マルクスは階級憎悪と内戦を説いた。モリスの心の叫びは友愛であった。 「交わりは天国である、交わりの欠如は地獄である。交わりは命である、交わりの欠如は死である。あなたがたが地上で行うすべての行為は、交わりのために行われるのである。」

モリスは、どんなに努力したとしても、心の底ではマルクス主義者ではなかった。国際社会主義であれ国際金融であれ、コスモポリタニズムは彼にとって忌み嫌われるものだった。夢想家として、あるいは社会主義者として、彼は時宜を逸して生まれた。社会主義者として、彼はまだ時の胎内にいる何かの先駆者だった。彼の精神的な親和性は、彼の死後ずっと後にようやく勃興し、結集した運動にあった。彼の真の立場はマルクス主義者ではなく、国家社会主義者の中にある。

モリスは情熱の強い男であり、生涯を通じてイングランドへの情熱ほど強く、揺るぎないものはなかった。彼はイングランドの外見について、なんと愛情深く、そして理解深く描いているのだろう。

「この陸地は小さな陸地であり、狭い海に閉じ込められすぎていて、巨大に膨らむ余地はあまりないようだ。荒涼として圧倒的な大地はなく、

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

広大な森が広がり、恐ろしく人跡未踏の山壁はない。すべてが均整がとれ、混ざり合い、変化に富み、一つのものが他のものへと容易に移行している。小さな川、急速に広がる小さな平原、整然と整った美しい木々に囲まれた高地。小さな丘、小さな山々が羊の散歩道の壁で覆われている。監獄でも宮殿でもなく、きちんとした家である。

同じ愛情深い感謝の念は、「地上の楽園」の各物語の序文に月ごとに記されるイギリスの風景の美しい描写にも息づいており、「どこからともなく届く知らせ」のテーマである、刷新され目覚めたイギリスという夢の永遠の伴侶であり、「ジョン•ボールの夢」に色彩と輝きを与えている。モリスの社会主義は、実に、古き良きイギリスの価値観、建築の栄光、風景の美しさ、最も貧しい人々でさえ職人となった個々の職人技、そして「確かに素朴で心が狭いが、真面目で誠実で質素な習慣を持つ」イギリス人の気質を救い、あるいは回復したいという切望に大きく触発された。彼はかつてバーミンガムの聴衆に、テムズ川上流の片隅で、6軒ほどの小さな村の教会を見たばかりだと語りました。「どれも美しい芸術作品です。これらは、いわゆるテムズ川沿いの田舎者の作品です。それ以上の壮大なものはありません。もし同じ人々が今、同じものを設計•建設したとしても、新興住宅地に点在する、ありきたりで質素な小さな非国教徒の礼拝堂以上のものは作れないでしょう。それらはまさにそれに相当するのです…」そしてウェストミンスターについて、彼はこう記している。「この偉大な叙事詩の作者は、誰一人として名を残していない。実際、これは誰の作品でもなく、イングランド南東部の人々による作品なのだ。それは、他に選択肢がなかったがゆえに、生きながらにして働き続けた、人々の分かちがたい意志の作品だったのだ…」。現代生活において、この偉業、かつての、より幸福なイングランドの精神に相当するものを見出すこと、これこそが、モリスの社会主義の原動力であった。

したがって、彼の真の立場は、コスモポリタン主義を脱し、国民主義となった社会主義にある。そして中世にどっぷり浸かった彼は、中世の職人ギルドを想起させるナチズムのあらゆる側面に特別な関心を抱いたであろう。企業国家が市民権を単なる領土的基盤ではなく、大規模な労働者ギルドへの積極的な加入に基づいて確立するべきだという考えは、彼にとって最高の常識と思われたであろう。

彼は確かに、中世の個々の職人がエンジニアや技術者に大きく取って代わられたことを残念に思ったであろう。しかし、組織化された労働者の重要性を認識させた企業国家は、正しい理念に導かれたと感じたであろう。

政治はあまりにも長い間、庶民のニーズや欲求から切り離され、弁護士たちの専門的知識の手に委ねられてきました。彼らは悪辣に先手を打たれ、恩着せがましい存在であり、「ジョン•ボールの夢」に登場する怒れる民衆が、彼らの独占を一掃しようと躍起になっています。「どこでもないニュース」では、国会議事堂は単なる興味深い遺物に過ぎません。イングランドはイングランド人によって、そしてイングランド人のために統治されており、今日ウェストミンスターで政党政治を操っている金融利権の手先ではなくなりました。

モリスが心から賛同したであろうナチズムのもう一つの特徴は、農業の根本的な重要性を強く主張していることである。モリスは、今日のナチズムの人々と同様に、大都市ではなく、農業を中心とした社会という形で幸福な共同体を構想した。彼にとって土地は情熱の源だった。「大地、その成長、そしてその生命 !どれほど愛しているか、言葉にしたり、示したりできれば！」

しかし、単に詩を書く対象としてではなく、強い民族を育成し、育てるものとして。モリスにとって世界で最も美しい光景の一つは「緑が生い茂り、成長し始めた土地」であり、ある手紙の中で彼は黄金の収穫期を迎える8月について書いている。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

イギリスの田園風景を観るには、この時期が最高の月だと彼は言う。「どこでもないところからの知らせ」には、テムズ渓谷で働く干し草職人たちの愉快な情景が描かれている。彼らは皆、陽気な装いで牧草地を巨大なチューリップ畑のようだった。「皆、秋のムクドリの群れのように陽気な会話で賑やかだったが、念入りに、しかし着実に、そして着実に働いていた。」田舎は、見下されたり、無視されたり、退屈なものではなくなった。別の箇所では、彼はこう書いている。「私は、町に田舎の美しさが、そして田舎に町の知性と活気が浸透することを願っている。」

モリスは実際、経済的自給自足という名で呼ばれる理論全体を熱烈に支持したであろう。彼は貿易のロマンと有用性を理解し、古いロンドン橋の下で緑の波が打ち寄せる光景を思い描いていた。

> 「焼け落ちた丘のイチイの木から切り出されたレヴァント製の杖を載せた数少ない竜骨、ギリシャ人が苦労して満たした尖った壺、遠い海から運ばれてきた貴重なわずかな香辛料、フィレンツェの金布、イーペルのタペストリー、ブルージュの布、ギュイエンヌの樽。」

美しく希少なものは、必然的に貿易を通じて入手せざるを得ない。しかし、輸出で生計を立て、「貿易収支を良好に保つ」ためにすべてを犠牲にする近代経済学の教義に対しては、彼はただ軽蔑以外の何ものも抱かなかった。彼にとって、幸福な生活の基盤と秘訣は、自らの土地から物を生産することにあった。この感情の典型的な表現は、高貴なロマンス小説『山の根源』におけるバーグデールの人々の暮らしの描写に見ることができる。『どこでもない国からの知らせ』では、イングランドは莫大な外国貿易への依存から解放され、自国の資源から幸福と豊かな生活を手に入れた。

ナチズムとモリスを繋ぐもう一つの要素は、モリスの哲学「喜びによる力（Kraft durch Freude、喜びによる力）」に見出される。これは、モリスが説いた労働における喜びと密接に一致する。一般的な社会主義のプロパガンダの多くは、労働を呪いのように描く傾向がある。これはモリスの考えとは大きく異なる。「もし私が日々の仕事を禁じられたら、どうなるだろうかと考えてみた。そして、絶望と疲労で死んでしまうだろうと悟った」と彼は書いている。しかし彼は、「喜びを感じられない仕事は、やる価値がない」と考え、社会主義を通して、すべての労働者が自分の好きな仕事を選び、自分と同じようにそれを愛せるように尽力した。すでに言及したテムズ川沿いの田舎者について、彼はこう書いている。「かつては、何かを作る人は皆、実用的な品物だけでなく芸術作品も作り、それが彼らに『作る喜び』を与えていた。私が何を疑うとしても、そのことに疑いはない」。そして現代について、彼はこう述べている。「社会が正しく秩序立った状態にあるとき、働く意志のあるすべての人には、第一に、名誉あるふさわしい仕事、第二に、健康で美しい家、第三に、心身を休める十分な余暇が保証されるべきだ。」現代はなんとそれから遠いことか！ハマースミスの窓から外を眺めると、彼は「怒号や悲鳴、そしてシェークスピアやミルトンの輝かしい言葉に浴びせられるあらゆる屈辱」を聞き、「残忍で無謀な姿や顔が通り過ぎるのを」目にする。「私は自分の感情と欲求によって、これらの人々が何を望んでいるか、何が彼らをこの野蛮のどん底から救ってくれるのかを知っている。それは、自尊心を高め、仲間の賞賛と同情を得られるような仕事、喜んで住める住居、心を落ち着かせ、高めてくれるような環境、適度な労働、適度な休息だ。」彼は過度の専門化を信じていない。人は多種多様なことに手を出せるべきだとしている。そして、より繊細で洗練された作品だけでなく、緊張と努力の中にも喜びはあります。「News from Nowhere」には、活気に満ちた

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

精力的に道路補修に取り組んでいる男性グループとその喜びについての説明、そしてこのユートピアの時代に荒っぽい仕事がむしろ少なくなってきているという残念な言葉。

モリスと国家社会主義のもう一つの接点は、国民が自らのルーツに立ち返るべきだという彼の熱烈な願望である。彼は最初から最後まで偉大な北欧人だった。ヒトラーの人種問題への過剰なこだわりには異論を唱えたかもしれないが、そのこだわりを生み出したコスモポリタニズムを嫌悪し、心の底から北欧人だった。イギリス人の性格や物語を形成するあらゆる要素を愛しながらも、彼は北欧の要素に特別な愛着を抱いていた。語り手として、彼は私たちも血と力を得ている古典とケルトのルーツを十二分に評価し、愛情深い熱意をもって彼らのサガを語り継いだ。しかし、彼の最も強い情熱は、北欧のサガ、特に「道中の詩」で鮮烈かつ感動的に綴られたアイスランドのサガにこそ湧き上がっている。知られざる作者たちは「恐怖の霧を溶かす魔法」を見つけ、モリスは人生の重圧の中で彼らに頼り、「よくぞ、困った時に助けてくれた」と回想した。人々にこれらの物語を知られてはならないと、モリスは肉体的な苦痛を感じた。そして、それらを『ヴォルスングのシグルド』の中で語り直すにあたり、彼は惜しみなく持てる力のすべてを注ぎ込んだ。彼は二度アイスランドを訪れ、そこを我らが種族にとって一種の聖地とみなすようになった。

今日の弱体化したイギリスは、その刺激的な強壮剤の空気を有利に吸えるかもしれない。

このように少しだけ目を通しただけでも、モリスと国家社会主義との親和性は極めて顕著であることが明らかです。彼がどのような批判をしたかは想像に難くありません。
彼は偉大な詩人であり、詩人の内には常にアナーキスト的な何かが宿っていた。彼にとって国家社会主義の最も魅力のない点は、それが通常国家に強い圧力をかけることだろう。その点において、国家社会主義者の言うことは正しいかもしれない。少なくとも、大きな危機と過渡期、新たな形態が創造され試行されている時期には、強力な統一指揮が生き残るために不可欠であることは確かだ。しかし、高度に中央集権化された組織は、緊迫した時代に社会の健全性を保つための必要な手段であるがゆえに、より大きな自由が求められる時代には、長引いて自己目的化してしまう危険性が常に存在する。国家社会主義は、もしそれが生じたならば、その危険に対処することができる。一方、ウィリアム•モリスのような力強い先駆者から、他の条件が同じであれば、国家社会主義は、自らが創造した新たな形態がしっかりと確立され、強化された暁には、国家の介入を増やすのではなく減らすことを目指すべきだと諭されることは、決して悪いことではない。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

「Scepticus」による
ユダヤ神話

あ1936 年 9 月にノッティンガムで開催された英国協会の年次総会で、Mr.
H•G•ウェルズは、ユダヤ人が宗教思想において果たした役割について歴史的真実を語り、それが過度に誇張されていると主張した。ウェルズ氏の演説後、あらゆる階層のユダヤ人が反論に立ち、多くの非ユダヤ人の著名人がウェルズ氏の見解を否定した。彼らの反論におけるユダヤ人の主な主張は、当初からそうであったように、ヘブライの預言者が人類に一神教を教えたというものである。

大きな問題は、このヘブライ人の主張が、ヘブライ人の起源とパレスチナのユダヤ王国の時代と一致する楔形文字文書と古典作家の観点から立証できるかどうかである。

驚くべきことに、上記のすべての情報源は、それらの主張とはまったく逆のことを証明しています。

二人のアメンホテプ王朝（紀元前1750～1350年）における中帝国時代のエジプト文書は、紀元前1400年頃、アクエンアテンとその宮廷が一神教を国教とする宗教革命を起こしたことを疑いなく示しています。この事実はケンブリッジ古代史に詳細に記述されています。

ラテン語の歴史家ユスティヌスがユダヤ人の起源はダマスカスにあると主張した証拠は、テル•アマルナ書簡によって今や確証されている。この書簡は、何世紀にもわたってカナンはエジプトの単なる国境地域であり、その領有権をめぐってヒッタイト人がしばしば争っていたことを示している。書簡で使用された言語はバビロニア語である。

これらのテル•アマルナの手紙は、ボガズ•ケイのヒッタイト文書によってさらに解明されました。
どちらもハビルという名の奴隷階級の人々に言及しています。各国のユダヤ系学者は、ハビルとヘブライ人との関係を否定しています。テル•アマルナ書簡には興味深い詳細が記されています。エジプトのファラオに宛てられた6通の手紙は、ウルサリム（エルサレム）の総督アブディ•ヒバから送られたものです。このアブディ•ヒバは、アブラハムという名のエジプト語表記であると私は考えています。いずれにせよ、彼はシリア出身です。一方、旧約聖書ではアブラハムはカルデアのウル出身とされています。アブディ•ヒバはハビル（紀元前1400年頃）から厳しい追及を受け、手紙の中でエジプトに軍事援助を要請しています。 「我が主君、我が太陽よ、王よ。汝のしもべアブディ•ヒバよ、我が主君、王の足元に七度もひれ伏します。彼らが私に対して申し立てていることは、中傷です。見よ、私は王子ではありません。 …見よ、父も母も私をこの地に置いたのではありません。偉大なる王の御腕が、私を父の家へと導いたのです。」
…

彼はファラオに宛てた別の手紙で、助けを求める言葉を送った。「ハビル族は王の要塞を占領しつつあります…皆滅びました。王よ、我が主よ、祖国に助けをお送りくださいますように。」

旧約聖書には、これらの事実やその後の事実は一切記されておらず、当時の組織化された国家すべてが2つの交戦国のいずれかに加わった、ラムセス2世（紀元前1292年～1225年）とカデシュのヒッタイト人の間で戦われた大世界戦争についても何も記されていない。

ダビデ王やソロモン王については、口伝伝承以外には何も語られていない。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

旧約聖書の記述は、おそらくバビロン捕囚の時代、つまり紀元前585年以降、数世紀も後に遡る。いかなる文献にも彼らについて言及されていないという事実は、必ずしも彼らの存在の可能性や物語のおおよその真実性を排除するものではない。シリアとパレスチナに最も関心を持っていた国、アッシリアが衰退していた当時、つまり紀元前1000年頃であったため、なおさらである。

以下に挙げる楔形文字の証拠は、ジャフル•エホバの起源に関する疑問を提起する。旧約聖書において、この名前のユダヤ起源説は広く知られている。しかし、ジンジルリ（ユーフラテス川中流域）で発見されたアラム語の碑文は、ティグラト•ピレセル3世（紀元前740年）がサマル地方を侵略した当時、独立した小さなイディ王国、すなわちヤウディが存在したことを明確に示している。このイディ王朝は紀元前8世紀にクルアーン•ル•ルディによって建国されたとみられ、その後を継いだパラ1世は、自らの神ハダドに捧げる碑文を残している。したがって、このアラム語の碑文が発見されるまでユダのアザリヤ（列王記下、15章）と同一視されていたヤウディのアズリアン王は、中期ユーフラテス王朝に属していたことが判明する。この啓示は旧約聖書の物語にも大きな混乱を引き起こしました。

アッシリアの軍事力の時代、アッシュルナツィルパル2世（紀元前884-860年）からアッシリア滅亡（紀元前612年）に至るまで、アッシリア人によってサマリア王とユダ王がそれぞれ1人ずつ言及されている。イスラエルとカナンが言及されていないのは奇妙である。これらは常にアッシリア、そしてより近いダマスカス王国に貢物を納めていた小公国であった。シャブアナッサル3世（紀元前859-824年）は、35年間の在位期間中にシリアとパレスチナに14回侵攻した。彼は少なくとも5回の侵攻について言及しており、その際にパレスチナの人々をアッシリアに連れ去ったとされている。ティグラト•ピレセル4世（紀元前745～728年）、サルゴン2世（紀元前722～705年）、サンヘリブ（紀元前705～682年）、アザルハドンなど、次々とシリアとパレスチナに侵攻し、それぞれ何度も荒廃させ、人々をアッシリアとバビロニアへ連れ去った。エジプトのアメンホテプ4世と同様に、ゾロアスター教は紀元前8世紀初頭から太陽とアフラマズダへの賛歌を歌い続けてきた。これは一神教の最も純粋な形態であった。

善と清浄の源である唯一神アフラマズダは、ゾロアスター自身の殉教後も、そしておそらくは殉教のおかげで生き残った。その証拠として、アケメネス朝（紀元前548年以降）の人々がアフラマズダを唯一神として採用した。ゾロアスターが紀元前8世紀前半に存在していたことが証明された。追放によってアッシリア帝国中に散らばったシリアとパレスチナの人々は、ゾロアスターの一神教の教義を全く知らなかったわけではないだろう。

旧約聖書には、バビロン王ナブ•クドゥル•ウツリ（旧約聖書のナブケドネゼル）がユダヤ人を捕囚した（紀元前555年頃）と記されています。バビロニアの文献にはそのような記録はありません。しかし、もしこれが事実だとすれば（おそらくそうでしょう）、特にエルサレム神殿の破壊後、バビロンに捕囚されたユダヤ人たちは、より深い思索に駆り立てられたはずです。ゾロアスター教は、バビロンでかなり広まっていたに違いありません。

アッシリア（紀元前612～606年）の完全な滅亡と、多かれ少なかれゾロアスター教を崇拝するアーリア民族の台頭によって、西アジアは深く動揺したという証拠がある。唯一神思想は、バビロニア人のような保守的な民族の間でさえ浸透していたに違いない。バビロン最後の王ナブナイド（紀元前553～538年）は、この高まりを察知し、危険を未然に防ごうとした。

彼は様々な口実のもと、バビロニアの各都市の偶像と、地元の神々の像をすべて首都に集めました。この行為は、地元の司祭たちと彼らの取り巻きたちの間で激しい不満を引き起こしました。これが、キュロスがひそかに首都に侵入し（紀元前538年）、バビロニア帝国を滅ぼした際に、バビロニア軍が抵抗しなかった理由の一つと考えられます。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

旧約聖書の伝承によれば、キュロスはユダヤ人の捕虜を解放した。この気楽なペルシャ人は、貢物さえ受け取れば、町の人々のことを全く気にしなかっただろう。私の見解では、ユダヤ教の一神教はバビロン捕囚によってパレスチナにもたらされた。エズラ記1章をはじめとする歴代誌の他の章を批判的に検討すれば、そのような解釈も可能だろう。バビロン捕囚の結果、ユダヤ人の間に民族意識が芽生えた。西暦71年の大離散以前から、もしそれが芽生えていたとすれば、それはこの頃であった。この経験は、あまりにも多くの神が人類を救えなかったことを証明していた。全能の神を崇拝する方が、救済の可能性は高かったのだ。

ヘレニズム時代を通じて、ユダヤ人の間で共通のコミュニケーション手段がギリシャ語であったという事実は、学者たちを大いに困惑させてきた。もちろん、サンヘドリンや聖職者団も存在した。セム系住民の間では、主にアラム語の俗語が話されていたようだ。ユダヤ人の聖職者同士がヘブライ語を話していたかどうかは、確証が得られていない。

キケロはローマ共和国で最も聡明で公正な政治家であったことは疑いようもない。腐敗と放縦が蔓延するローマにおいて、彼はカトーと並んで唯一、賄賂や不正行為の容疑がかけられていない。彼の著作は、彼の知的能力と推論力の広範さを証明している。数百人の執政官や法務官の中で、キリキアから名誉ある記録を残して帰還した唯一の執政官である。キケロは高潔な政治思想家であり、公正で誠実である。彼は諸外国に対して非常に客観的である。ギリシャ人の軽薄さやリディア人の奴隷的性質について記しているが、彼らをボルネの敵と呼ぶことは一度もない。彼が繰り返し「我々の敵」と呼ぶのは、ユダヤ人だけである。Sequitur auri ilia invidia Iudaici.

次は、ユダヤ人の金に関する告発です。 Cum aurum Iudaeorum nomine quotennis ex Italia et exomnibus nostris provinciis Hierosolymam exportarisoleret. —イタリアおよびすべての州からユダヤ人によってエルサレムに輸出される金について。 。 。。Huic autem barbarae superstitioni registere severibatis, multitudineum Iudaeorum flag-rantem non numquam in contionibus prae re publica contemnere gravitatis summae fuit.—しかし、この野蛮な迷信に抵抗することは尊厳のある行為であり、多くのユダヤ人を非難することは最大の知恵の行為であり、ユダヤ人がしばしば集会で最も手に負えないときであった。共和国の利益の擁護。

‥ Non enim credo religioem et Iudaeorum et hostium impedimenta.—私たちの敵であるユダヤ人の宗教的信条は障害ではありませんでした。 。 。などなど

キケロのこの演説は、おそらくラテン語で最も美しく愛国的な作品の一つでしょう。しかしながら、過去50年間、この国の公立学校や大学では、明白な理由から、この演説の校訂版は出版されていません。タキトゥスの『歴史』も同様の理由で、校訂版は出版されていません。タキトゥス（『紀元前11世紀』85)は、ティベリウス帝の治世下、元老院がエジプトとユダヤの崇拝を禁じ、解放されたユダヤ人4,000人をローマからサルデーニャ島へ追放し、残りのユダヤ人は直ちにローマを去るよう命じる勅令を発布したと述べています。

実際、タキトゥスは、ユダヤ王国の最も繁栄した時代（紀元前1世紀から、西暦70年にティトゥスによってエルサレムが破壊されるまで)に、ユダヤ人が神殿でロバの頭を崇拝していたとある一節で述べています。（タキトゥス著『歴史』第5巻2-5ページ）。

ホラティウスとユウェナリスは、ユダヤ人について他にも多くのことを語っています。いわゆる大帝コンスタンティヌスは、西暦325年の第1回ニカイア公会議において旧約聖書の正典化を認めるという恐ろしい行為を犯しました。ユダヤ人は1世代か2世代ほどの間、キリスト教世界全体で預言者の子として非常に人気がありました。しかし、わずか1世紀（つまり5世紀初頭)も経たないうちに、ユダヤ人の多くはコンスタンティノープルとアレクサンドリアから追放されました。

ユダヤ人がキリスト教世界への復讐を目的として、

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ユダヤ教徒はイスラム運動の組織化において重要な役割を果たした。しかし、ユダヤ人が果たした貢献にもかかわらず、初代カリフたちが彼らに恐ろしい狂信を植え付けたことは実に興味深い。

「啓典の民」であるアラブ人は、正式な招待を除き、キリスト教徒にイスラム教への改宗を強制することは決してありませんでした。

しかし、アッバース朝カリフ（850年）の時代まで、イスラム教はユダヤ教徒を一神教として認めていませんでした。

レバント地方のユダヤ人コミュニティ全体が改宗を強制され、男性はイスラム軍の最前線に追いやられた。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

A.ユスフ•アリ著『イスラム世界とパレスチナ』

P東方戦争 英国のパレスチナ政策は、英国とイスラム世界との関係に慢性的な傷跡を残してきました。1920年代には、この政策によって生じた誤解は十分にひどいものでしたが、1930年代には、それが生み出した熱は非常に大きく、爆発の危険がありました。そして、この恵みの年である1938年において、世界情勢は急速に悪化しており、将来の世界平和にとって重要な要素として、パレスチナを無視することは誰にもできません。英国当局は、自分たちの置かれた状況が絶望的であることを漠然と認識し、2年以内に問題解決を支援するための委員会を2つ派遣しました。彼らが理解していないのは、イスラム教徒の感情の強さと、その感情が基盤とする揺るぎない根拠です。

この問題に関心を持っているのはアラブ諸国だけではない。インドの新聞は毎週、国内の様々な拠点でアラブ諸国への同情を表明し、英国にパレスチナ政策の見直しを求める集会が開かれたというニュースを伝えている。

イスラム教徒だけでなく、ヒンズー教徒もこの問題に関心を抱いている。パレスチナの日が複数回祝われ、力強い演説が行われた。当局に圧力をかける手段として、ヒジュラト（自発的亡命）や政府への非協力が提案された。オランダ統治下のジャワのイスラム教徒も同様に強い関心を示し、政府に多大な迷惑をかけている。フランスのイスラム植民地におけるパレスチナ感情は、フランスの植民地政策が直面する非常に複雑な問題に、さらに深刻な影響を与えている。そして、アラブ諸国自身においても、アラブの同胞への共感と、パレスチナで行われている抑圧と不正義に対する憤りが強く表明されるのは、当然のことである。

1937年、イエメンのサイフル•イスラム王子は戴冠式代表団を率いてロンドンで行われた会合で、自身と国民の深い思いを公に表明した。外交団の様々なメンバーが出席したレセプションで、王子はこう述べた。「世界中のイスラム教徒はパレスチナのアラブ人に同情しており、アラブ人の市民権を侵害することなくパレスチナ問題が解決されるまで、決して諦めるつもりはありません。」イエメンはそれ以来沈黙を守っているわけではなく、解決策を提示するために様々な努力を重ねてきた。

イラクはさらに強硬な姿勢を貫いている。現イラク首相は、一部から「甚だしい無分別」と批判される発言を行っている。仮に無分別だったとしても、少なくとも英国の世論がパレスチナ問題で更なる誤りを犯すことを恐れる真の懸念から生まれたものだ。首相の最近のロンドン訪問（1938年秋）は、パレスチナ問題に対する何らかの合理的な解決策を提示することが主な目的で、バグダッドの自国民の間に存在するこの問題に対する強い感情に応えたものだったと考えられている。隣国であり、ある意味では同じ地理的地域の一部であるトランスヨルダンは、もちろんこの問題に深い関心を抱いている。サウジアラビアのアブドゥルアズィーズ•イブン•サウード国王はこれまで外交上の沈黙を守っているが、彼の臣下である熱心なイクワーンは、パレスチナ情勢を単なるプラトニックな関心以上の関心を持って注視しているアラブ諸国の中でも、おそらく最も重要なグループの一つである。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

シリアは主権国家アラブとして新たな自由を享受する中で、アラブ諸国がパレスチナをどのように見ているかは、ダマスカスにおいて最も重要な問題となっている。歴史的にも地理的にも、パレスチナはシリアの一部であり、新生シリア共和国においてパレスチナの反乱は心からの共感と支援を受けている。エルサレムの大ムフティーはシリア構成国の一つに亡命しており、ダマスカスはパレスチナ•アラブの大義を支援する最重要拠点の一つであり続けている。ブルダン（ダマスカス近郊）では、これまで複数回の国際イスラム会議が開催されている。直近の会議は1938年10月にカイロで開催され、様々な国のイスラム教徒の議員が出席した。パレスチナの防衛、同国における国民政府の樹立、そしてパレスチナにおけるユダヤ人国家建設という実現不可能な構想の放棄を誓約しました。議会会議直後、シャラウィ女史の議長の下、カイロでパレスチナにおけるアラブの大義を支持する女性たちの国際会議が開催されました。エジプト国民、そして宗教指導者や議会指導者たちは、この大義に心から賛同しています。そしてエジプトは、アラビア語圏の知的拠点となっています。

このように、パレスチナにおけるユダヤ人の野望に抵抗するイスラム世界の声は、ほぼ一致しています。アラブ諸国のキリスト教徒も、この問題に関してイスラム教徒の同胞と完全に一致しています。近東全体がこの問題に燃えており、イスラム世界全体が共感と協力を示していると言っても過言ではありません。

これらの国々は徐々に力と重要性を増しています。彼らは緊密な連合体を形成することを野望としており、この目的を促進するために多くの条約が交渉されてきました。イランとトルコもこれらの条約の一部に参加しています。アラブ諸国との約束と矛盾するバルフォア宣言を実行するために、西アジアと北アフリカの住民の重要な構成員を疎外することに、果たして価値があるのでしょうか？実際、ユダヤ人の要求を受け入れようとするならば、バルフォア宣言の本質的な部分を侵害することになります。なぜなら、1917年11月2日に公表されたバルフォア氏がロスチャイルド卿に宛てた手紙には、以下の太字で強調した文言が含まれていたからです。

> 「我々はパレスチナにユダヤ人の国家を樹立することを支持しており、この目的を促進するために最大限の努力をするつもりであるが、パレスチナの既存の非ユダヤ人コミュニティの市民権と宗教的権利を害するようなことは何も行われないことが明確に理解されている。」

この宣言は曖昧で、アラブ人に対する英国の誠意と矛盾していた。実際には機能しないことが判明し、イスラム世界における英国の威信に多大な損害を与えた。これは現在、世界政治における厄介な問題であり、将来、多くの混乱と動揺の大きな原因となる可能性が高い。英国の敵は、そこにプロパガンダの有望な場を見出しており、危機や危険の時にその機会を逃す可能性は低い。賢明で教養のある意見であれば、このような茶番劇的な政策に強く反対するであろうことは間違いない。

これまで私たちは政策の問題だけを考えてきました。正義の問題としてこの問題を検討してみましょう。エルサレムと聖地はユダヤ人にとって神聖な場所であるだけでなく、キリスト教徒とイスラム教徒にとってさらに神聖な場所でもあります。キリスト教の礎となる中心的な出来事は、この地で起こりました。ウラスジド•アル•アクサは、コーラン（17章1節、5節、7節）の中で聖地として明確に言及されています。西暦70年にティトゥスによって神殿が破壊されて以来、1868年間、ユダヤ人は国外に追放されてきました。バビロン捕囚以来、2500年間、

ユダヤ人は国内で最高権力を握っていなかった。約6世紀（紀元前1254年のヨシュアの時代から紀元前587年のネブカドネザルによるエルサレム占領まで）の間、彼らは混成民族を統治しようと試みた。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ユダヤ人は人口の大部分を占めていたが、内部で分裂していた。彼らの真の権力は、ダビデ王とソロモン王の治世（紀元前1055年～977年）のわずか2世代しか続かなかった。彼らは、ペリシテ人（パレスチナの名称の由来）とエドム人、アマレク人、モアブ人といった様々なアラブ諸部族で構成されていた人口において、決して多数派を形成することはなかった。ユダヤ人は断続的に、そして少数派としてこの地に居住してきたに過ぎない。

このような状況下で、パレスチナをユダヤ人の土地と呼ぶのは正しいことでしょうか？ より正確には、パレスチナは地中海、紅海、アラビア海、ペルシャ湾、そしてユーフラテス川とチグリス川の流域にほぼ囲まれたアラブの島、ジャジラト•ウト•アラブの一部であると主張しています。

経済的にアラビアが自立できたとしても、砂漠を囲む肥沃な沿岸地帯でしか自給自足はできない。法的には、英国がパレスチナに対して有する委任統治領は、パレスチナを英国領土とするものではなく、英国がその土地を自由に処分する権限を与えるものでもない。英国は「独立国家」の受託者であり、その役割は「行政上の助言と援助を与えること」であり、領土の一部を外国人に譲渡したり、自らのものとして保持したりするものではない。国際連盟規約（第22条）は、パレスチナとシリアに関して次のように規定している。「かつてトルコ帝国に属していた一部の共同体は、独立国家としての存在が暫定的に承認される発展段階に達している。ただし、委任統治国による行政上の助言と援助は、当該共同体が自立できるようになるまでの間、提供されるものとする。委任統治国の選定においては、これらの共同体の意向が主要な考慮点とされなければならない。」

パレスチナの元々の住民の大多数、すなわち最近移住してきた外国人を除くほぼ全員が、主権を有する独立国家として宣言されることを一致して望んでいる。彼らはこの目的のために、多大な犠牲を払い、惜しみなく血を流してきた。したがって、英国に残された唯一の名誉ある道は、以下の通りである。

任務を放棄する。

主権国家として国民に領土を明け渡し、憲法を制定する。
国民自身

将来のユダヤ人の移民を禁止すること。

国家の忠実な一員として留まり、その法律に従うことを選んだユダヤ人少数派を、合意される限りの地方自治の保障とともに、事実は真実であるという原則に基づき、合理的に保護するために新国家と条約を締結する。

国家に編入されることを望まない者には撤退の自由な選択を認める。

こうした何らかの取り決めは、将来の平和と発展に寄与し、ついには苦しむアラブ人に正義をもたらすことになるだろう。これは、ヴェルサイユ条約によって犯された甚だしい不正行為の中で、公平、良心、そして事実に基づく合理的な譲歩という原則に基づいて是正されるべき最後のものとなるだろう。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

A. レイヴン•トムソン著『ファシズムと弁証法』

ヨーロッパにおけるファシズムの絶え間ない進展は、新たな歴史的過程の存在を示唆しているように思われる。この過程は否定することはできず、必然的な結末に向かって進んでいる。

預言者カールから歴史的進歩の完璧な説明を受け継いだと信じていたマルクス主義者たちは、今やこの予期せぬ挫折を全く説明できずに途方に暮れている。プロレタリア階級の勝利が目前に迫っていたまさにその瞬間に、彼らの戦略計画は大混乱に陥っているのだ。ジョン•ストレイチー氏が言うように、ファシズムを「権力を維持するためにはどんなことでもいとわない資本家たちの決意の組織的な表現」と呼ぶのは良いことだ。しかし、ファシスト指導者が最大の資本家たちを高圧的に扱うことや、彼らが経済的自由を国家の福祉に完全に従属させていることは、これでは説明できない。

マルクス主義の体系「唯物史観」を検証し、そのどこが間違っているのかを探ってみよう。まずはヘーゲルに立ち返らなければならない。レーニンが述べたように、「マルクスはヘーゲルなしでは理解できない」からだ。ところで、ヘーゲルは決して唯物論者ではなかった。むしろ観念論者だった。彼は宇宙はすべて精神、より正確には「観念」であると信じていた。これはユダヤ人であるカール•マルクスには受け入れられなかったが、現象を説明する際にヘーゲルは「弁証法」と呼ばれる体系を考案し、マルクスの繊細な精神に非常に魅力的に映った。

ヘーゲルの「宇宙」という概念は、人類の知性の途方もない努力の結晶であり、おそらく人類最大の精神的成果と言えるでしょう。彼は、すべてを包含する「理念」が終わりのない自己認識の過程を辿る、畏怖すべき光景を目にしました。この過程において、人類の存在そのものを含むあらゆる現象は、広大で複雑な「弁証法」、つまり議論の断片であり、「理念」は究極の真理、より正確には「自己認識」を求めて自らと論争を繰り返しました。彼はこの過程を、科学者が化学的事実や物理的事実を説明するために理論を唱えるのと同じように、何らかの「テーゼ」、つまり真実の側面を繰り返し唱えることだと捉えました。

すると、このテーゼは実際には完全な真実を包含していないため、「アンチテーゼ」、つまり反対の概念を強要し、その概念は「テーゼ」の不完全な前提との「弁証法的な」闘争に巻き込まれることになる。これは、科学理論の反対者が反論を並べ立てるのとよく似ている。

最終的にこの弁証法から「ヘーゲルは、真理をより深く理解するために、テーゼとアンチテーゼの両方の側面を含む「総合」を追求する。この総合は新たな、しかしまだ不完全なテーゼを形成するので、究極の知識の漸進的な追求において、さらなる弁証法的な闘争、さらなる総合などを誘発することになる。ここでも、科学的研究の進歩との類似性は近い。ヘーゲルが人間、とりわけ組織化され文明化された国家を、理念を弁証法で完成させる最も先進的な道具として高く評価したのは当然である。これが、ヘーゲルが国家崇拝を提唱したというやや誤解された意見の起源である。実際にはヘーゲルは汎神論者であり、おそらく人類史上最も熱心な一神教徒であった。

マルクスと弁証法

マルクスはヘーゲルのような知的能力をほとんど持たず、ヘーゲルの体系は最も粗雑な形でしか概説されていない。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

マルクスは上記のように解釈したが、階級闘争の説明と正当化として弁証法過程に固執した。ヘーゲルと同様に人間と組織化された国家を高く評価したマルクスは、弁証法過程における社会の発展に特に関心を寄せた。社会をヘーゲルのように知識の道具としてではなく、生産の道具として捉えたマルクスは、「労働者」を社会の中で唯一尊重されるべき部分とみなし、寄生者や非生産者に権力と威信を与える社会の不完全性を非難した。

マルクス主義の「唯物史観」は、社会階級間の弁証法的な闘争を基盤とし、その最終目標は、すべての人が「働く」、すなわち生産過程に従事する無階級社会の完成である。このマルクス主義の構想はヘーゲル哲学の崇高な普遍概念には程遠いものの、観念論と唯物論の両方を完全な存在哲学として否定するすべての現実主義者の共感を得られることは間違いない。我々はマルクス主義のように物質的生産者を優遇する偏見は持たないかもしれないし、芸術、科学、宗教を通して真理を探求する人々には依然として名誉ある地位を与え続けるかもしれない。しかし、いかなる階層階級による社会支配にも、特にその階級が真理の認識にも富の生産にも貢献しない場合には、我々は反抗する。

文明の発展

ヘーゲル哲学の究極的な真理に対する我々の見解がどうであろうと、テーゼ、アンチテーゼ、そしてシンセシスというヘーゲルの「三位一体」が、自然界と社会の両方において存在の根源的なリズムを形成していることは否定できない。陽子と電子が結合して原子を形成することから、夫婦が結合して家族を形成するまで、同じ三位一体の根源的な基盤が見出される。社会においても、同じ法則が継続的な動的なプロセスにおいて成立しており、マルクスは疑いなく正しく、このプロセスは完成された無階級社会へと至るであろうと論じた。このプロセスを、ヨーロッパ文明の発展を通して辿ってみよう。

近代ヨーロッパの起源は、ローマ帝国への蛮族の侵攻に遡る。弁証法の過程をこれほど完璧に例示できるものがあるだろうか。人為的で唯物主義的、退廃的なローマ文明のテーゼは、そのアンチテーゼである自然的で観念論的で精力的なドイツ蛮族主義によって挑発された。征服、再征服、奴隷化、そして破壊行為という苦い弁証法闘争の末、ローマの廃墟の上に封建制度が勃興し、その結果、ほぼ完璧な統合がもたらされた。その指導者たちは、依然として帝政ローマ、すなわちdux（公爵）、come（伯爵）、imperator（皇帝）といった伝統的な称号を掲げ、ヴィルラン（貴族）たちを支配していたが、ローマの別荘への奉仕から解放されたばかりだった。

この封建制度は、領主への軍事奉仕と引き換えに剣による保護という軍事力に完全に依存していました。当然のことながら、（マルクスが完全に無視した）弁証法的な過程において、軍事力はその完全な対極にある精神的権力を誘発しました。封建領主の権力は司祭の権力によって挑戦を受け、中世は教会と国家の激しい闘争で彩られました。そして、教皇と皇帝の対立はカノッサで教皇の勝利に終わり、十字軍において軍事力と精神的権力の驚くべき融合が起こりました。

しかし、イタリアに集中していた教皇の至上権は地方貴族にとって耐え難いものとなり、彼らは最終的に宗教改革でローマの権力を打ち破り、ヨーロッパに独立国家を樹立し、キリスト教世界の以前の統一を崩壊させた。貴族と聖職者が絶対君主制に奉仕するために団結したことで、新たな統合が起こった。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

これはヘンリー8世の冷酷な方法、あるいは枢機卿を首席大臣にしたルイ14世の巧妙さによって達成された。プロテスタント国家でもカトリック国家でも、君主制の統合によって世俗的権力と精神的権力の弁証法的な闘争は終結した。

しかしながら、君主制は、生まれと聖職者の特権、カール•マルクスが誤って「封建的」と呼んだ貴族特権を正当化する盾に過ぎなかった。今や、我々はようやく、マルクス主義者だけが関心を持つ歴史の短い時代、唯物主義的な動機が観念論的な動機を凌駕し始め、階級支配が感じられ始める時代へと足を踏み入れたのである。必然的に庶民は貴族の虚栄に憤慨し、反乱を起こした。そして、大反乱、フランス革命、そして1848年の「狂気の年」は、貴族制の打倒に終わった広大な弁証法闘争における単なる一大事件に過ぎなかった。しかし、容赦ない総合の論理は、一つの特権を終わらせただけで、それ以前よりもさらに悪い別の特権をもたらした。財布に誇りを持つ市民が地主貴族に取って代わった。生まれの特権は富の特権に取って代わられた。

貴族政治は金権政治に取って代わられた。

資本主義

こうして資本主義が到来し、特権的な財産所有者と、象徴的な鎌と槌を振りかざす労働者と農民からなる剥奪されたプロレタリア階級との間の階級闘争という新たな弁証法が始まった。封建地主と同様に、産業資本家は自らの地位を維持するために純粋な「力」に頼り、封建地主と同様に、労働者からの「権利」への訴えに直面した。労働者は、資本家の積極的な力に対する消極的な抵抗に反対した。労働組合は労働者を団結させ、ストライキ権と労働拒否権を強力な防衛手段へと発展させた。

組織化はこの活動の重要な部分であり、西側諸国のすべてで大規模な労働組合運動が形成されました。

産業資本家たちは、自らの巨大なトラストやコンビナートを組織することでこれに応え、それらはすぐに国境をはるかに越え、国際金融の究極の資本家支配者によって結び付けられた国際連合へと発展した。一方、労働者たちもまた、労働組合をますます大規模な組織へと拡大し、国際的な連携を求め、最終的には世界革命の主導権をモスクワとスターリンに求めていった。こうして、国際金融と国際社会主義という対立組織が台頭し、マルクス主義者たちが社会の千年紀のための最後の闘争となることを切望していたもののために集結した。これは、当時何百万もの人々が宗教の千年紀だと想像していた、皇帝と教皇の支配下にあった封建ヨーロッパの国際組織と、実に奇妙な類似点であった。

なぜこの千年紀は耐え難いほどに延期されてきたのでしょうか。近年の科学的発明と技術の進歩によって生産力は飛躍的に向上しましたが、それでも大衆の生活水準は依然として低く、社会状況は悲惨なままです。

一方、生産効率の向上は、大量の失業者を生み出すだけである。これはどう説明できるだろうか？なぜ社会革命は停滞するのか？

権力の特権

その説明は、権力組織は腐敗をもたらすというものです。巨大な労働組合組織の発展は、これらの組織の指導者に莫大な権力を与えます。
すると、彼らは階級闘争の頂点に自らの組織を危険にさらして無階級国家を創設することに消極的になり、その結果、組織は主要な正当性を失うことになる。貿易

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

数百万人の労働者を指揮する労働組合の幹部は、数百万ドルの金を指揮する独占資本家と同じく、自分たちに大きな個人的権力を与えるシステムの維持に既得権益を持っている。

こうして、新たな腐敗した統合が生まれた。金融家と労働組合幹部は休戦し、後に両者に非常に有利なシステムを守るために同盟を結ぶ。最初の裏切りは、労働組合指導者ベン•ターナーが国際的なユダヤ人金融家アルフレッド•モンド（後のメルチェット卿）と会談し、ストライキ兵器を否認する悪名高いモンド＝ターナー協定に署名したときに起こった。2番目の、そしてより深刻な裏切りは、より最近、労働組合主義のボスと世界資本主義の金融家が「民主主義を擁護し」、「自由を保持する」ために結託したときに起こった。最初は階級闘争のための拡張組織化の手段として追求された国際主義は、それ自体が目的となり、労働者は賃金、労働条件、そして生活そのものを犠牲にする覚悟をしなければならないものとなった。こうして、アビシニア、チェコスロバキア、中国、スペインを求める嘆願がなされる一方で、国内では失業と窮状が増大する。

これはすべて、特権――今回は権力の特権――を維持するための、古くからお馴染みの闘争に他ならない。西洋世界におけるマルクス主義の階級闘争の悲惨な結末はこれだ。生まれによる特権は富による特権に取って代わられ、今や両者は人間と金の支配者が持つ権力の特権に屈している。

階級のない革命

しかし、弁証法の過程はそこで終わらない。歴史に対しても、潮流に対しても「停止せよ」と叫ぶことはできない。独占特権というテーゼは必然的にそのアンチテーゼを誘発する。そして、このアンチテーゼとは、金融と労働組合の専制に苦しむあらゆる階級の大衆運動である。ついに真の「無階級」国家への希望が生まれる。なぜなら、「ボス支配」のアンチテーゼは「無階級」革命だからである。あらゆる階級特権は今や清算された。数百万の労働者、あるいは数百万の株式から与えられた権力を、わずかな人間だけが掌握し、今日ではその権力を行使して、それを可能にするシステムを維持しようとしている。こうした人間たちに対して、無階級革命の潮流が立ち上がる。

この新たな革命勢力が国家的な形をとることはほとんど驚くべきことではない。
愛国心こそが、常に社会のあらゆる階層を共通の行動へと結びつけてきた感情である。だからこそ、あらゆる階層の人々が、外国人自身（主にユダヤ人）や国際的な視野に固執する人々によって行使される圧制から自らを解放するために頼るのは、愛国心なのだ。

ファシズムは社会の弁証法的発展においてまさにその役割を果たしている。20世紀の革命運動は、18世紀の民主主義運動や19世紀のプロレタリア運動がそうであったように、真に歴史的過程の一部である。実際、次の統合はすでにその存在感を示している。無責任な権力行使は民衆の反乱を引き起こした。この反乱は、個人的な権力への憤慨した拒絶という無政府主義的な形をとると予想されるかもしれない。しかし、統合の不可避的な法則に応えて、民衆の反乱は専制政治を打破する唯一の手段として権力にしがみつく。ファシズムの原理は、国民からその名において行動する権限を委任された、国民的指導者による責任ある権力行使である。国民的反乱によって挑戦を受けた無責任な権力は、国民に対する権力の行使に責任を負う国家権力の真の統合を生み出す。

闘争の終わり？

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

残るは、ファシズムの無階級革命が社会過程を終結させ、無階級国家を完成させるかどうかという議論だけだ。これは主に将来の課題である。弁証法が今や国家を超えて世界秩序の完成へと、あるいは政治を超えて文化の領域へと高まることを期待できるかもしれない。いずれにせよ、共産主義のような意図的な階級革命よりも、無階級革命の方が無階級国家を創出する可能性がはるかに高いと予想するのは理にかなっているように思える。共産主義はソビエト•ロシアにおいて、階級対立に依然として激しく関心を抱き、大幅に粛清された共産主義少数派による官僚的専制政治を急速に構築する国家を生み出した。

また、あらゆるファシスト国家が社会の有機的な構造を確立することに熱心に取り組んでおり、すべての人為的な階級区分を国家奉仕に従属させていることも重要です。
これは確かに、無階級革命が無階級国家の樹立につながり、ひいてはマルクスが非難した階級特権のための闘争の終焉につながることを示唆しているように思われる。マルクス主義の国際革命が達成できなかったことを、国民革命が達成する可能性は十分にある。

いずれにせよ、いかなるファシストも、闘争が終焉し停滞に陥るユダヤ教的な「千年王国」など望んでいない。我々にとって、この時代の悪に対処し、汚れた物質主義に沈んだ時代に再生をもたらす歴史的過程に参加することで、それで十分だ。階級闘争は物質的利己主義の兆候である。中世ヨーロッパは、他の目的と崇高な理想を持っていた。西洋人がより高貴なことに目を向けることができるように、階級闘争を終わらせよう。我々は、未来の闘争、これから起こるより大きな紛争を歓迎する。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

フランシス•マクヴォイ著『土地の相続権を失った者たち』

ここに、あなた方英国の農民のように、広大な田園で生まれ育ち、近代資本主義の荒廃させる暴政によって不毛な都市で生計を立てるよう追いやられる前は、毎朝澄んだ空気の中で、鳥のさえずり、木々を吹き抜ける風の音、太陽の輝き、刺すような霜、草を打つ柔らかな雨音に目覚める喜びを知っていた、私たちの多くがいます。私たちは自然のあらゆる表情、あらゆる季節を愛していました。なぜなら、私たちも自然の一部だったからです。私たちは極めて質素な生活を送り、それゆえに深い満足感を得ていました。神が人類に与えた最高の贈り物、強健な健康と心の平安は、私たちのものでした。なぜなら、私たちは人間の法律も神の法律も、決して破らなかったからです。私たちは人生にほとんど何も求めず、ささやかな報酬のために働き、それによって父祖の土地で暮らすのに十分な収入を得ることだけを考えていました。

しかし、農地には暗黒時代が到来した。英国民をオフィスや工場に押し込め、農業を外国人に押し付けるシステムによって、私たちは破滅させられた。英国は輸入食品の代わりに製品を製造したのだ。

そのようなシステムが人々に肉体的、知的、道徳的、あるいは
戦時には飢餓の危険にさらされるが、一部の人にとっては「利益のある提案」である。

こうして私たちは大都市にたどり着き、経済的隷属へと身を投じた。事務員、工場労働者、チェーン店の店員となり、顔の日焼けは消え、賃金奴隷として不安と無気力に満ちた生活を送っていた。民主主義が私たちに降り注いだ恵みに感謝し、必要ならば闘うべきだと教えられた。民主主義とは、貪欲、物質主義、つまらないこと、そして人間のあらゆる欲求と本能を商業的に搾取することを体現するものだ。ソビエト連邦以外では、歴史上かつて例を見ないほどの人間性の愚鈍化だ。大量生産された自動車のように規格化された「小人」、サービスアパートや郊外から押し寄せる「バビット」の群れよ、「我々のイングランド」でプロパガンダに煽られ、搾取され、獣化され、永遠に生き続けよ！

確かに、まだ全員が土地を去ったわけではない。しかし、ひどく苦難を味わった残党は、根本的に敵対的な経済秩序、工場が農場に内戦を仕掛ける経済秩序との戦いを、あとどれくらい続けられるだろうか？ イギリスのヨーマン、農民の皆さん、私たちの土地は、都市化、工業化、都市化に全力を注ぐ輸出資本主義の奴隷となっている。

減少する支持者の叫びを静め、惑わされた票を集めるための一時的な姑息な手段に過ぎない。何か対策が講じられると言われたが、それはおそらく、軽蔑すべき記憶の「英雄にふさわしい家」というスローガンと同じくらい価値のない保証だろう。それが無益であることを証明したならば、英国の男らしさと伝統の名において、もうこれ以上はやめよう。英国連合には、あなたと英国を救い、それを望むすべての人々――彼らは数え切れないほどいるだろう――が祖国の地へ帰還できるようにする政策がある。あなたは我々の名誉を傷つける多くのことを耳にし、読んだことがあるだろうが、それには理由があるかもしれない、つまり、我々があなた方の利益でも、我々の利益でも、大衆の利益でもない利益に挑戦しているかもしれない、と考えたことはないのだろうか？こうした中傷キャンペーンは、本当に私心がないとあなたは思うだろうか？あなた方はもう、好き嫌いをただ決めつけられるだけなのでしょうか？政治的意見は「オールドギャング」の戯言に押し込められてしまうのでしょうか？ペニーメディアの悪意ある誘導に惑わされることなく、私たちの政策があなた方に与える影響を、あなた自身で判断してください。******電子書籍コンバーター デモ版 ウォーターマーク******

Machine Translated by Google

我々は熱烈な国家主義者であり、英国の土壌の繁栄に全身全霊を捧げていることを、皆様はお分かりいただけるでしょう。産業もまた繁栄するでしょう。なぜなら、現在外国人に資金を提供している資金によって支えられるからです。しかし、それは農業を犠牲にするものではありません。今日の不均衡で反社会的な経済に代わる、公正で健全なバランスが生まれるでしょう。

田舎から追放された私たちも、皆さんと同じように土を愛しています。私たちが土を愛していると言うのは間違いです。専制政治を目的とする。たとえ望んだとしても、英国民に対して専制政治を行うことはできない。

田園の死は国家の死を予兆する。なぜなら、土からあらゆる生命、物質的•精神的な生命が湧き出るからだ。これらの真理を本能的に理解するあなた方は、それを旗印に掲げる私たちが誤った導きを受けているのではないことを、必ず理解するはずだ。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

A. レイヴン•トムソン著
『企業経済学』

あ現代世界には、現在の経済システムの崩壊によって大きな問題が生じています。人類史上最大の豊かさの真っ只中にあって、私たちのほとんどを貧困に追いやり、何百万人もの人々の自活権を奪い、縮小する世界市場をめぐる国際競争の中で戦争の危険をますます増大させるようなシステムを、私たちはもはや容認できません。この普遍的な崩壊の原因は何なのでしょうか？私たちはどこで道を誤ったのでしょうか？

問題の原因を完全に理解する前に、組織化された社会の次の3つの性質を考慮する必要があります。

- 国家生活を計画し、指導する権限を与えられた中央政府。
- さまざまな目的と関心を持つ多数の社会集団。
- 創意工夫と進取の力に恵まれた集団。

19世紀の古典派経済理論は、社会の第三の側面、そして最も組織化されていない側面にほぼ専念し、国家や集団による経済活動への介入を嫌悪していました。比較的物資が乏しかった初期の時代においては、この見解にはある程度の正当性があったかもしれません。なぜなら、個人の自発性と進取の気性は、潜在的生産力の開発と技術革新の発展において極めて重要だったからです。個人は、可能な限り最大限の経済的自由を与えられれば、その自発性と進取の気性を最大限に発揮するであろうことは明らかであり、まさにこれこそが、マンチェスター学派の経済学者たちが「自由放任主義」と自由貿易を提唱した際に求めていたことなのです。

経済的自由が希少性の問題を解決する上でどれほどの利点を持つにせよ、豊かな時代の幕開けにおいて、それは社会福祉にとってむしろ脅威となっている。古典的経済理論そのものを非難する必要はないが、社会組織から独立した絶対的な経済「法則」は存在しないことを認識しなければならない。希少性の時代には個人主義体制が不可欠であったことは疑いようもなく、生産問題を解決したマンチェスター学派に感謝しなければならない。しかし今こそ、新時代の要請に応える新たな経済体制が必要な時である。完全な搾取の自由によって促進された個人的事業は希少性を終焉させたが、自らが生み出した豊かさを国民全体に分配することは全く不可能である。生産は本質的に個人、あるいはせいぜい集団によるプロセスである。一方、分配は社会全体のニーズに基づいており、相当規模の意識的な社会計画なしには成功しないことは明らかである。

社会主義と階級闘争

個人主義はもはやその有用性の時代を過ぎ、経済発展にとって現実的な脅威となっているため、経済の関心の焦点を国家全体ではなくとも、社会集団へと移すべき時が来ている。これまで、現体制を最も激しく攻撃し、「社会主義者」や「共産主義者」といった集合的な用語を用いてきた者たちは、実際には決して

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

集団的配慮を超越する。生産手段の「国有化」という大げさな主張にもかかわらず、社会主義と共産主義の魅力の根底にあるのは、階級分化の誇張と「階級闘争」の強調である。明らかに、このような階級意識的な教義は社会集団の領域に属するものであり、コミュニティ全体を生きた有機的実体として理解するに至っていない。実際、社会主義者が国際主義を重視し、愛国心を否定していることは、社会組織が持つ意味を彼が十分に理解していないことを裏付けている。社会組織は階級的配慮をはるかに超えて国家目的の実現に至るべきである。ロシアのソビエト政権が自らを「プロレタリア独裁」であると主張するとき、究極の「不条理化」に至る。なぜなら、これは集団が国民生活に対して恒久的かつ意識的に優位に立つことを意味するからである。

実際、豊かな時代において階級闘争は全くの不条理となる。なぜなら、すべての人に十分なものがあるのに、階級間の闘争に何の目的があるというのか？階級闘争は、まさに不足の時代の残忍な遺物に他ならない。そして、それは現在の経済システムの非効率性ゆえに、現代まで引きずり込まれているのだ。分配の問題を解決すれば、階級闘争は終結する。いずれにせよ、社会を対立する階級に分断するという考えは、カール•マルクスの人為的な発明に大きく依存している。なぜなら、現代生活がますます複雑になるにつれ、所有階級と被搾取階級の区別はますます困難になっているからだ。

カール•マルクスは、通常は産業で生計を立てている膨大な数の人々に所有権を分散させる大規模な株式会社については全く考えていなかった。また、近代産業の発展によって雇用者と労働者の間に介在することになる多数の組織者やエンジニア、専門家や技術者についても予想していなかった。

たとえ社会が雇用者と労働者に分かれていることを認めたとしても、必ずしも両者の利益が対立するわけではありません。雇用者と労働者は互いに利害が対立する敵対勢力であると考えているのは事実ですが、これは集団組織が双方にとってどのような利益をもたらすかを理解できないことに起因しています。あらゆる企業において、雇用者と労働者の利益が対立していることは明らかであり、労働者が高すぎる賃金を要求すれば雇用者に利益は残らず、一方、雇用者が賃金を引き下げることができればより高い利益を享受できます。しかし、だからといって、雇用者と労働者全体が、他方を犠牲にして自らの利益を追求できるわけではありません。実際、現在のように豊かな時代においては、労働者と雇用者の利益は密接に結びついています。近代産業に必要なのは、明らかに大規模で拡大する市場です。こうした市場を幻想的な国際貿易の中に見出そうとする試みは近年惨憺たる失敗に終わり、その結果、産業家たちはますます国内市場へと目を向けるようになりました。

しかしながら、国内市場の購買力は賃金率によって大きく左右されることは明らかであり、したがって、労働者が近代産業の製品を購入できるようにするために、労働者がより高い賃金を受け取ることが実際には雇用者の利益となっている。
確かに、社会主義労働者は、賃金の引き上げが雇用主の利益になるからといって、階級闘争への信念を賃金の引き上げを拒否するほどにまで広げたりはしないだろう。

企業コンセプト

現在の経済システムが失敗したのは、個人の利益を過度に重視したためであるが、社会主義と共産主義の教義も、社会集団を称揚し、社会全体を犠牲にしているため、同様に問題があることが分かる。ファシズムは第三の選択肢に目を向け、社会を単一の組織化された法人国家として扱い、十分な権限を持つ中央政府によって統制•計画されることを主張する。

Machine Translated by Google

個人と集団に対する権威を持ち、全体の福祉を守り、国家の目的を推進する。これは、国家を高次の有機体と見なし、本質的には人体と類似した存在として捉え、その器官と機能が集団的な目的を果たすという、共同体的な概念である。

これは、有名な労働憲章の規則に従って共通の利益に沿ってイタリアの雇用主と労働者の関係を規制する、イタリアのファシスト政権組織の重要な基礎です。

全く新しい経済目的の概念に基づくこのようなシステムは、社会のニーズに合わせた経済調整という、同様に新しい科学を必要とするでしょう。この新しい経済科学は、長らく世界の商業の中心地であったこの国で実現されると私は信じています。ファシズムの政治体制を最初に採用したイタリアとドイツは、世界恐慌の重圧に対して民主主義国よりもはるかにうまく対応したにもかかわらず、体制の経済面の発展において最も困難な状況に直面したという事実を無視することはできません。民主主義と自由主義の原則はフランスと大陸に最初にもたらされましたが、自由主義の経済的含意はマンチェスター学派の個人主義者によって具体化されたのはイギリスであったことを忘れてはなりません。この危険で、ほとんど破滅的な経済理論を世界にもたらしたのはイギリスであったため、ファシズムの新しい原則を経済分野に適用し、信用を失った自由貿易の残滓に取って代わる未来の商業構造を生み出すことは、明らかにイギリスの責務となるでしょう。

企業理念

そのような科学の基礎を定めることは、現在の議論の範囲外であるが、企業経済学のいくつかの原則は、現代の個人主義とは対照的に、直ちに浮かび上がってくる。旧来の学派において、個人の利己主義が本質的な基盤であった「経済人」に代わり、個人が愛国的な奉仕に従事する「経済共同体」が生まれる。共通の「利益」を守るために結束する人々の階級に代わり、社会全体への機能的な奉仕のために結束する職業集団が生まれる。生計を立てるために奮闘する個人間の競争、すなわち皆が互いに競い合い、後からついてくる者が勝つという状況に代わり、共通の利益のために個人が協力する状況が生まれる。

これらの原則はどのようにして実行されるのでしょうか？まず第一に、疑いなく権威の行使によってです。現在の経済情勢の混沌に、規律と統制が導入されなければなりません。
階級闘争の火に油を注ぎ、社会主義の扇動者に「資本主義」攻撃の根拠を与えている現体制の恐ろしさは、主に、商業活動に相当な影響力を及ぼし、不公正な手段で自らの利益を追求するのに十分な財産や資本を蓄積した権力者による経済力の不当な行使に起因している。ファシズムの下では、いかなる個人も、このような意味での財産を、自らの利益のために権力を行使する手段として用いることは許されない。「権力」とは、政府の独占である。

ここに、私的資本の廃止と生産手段の国有化を要求する社会主義者への完全な回答がある。確かに、私的資本家は過去に資本に対する支配力を濫用して私益を図ってきたが、それは私有財産の廃止を正当化するものではなく、むしろ反社会的行為を防止するために私有財産の使用を規制することを正当化する。真実は、社会主義者は資本家の富と権力を羨む不満を抱えたブルジョアに過ぎないということだ。彼は暗に、所有者は何をしても構わないというブルジョア的原則を受け入れている。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

資本家は自分の利益を優先し、それゆえ資本主義的搾取の代替手段は、善良な資本家を悪しき資本で圧倒する大量没収以外には見出せない。ファシズムは、資本と金銭が個人に権力を与え、彼らが過去にそれを濫用してきたことを認め、有権者に、国で最も強力な既得権益者に対抗するのに十分な権限と行動手段を要求する。オズワルド•モズレーが極めて明確に述べたように、「資本主義の下では、資本は国家を自らの目的のために利用する。ファシズムの下では、国家は資本を自らの目的のために利用する」のである。

いかに強力で効率的な政府であっても、国家全体の経済情勢を詳細に計画しようとするのは明らかに不可能である。これは健全な政治体制の不可欠な要素である集団組織を否定するものであり、この国を急速に社会化させている官僚主義という現在の脅威を永続させ、悪化させる傾向がある。社会主義者も保守主義者も、ホワイトホールの権力と影響力の拡大を競い合っており、ホワイトホールはヒューワート最高裁判所長官が予言した「新専制主義」へと急速に変貌しつつある。ファシズムの下では、こうした官僚支配の多くは、新たな機能別組織体系に沿って、国の主要産業および産業群を管理する企業へと再び委譲されるだろう。農業、漁業、運輸、鉱業、医療といった企業がホワイトホールの各省庁に取って代わり、それぞれの産業と専門分野で経験を積み、いかなる常勤官僚よりもはるかに優れた能力を持つ人材が職員として配属されるだろう。これらの新たな産業自治制度は、近代的な情報通信の急速な発展と公共事業のより広範な計画によって急速に時代遅れになりつつある地方自治に取って代わるものである。これにより、集団組織は、過去のより硬直した構造的基盤から、より柔軟な機能的基盤へと、未来へと変革されるであろう。

公社には、その管理下にある産業に関するあらゆる内部事項を解決するための極めて広範な自治権が付与され、雇用者、労働者、消費者はいずれも公社の評議会に代表される。雇用者は雇用者連合会を通じて、労働者は労働組合を通じて代表される。一方、政府は消費者代表を任命し、一般大衆の利益と、当該製品に特に関心を持つ他の公社の利益を監視する。公社は、雇用者と労働者間の賃金基準と労働条件、そして雇用者と消費者間の価格と競争条件を定めることが求められる。締結されたすべての協定は業界全体に対して法的拘束力を持ち、事実上公社の規則に違反した雇用者または労働者は、裁判所に訴追される犯罪となる。実際には、雇用者連合会と労働組合は、当該産業の100%を構成する組合員間の規律を維持することが期待される。このような適切な仲裁手段があれば、ストライキやロックアウトは当然禁止されるが、雇用主、労働者、消費者は、すべての産業法人の代表者と協議する法人大臣に対し、産業慣行全般と国家福祉に合致する公正な決定を求めることができる。このように法人に権限と自治権を委譲することで、中央議会は現在議会の活動を妨げている詳細な立法手続きから大幅に解放されることがわかるだろう。

法人組織の利用

これまでのところ、新しい経済学は興味深い新しい概念のように見えるかもしれないが、実用性は疑わしい******ebook converter DEMO Watermarks*******

Machine Translated by Google

こうしたシステムは、その相当な複雑さを補うだけの価値がある。しかしながら、こうしたシステムは単なる知的作業として考案されたものではなく、まさに現在のシステムが特に脆弱な部分において計り知れない利点を持つ。例えば、最悪の問題である豊かさの中の貧困を例に挙げてみよう。これは保守派がかつて「過剰生産」と呼んでいたものから生じているが、「不足消費」と表現した方がずっと適切かもしれない。明らかに、現在のシステムのこの欠陥は、人々が近代科学技術の膨大な生産物を消費できる、はるかに高い生活水準を実現することによってのみ是正できる。残念ながら、個人主義システムは、既に過剰在庫となっている市場で商品を売るための熾烈な競争によって、豊かさの時期に賃金または利潤の形で購買力を低下させ、製造業者は市場獲得のために熾烈な競争の中で価格を引き下げざるを得なくなる。しかし、ファシズムの下では、価格と競争条件は統制され、競合他社に先んじるために、企業の規則に反して労働者を酷使するような製造業者は許されない。この手段によって購買力の低下が抑制されるだけでなく、全産業分野にわたる協調行動によって賃金制度全体を恒久的に引き上げることも可能となる。このような行動は明らかに健全であり、近年、多くの公人によって提唱されてきたが、残念ながら現在の個人主義体制の下では実現不可能である。なぜなら、もしある雇用主が国の復興のために労働者の賃金を引き上げようとするほど愚かな試みをすれば、すぐに愛国心のない多くの競争相手が現れ、賃金を引き下げて市場から追い出されてしまうだろうからである。このような政策を成功裏に遂行できるのは、組織化されたファシスト政権の規律と統制の下においてのみである。

同じ手段で、失業という大きな災厄も治すことができます。なぜなら、これが単に現在の国民経済の組織化が完全に欠如していることの結果であることは明らかだからです。
この国では、常に、人時数で計算して実行する必要のある一定量の作業と、その作業を喜んで行う意欲のある一定数の労働者が存在しなければなりません。
労働時間の再調整によって、確かに仕事は労働者全体に分散される。現在イタリアで行われているように、週40時間労働が導入されている。実際、この国のファシスト政府は、労働時間を短縮するよりも、国民の生活水準を向上させるという、より有益な解決策を模索している。しかしいずれにせよ、失業問題は計画的企業国家の組織化によって完全に、そして恒久的に解決される。

金融の機能

現行制度の大きな欠陥の一つは、社会の様々な職業や専門職に、全体への奉仕という機能的目的を浸透させていないことである。このことが金融界において最悪の結果を招き、銀行家や金融業者が私腹を肥やすために金銭の力を不当に利用してきた。実際、この国は他の多くの国と同様に、英国民の福祉よりも外国債券市場の高利回りにはるかに関心を持つ、金融の独裁政権に支配されていると言っても過言ではない。ファシスト政府の第一にして最も緊急の課題は、この現在の国際金融の独裁政権を打ち破り、国内で最も強力な利害関係者に対してさえも機能的かつ社会的目的を強制できる、国民から権限を与えられた権威主義体制に置き換えることである。

現代においてあまりにも忘れられがちなお金の機能は、商品やサービスの交換を容易にすることです。私たちが商品を交換するのがこれほど困難になっているという事実は、******ebook converter DEMO Watermarks*******

Machine Translated by Google

今日の金融とサービスにおける不況は、金融が社会に対する本来の責務を果たせていないことを如実に示しています。技術者や発明家がどれほど優秀で独創的であろうと、十分な通貨やその他の交換手段が流通しない限り、人々の生活水準を向上させることはできません。そうでなければ、発明と産業の合理化は、ますます多くの人々を失業させることにしかつながりません。現在、私たちは銀行によるデフレ政策の遂行のために、深刻な通貨制限に苦しんでいます。この政策の理由は二つあります。第一に、物々交換時代の最後の遺物として、いまだに金本位制に固執する、ある種の根深い保守主義です。

第二に、金融家たちは、取引する商品の量を制限することで、その商品の価値が高まり、自らの力も強まることを認識しています。この二つの理由から、流通する貨幣の量は、本来あるべきように、その国の潜在的生産量に適応しておらず、中央銀行の金庫室にある特定の貴金属、すなわち金の供給量の割合に制限されています。明らかに、この金属の供給量は、金融が解決しなければならない分配問題とは全く無関係であり、実際、世界中の金の量は、近代産業の膨大な生産力を賄うには嘆かわしいほど不十分です。しかし、産業発展のニーズを満たすために通貨と信用を拡大する代わりに、金融家たちは世界の金供給量によって定められた限界まで生産を制限することで、金本位制への回帰を図っています。国際金融家たちは、このような手段によって世界情勢に対する支配力を維持し、拡大していることは間違いありませんが、それは世界の大部分を豊かさの真っ只中にいる貧困へと追いやるという代償を払うことになります。

ファシスト政府は、金融による産業への不自然な支配を覆すことを強く求めるだろう。金融は産業に奉仕する機能を有しており、金融が奪取した産業支配には全く適さないことを、明確にしなければならない。ロンドン•シティの外国上場を通じて、我が国の生産と競合する外国生産の奨励を終わらせなければならないだけでなく、我が国の金融家や銀行家は、これまで一貫して無視してきた分配問題に直面せざるを得なくなる。我が国の貿易の未来は国内市場の復活にあることは既に指摘した通りであり、金融は今こそ国民の購買力を高めることでこの復活を実現する手段に目を向けなければならない。

これは、銀行業務の最も神聖な伝統すべてに対する、途方もなく革命的な決別を意味する。なぜなら、問題の本質は、消費の資金調達に関わるからだ。これまで銀行家たちは、商業分野における生産の資金調達にのみ業務を限定してきた。なぜなら、分割払い業務は、当面の販売のために将来の購買力を担保にするだけであり、実際には消費の資金調達にはならないからだ。

生産力を解放するためには、賃金と給与の水準を引き上げるための資金調達方法を見つけなければならない。もちろん、熾烈な競争に晒されている個人主義体制の現状では、そのようなことは不可能である。そして、賃金引き上げのために銀行に出向き、当座貸越を申請する雇用主は、当然ながら狂人として非難されるだろう。なぜなら、競合他社も同様の措置を取るか、あるいは市場を奪い取るために賃金を引き下げないかという保証はできないからだ。度々賃金引き上げを主張してきたビーバーブルック卿でさえ、この根本的な困難を克服することができていない。

しかし、企業経済学は、まさにその目的のために、即座の解決策を提示している。
企業の目的は賃金率と労働条件を管理し規制することであり、ファシストが
政府が賃金引き上げ政策を実施すれば、愛国心のない企業や外国人支配の企業が競争相手につけこむことはなくなるだろう。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

同じ基準に従うことを強いられる。雇用主が銀行に行き、自分の担当部分を遂行するために当座貸越を申請すれば、銀行家は容易にそれに応じるだろう。なぜなら、社会全体の購買力の向上が、取引先の企業の受注増加とさらなる繁栄につながることを銀行家は知っているからだ。ファシズムはこうした手段によって人々の生活水準を向上させ、産業の生産力向上に必要な通貨と信用の流通量を増加させるだろう。

明らかに、この金融拡張政策は金本位制との完全な決別を伴わなければならず、より保守的な批評家はその結果として通貨の安定性を懸念するかもしれない。
しかしファシズムは、貨幣は実際には商品やサービスに対する権利であり、正常な感覚を持つ人間は誰も銀行に行って紙幣と引き換えに金塊を要求することはないと指摘する。人は必要な商品やサービスと貨幣を交換できればそれで十分満足する。さて、現在この国には明らかに十分な商品とサービスが存在する。実際、倉庫には商品が積み上げられ、200万人以上の国民が無駄にサービスを提供している。利用可能な商品やサービスで賄えない紙幣を発行しない限り、インフレの危険はない。したがってファシズムは、イングランド銀行の金という狭く不安定な基盤ではなく、国の生産資源全体という幅広い基盤の上に通貨を建てるだろう。

帝国の自給自足

国民全体の生活水準を向上させるこの企業経営型産業政策に対する唯一の正当な批判は、我が国が対外貿易に大きく依存しているため、世界市場で競争する国々よりも高い生活水準を維持できないという主張である。しかしながら、この主張は実際にはヘンリー•フォードの例を挙げることで反駁できる。彼は世界で最も安い自動車を生産しながら、最も高い賃金を支払った。フォードがこれを実現できたのは、アメリカという巨大な国内市場があったからであり、この市場は大量生産方式を導入し、生活水準がはるかに低い国々の市場で有利に競争することができた。実際、我々は海外市場を失っている。それは我が国の製品が競争相手の製品よりも高価だからではなく、乗り越えられない関税障壁によってこれらの市場が閉ざされているからである。その背後には国内産業が急速に発展している。我が国の製品がいかに安価になったとしても、他国がそれを買うために自国の産業を破壊し、自国民を失業させるなどということは期待できない。いずれにせよ、賃金率の問題を考慮すると、日本人のような東洋人は私たちより絶望的に優れている。

輸出貿易は、いかなる場合も国の繁栄に不可欠なものではありません。なぜなら、輸出とは、商品を国内に留めて国民の生活水準を向上させるのではなく、外国人が消費するために国外へ送り出すことを意味するからです。長期的には、ロンドン•シティの金融王だけが輸出超過から利益を得ることになります。なぜなら、彼らはこの超過分を基盤として巨額の対外融資を行い、そこから多額の手数料を得ているからです。輸出は、必要不可欠な輸入の支払いにのみ正当化されます。国内で生産可能な輸入品をすべて排除すれば、この国の輸入は大幅に削減できるでしょう。国内で十分に生産できる大量の工業製品が輸入されているという事実は、恥ずべき事実です。国内の資源が全人口を養うのに十分でないという理由だけで、国内農業を軽視する言い訳にはなりません。私たちは、国外に出る前に、少なくとも最大限の国産品を生産すべきです。******ebook converter DEMO Watermarks*******

Machine Translated by Google

残りは海外で。

国内で最大限多様な商品を生産した後でも、完全に自給自足することはできないと否定するのは無駄でしょう。しかし、その一方で、私たちが必要とする商品で大英帝国内のどこかで見つけられないものはほとんどありません。

ファシズムは、狭隘な小イングランド政策ではなく、帝国全体に提供する自給自足の発展という壮大な帝国計画である。オタワで提示されたものよりもはるかに大きな国内市場のシェアが、自治領に提供される。なぜなら、外国からの競争は完全に排除されるからである。帝国全体が、このような経済体制に喜んで協力するであろうことは疑いの余地がない。この体制は、世界危機や世界恐慌の影響から隔離され、かつてないほど高い生活水準を築くことを可能にする、完全に自給自足の帝国を形成するであろう。

最後に、ファシズムの企業原理が国際貿易に適用されることを想像する必要があります。
輸入業者はもはや、適切と考える市場で購入することは許されず、輸出市場を獲得するために国家の購買力を利用する外国貿易局を通して行動することを義務付けられる。ファシズムは最初から、英国は英国から購入する者から購入するという政策を採用するだろう。そして、もし外国が英国に不足している商品を売りたいのであれば、代わりに英国から商品を受け取ることを義務付けるだろう。他の国々も同様の方法を採用するにつれ、最終的には国と国の間で組織化された物々交換の一般的なシステムに到達するだろう。これは、国際金融の策略や国際高利貸しの束縛から自由な、計画的な国際貿易の唯一の現実的な手段である。

企業世界秩序

ファシズムが国家的な意味で完全に自己中心的であると想定してはならない。確かに自国を第一に考えることはファシズム哲学の本質的な特徴ではあるが、だからといってファシズムが国家間の対立を暗示し、経済的な理由による戦争につながると考えるのは早計であろう。むしろ、現在の体制の極めて深刻な危険性は、世界市場をめぐる争いが激化の一途を辿り、戦争に発展する可能性があることである。実際、極東ではすでに市場をめぐる戦争が起こっており、ヨーロッパ諸国が巻き込まれるのを辛うじて避けてきたに過ぎない。実際、経済計画という企業システムは戦争の危険性を最小限に抑えるだろう。なぜなら、戦争の経済的要因を人間の意識的な制御下に置くからである。もはや各国が隣国に最大限の輸出を押し付けるという問題ではなく、国家経済を完全に企業として統制する権威ある政府が、産業発展に必要な必須原材料を共有し、交換するために会合することになるだろう。これらの原材料は不足しておらず、実際に市場への供給過剰を防ぐために生産が大幅に削減されているため、各国が互いに破滅させることで自らの利益が得られるという馬鹿げた考えを捨て去れば、この比較的単純な問題を友好的に解決することは何ら困難ではないだろう。

未来の世界にも競争は確かに存在するだろう。しかし、それは競争ではなく、成果を追求する競争である。秩序ある世界において平和と繁栄を実現できるのは、社会と経済生活の組織体系に沿ってのみである。自国の国政を秩序正しく整え、他国にも同様の行動を促すことで、自らの役割を果たそうではないか。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ジェームズ•ドレナン著『ナチス運動の視点』

Tイタリアのファシストたちは、ヒトラー氏が「三国帝国」の知的インスピレーションとして生み出したイタリア民族主義に、莫大な人種的背景を与えようとしたことは一度もありません。もし過去の歴史の主張に基づいて近代政策を立案しようとする誘惑に駆られた民族がいるとすれば、それはローマ帝国の支配者たちでしょう。しかしムッソリーニ氏は、ローマ帝国の領土的栄光の文字通りの復活ではなく、ファシズムの概念に基づく究極の汎ヨーロッパ連合を目指しているようです。一方、ヒトラー氏は、ドイツの歴史に深く根ざしたドイツ（あるいはアーリア）民族の排他性という理想を描き出しました。しかし、このドイツの概念は、正しく理解されれば、西洋の再生の精神的基盤を形成する運命にある信条としてのファシズムに対するイタリア人の理解と全く矛盾するものではありません。また、それはイギリスにおけるファシズムの根源である大英帝国という崇高な概念と衝突するべきではない。なぜなら、いかなる点においても利害の衝突は生じないからだ。むしろ、世界ファシズム理論への多様な貢献は、破壊的ではなく、むしろ補完的なものとなり得る。

ナチスが人種的歴史解釈を採用した経緯を理解するには、過去千年にわたるドイツ史の特定の状況と動向を考察する必要がある。人種的歴史解釈は、フランス人ゴビノーやイギリス人ヒューストン•スチュワート•チェンバレンといった外国人著述家によって前世紀に初めて提唱され、ナチス指導者によってドイツ大衆に受け入れられた革命的理想の基盤として、そしてドイツ帝国の現在の国家政策の原動力として採用された。このような歴史解釈を理解するには、過去千年にわたるドイツ史の特定の状況と動向を考察する必要がある。このような研究によってのみ、現代ドイツ人の信念の基盤に迫り、自らの信念の正当性を強く確信する国民を、ドイツの支配者たちがどのような方向に導こうとしているのかを理解することができる。

8世紀に古代ローマの帝国構想を真に継承したのは、ゲルマン諸部族であった。西方皇帝と称されたカール大帝の帝国は、民族的にはフランスよりもドイツ人色が濃く、カール大帝の死後、領土の各地域の継承者がそれぞれフランス語とドイツ語の方言で宣誓を行ったことで、フランコ＝ドゴール派の勢力がゲルマン人と区別されるようになった。13世紀後半になっても、ホーエンシュタウフェン家の皇帝はイタリア全土と現在のフランスの大部分をドイツ帝国の属州とみなし続けた。注目すべきは、当時ドイツはエルベ川の東側にはほとんど広がっていなかったが、ネーデルラント、ブルゴーニュ、サヴォワ地方とフランシュ＝コンテ地方の一部は、程度の差はあれ、時期も様々であった。

この国の歴史教育の欠点の一つは、我々が自国の歴史を他のヨーロッパ諸国の歴史との関連で、また大局的に捉えることをほとんど許されていないことである。825年のルートヴィヒ2世の即位から1250年のフリードリヒ2世の死までの4世紀――我が国の歴史におけるアルフレッド大王とヘンリー3世の治世の間の時期にほぼ相当する――ヨーロッパの歴史は、大部分がドイツの歴史であった。我が国の歴史が極めて地方的な時代――そこでの出来事がヨーロッパ史の主流からかけ離れていた時代――例えば、現代ノルウェーの個別史が現代ヨーロッパの歴史からかけ離れているように――ドイツは、大戦の誕生をもたらした大闘争の舞台であった。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

中世ヨーロッパ文化の隆盛期、そしてハインリヒ2世、オットー大帝、フリードリヒ1世といった皇帝たちは西ヨーロッパの調停者となり、ユトランド半島からシチリア島、ブルゴーニュからハンガリーに至るまで、あらゆる出来事の主導権を握った。現代ドイツ人が自らの歴史に並々ならぬ誇りを抱き、戦後ヨーロッパの領土状況に苛立ちと閉塞感を抱くようになった理由を理解するには、この時代が現代ドイツ人の心にどれほど大きな影響を与えたかを理解することが重要だ。

973年に死去したオットー大帝は、ほぼ千年前の1000年前に、ここ数年、ナチスのパンテオンにおける最高位の人物となり、ドイツの書店ではヒトラーやゲーリングとほぼ同数の肖像が並んでいる。実際、ドイツ史の過程全体は「発達停止」現象の一例であり、現代ドイツの国民心理に連想される特異な兆候は、その必然的な派生である「フラストレーション•コンプレックス」に由来する。ホーエンシュタウフェン家の権力の規模と揺らぎこそが、ドイツ民族の破滅を招いた。この一族の輝かしい皇帝たちは、カール大帝の汎ヨーロッパ帝国の夢に魅了され、一世紀以上もの間、イタリアへの野望を追求するためにドイツ人の力を浪費した。オットー大帝の初期の政策は、偉大なドイツ国家の確立であった。ホーエンシュタウフェン家は、ハプスブルク家が継承した汎ヨーロッパ主義の理念に魅了されました。ホーエンシュタウフェン家の没落は、イギリスとフランスが国民国家へと発展しようとしていたまさにその時に、ドイツを弱体化させ、中央の力も失わせました。そして、最終的にはチューダー朝とヴァロワ朝の下で達成されました。ホーエンシュタウフェン家の政策の誤りは、ドイツの観点から見ると、さらに悲劇的なものに映ります。それは、フリードリヒ2世の治世下、ドイツ騎士団がエルベ川を越えバルト海沿岸を回ってドイツ人による大移動「東方への旅」を行っていたこと、そしてこの大規模な移動が最終的にドイツ中央からの推進力の衰えによって頓挫したことを思い起こすからです。

1250年のフリードリヒ2世の死から1546年のマルティン•ルターの死まで、ほぼ正確に3世紀が経過しています。これはやや恣意的な区分ではありますが、一般化のためには許容範囲です。この3世紀の間、ドイツ国民の将来と性格は大きく変貌しました。その後のドイツ史の発展に根本的な影響を与えた主要な歴史的潮流は3つあります。

まず、ドイツと北イタリアの両都市は、中世にヨーロッパとビザンチン•サラセン東方を結ぶ東西交易の主要ルート沿いで発展したにもかかわらず、その経済的優位性を失いました。トルコによるコンスタンティノープルの占領は、このルート沿いの地域全体の繁栄を大きく破壊し、アメリカ大陸の発見とケープ•ルートの開通は、経済の中心を大西洋沿岸諸国、すなわちスペイン、ポルトガル、イギリス、フランス、オランダに移しました。実際、ドイツにおける宗教改革と17世紀の三十年戦争は、いずれも主要交易拠点の移行に伴って生じたであろう経済混乱の激化に端を発していると言っても過言ではありません。

この時代における第二の大きな歴史的潮流は、ホーエンシュタウフェン家の流れを汲むハプスブルク家の台頭であった。ハプスブルク家はドイツ諸侯であり、ドイツ領土に広範な私領を有していたが、オーストリア（ドイツ東部辺境地のオースターマルク）における彼らの地位は、彼らの利益において本質的に非ドイツ的なものであった。ハプスブルク家の伝統的な政策は、汎ドイツ主義者、そしてドイツ人の間でどれほどの異常な憎悪が向けられていたかを容易に説明する。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

特にナチスは、「オーストリア理論」全体に対して、その影響力を行使してきた。ハプスブルク家は、以前のホーエンシュタウフェン家と同様に、自らをローマ帝国の継承者とみなし、世界支配、あるいは少なくとも実務においては汎ヨーロッパ的覇権を主張した。この驚異的なハプスブルク家は、歴史の様々な時期に、イタリアの勢力、スペインと南米の勢力、スラブの勢力、アジア、さらにはアフリカにまで野望を抱く勢力であったが、純粋にドイツの利益を意図的に優先させるような勢力ではなかった。

[1] ハプスブルク家は、トルコによるコンスタンティノープル征服後の4世紀にわたり、大きな役割を果たした。彼らはトルコの西方への軍事的進撃を阻止し、ビザンツ帝国皇帝の後継者として南東ヨーロッパ全域における文明化の担い手となった。しかし、彼らの役割はヨーロッパにとって貴重なものであったと同時に、ドイツ国民という概念にとって壊滅的なものでもあった。

彼らの地中海への関心は、ドイツにおける統一のプロセスを無期限に延期することになり、彼らの王朝政策は、実際にはドイツ語圏の領土の分割という結果につながった。

ドイツ史の発展に大きく影響した三つ目の出来事は、1250年から1550年にかけて進行した、ドイツ語圏の分割と、自らをドイツ人と称する人々の人種的性格の変容であった。この現象は、イギリス、フランス、スペイン、さらにはハンガリー、チェコ、ポーランドといった国家が出現し、統合され、ヨーロッパが現在私たちがよく知る形態を呈し始めたのも同時期であったことを想起させると、極めて重要な意味を持つ。

カール大帝の時代には、チュートン人とフランク人の違いは明確に定義されていませんでした。ザクセン人の覇権下にあったイングランドは、大部分がドイツ王国であり、ロンゴバルド人の支配下にあった北イタリアも同様でした。まず、イングランド、東フランス、北イタリアにおいてドイツ人勢力の吸収が起こりました。この過程は、実際には1250年にフリードリヒ2世が死去するずっと以前に完了していました。その後300年間で、ドイツの西部国境はライン川に向かって押し戻されました。ブルゴーニュやフランシュ＝コンテといった地域は、よりフランス色を帯び、よりドイツ色を帯びるようになりました。ネーデルラントは完全に非ドイツ的になりました。スイスが誕生し、相当数のドイツ人がスイスという概念に共感するようになりました。オーストリアにおける重要なドイツ領地は、大部分が非ドイツ的であったハプスブルク帝国の不可欠な一部となりました。これらの分遣隊の成果は、近代ヨーロッパ史において依然として重要な意味を持っています。それらはオーストリア問題を説明するものです。

これらは、アルザス＝ロレーヌ問題――ドイツ領であることは完全には消えず、完全にフランス領になることもなかった地域をめぐる確執――を説明する。また、ナチスがオーストリアとチェコスロバキアだけでなく、オランダ、デンマーク、スイス、ベルギーでも、程度は低いものの、汎ドイツ主義の復活を試みたことを説明する。

しかし、ドイツ語圏の国境がライン川の方へ押し戻され、最も純粋なドイツ人の血を引く人々がスイス人、フランス人、オランダ人に変容していく一方で、ドイツ語とドイツ文化は急速に東方へと広がり、北東ヨーロッパの原始的な非ドイツ人集団は自らをドイツ人と考えるようになっていった。東方へのドイツ植民地化は、エルベ川東岸、後にはオーデル川以北のスラヴ人およびフィンランド人部族を征服し、布教したドイツ騎士団と、バルト海沿岸全域に交易拠点の建設に携わったハンザ同盟都市によるものであった。最終的に、この方面におけるドイツの進出は、ポーランドの軍事力、スカンジナビア諸国との競争、そしてもちろん、後には18世紀初頭のロシアの大国としての台頭によって阻まれた。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

18世紀にまで遡る。しかし、この運動が13世紀から15世紀にかけて終焉を迎えたことを念頭に置くと、それは偉大な成果であった。当時、中央ドイツの鼓舞は弱く、多くの場合、存在すらしていなかった。バルト海におけるハンザ都市とドイツ騎士団の役割は、イタリア共和国と地中海におけるラテン騎士団の役割と非常によく一致していた。彼らは、イタリア中央勢力が存在しない時代に、東方において積極的な対イタリア政策を維持することに成功したのである。

中世の「東方への旅」の半ば失敗した事実の中に、現代ドイツ人の自国史解釈の根底にある「フラストレーション•コンプレックス」の第二の要素が見出される。ナチス――特にゲーリング将軍とローゼンベルク氏が属する「プロイセン学派」とでも呼べる者たち――は、ドイツの野望が西側諸国に閉じ込められていることへの代償として、バルト海諸国へのドイツの侵攻と植民地化の復活を常に模索していた。

中世の「東方への旅」の最も重要な成果は、プロイセン国家の建国であった。プロイセンの土着民は、主に北欧の最も原始的な民族であるスラヴ人とフィンランド人を起源とし、そこに、かつてのドイツ文化の中心地から東へ移住してきた好戦的で困窮した人々が混ざり合っていた。プロイセン人は、中世で最も血に飢えた2世紀にわたる戦争の結果として、一つの民族として形作られた。

16世紀から17世紀にかけての歴史の大部分を占めるドイツにおける宗教改革は、ある側面においては、ハプスブルク家に対する汎ドイツ主義（ローマ•カトリック主義）の理念に対する、挫折したドイツ民族主義の、主に無意識的な運動と見なすこともできる。宗教改革は三十年戦争で頂点に達し、その後1世紀近くドイツは荒廃し、ハプスブルク家の勢力は著しく弱体化した。1683年のウィーン包囲戦で示されたトルコの勢力回復は、ハプスブルク家の弱体化の結果の一つであり、三十年戦争はおそらく南東ヨーロッパにおけるトルコの支配を2世紀以上も長期化させる結果をもたらした。

フランス王政の台頭は、あらゆる形態のドイツ統一の確立にとって深刻かつ永続的な脅威であった。フランソワ1世はトルコと協力してハプスブルク家に対抗し、ヴァロワ家は東方におけるドイツに対するポーランドの防壁構築を最初に試みた。続く18世紀、三十年戦争においてドイツの駒を動かしたのはリシュリューであった。彼の政策の結果、ドイツは1世紀にわたりブルボン王朝のなすがままに放置され、フリードリヒ大王率いるプロイセンの台頭によって全く新しい勢力がドイツ政治にもたらされた。

フリードリヒ大王の登場とともに、ドイツ史の近代期――ホーエンツォレルン家とハプスブルク家の争い――ドイツ化を志向するプロテスタントで半ドイツ的なプロイセンと、非ドイツ化を志向するドイツ系オーストリアとの争い――そして王朝の枠内では汎ヨーロッパ主義を掲げるオーストリアとの争い――が、間接的ではあるものの、先の大戦の主因の一つとなった。宗教改革は、ドイツ国内の一部において汎ドイツ運動として行われたが、15世紀における交易路の転換によってドイツが陥った経済的後進性に対する反動でもあったと考えられる。ヴァレンシュタインは、疑いなく同世紀における最も偉大なドイツ人であり、汎ドイツ統一という広い、しかし漠然とした理念を抱いていた。そして、ハプスブルク家の利益に反して北ドイツ諸侯と陰謀を企てた結果、命を落とした。フリードリヒ大王は中央ヨーロッパにおけるハプスブルク家の覇権に真剣に挑戦し、革命前のフランスの弱体化につけ込み、東方におけるプロイセンに対するポーランドの防壁を崩した。ナポレオン戦争は、この対立における不快な幕間に過ぎなかった。******ebook converter DEMO Watermarks*******

Machine Translated by Google

二つのゲルマン大国間の緊張関係。その結果、プロイセンの立場は大幅に強化された。なぜなら、ドイツにおける独立諸侯の勢力は弱体化し、19世紀前半にはプロイセンが小国を関税同盟に強制的に加盟させることが可能になったからである。フリードリヒ大王はシュレージエンを征服していた。ナポレオン戦争中の大陸封鎖に後継者たちが強制的に参加したことで、イギリス製品の輸入が制限されたことで生じた供給不足を補うために設立されたドイツ製造業の基盤が築かれた。関税同盟はプロイセンと旧ハンザ都市を結びつけ、近代化された北ドイツは、ルネサンスの遺物に過ぎないオーストリア帝国と対峙した。

1866年、オーストリアはドイツ連邦から追放され、ドイツ列強としての地位を失っていた。ほぼ同時期に、オーストリアは19世紀前半まで支配権を握っていたイタリアからも追放され、もはやイタリア列強としての地位も失っていた。しかし、ここにハプスブルク家の驚くべき政治的柔軟性が見て取れる。

19世紀後半、オーストリアは急速にスラヴ人の勢力へと変貌を遂げ、オーストリアとボヘミアに居住していた少数のドイツ人臣民を支配下に置いた。もしフランツ•ヨーゼフがもっと早く亡くなり、フランツ•フェルディナンドがもっと長生きしていたら、オーストリアはマジャール＝スラヴ連邦として存続していた可能性もあった。しかし、老皇帝はエドワード王にこう語ったように、「自分がドイツ人王子であることを決して忘れることはできなかった」。

戦争前の20年間、オーストリアでは、ウィーンの市長として名声を博したカール•ロイガーに率いられた強力な汎ドイツ運動が勃興し、ハプスブルク帝国と君主制の終焉、そして帝国のドイツ領を大ドイツに統合することを強く望んでいた。もし汎ドイツ的解決、あるいはフランツ•フェルディナント大公の「連邦主義的」（スラヴ主義的）解決のどちらかが実現していたならば、ヨーロッパの歴史は全く異なる方向へと導かれていたかもしれない。しかし、ホーエンツォレルン家は実際にはホーエンシュタウフェン家とハプスブルク家の役割を引き継いでいた。ハプスブルク家は事実上、属国諸侯の地位に押し込められており、三国同盟政策の発展に伴い、ホーエンツォレルン家は神聖ローマ皇帝の汎ヨーロッパ政策に新たな力と新たな指針を与えたに過ぎなかった。

アドルフ•ヒトラーは戦前のウィーンにおける汎ドイツ主義プロパガンダの雰囲気の中で育ち、戦後の著作の中で、ホーエンツォレルン家によるものとされる反ドイツ的かつ純粋に王朝主義的、資本主義的独占主義的政策を痛烈に非難している。また、ホーエンツォレルン家が開始し、フーゲンブルクやシャハトといった先鋭のナショナリスト政治家が今もなお支持している植民地拡大政策にも反対していた。したがって、ナチスの政策を実際に支配するこれら二つの重要な傾向を念頭に置く必要がある。第一に、ナチスの政策は、ハプスブルク家とホーエンツォレルン家の破滅的な汎ヨーロッパ政策への反動として、本質的に国家的なものであるという点である。 「東方問題全体は、ポメラニアの擲弾兵一人の骨にも値しない」と宣言したビスマルクの精神を受け継ぎ、この条文は、非ドイツ領土をドイツの支配下に置くといういかなる野望も否定している。一方で、ドイツ語圏の住民が居住するすべての領土を「三国帝国」の枠組みに組み入れる必要性を強調することで、ヨーロッパの既存の国家体制への挑戦を提起している。

表面的に見れば、ナチスの理想主義者による汎ドイツ主義の主張は、ヨーロッパの平和維持とは相容れないように思われる。しかし、ヒトラー氏が根本的に主張していたのは、ドイツは列強諸国の中で対等な存在として扱われるべきであるだけでなく、列強諸国はドイツの正当な拡張を認め、必要であれば拡張の道筋を見出さなければならないという事実を認識することであった。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ドイツの野心的な領土政策に、特に不道徳な点は何もありません。過去15年間、我々はフランス民主主義の排他的で強硬な大陸政策を容認してきました。また、国際連盟は東ヨーロッパにおける新たなスラブ集団の発展を後押しするために広く利用されてきました。ヨーロッパの国境は常に極めて流動的であり、ヨーロッパ史の現時点において、国境を特に恒久的なものと見なす歴史的な根拠は存在しないことを忘れてはなりません。

東ヨーロッパにおいて、スラブ人集団（ポーランド、チェコ人、バルカン半島のスラブ人）は、ロシア人とは異なり、ヨーロッパ史においてかなり永続的な要素として位置づけられていると考えるべきでしょう。ポーランドとボヘミアはどちらも、プロイセンよりも古い国家でした。一方、ロシアは比較的新しい存在であり、18世紀初頭にようやくヨーロッパの列強として台頭しました。これは、ピョートル大帝とエカチェリーナ2世という二人の偉大な統治者によるものです。先の大戦でエカチェリーナ2世の功績は覆され、ロシア国境はプリピョートル大帝の湿地帯の背後に押し戻されました。ボルシェビキは、かつてのロシア帝国の文化的基盤と国家的基盤の両面を大きく揺るがしました。安定した制度と思想は破壊され、ソビエト連邦を構成する多くの民族は、一般には認識されていない速度で分裂傾向を強めています。ロシアは政治的に無人地帯となりつつありますが、極東の日本人はこの事実を非常に重く受け止めているようです。

この点において、最近のドイツ•ポーランド協定は意義を帯び、バルト諸国の政治に全く新しい方向性が生まれる可能性を示唆している。ドイツとポーランドは共に、「農民の拡張」の余地とでも言うべきものを必要としている。ヒトラー氏や、ダレやローゼンベルクといったナチス•イデオロギーの推進者たちは、ナチス•ドイツが目指したのは、ドイツ農民が自らの土地を耕作し、ドイツ人コミュニティがドイツの不可欠な一部として生活を築くことができる、空き地の確保であると強調してきた。これは、ホーエンツォレルン家や、シャハトやフーゲンブルクといった近代保守民族主義者の「植民地帝国主義」とは全く異なる概念である。ポーランドとの戦争に勝利したとしても、ドイツの「農民の拡張」という問題は解決しないだろう。なぜなら、ポーランド自体が人口密度が高く、増加傾向にあるからだ。しかし、両国は東方において野心を抱いており、それは17世紀から18世紀にかけてスウェーデンの介入とロマノフ帝国の台頭によって阻まれた。こうした野望の可能性を彼らが最近思い出したのは、戦争中にドイツがバルト三国を占領したとき、そして1920年にポーランドがウクライナを占領したときだった。

ロシアからの分離を望むウクライナ民族主義者は、ベルリンとワルシャワと非常に重要な関係を築いており、これらの勢力が「極東」ヨーロッパにおけるドイツ•ポーランド共通政策の基盤形成に重要な役割を果たす可能性がある。戦争の見通しは当然ながら不安を掻き立てるものだ。しかし、西ヨーロッパにおける将来の戦争を不可避にする最も直接的な方法は、ドイツの願望だけでなく、ドイツの必要性も無視することであることは明らかだろう。そして、ドイツのエネルギーを東方へと放出することは、ライン川沿岸やオーストリアにおける「膠着状態」よりも、はるかに望ましいように思える。そして、それが唯一の究極の選択肢である。

ナチス•ドイツには、英国に対する敵意は驚くほど少なく、ナチス政権発足以来、国内の一部報道機関、そして一部の政治団体が極めて挑発的な姿勢をとったにもかかわらず、公式のプロパガンダを英国に向ける傾向も見られない。もちろん、アフリカ植民地のドイツへの返還を求める運動は存在するが、この運動の火付け役は、今や重要性を失った保守民族主義者のグループに大きく起因している。これらの植民地が我々にとって、あるいはドイツ人にとってどれほど価値があるかという点については意見が分かれるかもしれないが、ヒトラー氏自身も、民族主義者グループを鼓舞する「植民地帝国主義」を軽蔑していると公言している。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

確かに、「輸出資本主義」に基づく政策――そして植民地を要求する政策――は「自給自足国家」の経済理論に反するものであり、ナチスは――少なくとも現段階では――アフリカへの再進出を望んでいないと言っても過言ではない。彼らのプロパガンダは、自給自足国家の基盤としての農民生活の復興と、ドイツ農民共同体が広がり、ナチスが万物の始まりと終わりと見なすドイツの共同生活を展開できる、地理的にドイツに隣接するさらなる土地の必要性に重点を置いている。もしそのような政策が、イギリスの利益ではない権力や利益と対立させるならば、人類の歴史を汚した最も腐敗した暴政からの免責を維持するために、イギリスが十字軍を派遣することは、ほとんどすべきことではない。

---

[1] ただし、おそらく皇帝ヨーゼフ2世の短い統治期間を除いては。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ジョン•ベケット著『社会民主主義の衰退』

あ前回の総選挙以降の補欠選挙の結果を分析すると、労働党の平均支持率は1929年と比べて約15パーセント上昇している。1929年には289議席を獲得し、5人の無所属議員の支持を得て、ロビー活動の勢力は294だった。あと13回勝利していれば、労働党は政権を握ることができただろう。1929年の数字に基づくと、補欠選挙と同等の支持率上昇率があれば、労働党は議会で明確な過半数を獲得するのに十分であった。最初の選挙でファシズムへの大きな流れがない限り、このような事態を回避できる要因は他にないと結論づけることができる。振り子の規則的な揺れが起こり、議会の両派はサッカーのハーフタイムのように入れ替わるだろう。

労働党が議会を掌握した場合のあり得る道筋について、我が国の「国家指導者」や報道機関が表明する様々な意見を研究することほど、悲劇的でなければ面白いことはないだろう。スタッフォード卿を運転手として、赤一色の道を進む英国のビジョンから、グリーンウッド氏とダルトン博士の穏やかな慰めまで、実に様々だ。彼らは、繁栄を除けば英国は変わらないというイメージを描き出す。信じられないほど「紳士的」なスーパーマンたちがフロントベンチに座り、メイフェアの家賃収入を着実に増やし、我が国の美しい顔からスラム街を一掃していくのだ。

大きな悲劇、赤き破滅、そして有益な効率性が、次々と予言されている。労働党の基盤となっている社会民主主義の原則、そしてこれらの原則（あるいは原則の欠如）が、実際に試されたあらゆる国でどのような運命をたどったのかを、預言者たちが綿密に検証しようと努めたことがないのは驚くべきことだ。本研究は、労働党の過去の歴史を概観し、党首の人格と実績を公平に検証することにより、これまで検討してきたどの結論よりも劇的ではないものの、はるかに恐ろしい結論を必然的に導き出す。

労働党政権は革命でも進化でもない、と私は主張したい。それは、何の指針も持たない無名の人々による、骨身の無い政府であり、口先だけの不誠実な言葉の渦の中で方向性を見失い、神経質で経験不足の閣僚によって悪化した経済不安と金融パニックの中で、言葉にならない不安を表明することを意味する。

弱者への恩恵がなければ、労働党はトップに吠え、警鐘を鳴らす存在として頼りにされるだろう。その結果は、容易に対処できる突発的な大惨事ではなく、国の活力を奪い、衰退を急激に加速させ、もはや歯止めをかけることなど不可能だろう。実際、社会民主主義の理論は、1933年の労働党自身の公式弁明に凝縮されている。「我々は無力だったかもしれない。しかし、常に正しい道を歩んできたのだ。」

近代機械と科学による生産力の大幅な向上によってもたらされた経済状況の変化に直面して、ファシズム、共産主義、社会民主主義の 3 つの基本思想が、1918 年以来ずっと文明世界の人々の心の中で覇権を争ってきました。

一見すると社会民主主義が最も魅力的だ。共産主義は不可能を要求する。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

混乱と犠牲を伴い、極めて物議を醸す結果を得る。ファシズムは、人間の高尚で自己犠牲的な側面に強く訴えかける。平均的な人間は怠惰で自己中心的である。労働を望まず、規律を受け入れることも望まない。何よりも、人類の利益のために考え、犠牲を払うことを望まない。社会民主主義は、苦痛のない快楽、努力のない理想主義、計画のない繁栄と正義を約束する。大衆にとってこれ以上効果的な麻薬は考えられない。戦争による猛威が猛威を振るったロシア、イタリア、ドイツで、これらの国々が社会民主党に救いを求めたのも無理はない。

これらの国々における社会民主主義の失敗を、引用文を交えながら長々と検証する紙幅の都合上、不可能である。社会民主主義は、約束したように略奪的資本主義から社会主義への平和的転換を成し遂げることができなかっただけでなく、少なくともドイツにおいては強固な同盟関係を築いていた強盗をほんのわずかでも阻止することができなかった。三国とも、労働者は社会民主主義が政権を握る以前よりもはるかに悪い状況に陥っていることを悟り、三国とも、この教訓は労働者がそのような形態の民主主義に背を向け、国民的指導の下で威信と効率性を取り戻そうと努力するのに十分であった。後進国であるロシアは、今や急速に消滅しつつある共産主義の形態を採用し、文明水準がより高いイタリアとドイツは、救済を求めてファシズムに頼った。

社会民主主義理論をざっと調べてみれば、
これら 3 か国で起こったことは不可避であり、その政策が試みられる場所では必ず起こるものである。

社会民主党はデマゴーグを合理化する者であり、彼の党は常に党員集会に支配され、その高位には、巧みな演説力以外には何も推薦できるものがない人物がひしめき合っている。最高位の地位はデマゴーグにのみ開かれている。その理念が曖昧で、反対派の理念が明確であるように、その指導者には共産主義者のような狂信性もファシストのような厳格さもない。選挙で権力を獲得せよ。物事を実行する力ではなく、政権を握る力だ。富裕層にも貧困層にも等しく友人となることを約束せよ。スラム街を廃止し、スラム街の所有者と食事を共にせよ。賃金は上げよ。だが、悪徳雇用主には肩書きを与えよ。

銀行を国有化するが、銀行家には従う。歓迎のキスで国際資本を打ち負かすのだ。
他国のことに干渉しながら軍備を削減する。これらは労働党候補者にとって、より適切なスローガンの一部である。厳しい現実の世界において、日和見主義、理想主義、そして全くの弱さが混ざり合ったこのスローガンが、責任を問われるたびに崩壊してきたのも不思議ではない。

労働党の歴史を検証すれば、これらの傾向がいかに正確に現実に現れているかが分かる。そして、引用した大陸諸国ではより深刻な衰退の段階にあったとはいえ、それらの近年の歴史を我が国の経験と比較することほど衝撃的なものはない。社会•経済の困難は、国家構造の変革の必要性を広く認識させるに至った。一見容易そうに思えた社会民主主義の道が試みられ、混乱と腐敗が続いた。そして、誤って独裁制と呼ばれた指導力に頼らざるを得なくなったのである。

わが労働党を研究すると、既に述べた社会民主党と全く同じ傾向が見られる。最も楽観的な支持者でさえ、党の信念と政策全体に二つの一貫した流れがあると本当に主張できるだろうか？たとえ過去の政権記録がそれを証明できなくても、党首の演説やデイリー•ヘラルド紙のコラムには、ありとあらゆる矛盾が潜んでいる。社会主義同盟と、最も冷静な労働組合の指導者でさえ、選挙での勝利への願望においては一致しているが、その二つの流れを一つにまとめることは不可能である。

Machine Translated by Google

勝利を収めた後の政権構想において、彼らの共通点は一つだけである。複数の演説者がいる労働党の集会に出席すれば、演説者たちが高尚な願望を超えて現実的な政策に踏み込むと、最も顕著な違いがすぐに浮かび上がるだろう。

1922年に初めて真に大規模な労働党議会が誕生した。1906年の「雑多な議会」でさえ、これほど奇抜な面々がウェストミンスターに集結したことはなかった。スキャンロンが『労働党衰亡史』で述べた描写以上に、彼らについて的確な描写はないだろう。

「しかしながら、政治は逆境と同様、奇妙な仲間同士を生み出すものだが、1922 年の議会で労働党のベッドに隣り合って押し込められたような、奇妙で多様なタイプの人々を団結させることに、最悪の逆境が成功したことはなかったと言っても過言ではない。不満を持つ者は皆、労働党は個人の過ちを正すためだけに存在すると信じて党に入党した。そして、金持ちが入党す 。。。ると、その不満が適切に処理されるように、自分たちも議会に採用されるべきだと直ちに感じた。候補者を配置する仕事をしていた労働党の全国組織者、エガートン ウェイク氏が、党の最大の悩みは不満を抱えた将軍の過剰摂取だと言っていたことを思い出してほしい。」 私

全体的に見て、奇妙な人々が労働党に入り込んできた。それぞれが固定観念を持っていた。中には、使い古された馬のことに集中する者もいれば、抑圧された少数民族のことに集中する者もいた。ただし、少数民族があまり近くにいなければの話だが。戦争で見落とされ、昇進制度を全面的に変更したいと考える将軍もいた。また、（将軍ではないが）安息日を聖別するために時間と労力を惜しまない者もいた。失業者に課せられた過酷な状況には平静を装える者もいたが、労働者クラブを一つでも追加することを提案されたら、喜んで党を破滅させたであろう者もいた。神に毎日とりなしを祈るグループミーティングが貧困問題を解決すると信じる者もいたし、何に対しても明確な見解を持たない者もいた。

1906年、労働党議員の一部が、議員としての人生を捧げたいと願う重要な問題を世間に示唆した際、バーナード•ショー氏は彼らと関わりを持ったことを全世界に謝罪した。1922年に彼が何を言ったのかは記録に残っていない。

1年も経たないうちに、この雑多な集会は国の正式な政府となった。
就任から数ヶ月後、国は即座に解任した。ミスター氏の5年間の任期は、
ボールドウィンは国民の心をあらゆる選択肢に備えさせ、1929年に労働党政権が誕生した。労働党は過半数にわずかに届かないものの、下院議席内ではほぼ常に実質的な多数派を占め、1931年の危機で一時的に選挙で消滅するまでの2年半、不快感と屈辱感の中で政権を握った。

ロシアでは、ケレンスキーは、憤慨し失望した国民の前で逃亡する直前まで、慎重な姿勢を貫いていた。国民は、ケレンスキーがこれまで示したことのない指導力を求めてボルシェビキに頼っていたのだ。イタリアでは、社会民主党が工場を占拠したが、経営計画を持たず、ファシストに追われ、破壊されるに任せきりだった。ファシストはイタリア人に、演説の代わりに計画を、陰謀の代わりに行動をもたらした。ドイツでは、1919年に全権を握っていた社会党が、恐怖に駆られてユンカースに助けを求め、12年間ワイマール憲法に屈し、1933年には、ほとんど抗議の声も上げずに、ヒトラーと規律ある突撃隊の指導部に道を譲った。

イギリスの元社会党議員が、社会民主主義の存続は権力を獲得しないことにかかっていると書いているのも不思議ではない。この記事は、次のような警告で始まっている。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

補欠選挙の数字が意味を持つならば、労働党は次の選挙で再び政権を獲得しなければならない。
読者は、上記の事実を踏まえて、何百万人もの有権者が再び労働党に投票できるのかと疑問に思うかもしれない。その答えは、労働党のあらゆる政策綱領で繰り返される、もっともらしい言い訳にある。「我々は過半数を獲得したことが一度もない」

驚くべきことに、有権者の大多数は、もし1929年にあと20人の労働組合指導者か中流階級の知識人が当選していれば、労働党政権は選挙運動中に掲げた数々のユートピア的公約を実行に移すことができただろうと、心から信じているようだ。過半数割れが、労働者階級にとって、異常事態法や石炭鉱業法といった、明らかに労働者階級に反する法案が、しばしば自由党と保守党の一部の票に反して下院に提出され、強行採決された理由をどう説明するのか、私には理解できない。国会議員が307人ではなく294人しかいないという理由で、階級憎悪を説き、大衆を結集して資本主義を打ち砕こうとする主張が、なぜ蔓延するスノッブ主義とロンドン市への卑屈な服従に変わってしまったのかは、決して説明されない謎である。

労働党に他にどんな欠点があろうとも、厄介な質問に直面するという問題を解決するために、彼らは大きな努力をしてきた。そして、それらに背を向けることが最善の方法だと悟ったのだ。説明は非難に変わり、説明は激しい非難に変わり、過去の約束を果たせなかったとしても、有権者の目には、未来への約束をする際には寛大な姿勢が十分に覆い隠されているように見える。

労働党が統治できないことの最大の証拠は、過去の失敗（それは確かに軽蔑すべきことだったが）ではなく、指導部の心理状態と党員の騙されやすさにある。英国では、高い地位に上り詰めたと一般に考えられている人々に対して、常に並外れた寛大さが見られる。おそらく、真実を知る立場にある人々が、労働党指導者たちの並外れた正義の基準に関するお世辞めいた主張を、何の異例なほど無視している奇妙な状況は、こうした状況の理由の一つなのだろう。

国民政府の指導者であるマクドナルド氏は、労働党政権の指導者として、多くの人々から尊敬され、愛されていた当時と全く同じ政策を今日も実行しています。唯一の違いは、その政策がより成功しているのは、彼の周囲に非効率的な人材ではなく有能な人材がいるからです。しかし、1931年以前はマクドナルド氏に従うことを誇りとしていた労働党指導者たちが、かつてマクドナルド氏が用いた手法に反対する人々を非難したのと全く同じ手法を、今ではマクドナルド氏を非難し、非難しているのです。彼らの誠実さの基準はあまりにも低く、かつてはマクドナルド氏のドアを開けて「おはようございます」と挨拶する機会を期待して彼のドアの周りにうろついていた労働党議員たちが、今では過去の犯罪のすべてをマクドナルド氏、トーマス氏、スノーデン氏のせいにしています。彼らは一方では自分たちは民主主義政党だと主張し、他方では、300人近い議員グループの中で、今や彼らが極悪非道な行為だと非難する行為に関与したのが3人しかいないと主張しています。

この不誠実なプロパガンダの典型例は、労働党の綱領に必ず記載されている「労働党だけが貸借対照表を公表している」という主張、そして旧政党が栄誉の売買や秘密の収入源の隠蔽といった腐敗行為を行っていると非難する点に見出すことができる。党員の多くは、こうした発言をする際には、疑いなくそれを信じている。一方で、長年にわたり党首たちが多額の個人献金を受け、それを恣意的に使用してきたという事実も、多くの人が認識しているはずだ。そして、これらの献金は、これまで発表されたいかなる声明にも一切計上されていない。労働党は常に、称号の空虚な虚栄を非難してきたが、政権時代の栄誉リストを検証しても、これらのリストの作成方法に変化は見られない。******電子書籍コンバーター DEMO ウォーターマーク******

Machine Translated by Google

労働党指導部の大部分は、これらの問題に関して意識的に偽善的であり、党員は信じられないほど騙されやすいため、彼らが現在の指導力に値すると主張しないのは難しい。

民主主義の終焉とは一体何なのか？まずは他国における社会民主主義の歴史を研究し、英国労働党を検証すれば、大陸の運動のあらゆる特徴を示す労働党の発展も必然的に同じ方向を辿るに違いない、と思わざるを得ない。しかし、これは決して喜ばしい考えではないかもしれない。国民がごく短期間で正気を取り戻し、力強く現実的な代替案を提示されない限り、財政難に苦しむ保守党の負の側面は、ウェストミンスターで労働党が多数派を占める結果をもたらすことになるだろう。保守党は少なくとも12ヶ月は労働党政権を維持するだろう。有権者は、その時代の労働党がどれほどひどい政権だったか、そして保守主義がどれほどひどかったかを理解することは決してないだろう。

したがって、ファシズムが一刻も早くその代替案を提示することが極めて重要となる。他国の悲劇的な歴史を、ここで引き起こしてはならない。非建設的な反動と臆病な社会主義によって破滅の瀬戸際に追い込まれた彼らは、最後の手段として建設的な計画と権威あるリーダーシップに頼ったのだ。

大衆の生活水準の向上を誓った労働党政権は、政権を握った途端、資金繰りが空っぽであることに気づくだろう。余剰資金から数百万ドルを捻出すれば労働者を買収できた時代は過ぎ去った。労働党政権の支援の完全な失敗に憤慨し、その無謀なプロパガンダに憤慨した労働者は、暴動と共産主義に逃げ道を求めるだろう。政権獲得のための奔放な演説に警戒した投資家階級は、経済状況に壊滅的な結果をもたらすだろう。社会民主主義は、その歴史的課題に直面するだろう。それは、反対派を攻撃することなく、いかにして支持者を満足させるかという問題である。社会主義の信条には解決策はない。3年も経たないうちに、我々は1931年の危機を実に些細な出来事に見劣りするような、真の危機に直面することになるだろう。

現状の民主主義が、この着実な破滅への道を生き延びられると信じられるだろうか？ ファシズムは、破滅が迫った時ではなく、今こそ国民に自らの計画を納得させようと努めなければならない。

労働党は統治できず、社会民主党が混乱の収穫を得るまで企業国家の実現が遅れるとしても、国民の心が準備され、黒シャツ運動が強化されたという事実に国の救済は依然かかっているだろう。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ファシズムと戦争 JFC

フラー少将著

Tファシズムの戦争観は常識的である。なぜなら、ファシストは現実主義者だからだ。彼にとって、戦争の問題を言葉と呪詛でごまかすのは無意味だ。後者を避けることに成功した人々がしばしば行うように。感情主義は現実主義の対極にあるからだ。彼は医師が患者を診察するように、問題を吟味することに前向きだが、一方の「栄光」やもう一方の「恐怖」に惑わされることを拒む。

問題が解決できるなら、それは科学的に、つまり真実を追求し、
公平な心と秩序ある仕事。ヒステリーでは決して解決できない。

ファシストは、戦争を歴史的かつ心理学的に研究した結果、ある状況においては戦争は必要であり、他の状況においてはそうではないという結論に至った。したがって、彼は状況こそが主要な要因であり、戦争を引き起こすのは状況であり、したがって戦争自体は病気ではなく、むしろ平和という病的な状態の頂点であると結論づけた。問題は微生物ではなく、微生物によって引き起こされる発熱である。この発熱がなければ、患者は体内の毒素で容易に死亡する可能性があるが、体温が一定以上になると確実に倒れる。いずれにせよ、病が治まる頃には、身体的に衰弱している可能性が高い。責められるべきは発熱そのものではなく、その原因である。したがって、ファシストはこう言う。「私はこの問題に原因から取り組み、その原因が一つでも除去されるまで、手術器具と薬品、海軍、陸軍、そして航空艦隊を備蓄しておく。なぜなら、信仰による治療やその他のインチキ療法に頼る理由がないからだ。したがって、呪文や呪文、協定に頼る平和主義的な魔術とは一切関わりを持たない。」彼が軍縮などの誤謬によって真実の探求から逸らされることを拒むのは、まさにこのためである。なぜなら、鉗子やメス自体が病気を引き起こすことができないのと同様に、武器自体が戦争を引き起こすことはあり得ないからである。

「それゆえ」とファシストは言う。「平和について検討しよう。平和への不満の中に戦争の原因が見つかるだろう。そして、それらが排除されるまで、私は手術器具を捨てるつもりはない。実際、平和を主張する者たちがヒステリックになるほど、戦争が再び起こるという確信が強まる。だからこそ、私は手術器具と薬剤を可能な限り最良のものにしておこう。」

次にファシストは、我々が生きている時代へと目を向ける。なぜなら、次の戦争はこの時代から生まれるからである。そして、公平にこの時代を研究した結果、今日の戦争には二つの大きな原因、すなわち人口過剰と財政•経済の無政府状態があると結論づける。これらが軍事的大義、すなわち征服、恐怖政治、そして攻撃不可能な国境の確立の必要性を生み出すのである。

これら二つの主要な原因のうち、最初の原因について彼は次のように考察している。「どんなに嘆かわしく、腹立たしいことであろうとも、飢えた人が飢えて死ぬよりも、食べ物を盗んで法を破ることを選ぶのは事実である。文明国であろうと未開国であろうと、人は自分の命を守る権利があると認められている。では、盗みによって命を守れるのに、なぜ飢えて自殺しなければならないのか？」したがって、国が人口過剰になると、二つの道が待ち受けている。内戦で自滅するか、隣国を占領するかである。隣国に人が住んでいなければ、それは戦争を意味する。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

条約に酔いしれた平和主義者たちによるものだ。これらは反駁の余地のない事実だ。人口過密の日本において、連盟が日本の拡大に反対するのは愚かだ。それよりはるかに賢明な方法は、毎年数千トンの避妊具を日本に輸送することだろう。

インドでも同じ問題が我々を襲っている。白書の有無に関わらず、インド人が現在のペースで人口増加を続け、拡張が可能にならない限り、今世紀末までにインドは破滅するだろう。1921年の人口は3億2000万人、1931年には3億5000万人だった。この増加率でいくと、2001年には約7億人に達するだろう。マリー•ストープスが活動を始めるか、すべてのトウモロコシの穂が2本生えない限り、大惨事は避けられない。これは、いかなるペンとインク、あるいは信心深い言葉をもってしても消し去ることのできない事実である。ゆえに、ファシストは事実に基づいて行動する。つまり、彼は現実主義者なのだ。

二つの主要な原因のうち二番目に目を向けると、ファシストは直ちに「経済ナショナリズム」と称されるものに直面する。多くの人々は、このナショナリズムにストライキの悪魔が宿っていると考えている。言葉や名称に囚われることなく、彼はそれを検証していくうちに、真に意味するものは、しかし自由民主主義の下では異端とさえ囁かれる無秩序な取引であることに気づく。つまり、好き勝手に行動し、できることをし、騙し、買収し、奪い合い、そして最後に残った者は悪魔に奪われるのだ。この血なまぐさい金儲けの戦争において、市場と外国からの借入金は大きな割合を占めている。これらを順に簡単に検証していこう。

今日、すべての国が既存の金融システムで購入できる以上の生産を行っているため、世界の生産量は世界の需要を上回っています。そのため、市場は争いの原因となり、商品だけでなく不満の投棄場所ともなります。どの国も購入できる以上のものを売ることは不可能であることは明らかであるため、私的な利益がそれぞれの政府を巻き込み、政府は互いに脅し合うために剣を振り回します。その剣を振り回すのは、日々の新聞による侮辱です。貪欲は嫉妬を生み、嫉妬は情熱と憎しみを生み出し、そして何らかの事件が鬱積した感情を爆発させ、戦争へと発展します。原材料をめぐる争いでも、ほぼ同じことが起こるのです。

さらに強力な原因は、金融支配をめぐる巨大中央銀行間の争いです。商品の代金を商品で支払うことができない場合、債務者は融資を受け入れざるを得なくなり、直ちに金融奴隷状態に陥ります。ある作家は国際金融業者についてこう述べています。「現代世界の混沌の中で解き放たれたいかなる力よりも、彼らは戦争を引き起こした」。一度彼らの支配下に置かれると、そこから抜け出す方法は二つしかありません。債務不履行か戦闘です。前者は破産と不名誉を意味するため、通常は後者に頼ることになります。

こうして、大衆民主主義に内在する貪欲と感情主義のせいで、武器は外科手術の器具ではなく、国内外の不満を束縛する拘束具とみなされるようになる。武器によって国内革命は抑制され、敵対的な隣国は恐怖に陥る。それは正義を維持するためではなく、貪欲さを維持するためだ。さらに、関税壁から要塞化された国境まではほんの一歩であり、既存の国境が脆弱であれば、より強固な国境を求める動機が生まれる。かつては国家の存立を守るために強固な防衛国境が求められたが、今では国際的な高利貸しを確保するために求められている。

1933年7月11日、チェンバレン氏は下院で次のように述べた。「我々は、これまで一貫して抱いてきた見解を今も堅持している。すなわち、今日世界が抱えている主要な諸問題は、その起源において国際的なものであり、国際的な行動と合意によってのみ解決できるという見解である。」諸問題の起源についてはチェンバレン氏の言うとおりだが、サタンがサタンを追い出すことを特に嫌うように、ファシストはサタンの救済策について極めて懐疑的である。だからこそ、国際連盟加盟国やその支持者によって内外に論じられ、外から内へと押し込められる軍縮条約、平和条約、国際警察力など、ファシストは信じないのだ。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

国際連盟は平和ではなく、現状維持を主張する。それは神話と惰性であり、現実の変革を主張するものではない。世界は動いており、私たちもそれとともに動かなければならない。腐敗なくして止まることはできず、腐敗は戦争を生む。なぜなら、腐敗は文明を腐敗させるからだ。例えば、現在ヨーロッパの腐敗の中心地であるオーストリアの問題を考えてみよう。1918年から1919年にかけて、大帝国は莫大な資本を持つ小国へと成り下がった。つまり、百万長者の立場から、ウィーンという百万長者の家賃を払わなければならない自宅の家賃を未だに支払わなければならない貧乏人へと成り下がったのだ。1931年、ドイツは関税同盟を提案した。フランスは自国が今にも破滅の危機に瀕していると感じ、国際連盟評議会という、必ず破滅をもたらす武器を用いて、この同盟を破滅させようと決意した。本質的には経済問題であったこの問題は、常設国際司法裁判所に付託され、政治的な駆け引きにかけられた。その巻き上げは、エルサルバドル、キューバ、コロンビア、そして当時公然たる無政府状態にあった中国をはじめとする国々によって行われた。もしキューバかエルサルバドルが反対票を投じていたなら、連合は既成事実になっていただろう。しかし、両国とも反対票を投じなかったため、連合は否決された。

これは正気か、それとも狂気か？これが世界を統合し、永続的な平和を確立する方法なのか？
連盟が「オーストリアは手に負えない国だ。ヨーロッパの貧困国だ。もしオーストリアがこの連合に加われないのであれば、我々はオーストリアを維持し、毎年数百万ポンドの施しを支払わなければならない」と宣言していた方が、健全で誠実だっただろう。たとえそうだったとしても、オーストリア人――誇り高き国民――が救貧院で暮らしたいなどと考える権利が連盟にはあっただろうか。彼らが望んでいたのは自決権だけであり、今もそれを望んでいるが、それを得ることができていない。なぜなら、彼らは自ら選んだ政府ではなく、腐敗した専制政治の下で生きることを強いられているからだ。

実際、オーストリアは、秘密裏に国際警察組織を押し付けることで、本来の運命を歩むことを阻まれている。それは、外国の傭兵を雇う必要のない、金の国際組織である。自国で育った傭兵をいつでも雇えるからだ。国際連盟連合、新連邦運動、そして衰退する資本主義が世界に押し付けようとしているのは、まさにこうした非国家主義的で冷酷な組織、金銭だけが唯一の動機である組織である。もし彼らがそうすることができれば、遅かれ早かれ、世界的なボルシェビズムに終結する破滅的な革命が起こるだろう。では、これが彼らの究極の目的なのだろうか？

しかし、この甚だしい政治的悪行にもかかわらず、ファシストが最も反対しているのは、信心深い陳腐な言葉とヒステリックな偽善の煙幕に隠れて、人類のあらゆる男らしさと精神性に対して仕掛けられる、陰険な道徳的攻撃である。名誉、美徳、そして単なる生よりも高貴なものへの信仰は、国際法の統制に服すべきである。しかし、平和、あるいはいかなる犠牲を払ってでも平和を維持することが、人生の目的なのだろうか？この世に命より大切なものは何もないのだろうか？人間は単なる動物なのだろうか？ジェームズ•マーティノーと共に、ファシストは次のように信じている。

「人命への崇敬は、正義や権利よりも神聖視され、流血の光景が荒廃をもたらす暴政や勝ち誇った偽善の光景よりも恐ろしいものとなる時、不道徳な偶像崇拝へと昇華される。……国家の市民である人間が、自らとしては正義よりも生命を尊ぶと宣言することほど、弱く、自殺的なことはない。そして、もし諸国家が、その起源が何であれ、あらゆる紛争を裁判所の判決に委ねることに満足する日が来たとしても、それは世界がより良くなったからではなく、もはや生命よりも大切なものがないがゆえに、人間がより卑しく、下劣になったからなのかもしれない。」

生きることは自然の衝動である。しかし、正しく生きること、つまり私たちの最も深い信念に従って生きることは、あらゆる道徳と宗教の基盤となるものである。神の意志を反映していると信じている人が、その信仰を警察裁判所に差し出して裁きを受けることができるだろうか？したがって、「危険に生きよ」は、より高貴で正義に満ちた人生のモットーであるように思われる。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

「安全第一」を人間の心に適用すると、精神を失った宦官の種族を繁殖させること以外の目的を達成することはできません。

こうして、ファシズムの哲学では、人生は目的そのものではなく、目的を達成するための手段とみなされるようになる。個人は死すべき存在だが、国家、すなわち個人の集合体だけでなく、その歴史における高貴で、霊感に満ちた、そして鼓舞するもの、つまり国民精神は、不滅であり、無限に偉大である。だからこそ、各個人は、単に国家を維持するためだけでなく、自らの人生、思考、行動によって国家を支え続けなければならないのだ。それは、成し遂げるべきことに向けた闘争であり、単に達成されたことに時を刻むことではない。もしこの精神に、いまだにイノシシの活動性が残っているとすれば、それは天に感謝すべきことであり、家畜の豚の惰性のようなものは、まだ何も残っていないということである。

このダイナミズム、この本質的な男らしさゆえに、ファシズムは平和を主張する。しかし、戦争を恐れることはない。ファシズムが恐れるのは、ただ無気力な生き方だけだ。したがって、平和と戦争に関するファシストの信条は次のように述べられる。

戦争の正当な目的はより完全な平和である。なぜなら戦争は外科手術の道具だからである。

平和の正当な目的は、より完全な人間になることです。なぜなら、平和は創造的な手段だからです。

そして人間の正当な目的はより完璧な世界である。なぜなら人間は神の道具だからである。

彼はどのようにしてこの信条を行動に移すのでしょうか ?活動がなければ再生はあり得ないのですから。
この問題については今から調査します。

争いの歴史は、大きく二つの分野に分けることができます。一つは内乱、もう一つは対外戦争です。前者は後者を、後者は後者を育みました。以下、これらを順に検証していきます。

ファシストが言うのはこうだ。国際的な不満は、無数の国民的不満の総和に過ぎない。世界を家に例えると、レンガとモルタルが腐っているため、土台は常に沈み、壁は崩れ落ちる。したがって、創造的な世界平和を確立するための第一の課題は、各国が自国の家を整えることである。なぜなら、国家が内部的に腐敗している限り、危機が差し迫るとすぐに、それぞれの政治家は不満を外部、つまり国内ではなく外国に向けることで、権力を維持しようとするからである。これは戦争への最も古く、そして最も確実な道である。

その好例が戦後フランスだ。フランスの政治体制は完全に腐敗している。では、政治家たちはどうするだろうか？ 国民の注意をそらすため、彼らはフランスが危機に瀕していると声高に宣言し、「安全」という言葉で国民を催眠状態に陥れる。もしフランスをあらゆる攻撃から守ることができたとしたら、フランスの政治家たちは喜ぶだろうか ?いや、彼らは恐怖に震えるだろう。なぜなら、国民は外国の戦争を恐れる必要がなくなり、国内の改革と革命に目を向けるようになるからだ。「安全」とは実際にはドイツに対して掲げられた盾ではなく、スタヴィスキー一味が潜む防弾の甲羅なのだ。

ほとんどすべての国において、不満の原因は経済的なものに起因しているものの、その表出は当然のことながら道徳的なものである。貧困は欠乏感を生み出すだけでなく、不公平感も生み出す。潜在的に豊かな時代に、依然として現実の過度の貧困が存在することは犯罪的であり、政府がギャングの集まりとみなされると、苦しみながらも思慮深い人間は、政府を打倒する権利があると信じるようになる。これこそが、あらゆる社会革命の根本原因である。時代遅れの分配制度のために生産における正当な分配を拒否されることは、まさに強盗に等しい。もし泥棒があなたの家に押し入り、命を脅かしてきたら、あなたにはそれを守る権利がある。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

たとえ自らの利益を犠牲にしても。絶望に陥った人間は、政治家暗殺についても同様の視点から考察する。そして、政治家を、自分と自分が正当な富の分け前だと考えているものとの間に忍び込ませているのが金融業者であることに気づいた時、銀行家の歴史上初めての不況が訪れるかもしれない。

ファシストは言う。「なぜこの金融の無政府状態を社会の無政府状態によって解決するのか？ なぜ経済再編によって解決しないのか？」貧困、ひいては革命は、富の不均衡、腐敗した金融システム、賃金カット、物価上昇、そして生活水準の全般的な低下によって引き起こされる。ならば、なぜ国内産業を組織化し、自らを統制し、自らを表現し、自ら改革できるようにしないのか？ これは国家が労働を支配する社会主義ではない。なぜなら、ここで示唆されている産業の統制は、労働を創出し維持する者によるものだからだ。これは実際、協同民主主義の最も純粋な形態であり、政治的民主主義はこれを実現しようと試みたことがない。ファシストはこの統制を企業国家によって確立しようとしている。産業は自治グループに分割され、各グループは雇用者、労働者、消費者からなる産業企業を選出する。このような組織においては、階級闘争、ストライキ、ロックアウトは起こり得ない。賃金の引き上げを求める闘争ではなく、科学と産業が生産力を高める中で生活水準を向上させることが目標となる。これは何を意味するのか？搾取が組織化に取って代わられ、新たな社会組織が創出されるということだ。

繁栄が確立された今、次のステップは経済の塵埃に新たな生命の息吹を吹き込むことです。人間が肉体、道徳、知性から成り立つように、人間社会も経済的、文化的、政治的な要素から成り立っています。したがって、人間自身と同様に、経済的要素は器官と肢体に分類されるべきであり、文化的なものはほぼ完全に個人に委ねられ、政治的なものが全体に対する権限を持つべきです。つまり、政治の主な活動は、個人間および集団間の関係を調整し、それら器官と肢体、つまり国家機関を統制することであり、それらは政治だけが管理できるのです。

このことから、次のことが推論できる。個人の私生活は可能な限り自由であり、労働者集団の繁栄は機能に応じた組織化によって左右され、全体の統治は高い知性、知識、経験を備えた人々によって行われる。言い換えれば、文化生活は個人的であり、経済生活は集団的であり、政治生活は指示的かつ権威主義的である。自己表現、集団表現、国民表現という三つの活動群が協働するとき、文化経済と政治生活における最高の経済が生まれる。この経済こそが真の自由であり、不満からの解放こそが国民平和の基盤となる。

さて、戦争問題の後半、つまり国民革命から
外国の戦争、そしてここでも、真の平和は経済的な基盤の上に確立されなければならないことがわかります。

今日、その基盤とは何でしょうか？それは、既存の国際通貨システムおよび国内通貨システムの要である金の無秩序です。金を獲得し、あるいは金貨を確立するためには、各国は積極的に「有利な」貿易収支を維持する必要があります。これに成功した国は、「不利な」貿易収支を持つ国から金を搾取するか、その差額を融資という形で借り入れさせるかのいずれかが可能です。この問題について、ある論者はこう述べています。「相互に利益となる商品やサービスの取引を行う代わりに、各国は『有利な』貿易収支、すなわち金を得るために、必死に戦わざるを得なくなり、その結果、成功した競争相手の手先という屈辱的で惨めな立場に立たされることになるのだ。」これは戦争への直行路です。なぜなら、私が既に指摘したように、債務不履行を除けば、この隷属状態を打破できるのは戦争だけだからです。******電子書籍コンバーター デモ版 ウォーターマーク******

Machine Translated by Google

明らかに、この問題の解決策は、富の尺度としての金を放棄し、通貨を実質的な富、つまり独占可能な単一商品ではなく市場価値のあるあらゆる商品に基づくものにすることにある。そうすれば、輸出は輸入品によって賄われなければならず、そうでなければ輸出は受入国への贈り物と化してしまうだろう。前述の筆者が述べているように、「国家補助金による輸出は無意味になる」。関税は輸入を排除する限りにおいて、輸出をも排除することになる。為替レートは不変に固定され、投機家は排除され、高利貸しへの恐怖も払拭されるだろう。

既存の金融の無秩序をいかに清算すべきか、ここでは詳細に言及することはできません。しかし、金本位制金融の利害と偏見に権力を依存する民主主義政府においては、その解決策は破滅以外の何物でもないことは明らかです。この国に存在する、これほど複雑な改革を実行するために必要とされる制度を見れば一目瞭然です。

首相は内閣に問題を付託し、内閣は議会党に付託しなければならない。そして労働党政権が誕生した場合、議会党は労働組合会議と労働党大会に問題を付託しなければならない。しかし、これらすべての会議の背後では既得権益者たちが糸を引いている。

ファシスト政権下では、専門家が問題を精査した後、首相は「イエス」か「ノー」を言う。「イエス」であれば、その措置は法律となる。そして、もし他の国々が関心を示した場合（ファシスト政権下であれば、当然関心を示すだろう）、意思決定の仕組みは同じなので、迅速な合意が可能となる。

議論のために、この戦争の根本的な原因が除去されたとすると、生物学的原因とでも呼べるもの、すなわち人口過剰が残る。これはいかなる経済調整も直接影響を与えることはできない。なぜなら、それは政府の制御の外にあるからである。

生活水準の高い国では、この問題は出生率の低下によって自動的に解決されます。しかし、生活水準の低い国、つまり産業文明が十分に発達していない国では、長年にわたり出生率の上昇が期待できます。世界の統計を見ると、西ヨーロッパでは人口増加率が減少しているのに対し、東ヨーロッパでは減少していません。一方、ロシアやアジアの広大な地域では、さらに数億人の人口を受け入れる余地があります。もしアジアが現在ロシアで確立されているような工業化を進めれば、これらの数億人が生まれ、人口過剰によって西方への拡大を余儀なくされる時代が来ることはほぼ間違いありません。これは何を意味するのでしょうか？まさにアジアとヨーロッパの大陸間戦争です。この戦争に備えるために、ヨーロッパ諸国は内紛を止め、団結しなければなりませんが、経済と金融の不満が各国を分断している限り、団結は決してあり得ないでしょう。東欧諸国が国境内で人口増加に対応できる余地を確保できない場合、二つの悪のうち、西への拡大ではなく東への拡大を選択する方がよりましである。そのような拡大は人口抵抗が最も少ない路線に沿って進むだけでなく、西洋文明を脅かす可能性のある最大の戦争の脅威から遠ざかるのではなく、その脅威に近づくことになる。

将来の可能性についてのこの短い考察から、戦争問題は平和条約や言葉だけの条約では解決できないことが分かり、そして私は確信している。これは現実的かつ進行中の問題であり、その一部は組織化によって解決できるが、一部は統一され軍事力を備えたヨーロッパによってのみ防ぐことができる。

たとえこの国でファシズムが権力を握ったとしても、それが単独でヨーロッパの運命を支配することは明らかに不可能であるため、我々が直面する最も重要な軍事的課題は、帝国の安全保障と防衛である。我々は今、自国の領土にあり、ある程度の健全な状況にある。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

定義された制限は、私たちが望むように構築できます。これはリーダーシップと行動を意味します。

文明国においては、あらゆる軍事力の物質的基盤は経済的豊かさであるため、帝国の安全保障における第一の課題は帝国の発展である。しかしながら、自治領は現在、自治権を有する国家であるため、ファシスト政権であろうとなかろうと、いかなる本国政府もこの任務を遂行することは不可能であると言えるだろう。もし強制が想定されるならば、ファシストは心から同意する。しかし、彼にとって強制は全く不必要である。なぜなら、現実主義者である彼は、発展は協力にかかっているように、協力もまた自己利益に基づいていなければならないと信じているからである。

血の絆や伝統的な絆について語ることは全く無駄である。なぜなら、これらは既に認められた事実であり、その結束力を疑う者は誰もいないからである。また、それらは物質的な領域の外側に位置するため、経済の問題には関係しない。真に有益なのは、自立した帝国はより繁栄した帝国であるだけでなく、より安全な帝国でもあるという点である。なぜなら、諸国家共同体において、それは非常に強力な平和の手段となり、事実上戦争を禁じるからである。自立した帝国にとって、人口過剰に起因する戦争を除き、政治的制御の及ばない戦争は有害である。したがって、世界平和の維持は帝国にとって有利である。したがって、帝国のすべての構成国が経済的に協力することは帝国にとって有利である。これは外国投資の喪失を意味するかもしれないが、短期間のうちに、この損失はますます増大する繁栄によって十分に補われるであろう。

この繁栄を守るには、防衛という問題に直接直面する。防衛力はどこにあるのだろうか？まず第一にイギリス海軍である。なぜなら、今後長年にわたり、自治領は強力な艦隊を建造•維持する立場にないからだ。第二に、空軍と陸軍である。

防衛手段の3つ目、すなわち近代的、すなわち機械化された軍隊こそが我々に必要なものであるため、自治領諸国は近代的な艦隊の建造で直面するのと同じ費用の問題に直面することになるだろう。しかし、2つ目である空軍に関しては、全く別の話が展開する。なぜなら、広大な領土を有する自治領諸国は、民間航空機の自然な繁殖地であり、民間航空機は軍事航空戦力の基盤だからである。

したがって、問題は次のように解決される。まず第一に、英国は自国の防空体制の責任を負い、次に帝国として全ての海上交通網と、戦時には帝国の消防隊のような形で活動する、小規模ながらも強力な機械化陸軍の維持に責任を負う。そして、自治領は自国の防空体制の責任を負い、強力かつ効率的な空軍を確立しなければならない。

そのような力が与えられれば、問題は協力の問題に解決され、その解決策には 2 つの主な要素があります。すなわち、既存の防衛された石炭補給基地のネットワークと同様の目的で防衛された着陸場のネットワークを確立することと、帝国の国々に防空と航空力の開発について助言できる帝国航空評議会を設立することです。

帝国が存続するためには、これが最重要課題であるが、最も差し迫った課題は、戦闘部隊の再編成と再軍備である。終戦以来、幾度となく政権を掌握し、戦闘部隊は無力な状態に陥った。二国間海軍の標準は放棄され、今日では巡洋艦、駆逐艦、潜水艦が危険なほど不足している。潜水艦に関しては、今やフランスのなすがままである。陸軍は規模と効率が縮小し、馬力不足から自動車化を余儀なくされたとはいえ、時代遅れの頭脳が過剰に存在し、このような無用の長物を抱えている。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

歩兵部隊は、莫大な費用をかけて警察部隊に過ぎないと非難されている。一方、英国空軍は世界の空軍の中で1位から6位に転落した。

ファシストはそんなことは許さない。権力の基準や感情的な限界など気にしない。彼は現実主義者で、「もし私がゴールドラッシュの鉱山キャンプで暮らすことになったら、そしてそうせざるを得なくなったら、腰に銃を携行するつもりだ」と言う。

彼の見解は次のとおりです。

我々には守るべき海路が何万マイルもあるが、それらを全ての攻撃からではなく、最も起こりうる攻撃から守るためには、あらゆる点でこの目的に適した海軍が必要である。

我々の軍隊は19世紀のものだ。20世紀の軍隊を持つべきだ。何トンもの人肉で量られる軍隊ではなく、機械の打撃力で測られる軍隊だ。人間は少なく、機械は多い。なぜなら、今は機械の時代であり、筋肉の時代ではないからだ。

我々は、どんな空軍も我々を守れないほど強力な空軍を望み、また持つつもりだ。
有効範囲内の敵は攻撃する前に何度も考えるでしょう。

最後に、私たちは三軍を一つの統合軍として計画•立案できる戦略的な国防省を望んでいます。つまり、平時においては国防独裁体制を望んでいるのです。なぜなら、戦時においては独裁体制以外に戦略を一元的に統制できるものはないからです。

もし他国が、これが戦争に対する我々の保険であり、戦争においては勝利の保証であると主張するならば、そうさせておけばよい。我々は軍備競争を渇望しているわけではないが、次に攻撃を受けた際に敵の軍備から逃げ出さざるを得ないような状況に陥るつもりはない。我々は事実に盲目的に目をつぶるのではなく、公然と、そして真正面から向き合うことを好む。

戦争とその準備に関して私たちが直面するより重要な問題について、私は今や論じ尽くしたと思う。そして、ファシストと他の大多数の人々の考え方の違いは、彼らがいかなる状況下でも戦争は不可避あるいは予防可能と考えるのに対し、ファシストは平和条件に応じて戦争が必要か不必要かを判断するという点にあることを明らかにした。実際、この違いは錬金術師と科学者を分けるものと同じである。

戦争は現実であり、そのように扱われなければならない。先の大戦後、人々が理想主義へと向かったのは、たとえ雰囲気を変えるためであったとしても、理解できる。また、世論に左右されるすべての政府が、その性質上、荒波に油を注ぐことを余儀なくされるのも理解できる。これらは否定することのできない事実であるが、だからといって変えられない事実であるわけではない。ファシストは戦争を望まない。戦争は平和への不満、ひいては政府の失敗の尺度となるからだ。しかし、彼は極端に走って政治的な策略や手品に頼ることはない。

さらに彼は、今が戦争の時代だとは考えておらず、政府が戦争について絶えず語っているという事実が、その信念を裏付けていると考えている。なぜそう言えるのか？それは、国家生活における問題は大きく二つしかないからだ。一つは内政であり、もう一つは外政である。内政と外交だ。国民に前者を気にさせたくなければ、後者に注意を向けさせればよい。あらゆる手品師に共通するこのトリックこそが、民主主義政治の原動力なのだ。

彼は、戦争の問題は感情的なものではなく科学的なものだと考えている。その原因を解明し、ウイルスを分離し、おしゃべりやおしゃべりの代わりに抗毒素を開発しなければならない。現在も、そしてこれからも、

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

今後しばらくの間は、普遍的に高い生活水準以外に人口過剰に起因する戦争をなくす手段はないと思われるが、ファシストは軍隊が必要であり、したがって、効率的な軍隊は旧式の軍隊よりも有用で経済的であると考える。人間は伝統の影響を受け、そして男らしい伝統は戦争において最も価値があるが、武器は明らかにそうではない。したがって、ファシストは感情を砲弾と混ぜ合わせない。

統一ヨーロッパは偉大な理想であり、ファシストはそれを歓迎し、ファシスト支配下ではすべての政府が組織化されたシステムを通じて相互に対処するため実現可能だと考えている。しかし、今日の究極の事実は、世界で唯一の真の国家連合は大英帝国であるということだ。したがって、ここにこそ創造的平和への道における真の出発点がある。地球の約4分の1を覆い、その住民の4分の1を包含する出発点がある。現実的に平和を掴もうとするならば、平和は私たちの手の中にある。何世紀にもわたる苦難の末、私たちは国家として今、行軍の戦列から脱落し、落伍者の集団と化してしまうのだろうか。ファシストの答えは「ノー」である。したがって、彼のスローガンは「前進」である。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

オズワルド•モズレー著『フ
ァシズムへの前進』

FASCISTのプロパガンダは、私たちの国民生活に不可欠な一部として確立されています。2年間の努力と犠牲の甲斐あって、この運動は愛国心と革命性、そして英国本来の力として国民に認められました。

英国の労働者は、ついに祖国への自然な愛着と
彼の状況を根本的に改善したいという正当かつ必要な願望。

かつては自国民の何百万もの人々を苦しめていた悲惨と欠乏について何の考えも持たなかった帝国主義者も、この近代科学時代においては失業と貧困には言い訳も酌量の余地もないことを理解できるようになった。

私たちの運動の3年目は、プロパガンダにおいて前例のない勝利を収めました。しかし、その最大の成果は、科学的かつ完全に信頼できる組織を創設したことです。この組織がなければ、いかなるプロパガンダも永続的な価値のある成果を生み出すことはできません。

運動全体の有機的構造は、現在、議会の管轄区域に応じて組織化が進められている約500の地区組織から成り、すべて黒シャツ運動を基盤とする組織によって相互に関連し、統合されている。この完全に信頼できる組織の構築は、運動のエネルギーを吸収しすぎて宣伝活動に支障をきたすことがなかったという点で、実に特筆すべきものである。それどころか、近代イギリス史における二大プロパガンダ作戦の成功に大きく貢献した。今や有名になった「英国の事業に気を付けろ」キャンペーンは、無意味な戦争に対する国民の反対を喚起した。政治家たちが、我々のプロパガンダ力を知らずに、解決不可能な紛争に軍事力と海軍力を使うことを初めて検討した際にとった、空想的で大げさな態度から、日ごとにより深く理解されつつある。

私たちには関係ありません。

この第2次大作戦は、「次はファシズムだ」という標語で記憶されるだろう。
最近の選挙運動中、私たちの運動は、旧政党が組織できる限りの回数の集会を開催しました。私たちの集会は概して満員でしたが、彼らの集会は空席がほとんどでした。私たちの集会はほぼ例外なく平和で秩序だったのに対し、彼らの集会は頻繁にフーリガン行為や暴力行為が見られましたが、それはファシストの集会では絶対に許されない光景でした。結局のところ、私たちは言論の自由を維持してきましたが、彼らはそれを否定しようとし、自らそれを失いました。

私たちの集会では、選挙闘争のさなかに多数の新人が入隊した。
我々の意見は関心を持って聞かれるはずだ、東洋の下層階級の人間たちに黙らされることはない、と我々は信じていた。しかし、我々が候補者を立てることを拒否したまさにその時に大衆が我々の隊列に加わったことは、敵の打撃を受け分裂した戦線全体にわたって、必要な高度な技術的機械で敵を攻撃できる時まで選挙戦を控えるという賢明さに対する最高の賛辞である。

こうして1935年が幕を閉じるにあたり、私たちはプロパガンダと組織化における同等の成功を振り返ることができます。たとえ任務が完了するまで決して満足できないとしても、私たちはこれまでに費やしたすべての時間、そして大義のために払ったすべての小さな犠牲を誇りに思うべきです。

Machine Translated by Google

国家主義の崇高な部分と社会主義の有用な部分をすべて統合して国民を救います。

さらに振り返ってみると、ユダヤ人の攻撃に対する我々の抵抗は、必要であっただけでなく、勝利を収めたことも認めなければなりません。ユダヤ人は、英国運動が英国のみのために活動し、考え、感じることを許しませんでした。彼らは、ヨーロッパを共産主義から救った指導者を持つ偉大な民族と、我々を破滅的な争いに巻き込むことを望んだからです。彼らは英国で反ユダヤ主義感情を喚起し、その責任は彼ら自身に一身に負わされました。もし我々の運動が、ユダヤ人による国際金融とユダヤ人ボルシェビズムの脅威に立ち向かう勇気を持っていなかったら、人々の信頼を得ることができなかっただけでなく、重要な試練を逃れることができたでしょう。そして、その試練の火から、鍛え抜かれた鋼鉄のように立ち上がったのです。

私たちはこのような試練を喜びとします。なぜなら、そのような試練だけが、私たちのメンバーが揺るぎなく、誠実であり、ファシスト闘争によって喚起される「耐える力」という高次の人間的資質の見事な表明として犠牲をいとわないことを保証できるからです。

来たる年には、あらゆる努力を倍加させ、あらゆる成功記録を塗り替えなければなりません。今、私たちは次の選挙に向けて全力を尽くしています。この決意は、数百の選挙区において、旧政党の組織を凌駕する選挙組織を結成するという膨大な作業によって達成されるでしょう。この任務は困難ですが、私たちの活動的な党員数は、旧政党のいずれをもはるかに上回っています。

クリスマス直前に終了した3週間の旅は、英国において他のいかなる勢力も真似ることのできない人材と精神の両面を明らかにした。各地区の将校たちは毎晩、そして多くの午後にも地域会議に集まった。彼らは、それぞれの地域で率いる英国男らしさの立派な代表者であった。女性将校たちもまた、真の英国女らしさを体現する運動の、ますます強まる力を体現していた。地域における組織と政策の問題は、旧党の簡潔で漠然とした、幼稚な年次会議では不可能だった細部に至るまで綿密に検討された。翌年の全国計画は、十分に率直に議論され、全国各地で心強い普遍的な熱意をもって受け入れられた。とりわけ、ファシスト同胞団の初期を鮮やかに特徴づけたこの運動の現在の大きな発展においても、この緊密な個人的接触と関係は維持されている。

ファシストの力強い新年が我々の前に待ち受けている。ユダヤ系国際金融の結集した力と、それが操るプロパガンダ資源を嘲笑するほど大胆なこの運動は、「既得権益、赤色戦線、そして反動集団」に見事に抗ってきたが、もはや守勢に甘んじることはできない。我々の行く手に立ちはだかる巨大な障害を乗り越えた今、我々は自らの勝利のために奮闘しなければならない。この勝利の規模と速さは、すべての構成員の不断かつ真摯な努力にかかっている。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

喜びを通して強くなる ロ
バート•レイ博士著

T国家社会主義「喜びを通じて強く」組織は、我らが指導者アドルフ•ヒトラーの命により設立されました。ある日、ヒトラーは私を呼び寄せ、こう言いました。「私はドイツの労働者が十分なレクリエーションと休暇を持ち、国民の神経を健全に保つことを望んでいます。なぜなら、国民の神経が破壊されては、どれほど優れた政治家であっても、何も達成できないからです。」 指導者のこの命を遂行することが私の義務となり、1933年11月に「喜びを通じて強く」組織が設立されました。私の最も親しい協力者でさえ、私の意図も指導者の意図も理解していませんでした。労働者の目をくらませ、社会正義を求める正当な欲求を逸らすための手段を提供するのが目的だと考える人もいました。また、新たな活動分野として、新たな役職を創設すると考える人もいました。当時、今日ドイツ全土に脈打つ、そして既に我が国の国境を遥かに越えて世界へと広がっているこの驚異的な事業を認識していた者は、ごくわずかでした。多くの人々に嘲笑され、軽蔑され、反対者からは侮辱され、罵倒され、親しい友人でさえ不安と疑念の目で見ていたこの理念が、わずか2年余りという短い期間で人々の心を掴み、人々自身によって実践に移されたことを振り返ると、それは奇跡のように思えます。

私たちが目指す対象を描写するものとして、その名称はまさに適切です。「国家社会主義共同体喜びの力」。一つ一つの言葉の意味を注意深く考察する必要があります。「国家社会主義共同体」。共同体こそがその基盤であり、ここにもまた、喜びの供給者となる能力と資質を持つのは共同体だけであるという事実が明確に示されています。このことにおいて、私たち国家社会主義者は、文化と芸術は国民と人種の共同体と密接に結びついており、真空の中で孤立して存在し得ないことを改めて認識しています。「喜びの力」。私はこれを「仕事の後」と呼ぶように勧められました。しかし、私は模倣を好んだことは一度もありません。常に、自ら何かを創造できないか模索することを好んできました。

若きイタリアの「ドポラヴォーロ」は確かに偉大な成果を示すだろう。それは疑いなく偉大な功績である。しかし、それは我々が目指す目標とは正確には一致しない。それは中立的な表現であり、我々の願望も指導者の命令も伝えていない。指導者はこう言った。「私は強い国家を築きたい。合理化と情勢の動向によっていずれにせよ無意味になった仕事のテンポを、国民が得るレクリエーションと休暇によって均衡させなければならない。そして、国民の神経がすり減らないようにしなければならない。」指導者の命令は国家に力を与えることであり、同時に彼はその力をどのように得るべきかを示した。レクリエーションによって、休暇によって、そして喜びを通してである。

「喜びを通して強く」は、おそらく国家社会主義の目的全体を最も簡潔に表現した作品だろう。これは、国家社会主義がドイツにもたらした人生観の体現であり、私たちの中に脈打つ、人生に対する前向きな姿勢、そして過去一世紀に我が国を支配していた人生否定に取って代わる姿勢を表現している。なぜなら、かつてあらゆる生活の場面で私たちが目にしたもの、そして消え去ったあらゆる政党の特徴であったもの、それは人生否定だったからだ！

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

私たち国家社会主義者は、人生を地上の涙の谷を巡る旅、より良い来世への絶え間ない準備として捉えたいとは思っていません。私たちは人生、特に最も貧しい同胞であるドイツ人の人生を、可能な限り美しく輝かしいものにしたいと願っています。私たちは、この私たちの人生は生きる価値があると信じています。そして、主なる神は私たちの人生を再び永遠の破滅と消滅へと投げ捨てるために創造されたのではないと信じています。自らの人生と行いによって、この世で果たすべき神聖な使命があると信じる者、この信念に満たされる者、皆、心の底では国家社会主義者なのです。

だからこそ、我々は闘争のための力を求める。我々の人生は楽園の富に満ちているわけではない。我々にとって最も重要なのは闘争である。人生とは闘争であり、闘争とは生きることである。我々は終着点を知らない。ある者は永遠の怠惰の中で己の快楽に身を委ね、ある者は永遠に罪に定められる。永遠において、我々は闘争こそが我々の信念と人生の表現であると知っている。そしてこの闘争のために、我々は国民に絶えず新たな力を与えたいと願っている。

労働とは、まさに闘争の別の表現に過ぎません。労働者であれ農民であれ、芸術家であれ学者であれ兵士であれ、私たちの同胞は皆、常に自らの民族と自らの生存のための闘争の真っ只中にいます。そして、この闘争は神経と物質を消耗させるため、人は闘争のための手段を必要とし、したがって、それらの手段の補充と体力の回復も必要とします。したがって、レクリエーションと休暇は私たちにとって内なる必需品なのです。

以前、ある社会経済学を研究する優秀な外国人研究者から、「休暇問題についてどうお考えですか？ ドイツでは、休暇日数を法律で定め、同時に給与額も法律で規制するつもりですか？」と質問されました。私はこう答えました。「休暇の一般的な導入を容認するだけでなく、法的に義務化します。これは我々の要求の一つだからです。」彼は言いました。「しかし、失礼ですが」と。「どの国でも雇用者は従業員と争っています。それなのに、ドイツでは雇用者も次第に休暇を要求するようになると主張するのですか？」「そうです、休暇とレクリエーションの最も熱心な擁護者が労働者ではなく雇用者になる日はそう遠くないでしょう。」

国家社会主義は理性が不合理に勝利したものであり、疲弊し衰弱した人間が心身をリフレッシュし、将来の仕事により一層貢献できるようになるのは当然のことである。これは、休暇が健全で合理的な常識の要求となることを意味する。我々は同情心から休暇を要求するのではなく、休暇が国民の生産力をさらに高めるという事実を認識しているからこそ休暇を要求する。雇用主にとって、疲れ果てた労働者を雇っても何のメリットもない。そのような労働者は単にエネルギーを消費するだけであり、一方、機械は稼働し続け、電力を消費し、費用がかかり、摩耗していく。労働者もまた生産的ではなくなるため、雇用主は二重の損失を被る。生産性の低下に対する賃金を支払うだけでなく、稼働していない機械のエネルギーとパワーに対しても支払うことになるのだ。一方、労働者が元気であれば、雇用主は支払った休暇による差額を容易に回収できる。そして、雇用者は自分の残高が借方ではなく、逆に貸方で改善していることに気づくでしょう。そして、労働者同様、雇用者も利益を得られることがわかるでしょう。

ナチズムの特徴は、一方にのみ利益をもたらすことは何もないという点にあります。労働者だけを助け、同時に雇用者に損害を与えるようなことをすれば、それは国家全体にとって何の利益にもなりません。ドイツ国民全体にとって良いことは、個人にとっても良いことであり、人々がレクリエーションや休暇を持てることはドイツ国民にとって良いことです。私たちはこれまで何度も経験してきましたし、今でもそうしています。「8日間の休暇が欲しい。お金をくれ。でも、レクリエーションに出かけたくはない。家にいるだけだ。」いや、それは間違っている。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

お金を無駄にするのはやめなさい。なぜなら、家にいると人は気晴らしができないからだ。その本質は、常に苦悩と欠乏しか感じない屋根裏部屋から、時折引きずり出され、船旅や山旅、あるいはライン川沿いの旅に送り出され、八日間も仕事の世界を忘れることを学ぶことだ。マルクス主義者が説く「休暇が欲しい」だけでは不十分だ。休暇をどうにかしなければならない。それが「喜びを通して強くなる」ということだ。

1年目の終わりに、私は「喜びの力」がドイツを猛烈な勢いで征服したと言えるようになりました。今日、私たちの成果はあまりにも大きく、諸外国も注目しています。ドイツに賛成か反対かに関わらず、海外の誰もが私たちの若い組織に興味を持って見守っています。この組織は、これまで不可能と思われていたことを可能にしました。これは世界中のすべての社会主義者が長年夢見てきたことです。私たちは、悪意のある報道機関がしばしば私たちに信じ込ませようとするものとは異なる方法で、世界に新しいドイツを捉えてもらいたいと願っています。

例えば、ディアリオ•ダ•マンハ紙は、世界世論の好意的傾向の高まりを例として挙げています。1935年10月12日付の記事では、「 Strength Through Joy」の航海について次のように書いています。「これは、アドルフ•ヒトラーを中心とした国民の堅固で規律ある意志をもって、ドイツが遂行しようとしている革命である。その影響と最終結果はどうなるだろうか。まだ予測するには時期尚早である。しかし、ひとつ確かなことは、ドイツ精神が新しい生活観の創造と、現代の最も未解決の問題の解決に取り組んでいるということである。 」1935年9月27日付のノルウェーの新聞、カルモイ•ポステン紙には、「 Strength Through Joy」の旅の価値について、ノルウェー人とラビノヴィッツ氏の間で交わされた興味深い議論が掲載されています。ノルウェー人は、あなたが私たちに提供してくれた海の旅の恐ろしさについての概略に関連して、次のように書いています。「...そのような航海の船上生活は、ほとんどスペースがなく、あらゆる点で窮屈なものに違いありません。私は個人的にそのような航海に一度参加したことがあり、これがナンセンスであることを知っていることを指摘したいと思います...

◦ あなたはきっと「喜びを通して力強く」の汽船に乗ったことがないでしょう。絶対に乗ってはいけません。あなたが好きな民主主義あらゆる正義感を捨て去れ…喜びを通して強くな ◦ 国なら誰でも誇りに思うでしょう。
る組織。

海外からの同様の友好的な報道は、いくらでも挙げることができますが、私たちの組織に真剣に関心を寄せているすべての人々の判断から明らかなことが一つあります。それは、「喜びを通して強くなる」という理念が、他の国々でも揺るぎない実績の上に確立しつつあるということです。

したがって、他国への航海に着手したのは正しい判断でした。私たちはこれまで行ってきた道を進み、今年3月には「喜びの力」号の船団と共に大西洋を渡り、リスボンとマデイラ島へ向かいます。さらに、1936年以降は毎年春と秋に南方への航海を実施します。ポルトガルへの最初の大西洋横断で得た経験は非常に良好であったため、これらの航海を前述のように発展させることを決意しました。「喜びの力」号と共に旅するドイツ人労働者以上に、新しいドイツを代表する者はいません。

これに加えて、今年は一連の素晴らしい特別プロジェクトを実施します。 1934年と1935年に「喜びを通して力強く」の旅に参加した500万人の人々が実際にどこへ旅したかを考えると、そのうち300万人以上が我が国の国境地帯へ向かったことがわかります。彼らはそこでドイツ社会主義の生きた壁を築き上げました。国境地帯の住民は、ドイツ全土から集まった同胞のドイツ人によって訪問されました。そして、 「喜びを通して力強く」の旅を個人的な旅と区別する、まさにその強い友情こそが、国境の兄弟たちに新たな精神的な支えを与えたのです。******電子書籍コンバーター DEMO ウォーターマーク******

Machine Translated by Google

私たちはこの計画的な取り組みを継続し、大幅に拡大していきます。この目標を達成するために、私たちは大規模な取り組みを開始し、すでに低い「Strength Through Joy」料金をさらに30%引き下げる予定です。この提案が出された際、多くの専門家は首を横に振り、実現不可能だと思っていました。しかし、わずかな準備期間を経て、今年中に35万人の休暇旅行者に割引料金を提供できることをお伝えできます。しかも、宿泊施設を提供する側が承認済みの料金体系から変更する必要はありません。

これは、平均的な距離であれば、ドイツの労働者が1週間の休暇を、旅費、宿泊費、そしてあらゆる種類の団体活動を含めて12マルクから15、あるいは16マルクで旅行できることを意味します。これにより、これまで経済的な理由で「喜びを通して強く」旅行に参加できなかった新たな層の労働者を、この旅行に参加させることができるようになります。これらの新たな大衆は、最も幸福で満足感が高いため、最高の休暇客となるでしょう。私たちは彼らを、ナチズムが提供できる支援を最も必要としている美しい国境地帯に連れて行きます。

祖国の境界を越えて広がる「喜びを通して強く」運動のあらゆる活動において、私たちは海外に住むドイツの同胞に配慮しています。彼らを他国と私たちをつなぐ生きた架け橋にしたいと考えています。そして、休暇を過ごす人々は、他国にドイツの真の姿を見せるための友情の使者となるでしょう。そして、そうでなければ決してドイツを訪れることなど考えられないような、海外在住の同胞とその子供たちをドイツへ連れて行きます。私たちは冬季および中間期に「喜びを通して強く」運動の船団を利用し、これらの旅を非常に安価な料金で提供します。これらの事業において、私たちはいかなる産業団体とも一切競合しません。なぜなら、これらの旅に参加する人々は、私たちが厳選するからです。もしドイツへの通常の旅費を支払うだけのお金を持っている人がいれば、通常の方法で旅をさせてください。

私たちは、そのような幸運な立場にない人々のためにのみ、ドイツ訪問のための上記の安価な設備を提供しています。

旅行と休暇に関する私の発言を締めくくるにあたり、一部で懸念されている小さな懸念について触れておきたいと思います。概して、主催者も参加者も、皆が「喜びを通して強く」の旅に熱狂しています。皆、この制度を高く評価しており、実際に多くの点で非常に有益な影響を与えていることが証明されています。ただ、時折耳にする批判が一つあります。それは、休暇客の多くは、私たちがいなくても休暇を過ごせるような人たちだということです。しかし、この反論は根拠がありません。私の協力者たちは、多数の列車の乗客構成を調査しました。これは、参加者一人ひとりに専用の詳細なアンケートを送付することで容易に可能になりました。4つの地区を運行するすべての休暇列車を調査した結果、乗客のちょうど50%が産業従事者であることが分かりました。残りは、小規模な従業員、自営業者、個人資産家、自由業従事者などで構成されていました。また、「Strength Through Joy」の旅行者の収入に関する数字も示せます。同じ列車の調査で、旅行者全体の3分の1は月収100マルク未満でした。さらに3分の1は月収100～150マルクでした。残りの旅行者の収入はより高額でしたが、平均月収は150～250マルクでした。250マルクを超える収入を得ていたのはわずか6%でした。このカテゴリーに属するのは主に、家族の多い夫婦で、高額な料金を支払っているため、「Strength Through Joy」の旅に参加する権利があります。

私たちはその点に到達しなければなりません。そして、これまでのすべてのことが、私たちがそこに到達することを示しています。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ベルリンからリューゲン島までの往復交通費と8日間の海辺の休暇が12マルクで利用できる時代が到来しました。最終的な目標は、現在のドイツの人口水準を踏まえ、毎年1400万人の労働者男女を12日から14日間の休暇旅行に送り出すことです。既存の交通機関と宿泊施設は、この問題に対処するには全く不十分です。今日、既に限界に達しています。2年前に私たちがこのことを予言した時、嘲笑されました。

したがって、我々は遅滞なく新たな宿泊施設と船舶の建造に着手する。今後3年間で、ドイツ労働戦線は1億マルク相当の建物を建設する。これには、リューゲン島に2万床の海水浴場とあらゆるレクリエーション設備を整備することが含まれる。この類まれな事業の計画と模型は既に完成している。これは、我々の指導者アドルフ•ヒトラーの寛大な精神によるものである。

さらに、1,500人を収容できる船を2隻建造します。集団寝室は設けず、すべてのキャビンは2人用または4人用とし、各キャビンには舷窓を設け、船全体では比類のない広さのデッキを備えています。既に保有している「デア•ドイチェ」号と「シエラ•コルドバ」号に加え、今春には同規模の船を4隻購入する予定です。これらの計画に加え、労働戦線が既に所有する田舎の保養施設のベッド数を3万床に増やします。3年後には、すべてが完成し、120万人の人々に独自の保養施設を提供できるようになります。もちろん、民間のホテルやケータリング業界の需要は常に優遇されます。したがって、私たちは最終目標の達成に向けて粘り強く取り組み、最後の働くドイツ人がレクリエーションと休暇への正当な権利を十分に満たせるようになるまで、努力を続けます。

国家社会主義共同体「喜びによる力」組織の様々な部門において、スポーツは特に重要な位置を占めています。この部署は、ドイツの労働者が陽気な体育に費やす自由な夜を、活力とレクリエーションの源にするという、素晴らしい、しかし限りなく困難な責任を担っています。2年間の活動を経て、今日、私たちは満足のいく結果が期待をはるかに上回ったことを確信しています。私たちが企画した様々なスポーツ（水泳、体操、軽運動、スキーなど）の8,500のコースには、300万人以上が参加しました。スポーツ、健康、そして身体に障害を持つ人々のための特別コースのための医療センターは、最後の同胞のためにも役立っています。私たちの外洋セーリング遠征は常に満員で、多くの申し込みを却下せざるを得ませんでした。この方面でも、私たちは活動を拡大し、特に昨年よりも活動範囲を広げて航海を実施していきます。この冬、本稿執筆時点では、ドイツで最も美しいウィンタースポーツのエリアでスキー講習会が開催されており、3万5000人が参加する予定です。これらの講習会に合わせて、「 Strength Through Joy」スキーウェア3万着（スキー板、ストラップ、ブーツ、ストック付き）が35マルクで販売されています。この数字は高いように思えるかもしれませんが、昨年は一般小売店で1万8000着が販売されました。ガルミッシュ＝パルテンキルヒェンオリンピックには、4万2000人の「Strength Through Joy」参加者が熱狂的に訪れ、当社の「Strength Through Joy」列車で会場まで向かいました。

数え切れないほどのドイツ人にとって、これは長年抱いてきた、そして実現不可能と思われていた夢の実現を意味しました。今日のドイツでは、スポーツはもはや限られた少数の人や経済的に恵まれた人々が記録を破るものではなく、国民的な趣味となっているからです。すでに適切な練習場は不足しており、 「喜びを通して強く」への参加者の流入は増加の一途を辿っています。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

スポーツコースは着実に維持されています。過去の経験から判断すると、3年目には再びバランスが見られるでしょう。これは、ドイツでは選手権スポーツだけでなく、より具体的には、一般の身体トレーニングが育成されていることを証明するでしょう。50歳、60歳の高齢者でさえ、スポーツや身体トレーニングを日常の必需品と考えるようになるまで、私たちは決して諦めません。

「喜びを通して力強く」を理念とする学校教育•大衆教育学部の新設部門は、実務を開始してまだ間もない。しかし、設立から数ヶ月の間に、数千回の講演、数十万冊の蔵書を誇る図書館、そしてあらゆる種類の訪問やツアーの実施を通じて、既にドイツ国民に貴重な貢献を果たしてきた。

国家社会主義党が政権を握るまで、何百万ものドイツ人は劇場を内部から見たことがありませんでした。劇場に行かないことが彼らにとってごく自然なことと思われていただけでなく、マルクス主義の影響にさらされていたため、劣等感を強く抱き、劇場に行くこと自体が自分たちの社会的境遇にそぐわないとさえ感じていました。ここでも根本的な変化が起こりました。国家の文化財はもはや所有階級の特権ではなくなりました。無作為に選んだ一つの数字は、文化政策の観点から見て、「大ベルリン」だけで行われた活動の極めて重要な意義を鮮やかに示しています。1934年12月1日から1935年11月30日まで、「喜びの力」は150万人以上のベルリンの労働者を劇場へと導いたのです。この数字は衝撃的ですが、劇場に一度も行ったことがない、あるいはほとんど行ったことがない男女を数えていることを思い出すと、その真の価値がさらに高まります。つまり、これらの人々は劇場へのさらなる支援者となるのです。彼らがこれまで劇場に行かなかった理由は、主に経済的なものでした。月収100～200マルクの労働者や従業員は、自分と妻のために通常の劇場料金を支払う余裕がなかったのです。

私たちの寛大な施策の結果、劇場やコンサートホールは、これまで噂でしか知らず、全く無関心だった大衆の支持を獲得しました。これは決して無視できない事実であり、「喜びを通して強く」が来場しない私設劇場にも当然ながら好影響を与えています。

1934年初頭にシーメンス工場で実施した劇場訪問に関する調査は、これらの観察を裏付けました。一、二の数字がそれを容易に証明しています。調査対象となった男性の87.6%、女性の81.3%はオペラを一度も見たことがなく、男性の63.8%、女性の74.2%は劇場を一度も訪れたことがありませんでした。これらの質問は、シーメンス社で働く全員、監督から補助員まで、人物や役職を問わず行われたため、劇場やオペラを既に鑑賞した工場職員は、経済的に恵まれた従業員層に多く含まれていたと断言できます。

様々な工場での最近の観察から、喜びを通して力を発揮する「Strength Through Joy」が主催する活動に、特に肉体労働者が積極的に参加しているという喜ばしい結果が明らかになりました。文化教育活動も行われており、その効果は後ほど明らかになるでしょう。

ベルリンだけでも、7つの劇場が『喜びの力』を専ら、あるいは主に上演しています。ドイツ全土の観客動員数は、座席数の60%から70%程度ですが、幸いなことに『喜びの力』の公演は、いつもかなり前から完売しています。これほどの観客動員数を誇る劇場は他にほとんどありません。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ドイツの民間劇場。

1年前に新たに導入された「マスター•コンサート」と、同様に私たちが参加している「ミュージカル•アワーズ」は、大変好評を博しています。ドイツの著名な指揮者による素晴らしいコンサートは、開演前から完売することがほとんどです。これまでコンサートに参加した著名なオーケストラには、ベルリン•フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン地方のオーケストラ（das Landesorchester Gau Berlin）、ドイツ•オペラハウスのオーケストラなどがあります。ベートーヴェンの交響曲第九番は、2度にわたり満席で演奏されました。

これまで労働者は美術館を、明らかにブルジョア的な施設とみなしており、原則として訪れることはありませんでした。私たちも労働者を美術館に招き入れるのは困難だったため、何千回ものガイド付きパーティーを企画しました。しかし、これに加えて、作品展を通じて工場に芸術を持ち込みました。展覧会は全ドイツで大規模に、そしてさらに大きな成功を収めて開催されました。さらに、ドイツの肉体労働者との接触は、芸術家に時代に合った芸術創造への強いインスピレーションを与えています。

数年のうちに、大規模な工場はすべて常設展を開催するでしょう。毎年、何百万人ものドイツ人がドイツ人芸術家の作品を鑑賞できるようになるでしょう。つまり、私たちが実現したのは、ドイツ人芸術家が国民の労働大衆が集まる場所、つまり作業場や工場へと足を運ぶようになったということです。そして、その労力と、肉体労働者にもたらす芸術的宝物に対して、芸術家は肉体労働者や機械室との接触から刺激を受け、その創作活動によって豊かな報酬を得るようになったのです。

合計で、66,000 回開催された「Strength Through Joy」イベントには 2,500 万人が参加しました。
私たちは撮影車で、森や未開の地に隠れた寂しい村やドイツの片隅を訪れ、そこにいる兄弟たちに、一日の重荷と疲れから一時的に解放され、活気ある変化と安らぎを与えようとしてきました。

しかし、私たちの活動はそれだけではありません。何千もの工場では、長年にわたり、隅々まで汚れが溜まり、職場を美しくしようと考える人は誰もいませんでした。人々は汚く、狭く、蒸し暑い職場に慣れすぎて、それが当たり前のこととして受け入れられていたのです。

これに、新たな勇気とエネルギーをもって、労働美化部門が介入した。すべての工場に新鮮な風が吹き抜け、窓や作業場、工場の隅々から埃や塵を吹き飛ばした。労働美化部門の呼びかけで、経営者たちは、多くの場合工場の従業員自身の協力も得て、2億マルクを優に超える資金を投じて、仕事を人間が快適に過ごせるようにした。以前は古い廃品やごみが散乱していた場所に、今では小さな庭園や緑地、きれいに整えられたコート、運動場、明るく風通しの良い作業室、プール、トイレ、洗面所がある。ここ2年間で、見ていて楽しい職場が作られた。現在までに約1万7千の工場が改修された。重要性の大小を問わず、数え切れないほどの改善に加え、以下のものが建設された。工場従業員用の食堂と談話室4,314室。 1,580 の観賞用敷地、276 の運動場、および 93 の水泳場。

今日、工場で「喜びを通して強く」が行っているこの活動は、ドイツ人労働者の家庭にも自然と影響を与えます。美しく清潔な職場環境に慣れた人は、美しく清潔な家庭でしか心地よさを感じないからです。

工場における作業グループの構築は急速に進んでいます。そのアイデアは、******ebook converter DEMO Watermarks*******を溶接することです。

Machine Translated by Google

工場内のNSDAPのメンバーと支部組織を18歳から25歳までの最も優秀な労働者と一緒に強固で壊れないブロックにまとめ、危機の際にも「細胞」と「ブロック」の指導者と団結して共同体の理念を生かし続ける。

さらに、これらの作業グループは工場内に新しい習慣を形成し、検査や地域の夕べなどの活動を促進するはずです。

「喜びの力」の組織については、以下の数字が挙げられます。国家社会主義共同体「喜びの力」は、32の地域、771の地区、そして15,051の地域グループに分かれており、それぞれに同数の地域監督がいます。これに工場内で業務を行う作業監督を加えると、合計57,000人になります。これら75,000人の協力者全員が、「喜びの力」に無償で奉仕しています。

Strength Through Joy は、給与制職員を 2,547 名のみ雇用しています。

この壮大な事業は、最初の2年間はドイツ労働戦線の補助金を必要としましたが、今年中には独立することを期待しています。これはおそらく最も注目すべき、そして最も興味深い事実です。特に、「喜びを通して力強く」が動員し流通させた資金の額が100万ライヒスマルクを超えているのに対し、イタリアのドポラヴォーロはまだこの水準にさえ達しておらず、アメリカの「余暇と夜」組織は相当な補助金を必要としていることを考えると、なおさらです。一方、旧ドイツであれ、ボルシェビキのロシアであれ、西側諸国の工業国であれ、あらゆるマルクス主義の試みはどこも完全に失敗に終わっています。国家社会主義は正しい道を歩んでいます。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ドイツの冬季救援活動

マックス•ハンガー

T国家社会主義党によって開始され、全国民が意気揚々と取り組んだ冬季救援活動は、第三帝国の公認制度となり、何百万もの困窮者、衰弱者、病人、男女、子供たちにとっての恩恵となった。

国家は直接行動を通じて失業対策に全力を尽くし、包括的な雇用を提供することで苦難を乗り越えようとしているが、世界的な貿易難という困難に直面しながらも、3年間で失業者数を700万人から200万人未満にまで減らすという、ほとんど信じ難い奇跡を成し遂げたとはいえ、働く意思のあるすべての健常者に仕事を見つけるには、まだ十分な時間がなかった。しかし、すべての家族と同じように、国家にも常に貧困層が存在している。

社会立法と公的扶助は、これまでも、そしてこれからも、多くの負担を軽減するために役立ってきた。
欲求はあるが、これらの制度は欲求を完全になくすことはできない。

冬季救済事業は、生活手段がぎりぎりのラインを下回るすべての人々を支援するために設立されました。冬季救済事業は生活保護に取って代わるものではなく、その主な目的はそれを補完することです。

1933 年 1 月 30 日に国家社会主義が政権を握ると、国家は、ドクター•
ゲッベルスはそれを「廃墟の野原」、政治的混乱、国庫が空っぽで5人に1人が施しを受けている状態と表現した。

歴代政権が解決に努めたものの徒労に終わった、ほぼ絶望的な状況を乗り越えるには、勇敢な心と鉄の意志が必要でした。これらの巨大な問題への対処法は既に歴史の事実となっていますが、大胆かつ建設的な政治手腕の驚くべき例として、永遠に記憶されることでしょう。

偉大な国家社会主義福祉協会の中核は1932年春に既に形成されていたが、その真の活動は党が政権を握ってから始まった。協会の最初の公式行事は1933年5月6日に開催され、総統の臨席のもと、組織の長に任命されたヒルゲンフェルト総統が、協会を帝国党内の公式機関として承認し、公共の福祉と救済に関するあらゆる問題を扱う権限を与えるという総統命令を伝えた。

協会は、総統の誕生日である4月20日に初めて活動を開始し、失業者への食糧配給を委託され、また5月1日には、子供たちの休暇基金のための最初の街頭募金活動を行った。

同年夏、協会は総統によって計画されていた冬季救援活動の組織化に関する執行権を与えられ、直ちにこの大事業のための組織的準備に着手した。9月13日、総統はキャンペーンを開始し、冬の間、ドイツ国民が飢えや寒さに苦しむことがないようにすると宣言した。ゲッベルス博士は送別式で、この冬季救援活動は全力を尽くして遂行されるべきであると述べた。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

考え得る限り最も清潔で礼儀正しい方法で、そして貧しい人々に同情し、国民全体が毎月第一日曜日に「一品料理のシチュー」を食べ、通常の夕食の差額を困窮者への救済に寄付するべきであると。冬季救済活動の開始日は10月1日に決定され、9月16日、ヒルゲンフェルト首席委員は36人の助手と共に、国会議事堂内に設置された事務所を訪れた。

1935年12月11日の演説で、ヒルゲンフェルトは、自らに託された事業の組織運営において、直面したいくつかの困難について述べている。当初から、事業の成功は、効率的な集配機構の構築と、国民全体の積極的な参加にかかっていることは明らかだった。したがって、冷淡で無関心な人々をより高潔な市民意識へと、そして利己的な人々を新たな利他主義へと目覚めさせる必要があった。真の友愛は自己犠牲と相互扶助に基づくものであることを、すべてのドイツ人に理解させる必要があった。総統は冬季救援活動の開始にあたり、次のように宣言した。「飢餓と寒さに対するこの大作戦は、『プロレタリアの国際連帯は我々によって打ち砕かれた。我々は、これに代えて、ドイツ国民の生きた国家統一を築く』というモットーのもとに開始されなければならない。」

ヒルゲンフェルトは最初から、組織が効果的であるためには、必要性に応じて柔軟に対応し、救済しようとする実際の欠乏のさまざまな状況に適応できなければならないことを認識していました。

「誰も飢えや寒さに苦しむことはない！」これは総統が信頼する部下たちに課した命令だった。

一体どうやってそれを実現すればいいのだろうか？ 世話をしなければならない人々は約1700万人。ドイツ全人口のほぼ3分の1にあたる。実に途方もない課題だ！ しかし、ヒルゲンフェルト委員長は、まず第一に党の約3万の地方支部の献身的な協力に頼ることができると分かっていた。しかし同時に、あらゆる不測の事態を網羅した綿密な計画を事前に策定しなければ、地方支部は満足のいく機能を発揮できないことも分かっていた。

このため、彼は金融、工業、運輸、そしてジャガイモ、小麦粉、石炭産業の専門家を動員した。さらに、教会宣教団、ドイツ赤十字、技術緊急部隊といった既存の慈善団体、さらには「アドベンチスト」と呼ばれる熱心な労働者の小集団までも活用した。これは、政党や社会的地位に関わらず、公共援助活動の訓練と経験を持つすべての人々、そして名誉労働者として援助する用意と意志を持つ人々を総動員した行為であった。

全国の党の各地方支部は、追加的な救済を必要とするすべての人々の氏名を収集し、保管していました。活動が拡大するにつれ、各地方支部には国家社会主義福祉協会の特別支部が設立され、あらゆる階層の男女が一つの共通の目的のために一つの意志を持って協力して活動しました。

救援活動を組織するにあたり、さまざまな地域の特別なニーズを調査し、それに対応する必要がありました。
地域によって生活習慣が異なり、食生活においてもその傾向が異なっていたため、また、被災地域は主に人口密度の高い工業地帯と重なっていたため、協会はこうした特殊な要求すべてに対応するための対策を講じる必要がありました。こうした困難は具体的な事例でよく分かります。例えば、ライン＝ヴェストファーレン州の住民は黄色のジャガイモを食することに慣れており、エッセンやハンブルクでも同様でした。そのため、白と赤のジャガイモはすべて、それらが好まれるドイツの他の地域、特にバーデンに送らなければなりませんでした。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ジャガイモの収集と配給は、住民の地域的需要の不均衡のため、組織の資源に並外れた負担を強いた。例えば、ジャガイモに関しては自給自足しているバイエルン州にはほとんど供給されなかったが、エッセン地区には145万cwt、ザクセン州には92万cwtの追加供給が必要だった。追加供給を必要としたその他の都市や地区には、ベルリン、中央ドイツ、ライン＝ヴェストファーレン工業地帯、バーデン、ヴュルテンベルク州の一部などがあった。1933年から1934年の運動中、およそ6万トラック分のジャガイモが収集•配給された。このうちベルリンだけで、毎日700～800トラック分のジャガイモが配給された。毎月のジャガイモ配給量は、全住民1人当たり約30ポンドに相当した。しかし、追加救援を受けたのは人口の約3分の1に過ぎなかったため、実際に支援を受けた人一人当たりの配給量は月約100ポンドにとどまりました。燃料の需要と配給についても同様の状況が続きました。

地域によっては主に薪を燃やし、他の地域では泥炭、石炭、あるいは褐炭練炭を燃やします。当然のことながら、オーブンやストーブは使用される燃料に合わせて特別に調整されています。そのため、各地域に必要な量の燃料が十分に供給されるよう配慮する必要がありました。各世帯に割り当てられた燃料の量は、冬の間中1部屋を暖めるのに十分な量と計算されていました。3人または4人の子供がいる家庭には、冬の間中2部屋を暖めるのに十分な量の石炭が割り当てられました。

1933年から1934年にかけて必要な燃料を輸送するには、約14万台の鉄道貨車が必要でした。石炭の量は、ドイツで消費された燃料総量の約16%に相当します。冬季に2人の子供がいる家庭に供給された石炭の量は約9 cwtでした。一方、石炭をより大量に燃やしていた炭鉱地帯では、各家庭が同時期に受け取った石炭の量は約22 cwtでした。

石炭の配給は地元の石炭商人によって行われます。救済を受ける権利のある人は、1立方トン（1立方メートル）の石炭の配達証書を受け取ります。この証書は石炭商人に渡され、石炭商人は少額の運搬料を支払って石炭を配達します。支払いが困難な受取人には、無料で石炭が配達されます。

冬季救援活動に必要な量の石炭を採取するには、ザール川流域の炭鉱労働者が 3 か月かけて作業する必要があると説明すれば、石炭供給の規模をよりよく理解できるかもしれません。

冬季支援には靴や衣類の供給も含まれます。
衣類の総長さは5,000マイルにもなります。

ジャガイモに加えて、米、小麦粉、ココア、牛乳、油脂、肉、魚、その他の食料品も配給されました。無料の食事も提供され、クリスマスには子供たちのためにクリスマスツリーも配られました。1933年から1934年にかけて、ベルリンだけで30万本のクリスマスツリーが配布されました。

これらすべての膨大な物資の購入に必要な寄付金を集めるために、さまざまな方法が採用されました。最高位の国家官僚も収集者として参加する街頭募金、慈善公演、社交行事、街頭くじ引き、毎月の「一品料理シチュー」募金、ポンド単位の食料の寄付、公募、所得に対する特別課税、個人募金、バッジの街頭販売などなど。

この組織の徹底ぶりは、「ワンディッシュ」方式によって最もよく表れています。
「シチュー」コレクションはベルリンでも継続されます。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

ベルリン市は約12万5000戸の家屋から成り、各戸ごとに住民名簿が作成され、各戸で各世帯または一人暮らしの住民が訪問され、募金が行われます。募金者は、その収入に応じて募金額を名簿に記入します。名簿は数時間以内に、集まった募金と共に地方支部に返却されます。ベルリンだけでも、冬季救援活動には平均14万人のボランティアが従事しています。

特別な機会に街頭で販売されるバッジや記念品の製造は、不況に見舞われた工業地帯の多くの失業者にとって仕事と糧となったことも特筆すべき点です。例えば1933/34年の冬には、バイエルン森林地帯、テューリンゲン州、ザクセン州の製造業者に400万マルクの注文が寄せられました。琥珀産業で知られる東プロイセンも忘れてはなりませんでした。1934/35年には、これらの注文額は500万マルクにまで増加しました。

この救済措置は、人種や国籍に関係なく、対象となるすべての人に適用されます。

例えば、1933年から1934年にかけては、69,336人の外国人が支援を受け、そのうち29,108人がユダヤ人でした。ベルリンだけでも、13,818人のユダヤ人と8,054人の外国人が冬季救援事業によって支援を受けていました。冬季救援事業のために集められた総額と金額は以下の通りです。

in	1933/34	Mks.	357,136,040.71
in	1934/35		367,425,484.89
in	1935/36		370,000,000.00

支援対象者数は以下のとおりです。

in	1933/34	16,617,681
in	1934/35	13,866,571
in	1935/36	12,923,247

冬季救援事業に対する農家の比類なき支援は特筆に値します。いくつかの数字がそれを物語っています。例えば、1933/34年度には、ポメラニアは841,477 cwtのジャガイモを供給しました。

in Kurmark	1,600,000 cwt.
in Saxony	447,000 cwt.

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******

Machine Translated by Google

冬季救援活動のための物資はすべて国鉄によって無料で輸送された。
1933/34 年の戦役では、この点に関して国鉄が貢献した兵器は 14,672,957 マークに達し、輸送車両の総重量は 59,025,995 クォートに達しました。

冬季救援活動に従事する名誉奉仕者の数は毎年平均 150 万人に達し、この組織の運営には次の数の役員、事務員などが雇用されました。

in	1933/34	4,116
in	1934/35	5,398
in	1935/36	about the same number

管理にかかる総費用は総収入のわずか1%未満です。

総統兼国家主席アドルフ•ヒトラーは、5月27日にヒルゲンフェルト総監とその主要な職員らを接見した際、この組織の活動に深い感謝の意を表し、最後に「冬季救援活動は社会事業における類まれな歴史的偉業である」と述べたが、これは相互の善意と個人の犠牲によるこの偉大な国家的努力に対する真のドイツ人すべての感情を代弁したに過ぎなかった。

******電子書籍コンバーター デモ版 透かし*******